Systemwalker

FUJITSU

Systemwalker Centric Manager

連携ガイド
他社運用管理ソフトウェア編

UNIX/Windows(R)共通

J2X1-6750-09Z0(00)
2014年1月

まえがき

本書の目的

本書は、Systemwalker Centric Managerで、他社の運用管理製品と連携し、イベントの通知/構成情報の管理を行う連携アダプタについて説明しています。

本書の読者

本書は、Systemwalker Centric Managerの運用方法の概要を理解し、他社の運用管理製品と連携することで、運用管理システムを運用、管理する方を対象としています。

平成26年1月

改版履歴
平成20年 6月 初 版
平成22年 4月 第2版
平成23年 4月 第3版
平成23年 7月 第4版
平成23年 11月 第5版
平成24年 3月 第6版
平成26年 1月 第7版

Copyright 1995-2014 FUJITSU LIMITED

All Rights Reserved, Copyright (C) PFU LIMITED 1995-2014

目　次

第1章 概要.....1

第2章 HP OpenView Network Node Managerとの連携.....4
2.1 連携する機能.....4
2.1.1 イベントの通知.....4
2.1.2 構成情報の管理.....6
2.2 動作環境.....11
2.3 導入.....13
2.3.1 for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタのインストール.....13
2.3.2 for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタのセットアップ.....19
2.3.2.1 イベントの通知を行うための設定.....19
2.3.2.2 構成情報の管理を行うために必要な設定.....20
2.4 運用.....25
2.4.1 イベントの通知を行う.....25
2.4.1.1 検出されたノードをフォルダへ振り分ける.....25
2.4.1.2 監視を再開する.....26
2.4.2 構成情報の管理を行う.....27
2.5 保守.....27
2.5.1 トレース情報の採取.....27
2.5.2 バックアップ/リストア.....28
2.6 for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタのアンインストール.....29

第3章 Microsoft Operations Managerとの連携.....31
3.1 連携する機能.....31
3.1.1 イベントの通知.....31
3.2 動作環境.....31
3.3 導入.....33
3.3.1 for Microsoft Operations Manager連携アダプタのインストール.....33
3.3.2 for Microsoft Operations Manager連携アダプタのセットアップ.....40
3.4 運用.....40
3.4.1 イベントの通知を行う.....40
3.4.1.1 検出されたノードをフォルダへ振り分ける.....40
3.4.1.2 アラートを通知する.....41
3.5 for Microsoft Operations Manager連携アダプタのアンインストール.....44

第4章 Microsoft System Center Operations Managerとの連携.....46
4.1 連携する機能.....46
4.1.1 イベントの通知.....46
4.2 動作環境.....46
4.3 導入.....48
4.3.1 for Microsoft System Center Operations Manager連携アダプタのインストール.....48
4.3.2 for Microsoft System Center Operations Manager連携アダプタのセットアップ.....57
4.4 運用.....58
4.4.1 イベントの通知を行う.....58
4.4.1.1 検出されたノードをフォルダへ振り分ける.....58
4.4.1.2 イベントの監視イベント種別を表示する.....58
4.4.1.3 アラートを通知する.....62
4.5 for Microsoft System Center Operations Manager連携アダプタのアンインストール.....76

第5章 Microsoft System Management Serverとの連携.....78
5.1 連携する機能.....78
5.1.1 インベントリ連携.....78
5.2 動作環境.....79
5.3 導入.....80
5.3.1 for Microsoft System Management Server連携アダプタのインストール.....80

5.3.2 for Microsoft System Management Server連携アダプタのセットアップ....86
5.4 運用....93
5.4.1 インベントリ連携を行う....93
5.5 保守....94
5.5.1 トレース情報の採取....94
5.5.2 バックアップ/リストア....94
5.6 for Microsoft System Management Server連携アダプタのアンインストール....95

第6章 CA Unicenter Network and Systems Managementとの連携....96
6.1 連携する機能....96
6.1.1 イベントの通知....96
6.2 動作環境....98
6.3 導入....99
6.3.1 for CA Unicenter Network and Systems Management連携アダプタのインストール....99
6.3.2 for CA Unicenter Network and Systems Management連携アダプタのセットアップ....104
6.4 運用....105
6.4.1 イベントの通知を行う....105
6.4.1.1 検出されたノードをフォルダへ振り分ける....105
6.4.1.2 監視を再開する....106
6.5 保守....106
6.5.1 トレース情報の採取....106
6.5.2 バックアップ/リストア....107
6.6 for CA Unicenter Network and Systems Management連携アダプタのアンインストール....107

第7章 CA Unicenter Asset Managementとの連携....110
7.1 連携する機能....110
7.1.1 インベントリ連携....110
7.2 動作環境....111
7.3 導入....112
7.3.1 for CA Unicenter Asset Management連携アダプタのインストール....112
7.3.2 for CA Unicenter Asset Management連携アダプタのセットアップ....121
7.4 運用....129
7.4.1 インベントリ連携を行う....129
7.5 保守....129
7.5.1 トレース情報の採取....129
7.5.2 バックアップ/リストア....129
7.6 for CA Unicenter Asset Management連携アダプタのアンインストール....130

第8章 IBM Tivoli Monitoringとの連携....131
8.1 連携する機能....131
8.1.1 イベントの通知....131
8.2 動作環境....132
8.3 導入....134
8.3.1 for IBM Tivoli Monitoring連携アダプタのインストール....134
8.3.2 for IBM Tivoli Monitoring連携アダプタのセットアップ....140
8.4 運用....142
8.4.1 イベントの通知を行う....142
8.4.1.1 検出されたノードをフォルダへ振り分ける....142
8.4.1.2 監視を再開する....142
8.5 保守....143
8.5.1 トレース情報の採取....143
8.5.2 バックアップ/リストア....143
8.6 for IBM Tivoli Monitoring連携アダプタのアンインストール....144

第9章 JP1との連携....146
9.1 連携する機能....146
9.1.1 イベントの通知....146
9.2 動作環境....148

9.3 導入.....150
9.3.1 for JP1連携アダプタのインストール.....150
9.3.2 for JP1連携アダプタのセットアップ.....155
9.4 運用.....157
9.4.1 イベントの通知を行う.....157
9.4.1.1 検出されたノードをフォルダへ振り分ける.....157
9.4.1.2 監視を再開する.....157
9.5 保守.....158
9.5.1 トレース情報の採取.....158
9.5.2 バックアップ/リストア.....158
9.6 for JP1連携アダプタのアンインストール.....158

第10章 コマンドリファレンス.....162
10.1 IBM Tivoli Monitoringとの連携コマンド.....162
10.1.1 mpadevtalert(IBM Tivoli Monitoringイベント連携コマンド).....162
10.1.2 mpaditmsetup(IBM Tivoli Monitoringイベント連携セットアップコマンド).....163
10.1.3 mpaditmremove(IBM Tivoli Monitoringイベント連携アンセットアップコマンド).....164
10.2 JP1との連携コマンド.....165
10.2.1 mpadevtalert(JP1イベント連携コマンド).....165
10.2.2 mpadjp1setup(JP1イベント連携セットアップコマンド).....167
10.2.3 mpadjp1remove(JP1イベント連携アンセットアップコマンド).....167
10.3 データベース接続情報設定コマンド.....168
10.3.1 mpaddbinf(データベース接続情報設定コマンド).....168

第11章 ファイルの形式.....170
11.1 HP OpenView Network Node Manager連携 イベント定義ファイル.....170
11.2 HP OpenView Network Node Manager連携 インベントリ定義ファイル.....171
11.3 Microsoft System Management Server連携 インベントリ定義ファイル.....184
11.4 Microsoft System Center Operations Manager連携 設定ファイル.....199
11.5 CA Unicenter Network and Systems Management連携 イベント定義ファイル.....201
11.6 CA Unicenter Asset Management連携 インベントリ定義ファイル.....202
11.7 IBM Tivoli Monitoring連携 イベント定義ファイル.....240
11.8 JP1連携 イベント定義ファイル.....242

第12章 メッセージ.....244
12.1 MpAdmomsで始まるメッセージ.....244

第1章 概要

ビジネスの要件に応じて最適なIT資源でシステムを構築するため、多くの企業システムはいろいろな機種が存在する環境となっています。運用管理者は、これらの環境が、常にビジネスの要件を満たすよう、適切に稼働させる責任があります。そのためには、個々の環境を管理するだけでなく、企業システム全体で統合的に運用管理を行う必要があります。

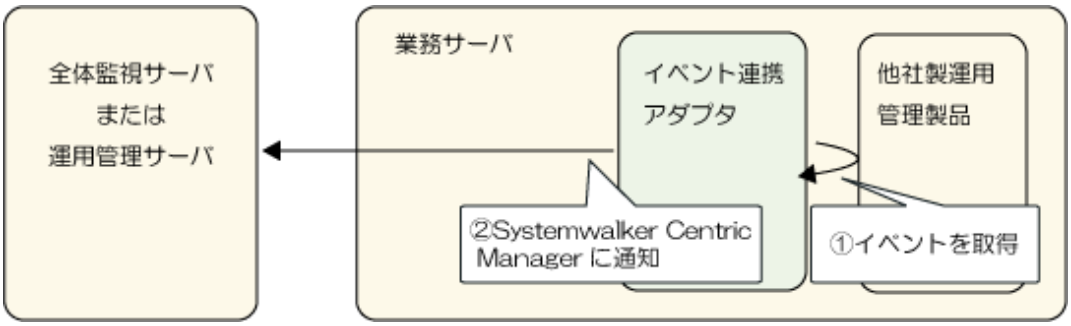
Systemwalker Centric Managerは、運用のライフサイクルを通して統合運用管理を行う富士通のソフトウェアです。

Systemwalker Centric Managerの連携アダプタ機能は、他社の運用管理製品と連携し、各製品が動作するプラットフォーム(Windows、Solaris、Linux)での管理機能を、Systemwalker Centric Managerで包括的に管理・統合することができます。

Systemwalker Centric Manager連携アダプタでは、イベントの通知、構成情報の管理を行うことができます。

イベントの通知

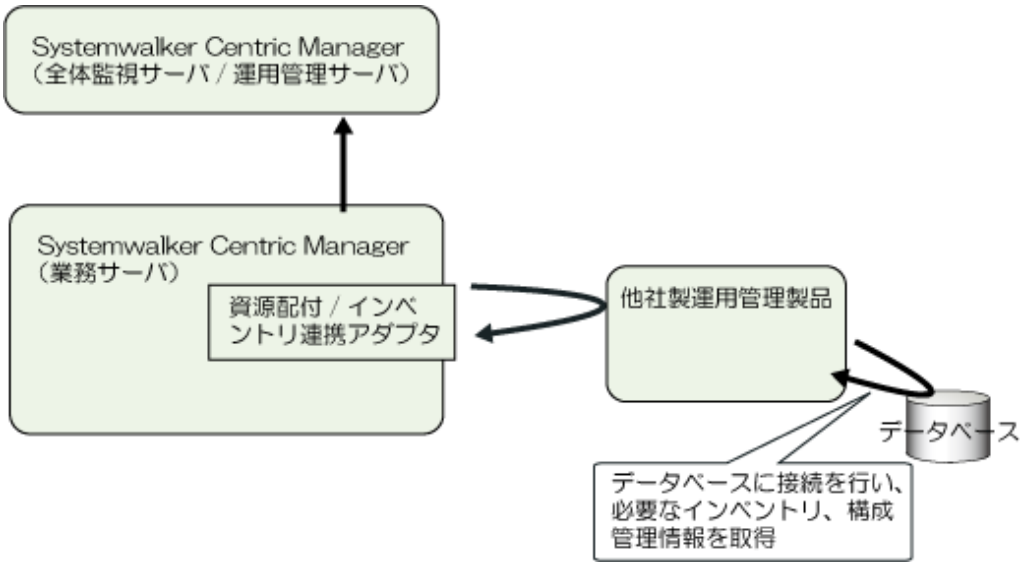
連携アダプタ(イベント連携アダプタ)で他社運用管理製品のイベントを取得しSystemwalker Centric Managerに通知します。



(1): イベント連携アダプタで他社製運用管理製品からイベントを取得します。
(2): イベントをSystemwalker Centric Managerに通知します。

構成情報の管理

連携アダプタ(インベントリ連携アダプタ)で他社運用管理製品のデータベースからインベントリ情報や、ノード構成情報を取得しSystemwalker Centric Managerに通知します。



イベントの通知、構成情報の管理により、Systemwalker Centric Managerの管理環境と、他社運用管理ソフトウェアの管理環境が混在するシステムにおいて、統合的な運用管理が可能になり、運用コストの削減と、トラブル発生時の迅速な対応を支援します。

Systemwalker Centric Manager 連携アダプタでは、以下の製品と連携してイベントの通知、インベントリ情報の管理を行うことができます。

- HP OpenView Network Node Managerとの連携

- Microsoft Operations Managerとの連携
- Microsoft System Center Operations Managerとの連携
- Microsoft System Management Serverとの連携
- CA Unicenter Network and Systems Managementとの連携
- CA Unicenter Asset Managementとの連携
- IBM Tivoli Monitoringとの連携
- JP1との連携
- Oracle Enterprise Managerとの連携

Oracle Enterprise Manager以外の各連携製品の運用形態、インストール手順、連携のための設定については、各章を参照してください。

Oracle Enterprise Managerと連携する場合の運用形態、インストール手順、連携のための設定については、Oracle Enterprise Managerの技術情報サイトで公開している「通知連携設定手順書」および、「通知連携サンプルバッチファイル」または「通知連携サンプルシェルスクリプト」を参照してください。

Oracle Enterprise Manager 技術情報 URL	http://www.oracle.com/technetwork/jp/oem/grid-control/techinfo-093928-ja.html

連携する機能の一覧

Systemwalker Centric Managerの連携アダプタ機能と連携すると、以下のことが実現できます。

No	連携可能な製品	概要	動作OS
1	HP OpenView Network Node Manager	HP OpenView Network Node Managerからイベントおよび構成情報(インベントリ情報やノード構成情報)の取得を行い、Systemwalkerへ通知します。	Windows/Solaris
2	Microsoft Operations Manager	Microsoft Operations Managerで検出したイベントをSystemwalkerに通知します。	Windows
3	Microsoft System Center Operations Manager	Microsoft System Center Operations Managerで検出したイベントを、Systemwalkerに通知します。	Windows
4	Microsoft System Management Server	Microsoft System Management Serverからインベントリ情報の取得を行い、Systemwalkerへ通知します。	Windows
5	CA Unicenter Network and Systems Management	CA Unicenter Network and Systems Management で検出したイベントを、Systemwalkerに通知します。	Windows
6	CA Unicenter Asset Management	CA Unicenter Asset Managementで管理しているインベントリ情報を取得し、Systemwalkerに通知します。	Windows
7	IBM Tivoli Monitoring	IBM Tivoli Monitoringで監視を行っている情報を、Systemwalker Centric Managerで監視、および管理します。	Windows/Solaris
8	JP1	JP1で検出したイベントを、Systemwalker Centric Managerに通知します。	Windows
9	Oracle Enterprise Manager	Oracle Enterprise Managerで検出したイベントを、Systemwalker Centric Managerに通知します。	Windows/Linux/Solaris

連携アダプタの入手方法

以下の連携アダプタは、Systemwalker Centric Manager 技術情報として公開されています。

- for HP OpenView Network Node Manager
- for Microsoft Operations Manager
- for Microsoft System Center Operations Manager
- for Microsoft System Management Server
- for CA Unicenter Network and Systems Management
- for CA Unicenter Asset Management
- for IBM Tivoli Monitoring
- for JP1
- for Oracle Enterprise Manager

必要な連携アダプタを以下から入手してください。

Systemwalker Centric Manager 技術情報 URL	http://software.fujitsu.com/jp/technical/systemwalker/centricmgr/

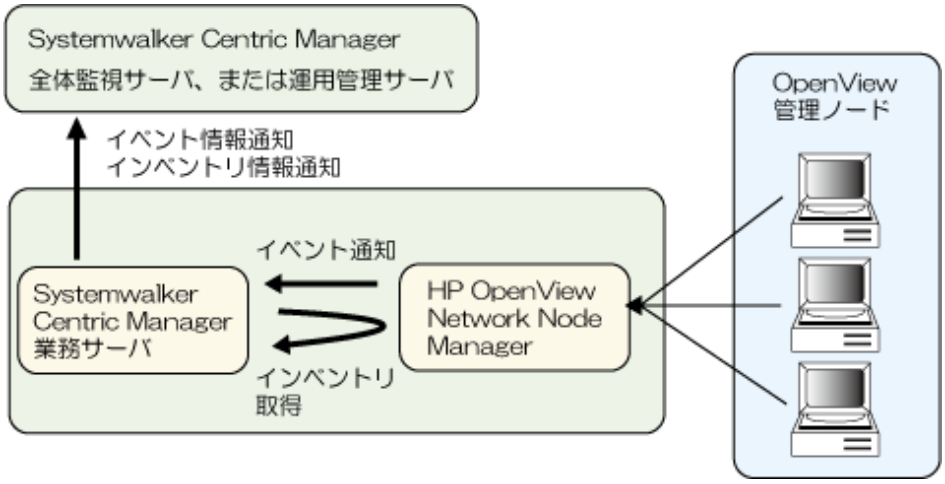
第2章 HP OpenView Network Node Managerとの連携

HP OpenView Network Node Managerとの連携について説明します。

- 連携する機能
- 動作環境
- 導入
- 運用
- 保守
- for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタのアンインストール

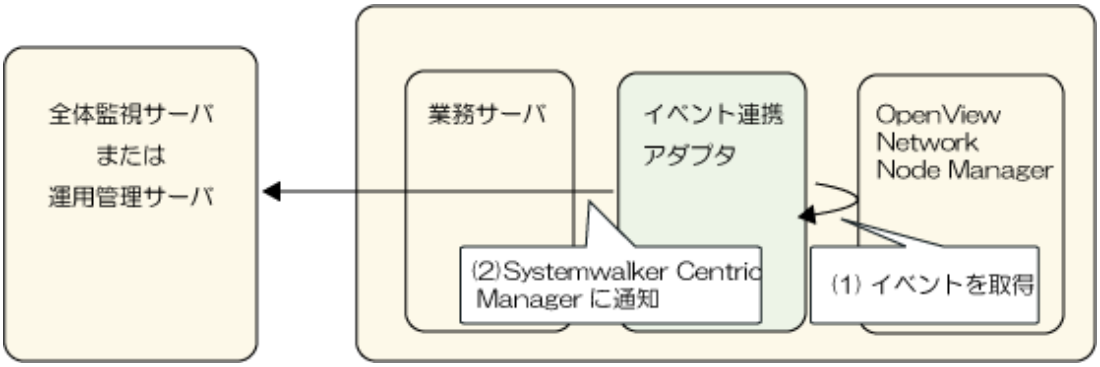
2.1 連携する機能

HP OpenView Network Node Managerで監視を行っているイベント情報、および管理を行っている構成情報(インベントリ情報、ノード構成情報)を、Systemwalker Centric Managerで一括して管理することができます。



2.1.1 イベントの通知

イベント連携アダプタを使用し、HP OpenView Network Node Managerに通知されたイベントを全体監視サーバ、または運用管理サーバに通知します。

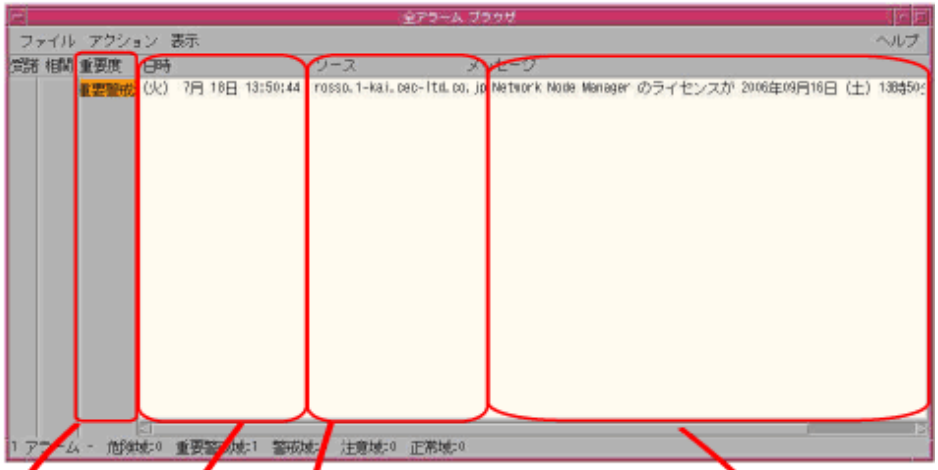


(1):イベント連携アダプタで他社製運用管理製品からイベントを取得します。

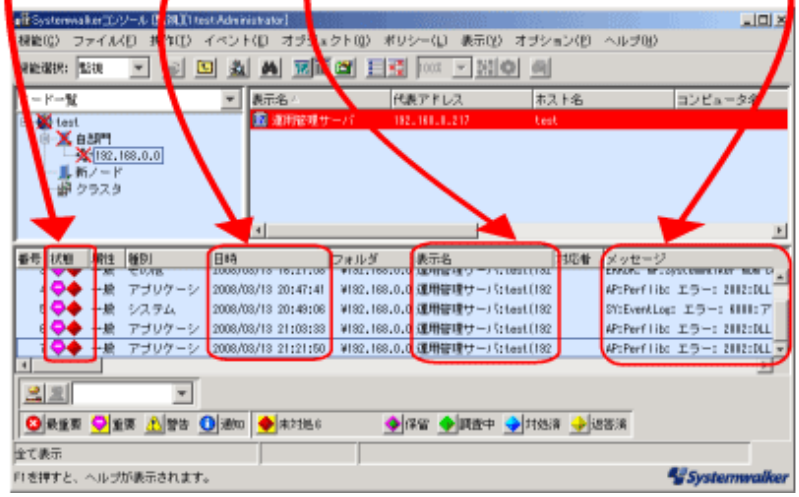
(2):イベントをSystemwalker Centric Managerに通知します。

通知されたイベントは、以下のように表示されます。

[HP OpenView Network Node Manager のアラームブラウザ]



[Systemwalker コンソール]



なお、for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタをインストールする前に発生していたイベントは通知されません。

Systemwalkerコンソールに表示される内容と、HP OpenView Network Node Managerアラームブラウザに表示される内容との対応は以下のとおりです。

表2.1 SystemwalkerコンソールとHP OpenView Network Node Managerアラームブラウザとの対応

Systemwalkerコンソール	HP OpenView Network Node Managerアラームブラウザ
[状態](注1)	[重要度] 対応についてはカスタマイズできます。カスタマイズの方法については、“HP OpenView Network Node Manager連携 イベント定義ファイル”を参照してください。
[属性]	イベント監視の条件定義によりカスタマイズ可能(注2)
[種別]	イベント監視の条件定義によりカスタマイズ可能(注2)
[日時]	[日時]
[表示名]	[ソース]
[メッセージ]	[メッセージ]

注1) Systemwalkerコンソールの[状態]欄は、HP OpenView Network Node Managerアラームブラウザでは以下のように表示されます。

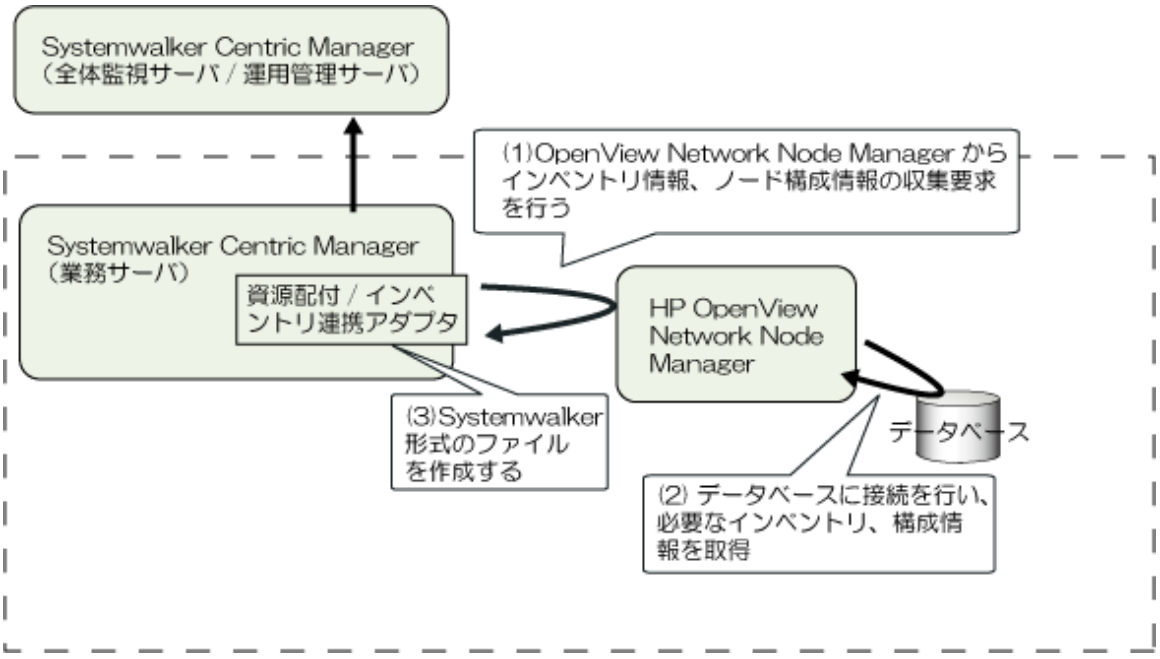
- 警告
  - 0:Unknown(不明)
  - 2:Warning(注意域)
  - 3:Minor(警戒域)
- 情報
  - 1:Normal(正常域)
- 重要
  - 4:Major(重要警戒域)
- 最重要
  - 5:Critical(危険域)

注2) [イベント監視の条件定義]については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”を参照してください。

なお、for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタでは、イベントの対処を行うことはできません。

2.1.2 構成情報の管理

インベントリ連携アダプタを使用し、HP OpenView Network Node Managerから構成情報(インベントリ情報、ノード構成情報)の取得を行い、全体監視サーバ、または運用管理サーバへ通知します。



(1):HP OpenView Network Node Managerから構成情報の収集要求を行います。
(2):構成情報を取得します。
(3):drmscsv形式でインベントリ情報のファイルが作成されます。

構成情報の対応

以下の情報について、Systemwalker Centric ManagerとHP OpenView Network Node Managerの対応を説明します。

- インベントリ情報
- ノード構成情報

インベントリ情報

Systemwalker Centric ManagerとHP OpenView Network Node Managerのインベントリ情報について説明します。

なお、構成情報の1項目当たりのデータ長は400バイトまでです。400バイトを超える項目は監視することができません。

- ハードウェアインベントリ情報の形式
- ソフトウェアインベントリ情報の形式

表2.2 ハードウェアインベントリ情報の形式

Systemwalker Centric Manager	HP OpenView Network Node Manager	
	項目の有無	テーブル名/フィールド名
文字コード	○	SJIS固定
レコード種別	○	ivh固定
通知受信タイムスタンプ	○	資源配付機能からの時刻を使用
システム名	○	空白
システム種別	○	SERV固定
システムのコメント	×	-
ノード名	○	nnm_nodes/ip_hostname
リザーブ	-	-
BIOSバージョン	×	-
CPU種別	×	-
物理メモリ量	×	-
ビデオ種別	×	-
DOSバージョン	×	-
OSバージョン	○	nnm_nodes/snmp_sysdescr
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
CD-ROMドライブ	×	-
固定ドライブ	×	-
ネットワークドライブ	×	-
Aドライブ総容量	×	-
～		
Zドライブ総容量		
全ドライブ総容量	×	-
Aドライブ空き容量	×	-
～		
Zドライブ空き容量		
全ドライブ空き容量	×	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
ノード番号	×	-
リザーブ	-	-

Systemwalker Centric Manager	HP OpenView Network Node Manager	
	項目の有無	テーブル名/フィールド名
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
ホスト名	○	nnm_nodes/ip_hostname
IPアドレス	○	nnm_nodes/snmpaddr
ユーザ情報1の項目名	×	-
ユーザ情報1の値		
～		
ユーザ情報10の項目名		
ユーザ情報10の値		
マシン属性	○	nnm_nodes/snmp_sysdescr
CPUの数	×	-
画面解像度	×	-
ネットワークカード	○	nnm_interfaces/ifdescr
サブネットマスク	○	nnm_interfaces/ip_subnet_mask
デフォルトゲートウェイ	×	-
リムーバブルドライブ	×	-
フロッピードライブ	×	-
コンピュータ名	×	-
ドメイン名	×	-
ワークグループ名	×	-
DNSサーバ名	×	-
ログイン名	×	-
OSビルド番号	○	nnm_nodes/snmp_sysdescr
サービスパック	○	nnm_nodes/snmp_sysdescr
クロック数	×	-
CPU詳細	×	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-

Systemwalker Centric Manager	HP OpenView Network Node Manager	
	項目の有無	テーブル名/フィールド名
リザーブ	-	-
キーボードタイプ名	×	-
インストール言語	×	-
マウスタイプ名	×	-
マウスボタン数	×	-
OSの登録者	×	-
OSの登録組織名	×	-
OSのプロダクトID	×	-
Windowsディレクトリ名	×	-
システムディレクトリ名	×	-
色数	×	-
スクリーンセーバ	×	-
プリンタ情報	×	-
ネットワーク情報	×	-
ファイルシステム	×	-
ファイルシステム種別	×	-
マウントポイント	×	-
パーティションの容量	×	-
パーティションの空き容量	×	-
リザーブ	-	-
マルチベンダ名	×	-
マシンモデル	×	-
マシンシリアル	×	-
1次キャッシュ	×	-
2次キャッシュ	×	-
スワップサイズ	×	-
CD-ROM装置名	×	-
画面リフレッシュレート	×	-
モニター名	×	-
ドライブ情報_A?ドライブ情報_Z	×	-
DHCPサーバ名	×	-
DNSサーバ名2	×	-
メモリデバイスロケータ	×	-
メモリサイズ	×	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
ディスクベンダ名	×	-
ディスクモデル	×	-

Systemwalker Centric Manager	HP OpenView Network Node Manager	
	項目の有無	テーブル名/フィールド名
ディスク容量	×	-
ディスクIF	×	-
ディスク説明	×	-

表2.3 ソフトウェアインベントリ情報の形式

Systemwalker Centric Manager	HP OpenView Network Node Manager	
	項目の有無	テーブル名/フィールド名
文字コード	○	SJIS固定
レコード種別	○	ivh固定
タイムスタンプ	○	資源配付機能からの時刻を使用
システム名	○	空白
システム種別	○	SERV固定
システムのコメント	×	-
実行可能ファイル名	×	-
更新日時	×	-
製品名	×	-
V/L	×	-
リザーブ	-	-
ファイルサイズ	×	-
説明	×	-

ノード構成情報

Systemwalker Centric ManagerとHP OpenView Network Node Managerのノード構成情報について説明します。

表2.4 ノード構成情報の形式

Systemwalker Centric Manager	HP OpenView Network Node Manager	
	項目の有無	テーブル名/フィールド名
構成情報種別	×	-
ホスト名	○	nnm_nodes/ip_hostname
表示名	×	-
説明	×	-
ベンダ名	×	-
マシン種別	×	-
コンピュータ名	×	-
Rコミュニティ	×	-
Wコミュニティ	×	-
RASフラグ	×	-
インターネットフラグ	×	-
MIB2 SysDesc	×	-
SNMPエージェントのバージョン	×	-

Systemwalker Centric Manager	HP OpenView Network Node Manager	
	項目の有無	テーブル名/フィールド名
OS種別	○	nnm_nodes_cap/agent_name
OS名	○	nnm_nodes/snmp_sysdescr
電源制御ソフト	×	-
電源制御オプション0	×	-
電源制御オプション1	×	-
インストール情報(Centric Manager)	×	-
インストール情報(Operation Manager)	×	-
文字コード	×	-
インタフェース代表フラグ	×	-
インタフェースホスト名	×	-
インタフェースIPアドレス	○	nnm_interfaces/ip_address
インタフェースサブネットマスク	○	nnm_interfaces/ip_subnet_mask
インタフェース名	○	nnm_interfaces/snmp_ifname
インタフェース MACアドレス	×	-
インタフェース Type	○	nnm_interfaces/snmp_iftype
インタフェース Speed	×	-
インタフェース Index	×	-

2.2 動作環境

HP OpenView Network Node Managerとの連携機能の動作環境について説明します。

システム構成

HP OpenView Network Node Managerとの連携機能を使用する場合の構成は以下のとおりです。

	Windows	Solaris
全体監視サーバ	Systemwalker Centric Manager EE V13.1.0/ V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0	－
運用管理サーバ	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0	－
業務サーバ	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0 HP OpenView Network Node Manager 7.5 Windows版	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0 HP OpenView Network Node Manager 7.5 Solaris版

全体監視サーバの設定については、“Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド”の“シングルサイト型全体監視の導入と運用”、および“マルチサイト型全体監視の導入と運用”を参照してください。なお、HP OpenView Network Node Managerとの連携機能は、クラスタ環境には対応していません。

ハードウェア資源

HP OpenView Network Node Managerとの連携機能で必要なハードウェア資源について説明します。

ディスク容量

HP OpenView Network Node Managerとの連携機能が必要なディスク容量を以下に示します。

使用領域	必要な容量	OS
for HP OpenView Network Node Manager Adapterのインストール ディレクトリ	2MB以上	Solaris
	2MB以上	Windows

“前提ソフトウェア”が使用するディスク容量に加えて、上記のディスク容量が必要です。

メモリ使用量

HP OpenView Network Node Managerとの連携機能が必要なメモリ使用量の概略値を、以下に示します。

必要なメモリ使用量	OS
5MB以上	Solaris
2MB以上	Windows

“前提ソフトウェア”が使用するメモリ使用量に加えて、上記のメモリ使用量が必要です。

ソフトウェア資源

HP OpenView Network Node Managerとの連携機能で必要なソフトウェア資源について説明します。

動作OS

HP OpenView Network Node Managerの動作OSを以下に示します。

- Windows(R) 2000 Server
- Windows Server(R) 2003, Standard Edition
- Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
- Solaris 9/10

前提ソフトウェア

HP OpenView Network Node Managerとの連携機能は、以下の3つのソフトウェアがインストールされている業務サーバ上で動作します。

- Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0(*)/V13.4.0(*)、または
  Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0(*)/V13.4.0(*)

  *) 業務サーバ(エージェントライセンス)

  構成情報の管理を行う場合、業務サーバには資源配付機能がインストールされている必要があります。
- HP OpenView Network Node Manager 7.5 Windows版、または
  HP OpenView Network Node Manager 7.5 Solaris版
- Systemwalker Centric Manager V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0 Manager of Managers Adapter for HP OpenView Network Node Manager Adapter

前提ソフトウェアに必要なソフトウェアが別途インストールされている必要があります。詳細は、各ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

留意事項

ネットワーク内のノードのホスト名は小文字で設定してください。また、hostsファイルに定義するホスト名は、必ず一意なホスト名で解決できるように定義してください。

ホスト名に大文字が含まれる場合、または一意なホスト名で解決できない場合は、Systemwalkerコンソールに、1つのノードが複数の異なる名前でノード追加される場合があります。

2.3 導入

2.3.1 for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタのインストール

インストール前の準備

for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタをインストールする前に、以下の製品のインストールおよび環境構築が完了している必要があります。

【Windows版】

- Systemwalker Centric Managerの業務サーバ(資源配付機能必須)
- HP OpenView Network Node Manager 7.5(Windows版)

【Solaris版】

- Systemwalker Centric Managerの業務サーバ(資源配付機能必須)
- HP OpenView Network Node Manager 7.5(Solaris版)

インストール方法

Windows、Solarisの業務サーバにfor HP OpenView Network Node Manager連携アダプタをインストールする手順を以下に示します。

【Windows版】

1. 以下のコマンドを使用して、Systemwalker Centric Managerを停止します。

   ```
   pcentricmgr
   ```

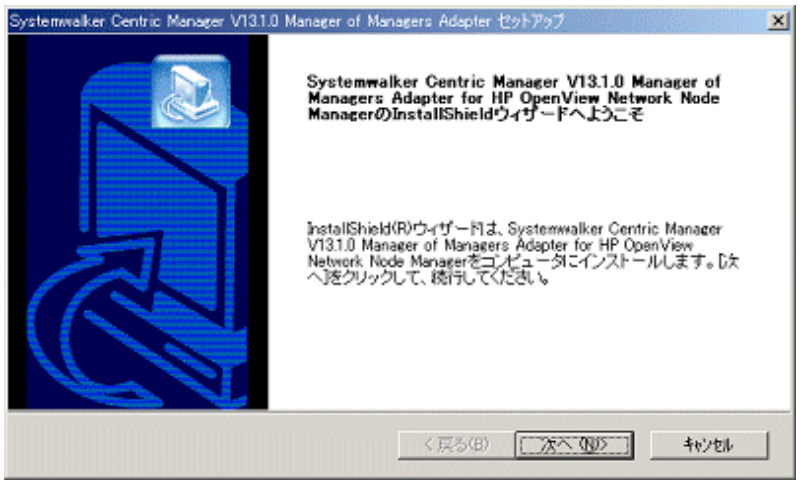
2. 以下からダウンロードしたファイルを任意のディレクトリに解凍します。

Systemwalker Centric Manager 技術情報 URL	http://software.fujitsu.com/jp/technical/systemwalker/centricmgr/

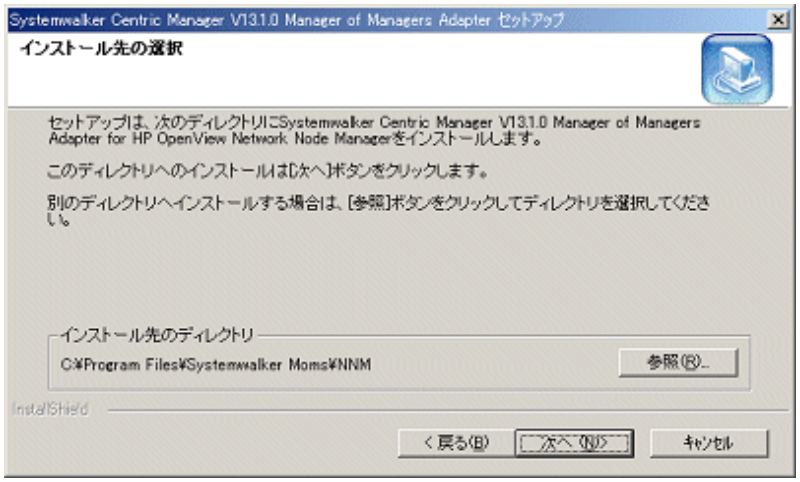
3. 解凍したフォルダ内の以下のコマンドを実行します。

   ```
   swsetup.exe
   ```

→インストールウィザードが起動します。



4. [次へ]をクリックします。
5. インストール先ディレクトリを指定します。



デフォルトのインストールディレクトリは以下のとおりです。

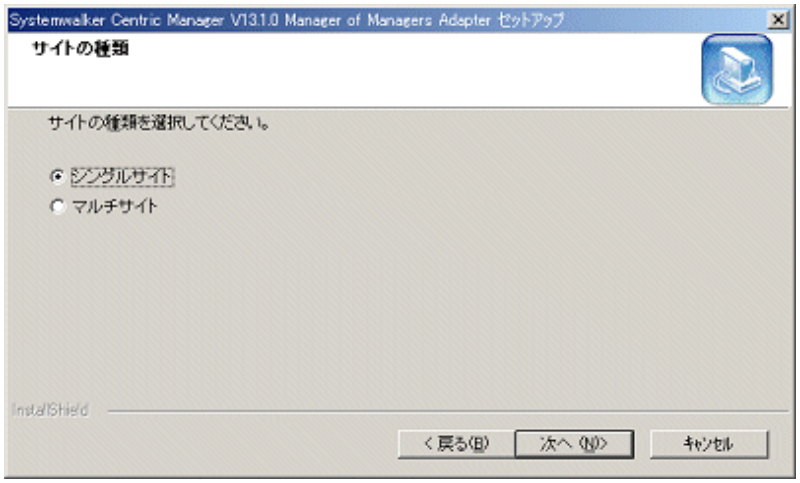
Windowsインストールドライブ¥Program Files¥Systemwalker Moms¥NNM

6. 通知先サーバを指定します。

運用管理サーバを選択した場合は、手順9.以降の処理を行います。

全体監視サーバを選択した場合は、手順7.以降の処理を行います。

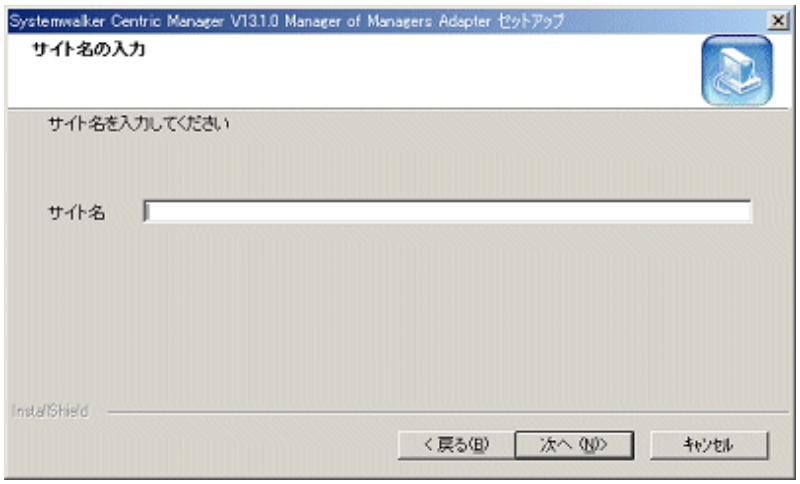
7. サイトの種類を指定します。



シングルサイトを選択した場合は、手順9.以降の処理を行います。

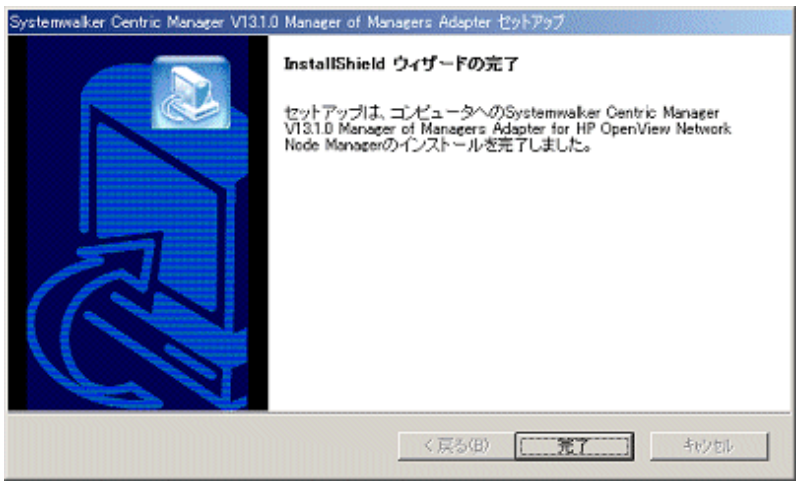
マルチサイトを選択した場合は、手順8.以降の処理を行います。

8. サイト名を指定します。



9. インストール確認ダイアログボックスで[はい]を選択します。

10. [完了]ボタンをクリックすると、インストールが完了します。



【Solaris版】

1. 以下のコマンドを使用して、Systemwalker Centric Managerのデーモンを停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

2. rootユーザでログインし、以下のコマンドを実行します。

```
pkgadd -d FJSVmoms.pkg
```

3. インストール先を選択します。

```
This package default installation information is following:
        Package install directory           :           /opt
        Configuration information directory :           /etc/opt
        Variable information directory      :           /var/opt

Are you sure [y,n,?,q]
```

各種ファイルのインストール先を変更します。デフォルトでインストールする場合は、そのまま[Enter]キーを押します。なお、デフォルトのインストール先は以下になります。

```
/opt/FJSVmoms/NNM :       プログラム配置先
/etc/opt/FJSVmoms/NNM :   固定定義ファイル配置先
/var/opt/FJSVmoms/NNM :   可変定義ファイル配置先
```

4. 構成情報の通知先を指定します。

通知先が全体監視サーバの場合は[1]を、運用管理サーバの場合は[2]を入力し、[Enter]キーを押します。

```
Notification Target Server Type.
        1. Master Monitoring Server
        2. Operation Management Server

[1,2,q]>
```

5. IPアドレスを指定します。

全体監視サーバまたは運用管理サーバのIPアドレスを入力し[Enter]キーを押します。

```
IP address>
```

6. サイトの種類を指定します(手順4で全体監視サーバを選択した場合)。

   以下の問い合わせがあります。

   シングルサイトの場合は[1]を、マルチサイトの場合は[2]を入力し[Enter]キーを押します。

```
Specify the site environment.
       1. Single-site
       2. Multi-site

[1,2,q]>
```

7. サイト名を指定します(マルチサイトを選択した場合)。

   for HP OpenView Network Node Manager Adapterをインストールしたノードのサイト名を入力し、[Enter]キーを押します。

```
Specify the site name.
Site name>
```

インストール後の設定

【Windows版】

1. Systemwalker Centric Managerのイベント監視機能の無効化

   イベントログ監視設定ファイル(Systemwalkerインストールディレクトリ¥MpWalker.dm¥mpopagt¥etc¥opaevt)の以下の設定を“OFF”に変更します。

   【変更前】

```
MPOP_ENABLE_EVTLOG ON
```

   【変更後】

```
MPOP_ENABLE_EVTLOG OFF
```

2. 定義ファイルのカスタマイズ

   必要に応じて連携定義ファイルをカスタマイズします。連携定義ファイルのカスタマイズ方法については、“HP OpenView Network Node Manager連携 イベント定義ファイル”を参照してください。なお、連携定義ファイルは以下の場所にインストールされます。

```
for HP OpenView Network Node Manager Adapterインストールディレクトリ¥etc¥AdpEvt.ini
```

3. サービスの開始

   以下の手順でサービスを起動するか、システムを再起動してください。

   a. 以下のコマンドで、Systemwalker Centric Managerのサービスを起動します。

```
scentricmgr
```

   b. Systemwalker Moms NNM

      [サービス]より[Systemwalker Moms NNM]のサービスを開始します。

【Solaris版】

1. Systemwalker Centric Managerのsyslog監視機能の無効化

   syslog.confファイルに含まれるSystemwalker Centric Manager用の定義を、以下のどちらかの方法で削除または無効化します。

   ー 削除する場合

   /etc/syslog.confに定義されている/var/opt/FJSVsagt/fifo/slgの定義を削除します。

ー 無効化する場合

/etc/syslog.confに定義されている /var/opt/FJSVsagt/fifo/slgの定義の先頭に＃を入れます。

2. 定義ファイルのカスタマイズ

必要に応じて連携定義ファイルをカスタマイズします。連携定義ファイルのカスタマイズ方法については、“HP OpenView Network Node Manager連携 イベント定義ファイル”を参照してください。なお、連携定義ファイルは、以下の場所にインストールされます。

```
/etc/opt/FJSVmoms/NNM
```

3. デーモンの起動

以下のデーモンを起動します。

a. 以下のコマンドで、Systemwalker Centric Managerのデーモンを起動してください。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

b. Systemwalker Moms NNM

以下のスクリプトを実行することで、デーモンが起動します。

```
/opt/FJSVmoms/NNM/etc/rc/init.moms_NNM start
```

4. syslogdに対してHUPシグナルを送ります。

```
ps -ef | grep syslogd
kill -HUP <上記で求めたプロセスID>
```

モジュールの変更

以下の手順に従い、インストール時に設定した構成管理情報の通知先サーバのモジュールを変更します。

1. 構成管理情報の通知先に指定した全体監視サーバまたは運用管理サーバにFTP等を使用して以下のファイルを任意のフォルダにコピーします。当該ファイルはバイナリファイルとして扱います。FTPを使用する場合は、当該ファイルはバイナリモードで転送します。

【Windows版】

```
for HP OpenView Network Node Manager Adapterインストールディレクトリ¥other¥windows
¥mpcmrep.bat
```

【Solaris版】

```
/opt/FJSVmoms/NNM/other/windows/mpcmrep.bat
```

2. モジュールの差し替え

手順1で全体監視サーバまたは運用管理サーバにコピーしたファイルを全体監視サーバまたは運用管理サーバの以下のファイルに上書きします。

```
Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpfwbs¥bin¥mpcmrep.bat
```

注意

Solaris 10でZoneを作成している場合

/etc/syslog.confに変更を加えたZoneのsyslogdをZone名で特定し、HUPシグナルを送ります。なお、ログインしているZoneのZone名は“/usr/bin/zonename”コマンドで確認できます。

```
ps -Zef | grep syslogd | grep `/usr/bin/zonename`
kill -HUP <上記で求めたプロセスID>
```

2.3.2 for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタのセットアップ

for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタのインストール後、以下の設定を行います。

- イベントの通知を行うための設定
- 構成情報の管理を行うために必要な設定

サイトフォルダの作成

全体監視サーバでマルチサイト型の運用を行う場合、サイトフォルダを作成する必要があります。全体監視サーバ上で以下の設定を行います。

1. サイト名の登録

   全体監視サーバ上で以下のコマンドを実行します。

   ```
   MpFwSetOval -f add -h ホスト名 -s サイト名 -p IPアドレス
   ```

   サイト名は、導入時に指定した識別名です。MpFwSetOval(全体監視設定コマンド)の詳細については、“Systemwalker Centric Managerリファレンスマニュアル”を参照してください。

2. Systemwalker Centric Managerを再起動する。

   以下の手順で、全体監視サーバのSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

   Systemwalker Centric Managerを停止します。

   ```
   pcentricmgr
   ```

   Systemwalker Centric Managerを起動します。

   ```
   scentricmgr
   ```

2.3.2.1 イベントの通知を行うための設定

イベント通知先の設定

業務サーバのインストール時に、イベント通知先を全体監視サーバまたは、運用管理サーバに設定する必要があります。イベント通知先を設定しても、ノードがSystemwalkerコンソールに表示されない場合は、以下を実施してください。

業務サーバが接続方法に必要時接続を選択している場合

業務サーバで以下のコマンドを実行してください。

【Windows版】

```
opaconstat -a
```

【Solaris版】

```
/opt/systemwalker/bin/opaconstat -a
```

業務サーバが接続方法に常時接続を選択している場合

以下の手順で、業務サーバのSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

【Windows版】

1. Systemwalker Centric Managerを停止します。

```
pcentricmgr
```

2. Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
scentricmgr
```

【Solaris版】

1. Systemwalker Centric Managerを停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

2. Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

2.3.2.2 構成情報の管理を行うために必要な設定

インベントリ情報を収集する際の設定

インベントリ情報を収集するためには、以下に示す手順に従い、Systemwalker Centric Managerの設定を行う必要があります。

全体監視サーバ、または運用管理サーバでの設定

【全体監視サーバの場合】

1. 動作環境の定義

   以下のDRMS編集ファイルでオプションを設定します。

   ```
   Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpdrmssv¥etc¥drms.dat
   ```

   オプションの設定内容

   ```
   inv_oval=YES
   inv_notify_dfn=YES
   ```

2. Systemwalker Centric Managerの再起動

   Systemwalker Centric Managerを再起動します。

   以下のコマンドを実行し、サービスを停止します。

   ```
   pcentricmgr
   ```

   以下のコマンドを実行し、サービスを起動します。

   ```
   scentricmgr
   ```

【運用管理サーバの場合】

1. 動作環境の定義

   以下のDRMS編集ファイルでオプションを設定します。

   ```
   Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpdrmssv¥etc¥drms.dat
   ```

   オプションの設定内容

   ```
   inv_notify_dfn=YES
   ```

2. サービスの再起動

   [サービス]よりMpDrmsを再起動します。

業務サーバでの設定

1. 業務サーバ自身のサーバ名、ノード名の定義

   以下のコマンドを実行します。

   【Windows版】

   ```
   drmsdfn -a sys -k own -n ノード名 -s システム名
   ```

   【Solaris版】

   ```
   /opt/systemwalker/bin/drmsdfn -a sys -k own -n ノード名 -s システム名
   ```

   -a sys:

   “sys”を指定します。

   -k own:

   “own”を指定します。

   -n **ノード名**:

   自身のIPアドレスを指定します。

   全体監視サーバでマルチサイト型の運用を行っている場合は、ノード名に全体監視サーバで認識できるグローバルIPアドレスを指定します。

   なお、グローバルIPアドレスに対応するホスト名を、hostsファイル、またはDNSサーバに設定する必要があります。

   -s **システム名**:

   自身のシステム名(システム識別子)を指定します。システム名は、ASCII(128文字以内)で指定します。

2. インベントリ情報収集スケジュールの設定

   以下のノード設定ファイルを設定します。

   【Windows版】

   ```
   Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpdrmssv¥etc¥WSAGENT.INI
   ```

   【Solaris版】

   ```
   /opt/FJSVmpsdl/etc/wsagent.ini
   ```

   設定内容

   ```
   [Variables]
   InventoryUpdateSchedule= week / MM DD hh mm
   ```

   指定の意味は以下のとおりです。

   week:

   曜日(日曜日:sun、月曜日:mon、火曜日:tue、水曜日:wed、木曜日:thu、金曜日:fri、土曜日:sat)

   MM:

   月

   DD:

   日

hh:

時

mm:

分

week、MM、およびDDにおいて値を設定しない項目には“*”を設定します。また、“/”の前後に空白1文字が必要です。

(例) 毎日9時にインベントリ情報を収集する場合

InventoryUpdateSchedule=* / * * 9 0

3. インベントリ情報通知スケジュールの設定

スケジュール情報ファイルに、以下の設定を行います。

```
func=event(inventory),type=time(week / MM DD hh mm),option="sysname(ノード名)"
```

スケジュール情報ファイルは、テキスト形式で任意のディレクトリに任意のファイル名で作成します。

パラメタの意味は以下のとおりです。

func=event(inventory):

インベントリ情報の通知

type=time(week / MM DD hh mm):

インベントリ情報を通知する契機を指定します。

week:

曜日(日曜日:sun、月曜日:mon、火曜日:tue、水曜日:wed、木曜日:thu、金曜日:fri、土曜日:sat)

MM:

月

DD:

日

hh:

時

mm:

分

week、MM、およびDDにおいて値を設定しない項目には“*”を設定します。また、“/”の前後に空白1文字が必須です。

option=”sysname(ノード名)”:

sysname(ノード名):

ノード名として、通知先サーバのIPアドレスを指定します。

(例) 毎週土曜日の22時にインベントリ情報をサーバに通知する場合

func=event(inventory),type=time(Sat / * * 22 0),option=”sysname(133.162.104.216)”

4. 動作環境の定義

DRMS編集ファイル(Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpdrmssv¥etc¥drms.dat)に、以下のオプションを設定します。

```
schedule=スケジュール情報ファイルフルパス名
```

5. サービスの再起動

【Windows版】

[サービス]よりMpDrmsを再起動します。

【Solaris版】

```
/opt/systemwalker/bin/drmsd -f
/opt/systemwalker/bin/drmsd -s
```

インベントリ情報の収集スケジュールを更新する

“インベントリ情報を収集する際の設定”で行ったスケジュール設定により、HP OpenView Network Node Managerが管理する構成管理情報は定期的に全体監視サーバまたは運用管理サーバへ通知されます。

次回の収集スケジュールを待たずに、HP OpenView Network Node Managerが管理する構成管理情報を全体監視サーバまたは運用管理サーバへ通知する場合は、以下の手順で実施します。

1. [Systemwalkerコンソール[監視]]を起動します。
2. HP OpenView Network Node Managerがインストールされているノードまたはサイトフォルダを単一選択し、以下のどちらかを実行します。

   ー [オブジェクト]-[インベントリ情報の収集]メニューを選択します。

   ー 右クリックして表示されるメニューから[インベントリ情報の収集]を選択します。

   インベントリ情報の収集中は、処理中のダイアログが表示されます。

   インベントリ情報の収集が完了すると、作業完了を通知するダイアログが表示されます。また、インベントリ情報の収集に失敗した場合、エラーメッセージが表示されます。

なお、全体監視サーバで実施する場合の必要な設定については、“Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド”を参照してください。

構成管理情報を通知する際の設定

連携アダプタにより収集した構成管理情報を全体監視サーバ、または運用管理サーバに通知するためには、以下に示す手順に従い、Systemwalker Centric Managerの設定を行う必要があります。

全体監視サーバ、または運用管理サーバでの設定

1. 環境設定ファイルの作成

   a. cdコマンドによりカレントディレクトリを変更します。

   コマンドプロンプトを起動し、実行します。

   ```
   cd Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥mptrans¥bin
   ```

   b. ftranstupコマンドを実行します。

   ```
   Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥mptrans¥bin＞ ftranstup -a install -A MpadMoms
   ```

   -a install:

   “install”を指定します。

   -A MpadMoms:

   “MpadMoms”を指定します。

   c. 環境設定ファイルが作成されたことを確認します。

   エクスプローラ等により、以下のファイルが存在することを確認します。

   ```
   Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥mptrans¥etc¥MpadMoms.ini
   ```

   ※作成されたMpadMoms.iniファイルのサイズは0になります。

2. 環境設定ファイルの編集

   手順1.で作成した環境設定ファイルに、以下の内容を追加します。

```
[USER_EXIT]
user_exit_dir = Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥MpFwbs¥bin
user_exit_exe = mpcmrep.bat
user_exit_dll =
user_exit_func_name =
user_exit_func_no =

[AUTO_DELETE]
auto_delete = YES
delete_interval = 1
save_day = 1
```

3. Systemwalker Centric Managerの再起動

   Systemwalker Centric Managerを停止します。

   ```
   pcentricmgr
   ```

   Systemwalker Centric Managerを起動します。

   ```
   scentricmgr
   ```

業務サーバでの設定

1. 環境設定ファイルの作成

   a. cdコマンドによりカレントディレクトリを変更します。

   【Windows版】

   コマンドプロンプトを起動し、実行します。

   ```
   cd Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥mptrans¥bin
   ```

   【Solaris版】

   以下のコマンドを実行します。

   ```
   cd /opt/FJSVftsv/bin
   ```

   b. ftranstupコマンドを実行します。

   【Windows版】

   ```
   Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥mptrans¥bin＞ ftranstup -a install -A MpadMoms
   ```

   【Solaris版】

   ```
   ftranstup -a install -A MpadMoms
   ```

   -a install:

   “install”を指定します。

   -A MpadMoms:

   “MpadMoms”を指定します。

   c. 環境設定ファイルが作成されたことを確認します。

   【Windows版】

   エクスプローラ等により、以下のファイルが存在することを確認します。

Systemwalkerインストールディレクトリ¥MPWALKER.DM¥mptrans¥etc ¥MpadMoms.ini

※作成されたMpadMoms.iniファイルのサイズは0になります。

【Solaris版】

lsコマンド等により/opt/FJSVftsv/etcディレクトリにMpadMoms.envファイルが存在することを確認します。

※作成されたMpadMoms.envファイルのサイズは0になります。

2. 環境設定ファイルの編集

手順1.で作成した環境設定ファイルに、以下の内容を追加します。

【Windows版/Solaris版共通】

```
[SYSTEM]
SysName = 通知先サーバのIPアドレス  ※1
PortNo = 1105                      ※2
Id =
Passwd =

rty_timer =
rty_num =
rty_time =
Proxy =
ProxyId =
ProxyPassword =
```

※1 構成管理情報の通知先である全体監視サーバ、または運用管理サーバのIPアドレスを設定します。

※2 構成管理情報を通知する場合は、1105/tcpポートを使用します。通知先サーバとの間にファイアウォールが存在する場合は、1105/tcpポートの通信を許可する必要があります。

2.4 運用

2.4.1 イベントの通知を行う

2.4.1.1 検出されたノードをフォルダへ振り分ける

for HP OpenView Network Node Manager Adapterがイベントの通知をすることで通知されたイベントにより新たにノードが検出された場合、検出されたノードは[新ノード]フォルダに作成されます。

フォルダに振り分けを行う場合は、以下の手順でフォルダへの振り分けを行います。

1. Systemwalkerコンソールを起動します。
2. [ファイル]メニューから[機能選択]-[編集]を選択し、編集モードにします。
3. [ファイル]メニューから[新ノードの振り分け]を選択し、検出されたノードをフォルダへ振り分けます。
4. [ファイル]メニューから[機能選択]-[監視]を選択し、監視モードに戻します。

なお、IPアドレスが“0.0.0.0”で追加されたノードに関しては、正しいIPアドレスを入力することで、サブネットフォルダへ振り分けることができます。
ただし、全体監視サーバでマルチサイト型の運用を行っている場合は、[新ノード]フォルダに作成されたノードを[新ノードの振り分け]を行うことでサイトフォルダに振り分け、その後でIPアドレスを入力してください。

IPアドレスを入力する場合は、以下の手順で入力を行います。

1. Systemwalkerコンソールを起動します。
2. [機能]メニューから[機能選択]-[編集]を選択し、編集モードにします。

3. IPアドレスが“0.0.0.0”のノードを選択します。
4. [ファイル]メニューから[プロパティ]を選択し、ノードプロパティ画面を表示します。
5. インタフェースタブで、正しいIPアドレス、およびサブネットマスクを設定します。
6. [機能]メニューから[機能選択]-[監視]を選択し、監視モードに戻します。

2.4.1.2 監視を再開する

運用中に、イベントの通知ができない、構成情報（インベントリ情報、ノード構成情報）の通知ができない場合、Systemwalker Centric Manager、for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタ、またはHP OpenView Network Node Managerの停止が考えられます。これらの現象に対する運用への影響と対処方法について説明します。

for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタを導入後、運用を行う場合は、Systemwalker Centric Manager、for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタ、およびHP OpenView Network Node Managerが起動している必要があります。これらが停止していた場合、運用への影響について説明します。

Systemwalker Centric Manager(業務サーバ)が停止している場合

Systemwalker Centric Managerが停止している場合も、HP OpenView Network Node Managerで発生したイベントは通知されます。Systemwalker Centric Managerが停止している間に通知されたイベントは500件まで受け付けられますが、500件を超えると最初に発生したイベントから順に破棄されます。通知したイベントが破棄された場合、Systemwalker Centric Managerを起動したときに、以下に示すイベントログが記録されます。

ID	205
テキスト	監視対象メッセージを破棄しました (データ数=XXX)(連携製品においてSystemwalker Centric Manager起動前の監視対象メッセージが500件を超えました)

XXX：破棄データ数

Systemwalker Centric Managerが長期間停止する場合は、for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタも停止させてください。Systemwalker Centric Managerを起動した後、for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタを起動することで、HP OpenView Network Node Managerで発生したイベントがSystemwalker Centric Managerに通知されます。

for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタが停止している場合

for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタの停止中に発生したイベントは、for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタを再起動することで、HP OpenView Network Node Managerからイベントを取得し、Systemwalker Centric Managerに通知されます。

なお、管理者側からは、for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタの停止状態を検知することができません。for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタの停止を検知する場合は、Systemwalker Centric Managerでアプリケーション稼働状況の監視を行うことで、管理者へfor HP OpenView Network Node Manager連携アダプタの停止を通知することができます。for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタの稼働監視する場合、以下のプロセスを監視の対象にします。

- for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタ：mpadovevt.exe

アプリケーション稼働状況の監視機能の設定については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”を参照してください。

for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタを再起動する

for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタの処理を再開する手順は次のとおりです。

【Windows版】

1. Systemwalker Centric Managerのサービスが停止している場合、以下のコマンドでサービスを起動します。

```
scentricmgr
```

2. HP OpenView Network Node Managerのサービスが停止している場合は、[管理ツール]の[サービス]で次のサービスを起動または再起動します。

   － Systemwalker Moms NNM

【Solaris版】

1. Systemwalker Centric Managerのデーモンが停止している場合、以下のコマンドでデーモンを起動します。

/opt/systemwalker/bin/scentricmgr

2. 以下のコマンドを実行し、for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタを再起動します。

/opt/FJSVmoms/NNM/etc/rc/init.moms_NNM stop
/opt/FJSVmoms/NNM/etc/rc/init.moms_NNM start

HP OpenView Network Node Managerが停止している場合

イベントは取得されません。OpenView Network Node Managerを起動し、イベント取得処理を再開してください。

2.4.2 構成情報の管理を行う

HP OpenView Network Node Managerが停止している場合

HP OpenView Network Node Managerが停止しているときは、インベントリ情報は取得されません。HP OpenView Network Node Managerを再起動すると、インベントリ情報の取得が可能になります。

業務サーバが停止している場合

業務サーバ停止時は資源配付も停止しているため、インベントリ情報および構成管理情報の収集は行いません。

全体監視サーバまたは運用管理サーバが停止している場合

全体監視サーバまたは運用管理サーバが停止している場合でも、Systemwalker Centric Manager(業務サーバ)まで、インベントリ情報は送信されています。

全体監視サーバまたは運用管理サーバを起動すると、停止中に業務サーバまで送信されたインベントリ情報は、全体監視サーバまたは運用管理サーバへ通知されます。

2.5 保守

2.5.1 トレース情報の採取

以下の事象が発生した場合、調査用トレース情報を採取してください。

- for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタの停止を検知した場合
- HP OpenView Network Node ManagerのイベントとSystemwalker Centric Managerのイベントの情報が正しく連携できない場合
- HP OpenView Network Node Managerの構成管理情報とSystemwalker Centric Managerのインベントリ情報が正しく連携できない場合

調査用トレースとして、以下の情報を採取します。

Solaris版の場合、採取する資料の中には、スーパーユーザ権限を必要とする資料が含まれているため、資料を採取する際は、スーパーユーザで採取してください。

【Windows版】

- Windowsインストールディレクトリ¥system32¥f3cvgtad配下のMpAdmomsで始まるファイルすべて

【Solaris版】

- /var/opt/FJSVftlc/trc/配下のMpAdmomsで始まるファイルすべて

なお、調査する際は、トレース以外に以下の資料が必要になります。

【Windows版】

・ イベントビューア(イベントログ、アプリケーションログ)

・ (for HP OpenView Network Node Managerインストールディレクトリ)¥etc配下のファイルすべて

【Solaris版】

・ /var/adm 配下のmessagesで始まるファイルすべて

・ /opt/FJSVmoms/NNM/etc配下のファイルすべて

2.5.2 バックアップ/リストア

for HP OpenView Network Node Manager Adapterのカスタマイズした定義ファイルの資源をバックアップする

カスタマイズした定義ファイル(HP OpenView Network Node Manager連携 イベント定義ファイル)をバックアップすることができます。以下に示す手順に従い、バックアップを実施してください。

【Windows版】

1. サービス“Systemwalker Moms NNM”を停止します。

   [サービス]より[Systemwalker Moms NNM]のサービスを停止します。

2. 以下の資源をバックアップします。

   エクスプローラやコピーコマンドを使用して対象となる資源を退避します。

for HP OpenView Network Node Manager Adapterインストールディレクトリ¥etc 配下すべて
for HP OpenView Network Node Manager Adapterインストールディレクトリ¥var 配下すべて

3. サービス“Systemwalker Moms NNM”を起動します。

   [サービス]より[Systemwalker Moms NNM]のサービスを開始します。

【Solaris版】

1. 以下のコマンドでデーモン“Systemwalker Moms NNM”を停止します。

```
/opt/FJSVmoms/NNM/etc/rc/init.moms_NNM stop
```

2. 以下の資源をバックアップします。

   コピーコマンドを使用して対象資源を退避します。

/etc/opt/FJSVmoms/NNM 配下すべて
/var/opt/FJSVmoms/NNM 配下すべて

3. 以下のコマンドでデーモン“Systemwalker Moms NNM”を起動します。

```
/opt/FJSVmoms/NNM/etc/rc/init.moms_NNM start
```

for HP OpenView Network Node Manager Adapterのカスタマイズした定義ファイルの資源をリストアする

バックアップした定義ファイルをリストアすることができます。以下に示す手順に従い、リストアを実施してください。

【Windows版】

1. サービス“Systemwalker Moms NNM”を停止します。
2. バックアップした対象資源をエクスプローラやコピーコマンドを使用して上書きコピーします。
3. サービス“Systemwalker Moms NNM”を起動します。

【Solaris版】

1. 以下のコマンドでデーモン“Systemwalker Moms NNM”を停止します。

```
/opt/FJSVmoms/NNM/etc/rc/init.moms_NNM stop
```

2. バックアップした対象資源を、コピーコマンドを使用して上書きコピーします。
3. 以下のコマンドでデーモン“Systemwalker Moms NNM”を起動します。

```
/opt/FJSVmoms/NNM/etc/rc/init.moms_NNM start
```

2.6 for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタのアンインストール

アンインストール前の準備

【Windows版】

for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタをアンインストールする前に、以下のサービスを停止してください。

- Systemwalker Centric Manager

  以下のコマンドを使用します。

```
pcentricmgr
```

- Systemwalker Moms Network Node Manager

  サービス“Systemwalker Moms NNM”を停止します。

【Solaris版】

for HP OpenView Network Node Manager連携アダプタをアンインストールする前に、以下のデーモンを停止してください。

- Systemwalker Centric Manager

  以下のコマンドでデーモンを停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

- Systemwalker Moms Network Node Manager

  以下のスクリプトを実行して、デーモンを停止します。

```
/opt/FJSVmoms/NNM/etc/rc/init.moms_NNM stop
```

アンインストール方法

【Windows版】

[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]/[プログラムの追加と削除]/[プログラムと機能]で、以下を選択してアンインストールしてください。

- Systemwalker Centric Manager V13.1.0 Manager of Managers Adapter for HP OpenView Network Node Manager
- Systemwalker Centric Manager V13.2.0 Manager of Managers Adapter for HP OpenView Network Node Manager
- Systemwalker Centric Manager V13.3.0 Manager of Managers Adapter for HP OpenView Network Node Manager

  または

- Systemwalker Centric Manager V13.3.0 Manager of Managers Adapter for HP OpenView Network Node Manager

【Solaris版】

rootユーザでログインし、以下のアンインストールコマンドを実行します。

```
pkgrm FJSVmoms
```

第3章 Microsoft Operations Managerとの連携

Microsoft Operations Managerとの連携について説明します。

- 連携する機能
- 動作環境
- 導入
- 運用
- for Microsoft Operations Manager連携アダプタのアンインストール

3.1 連携する機能

Microsoft Operations Managerで検出したイベントを、Systemwalkerに通知します。

3.1.1 イベントの通知

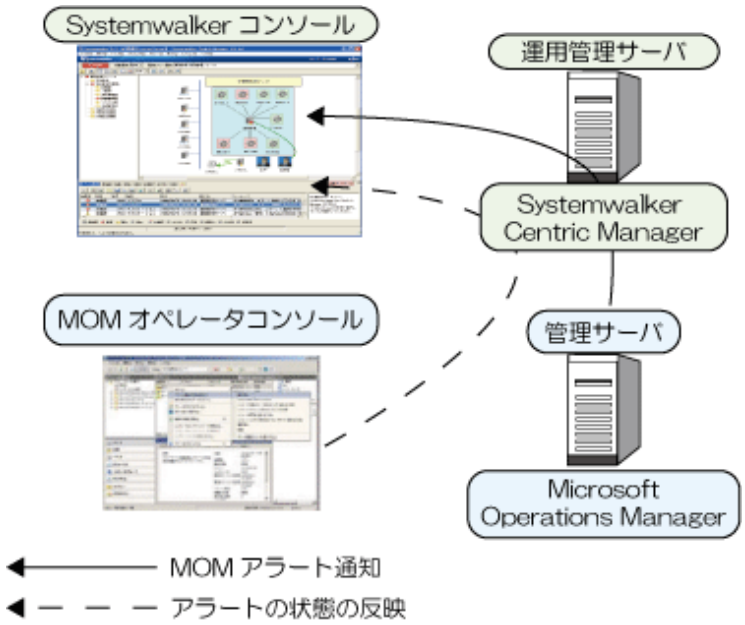
Systemwalker Centric ManagerとMicrosoft(R) Operations Managerとの連携機能では、以下を提供します。

- Microsoft(R) Operations Managerが検出したアラートをSystemwalkerコンソールで統合監視

  Microsoft(R) Operations Managerが検知したアラートを、Systemwalker Centric Managerに通知します。Systemwalkerコンソールでは、UNIXサーバやネットワークで発生したその他のイベントと同様に管理することが可能となります。

- MOMオペレータコンソールで行ったアラートの状態変更の反映

  Systemwalker Centric Managerに通知されたMOMアラートを、MOMオペレータコンソールで解決状態を[解決済み]にすると、Systemwalkerコンソール上でも、自動的に対処済みに変更されます。



3.2 動作環境

Microsoft(R) Operations Managerとの連携機能の動作環境について説明します。

システム構成

Microsoft(R) Operations Managerとの連携機能を使用する場合の構成は以下のとおりです。

	Windows	Solaris
全体監視サーバ	Systemwalker Centric Manager EE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0	Systemwalker Centric Manager EE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0
運用管理サーバ	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0
業務サーバ	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0 Microsoft Operations Manager 2005 および MCF環境	-

全体監視サーバの設定については、“Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド”の“シングルサイト型全体監視の導入と運用”、および“マルチサイト型全体監視の導入と運用”を参照してください。

ハードウェア資源

Microsoft(R) Operations Managerとの連携機能で必要なハードウェア資源について説明します。

ディスク容量

Microsoft(R) Operations Managerとの連携機能が必要なディスク容量を以下に示します。

使用領域	必要な容量
for Microsoft Operations Managerのインストール ディレクトリ	15MB以上

“前提ソフトウェア”が使用するディスク容量に加えて、上記のディスク容量が必要です。

メモリ使用量

Microsoft(R) Operations Managerとの連携機能が必要なメモリ使用量の概略値を、以下に示します。

必要なメモリ使用量 : 35MB

“前提ソフトウェア”が使用するメモリ使用量に加えて、上記のメモリ使用量が必要です。

ソフトウェア資源

Microsoft(R) Operations Managerとの連携機能で必要なソフトウェア資源について説明します。

動作OS

Microsoft(R) Operations Managerの動作OSを以下に示します。

- Windows(R) 2000 Server
- Windows Server(R) 2003, Standard Edition
- Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition

前提ソフトウェア

Microsoft(R) Operations Managerとの連携機能は、以下の3つのソフトウェアがインストールされている業務サーバ上で動作します。

- Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0(*)/V13.4.0(*)、または、
  Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0(*)/V13.4.0(*)

  *) 業務サーバ（エージェントライセンス、イベント監視ライセンス）
- Microsoft(R) Operations Manager 2005 および MCF環境

  （※MCF：MOM Connector Frameworkの略）
- for Microsoft(R) Operations Manager 連携アダプタ

前提ソフトウェアに必要なソフトウェアが別途インストールされている必要があります。詳細は、各ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

3.3 導入

3.3.1 for Microsoft Operations Manager連携アダプタのインストール

for Microsoft(R) Operations Manager連携アダプタのインストール手順、Systemwalker MOM Connectorの登録手順、および登録状況の確認手順を示します。“動作環境”の“ハードウェア資源”と“ソフトウェア資源”を参考に、システムが前提条件を満たしていることを確認後、以下の手順でインストールを行ってください。

インストール手順

Windowsの業務サーバにfor Microsoft Operations Manager連携アダプタをインストールする手順を以下に示します。

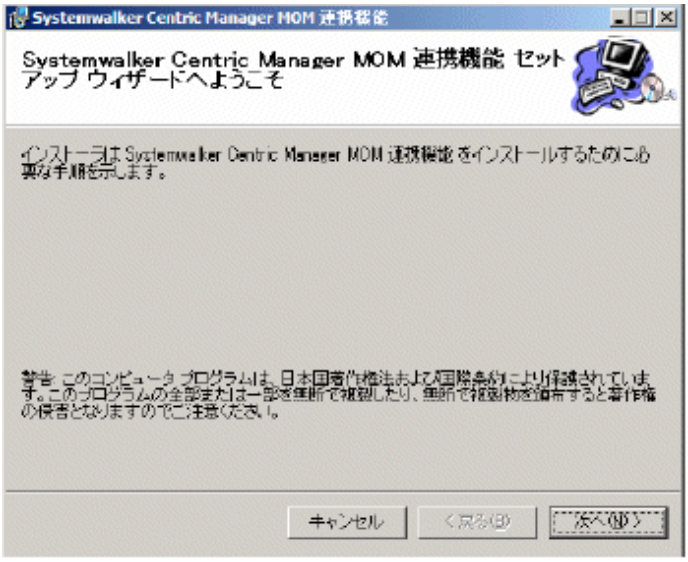
1. MOM管理サーバへ、Administrators権限を持つユーザIDでログインします。
2. 以下からダウンロードした自己解凍形式ファイル(swmom100.exe)を実行し、任意のディレクトリに解凍します。

Systemwalker Centric Manager 技術情報 URL	http://software.fujitsu.com/jp/technical/systemwalker/centricmgr/

3. 解凍したフォルダ内の以下のインストーラパッケージ(Setup.msi)を起動します。

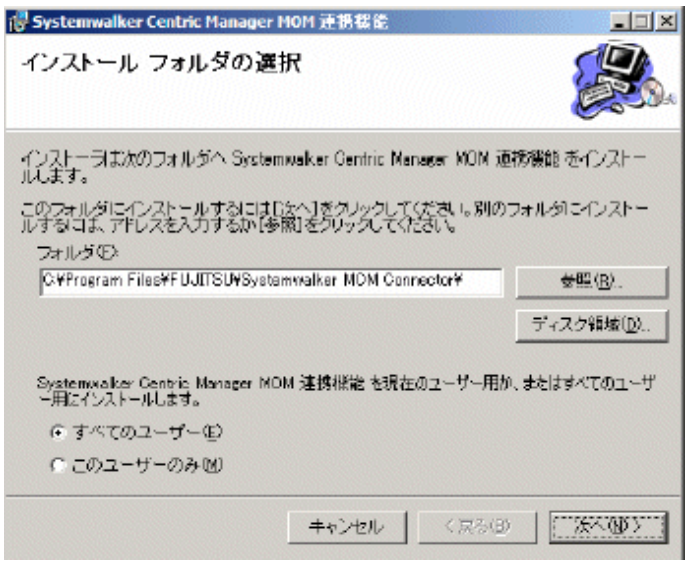
Setup.msi

→インストールウィザードが起動されます。



4. [次へ]をクリックします。

5. インストール先のフォルダを指定し、現在のユーザ用/すべてのユーザ用のどちらかを選択し、[次へ]をクリックします。



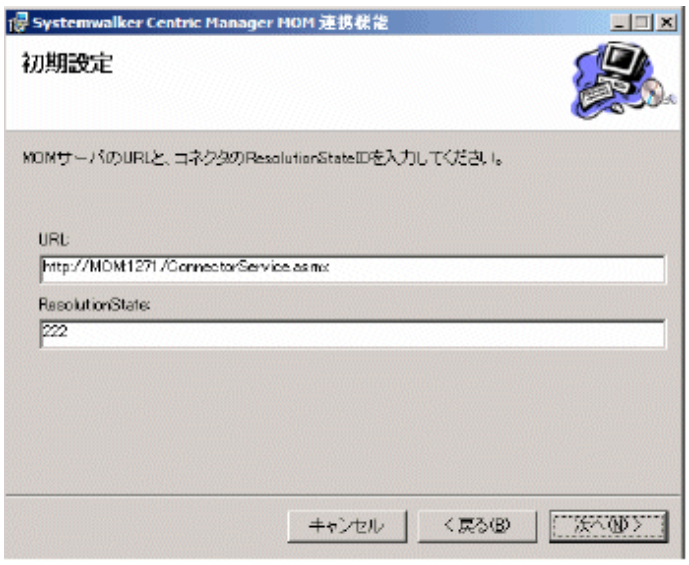
6. MCFサービスのURLとResolutionStateを入力し、[次へ]をクリックします。なお、MCFサービスのURLとResolutionStateの詳細については、“Microsoft(R) Operations Manager”のマニュアルを参照してください。

   ー URL

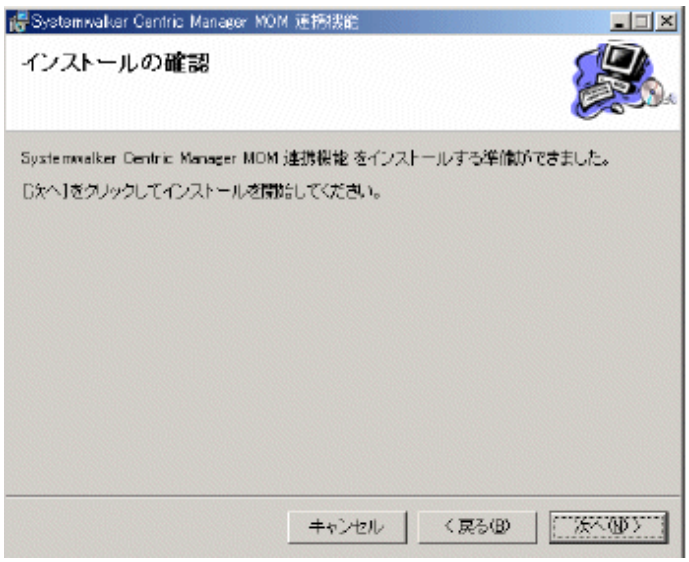
   MCFサービスのURL(デフォルト:http://ホスト名:1271/ConnectorService.asmx)を入力します。

   ー ResolutionState

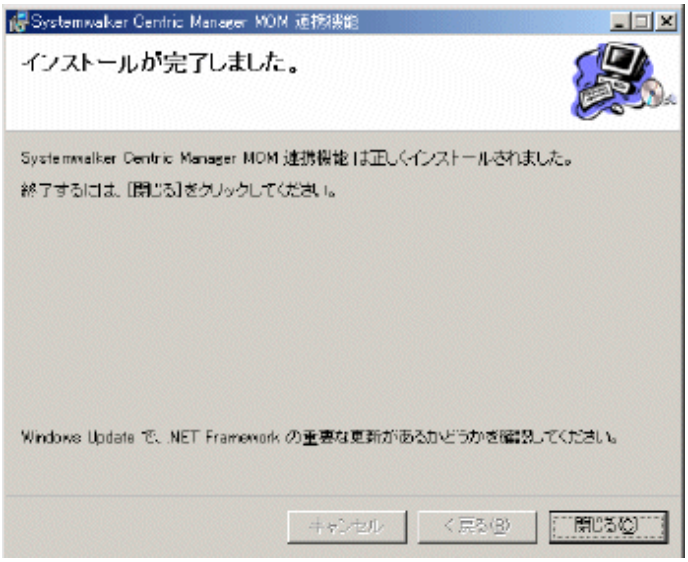
   ほかのコネクタと重複する場合のみ変更してください。ただし、「0,85,170,180,190,200,255」は使用できません。



7. [次へ]をクリックします。



8. インストールが完了すると、以下の画面が表示されます。[閉じる]をクリックし、インストールを終了します。再起動せずにSystemwalker MOM Connectorの登録手順を実施してください。

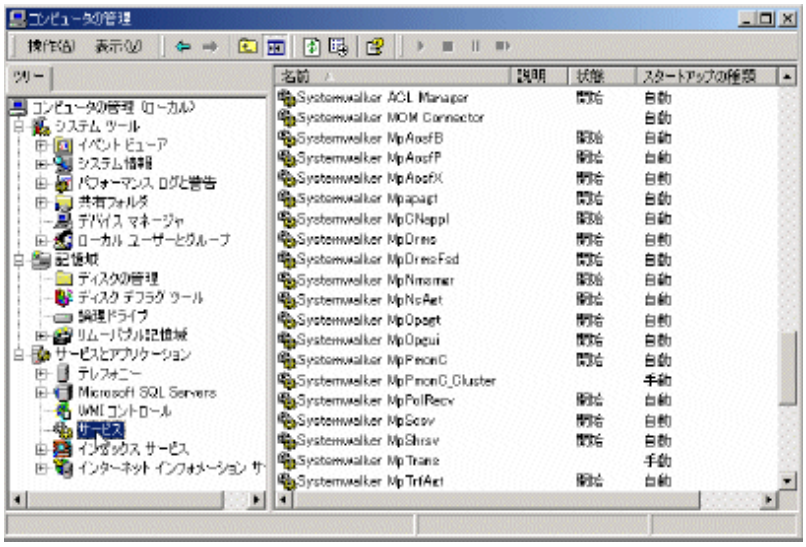


Systemwalker MOM Connectorの登録手順

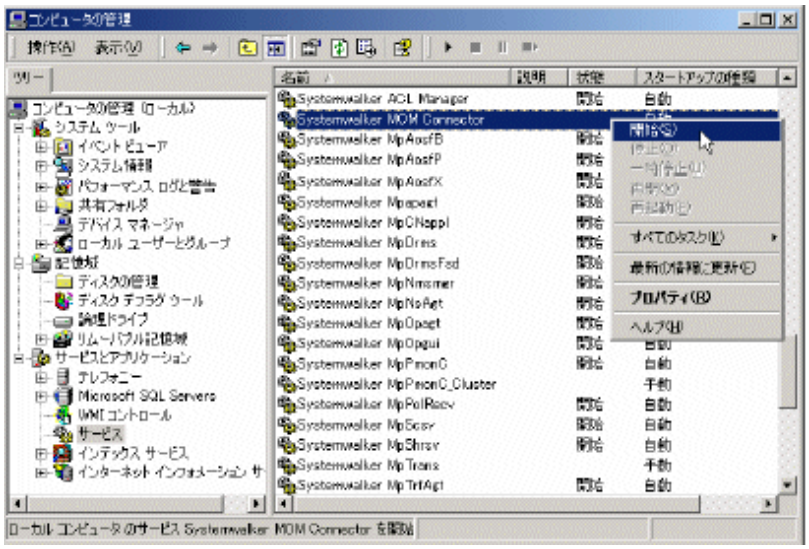
Systemwalker MOM Connectorサービスの初回起動時に、Microsoft(R) Operations Managerへコネクタの登録処理が行われます。以下の手順に従ってサービスの手動起動を行ってください。

1. マイコンピュータの右クリックメニューから[管理]を選択します。

2. [ツリー]から[サービス]を選択します。



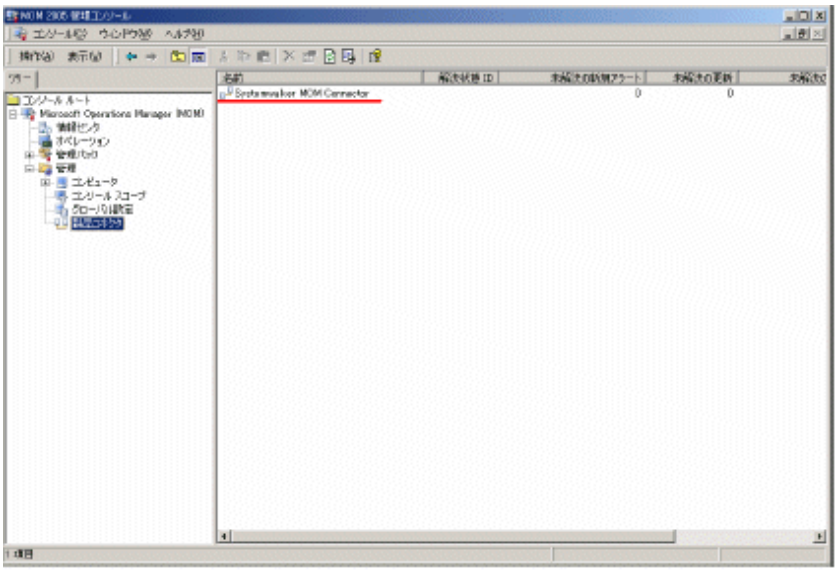
3. 右ペインで[Systemwalker MOM Connector]を選択し、右クリックメニューの[開始]を選択します。



4. 状態が[開始]となれば起動成功です。登録状況の確認手順を実施し、登録状況を確認してください。

登録状況の確認手順

MOM管理者コンソールで、コネクタの登録状況を確認します。MOM管理者コンソールの[管理]-[製品コネクタ]を開き、「Systemwalker MOM Connector」と表示されていることを確認してください。



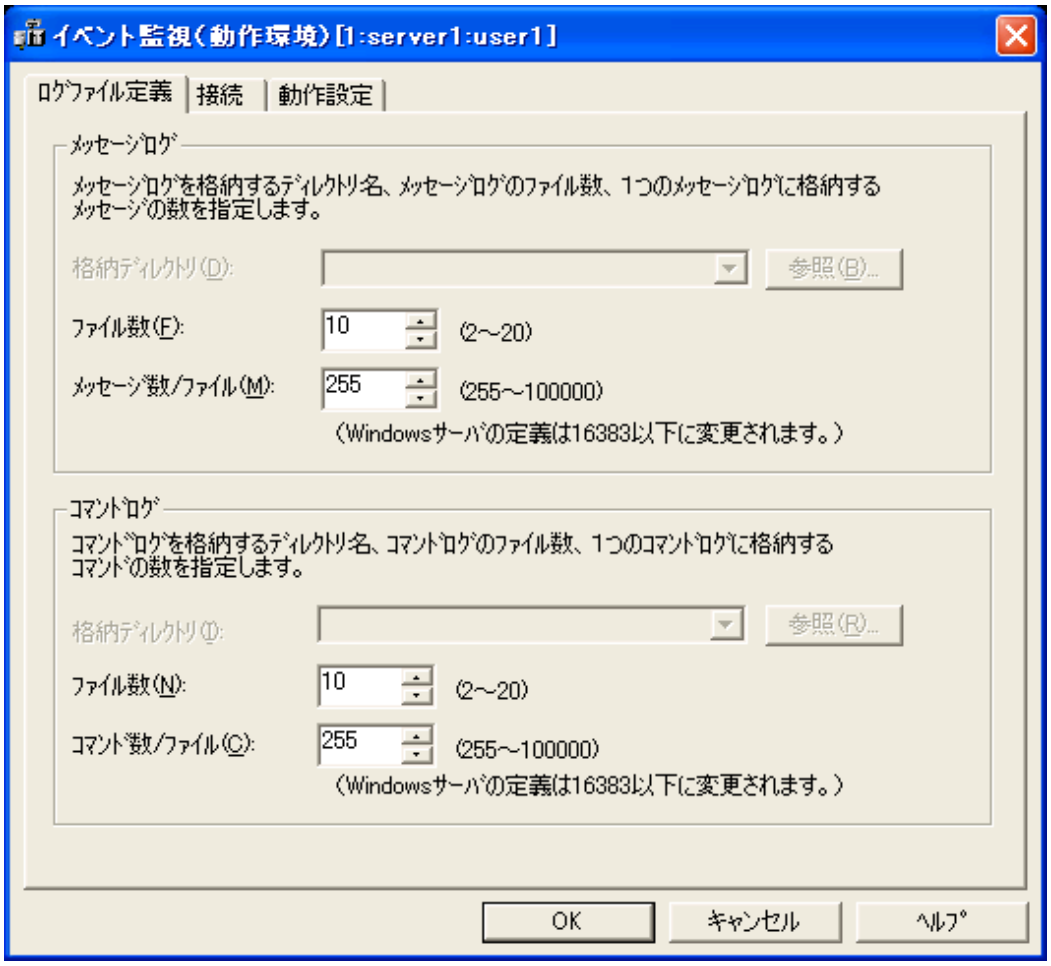
インストール後の設定

ノードを設定する

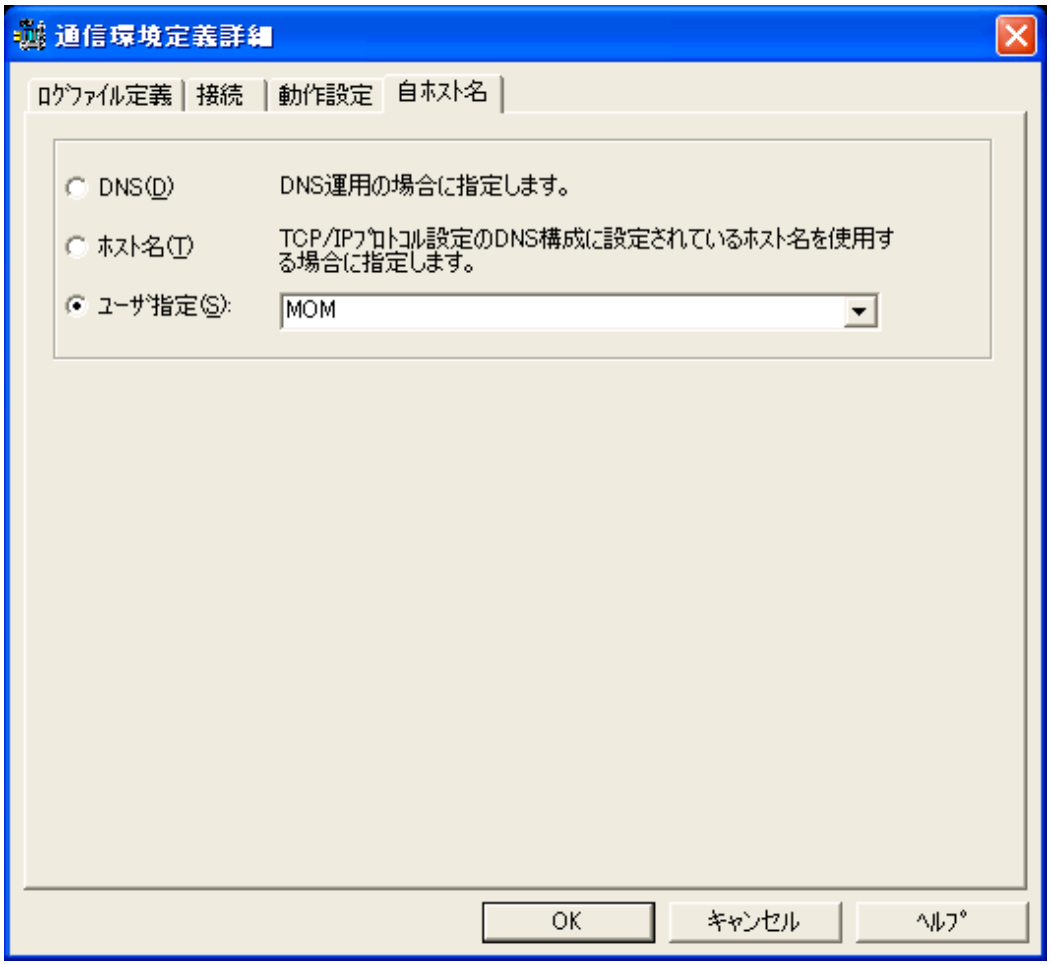
Microsoft(R) Operations ManagerからSystemwalker Centric Managerにアラートが通知されたときに、アラート発生元のノードが新ノードに追加されたり、異なるホスト名で複数追加されることがあります。ノードを適切に設定する方法を以下に示します。

Systemwalker Centric Managerの通信設定を編集します。以下に手順を示します。

1. Microsoft Operations Manager連携アダプタをインストールしたマシンの[通信環境定義]ダイアログボックスを開き、[詳細設定]ボタンをクリックし、[通信環境定義詳細]を表示します。



2. [自ホスト名]タブの、[ユーザ指定]のテキストボックスにMicrosoft Operations Manager連携アダプタをインストールしたマシンのコンピュータ名を入力します。入力後、[OK]ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。



3. 以上で、設定は終了です。対象マシンでSystemwalker Centric Managerのサービスを再起動し、設定を反映します。
4. [Systemwalkerコンソール]上に重複して作成された不要なノードを削除します。

イベント監視機能の無効化

Systemwalker Centric Managerのイベント監視機能を無効化します。

1. Systemwalker Centric Managerのイベント監視機能の無効化

   イベントログ監視設定ファイル(Systemwalkerインストールディレクトリ¥MpWalker.dm¥mpopagt¥etc¥opaevt)の以下の設定を“OFF”に変更します。

   【変更前】

   ```
   MPOP_ENABLE_EVTLOG ON
   ```

   【変更後】

   ```
   MPOP_ENABLE_EVTLOG OFF
   ```

2. Systemwalker Centric Managerを再起動します。

   以下のコマンドで、Systemwalker Centric Managerのサービスを停止、起動するか、システムを再起動する必要があります。

   【停止】

   ```
   pcentricmgr
   ```

【起動】

```
scentricmgr
```

3.3.2 for Microsoft Operations Manager連携アダプタのセットアップ

for Microsoft Operations Manager連携アダプタのインストール後、以下の設定を行います。

サイトフォルダの作成

全体監視サーバでマルチサイト型の運用を行う場合、サイトフォルダを作成する必要があります。全体監視サーバ上で以下の設定を行います。

1. サイト名の登録

   全体監視サーバ上で以下のコマンドを実行します。

   【Windows版】

   ```
   MpFwSetOval -f add -h ホスト名 -s サイト名 -p IPアドレス
   ```

   【Solaris版】

   ```
   /opt/systemwalker/bin/MpFwSetOval -f add -h ホスト名 -s サイト名 -p IPアドレス
   ```

   MpFwSetOval(全体監視設定コマンド)の詳細については、“Systemwalker Centric Managerリファレンスマニュアル”を参照してください。

2. Systemwalker Centric Managerの再起動

   全体監視サーバのSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

   【Windows版】

   Systemwalker Centric Managerを停止します。

   ```
   pcentricmgr
   ```

   Systemwalker Centric Managerを起動します。

   ```
   scentricmgr
   ```

   【Solaris版】

   Systemwalker Centric Managerを停止します。

   ```
   /opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
   ```

   Systemwalker Centric Managerを起動します。

   ```
   /opt/systemwalker/bin/scentricmgr
   ```

3.4 運用

3.4.1 イベントの通知を行う

3.4.1.1 検出されたノードをフォルダへ振り分ける

for Microsoft Operations Manager Adapterがイベント連携することで通知されたイベントにより新たにノードが検出された場合、検出されたノードは[新ノード]フォルダに作成されます。

フォルダに振り分けを行う場合は、以下の手順でフォルダへの振り分けを行います。

1. Systemwalkerコンソールを起動します。
2. [ファイル]メニューから[機能選択]-[編集]を選択し、編集モードにします。
3. [ファイル]メニューから[新ノードの振り分け]を選択し、検出されたノードをフォルダへ振り分けます。
4. [ファイル]メニューから[機能選択]-[監視]を選択し、監視モードに戻します。

なお、IPアドレスが“0.0.0.0”で追加されたノードに関しては、正しいIPアドレスを入力することで、サブネットフォルダへ振り分けることができます。
ただし、全体監視サーバでマルチサイト型の運用を行っている場合は、[新ノード]フォルダに作成されたノードを[新ノードの振り分け]を行うことでサイトフォルダに振り分け、その後でIPアドレスを入力してください。

IPアドレスを入力する場合は、以下の手順で入力を行います。

1. Systemwalkerコンソールを起動します。
2. [ファイル]メニューから[機能選択]-[編集]を選択し、編集モードにします。
3. IPアドレスが“0.0.0.0”のノードを選択します。
4. [ファイル]メニューから[プロパティ]を選択し、ノードプロパティ画面を表示します。
5. インタフェースタブで、正しいIPアドレス、およびサブネットマスクを設定します。
6. [ファイル]メニューから[機能選択]-[監視]を選択し、監視モードに戻します。

3.4.1.2 アラートを通知する

for Microsoft Operations Manager連携アダプタ導入後、運用を行う場合は、MOMアラートをSystemwalkerに通知する方法、通知されたアラートの内容を確認する方法、および通知済みのMOMアラートを対処する方法について説明します。

MOMアラートをSystemwalkerに通知する

MOMのアラートをSystemwalkerに通知するには、MOMオペレータコンソールでアラートの[解決状態]を[Systemwalker MOM Connector]にします。[解決状態]を変更するには、次の2つの方法があります。

1. MOMオペレータコンソール上で、アラートの[解決状態]を手動で変更する方法
2. イベントルールやアラートルールを作成し、特定のアラートの[解決状態]を自動的に変更する方法

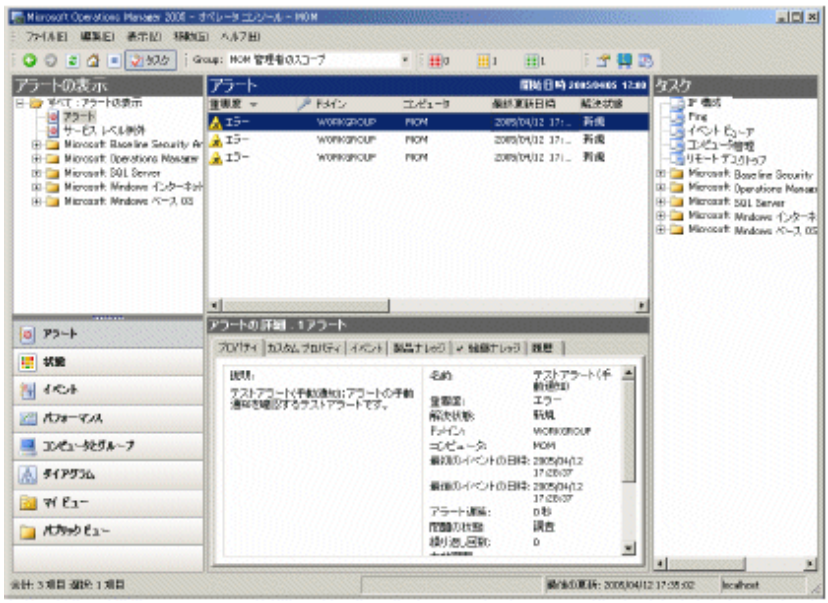
それぞれの方法を以下で説明します。なお、詳細な手順は“Microsoft(R) Operations Manager 2005”のマニュアルを参照してください。

アラートを手動で通知する

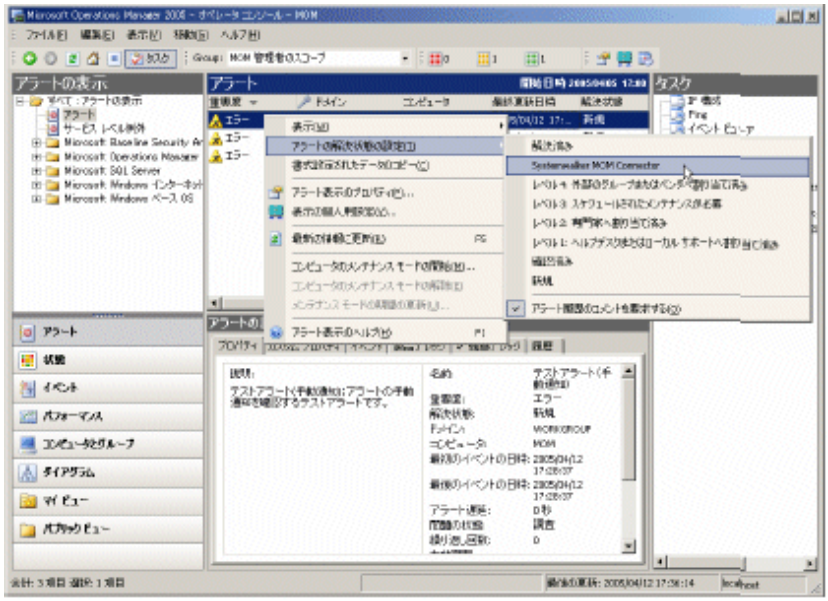
MOMアラートを手動でSystemwalker Centric Managerに通知する方法を示します。

手順

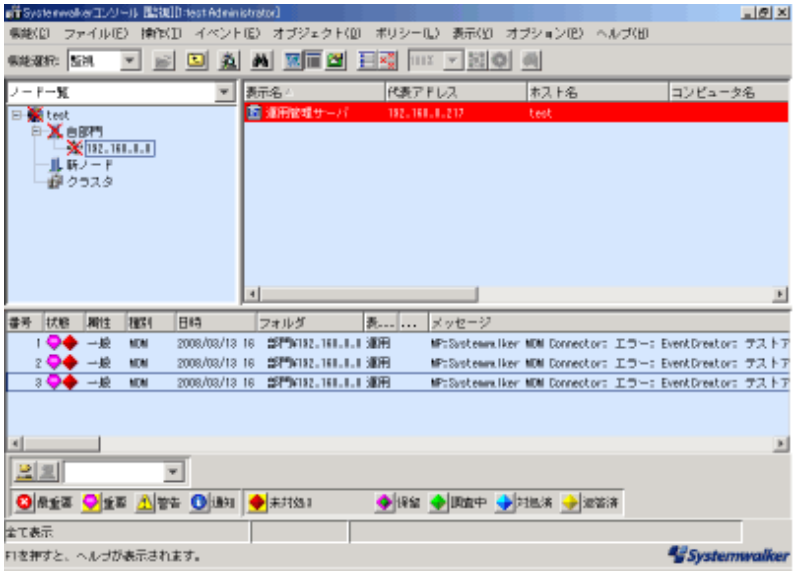
1. MOMオペレータコンソールを開き、Systemwalkerに通知するアラートを表示します。



2. 通知するアラートを選択し、右クリックメニューから[アラートの解決状態の設定]-[Systemwalker MOM Connector]を選択します。

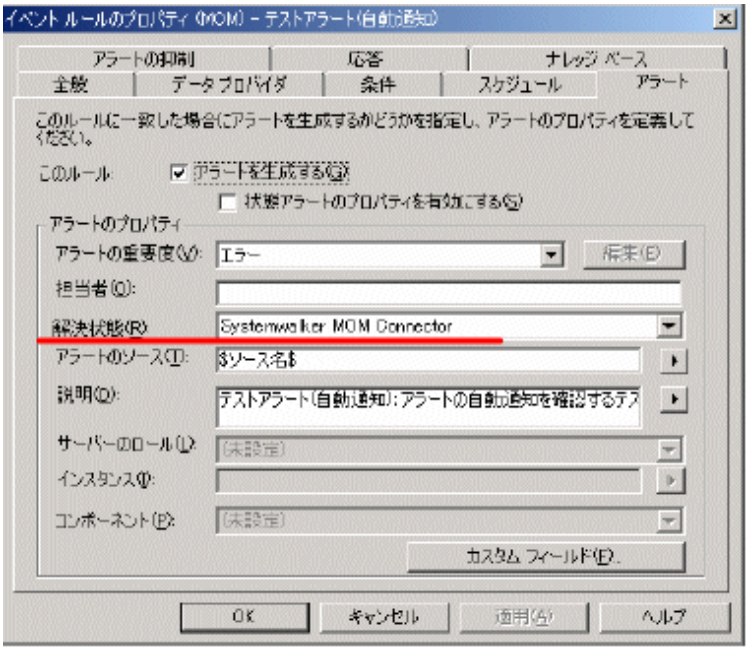


3. Systemwalkerにアラートが通知され、[Systemwalkerコンソール]に表示します。



アラートを自動的に通知する

MOMアラートを自動的にSystemwalker Centric Managerに通知するには、イベントルールやアラートルールを設定します。ルールの設定では、Systemwalker Centric Managerに通知したいアラートの[解決状態]が[Systemwalker MOM Connector]となるように設定します。イベントルールを設定する場合の例を以下に示します。



通知されたアラートの内容を確認する

Microsoft(R) Operations ManagerからSystemwalker Centric Managerに通知されたアラートも、その他のイベントと同様にSystemwalkerコンソールに表示されます。

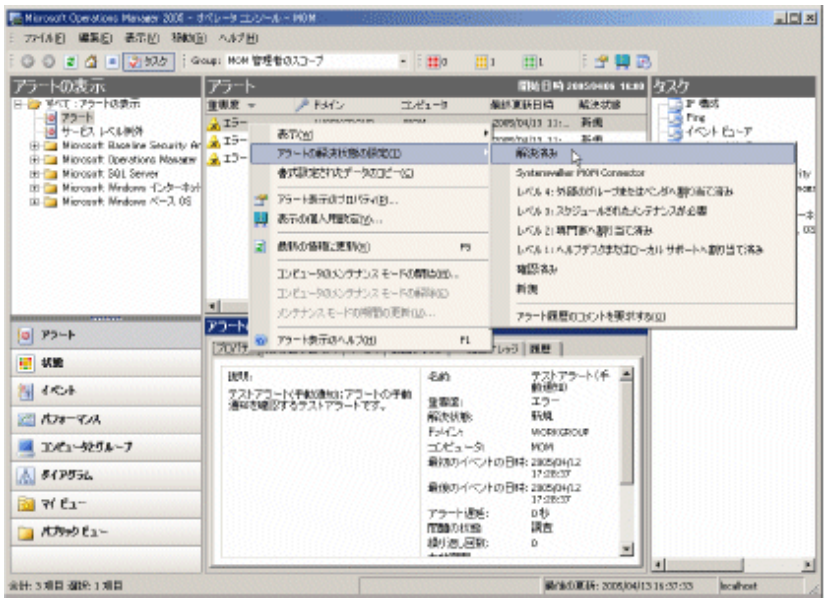
Systemwalkerコンソールで内容を確認するイベントを選択し、ダブルクリックするか、または右クリックメニューの[イベントの状態変更]を選択すると、[監視イベント:対処]ダイアログが表示され、アラートの内容を確認することができます。

通知済みのMOMアラートを対処する

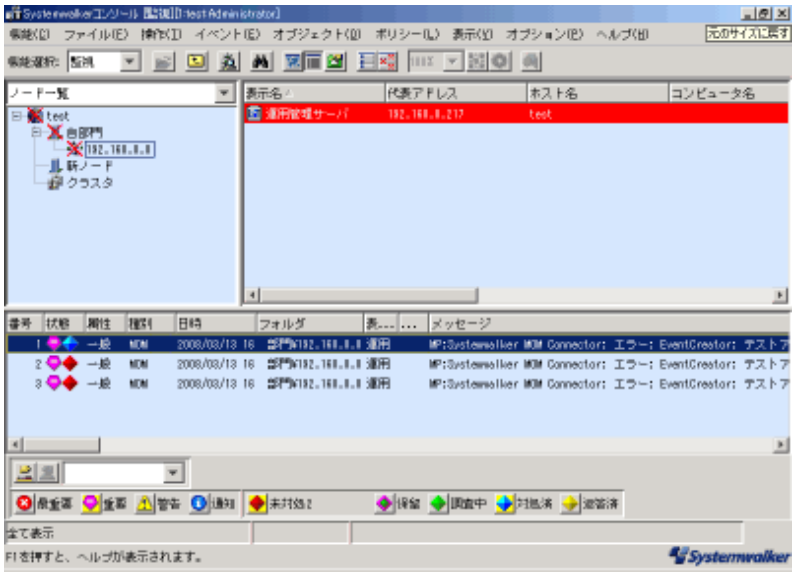
Systemwalkerに通知済みのアラートは、MOMオペレータコンソール上で解決状態を[解決済み]に変更すると、Systemwalkerコンソール上でも[対処済]に変更されます。以下に手順を示します。

手順

1. MOMオペレータコンソールで、Systemwalkerに通知済みのアラートを選択し、右クリックメニューから[アラートの解決状態の設定]-[解決済み]を選択します。



2. Systemwalkerコンソール上でも状態が[対処済]に変更されます。



3.5 for Microsoft Operations Manager連携アダプタのアンインストール

アンインストールの手順を以下に示します。

アンインストール手順

1. コントロールパネルから、[アプリケーションの追加と削除]/[プログラムの追加と削除]/[プログラムと機能]を起動します。
2. [Systemwalker Centric Manager MOM 連携機能]を選択し、[削除]ボタンをクリックします。

3. アンインストール処理が実行されます。アンインストールに成功すると以下のダイアログが出力されます。[OK]ボタンをクリックし、ダイアログを閉じます。

4. アンインストールの終了です。システムを再起動してください。

注意

Microsoft(R) Operations Managerとの連携機能をアンインストール後に再インストールする場合、アンインストールの前にSystemwalker Centric Managerへの通知済みアラートを[解決済み]に変更してください。

上記の操作を行わずにアンインストールし、その後、再インストールを行った場合、Microsoft(R) Operations Managerが保持するアラートの状態と、Systemwalker Centric Managerに通知されたアラートの状態に不整合が発生することがあります。不整合が発生した場合は、MOMオペレータコンソールでアラートを[解決済み]にし、Systemwalkerコンソールでアラートを[対処済]に変更してください。

第4章 Microsoft System Center Operations Managerとの連携

Microsoft(R) System Center Operations Managerとの連携について説明します。

- 連携する機能
- 動作環境
- 導入
- 運用
- for Microsoft System Center Operations Manager連携アダプタのアンインストール

4.1 連携する機能

Microsoft(R) System Center Operations Managerで検出したイベントを、Systemwalkerに通知します。

4.1.1 イベントの通知

Systemwalker Centric ManagerとMicrosoft(R) System Center Operations Managerとの連携機能では、以下を提供します。

- Microsoft(R) System Center Operations Managerが検出したアラートをSystemwalkerコンソールで統合監視

  Microsoft(R) System Center Operations Managerが検知したアラートを、Systemwalker Centric Managerに通知します。Systemwalkerコンソールでは、UNIXサーバやネットワークで発生したその他のイベントと同様に管理することが可能となります。

- System Center Operations Managerのコンソールで行ったアラートの状態変更の反映

  Systemwalker Centric Managerに通知されたアラートを、System Center Operations Managerのコンソールで解決状態を[解決済み]にすると、Systemwalkerコンソール上でも、対応するイベントの状態が自動的に[対処済み]に変更されます。

4.2 動作環境

Microsoft(R) System Center Operations Managerとの連携機能の動作環境について説明します。

システム構成

Microsoft(R) System Center Operations Managerとの連携機能を使用する場合の構成は以下のとおりです。

	Windows	Solaris/Linux
全体監視サーバ	Systemwalker Centric Manager EE V13.1.0 ～ V15.0.0	Systemwalker Centric Manager GEE/EE V13.1.0 ～ V13.6.0
運用管理サーバ	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0 ～ V15.0.0	Systemwalker Centric Manager GEE/EE/SE V13.1.0 ～ V13.6.0
業務サーバ	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0 ～ V15.0.0 Microsoft System Center Operations Manager 2007/2007 R2 Microsoft System Center 2012 Operations Manager	-

全体監視サーバの設定については、“Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド”の“シングルサイト型全体監視の導入と運用”、および“マルチサイト型全体監視の導入と運用”を参照してください。

ハードウェア資源

Microsoft(R) System Center Operations Managerとの連携機能で必要なハードウェア資源について説明します。

ディスク容量

Microsoft(R) System Center Operations Managerとの連携機能が必要なディスク容量を以下に示します。

使用領域	必要な容量
for Microsoft System Center Operations Manager 連携アダプタのインストール ディレクトリ	12.0MB以上

“前提ソフトウェア”が使用するディスク容量に加えて、上記のディスク容量が必要です。

メモリ使用量

Microsoft(R) System Center Operations Managerとの連携機能が必要なメモリ使用量の概略値を、以下に示します。な

必要なメモリ使用量 :

x86向け連携アダプタ:50 MB

x64向け連携アダプタ:65 MB

“前提ソフトウェア”が使用するメモリ使用量に加えて、上記のメモリ使用量が必要です。

ソフトウェア資源

Microsoft(R) System Center Operations Managerとの連携機能で必要なソフトウェア資源について説明します。

動作OS

for Microsoft(R) System Center Operations Manager 連携アダプタの動作OSを以下に示します。Microsoft(R) System Center Operations Managerの動作OSは、製品のマニュアルを参照してください。

- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition (x86)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition (x86)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition (x86)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter x64 Edition
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition (x86)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition (x86)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter Edition (x86)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Datacenter x64 Edition
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard (x64)

- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise (x64)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter (x64)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard Edition
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter Edition

前提ソフトウェア

Microsoft(R) System Center Operations Managerとの連携機能は、以下の3つのソフトウェアがインストールされている業務サーバ上で動作します。

- Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0～V15.0.0(*)、または、
  Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0～V15.0.0(*)
  *) 業務サーバ(エージェントライセンス、イベント監視ライセンス)
- Microsoft(R) System Center Operations Manager 2007/2007 R2、または、Microsoft(R) System Center 2012 Operations Manager
- for Microsoft(R) System Center Operations Manager 連携アダプタ

前提ソフトウェアに必要なソフトウェアが別途インストールされている必要があります。詳細は、各ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

for Microsoft(R) System Center Operations Manager 連携アダプタを使用するには、連携アダプタのインストール・アンインストールを含めて、System Center Operations Managerの以下サービスが動作している必要があります。サービスが動作していない場合は、連携アダプタは使用できません。

【Microsoft System Center Operations Manager 2007の場合】

OpsMgr SDK Service

【Microsoft System Center Operations Manager 2007 R2の場合】

System Center Data Access

【Microsoft System Center 2012 Operations Managerの場合】

System Center Data Access Service

4.3 導入

4.3.1 for Microsoft System Center Operations Manager連携アダプタのインストール

for Microsoft(R) System Center Operations Manager 連携アダプタのインストール手順を以下に示します。“動作環境”の“ハードウェア資源”と“ソフトウェア資源”を参考に、システムが前提条件を満たしていることを確認後、以下の手順でインストールを行ってください。

インストール手順

Windowsの業務サーバへfor Microsoft(R) System Center Operations Manager連携アダプタをインストールする手順を以下に示します。

1. System Center Operations Managerの管理サーバへ、Administrators権限を持つユーザIDでログインします。
2. 以下からダウンロードした自己解凍形式ファイルを実行し、任意のディレクトリに解凍します。

Systemwalker Centric Manager 技術情報 URL	http://software.fujitsu.com/jp/technical/systemwalker/centricmgr/

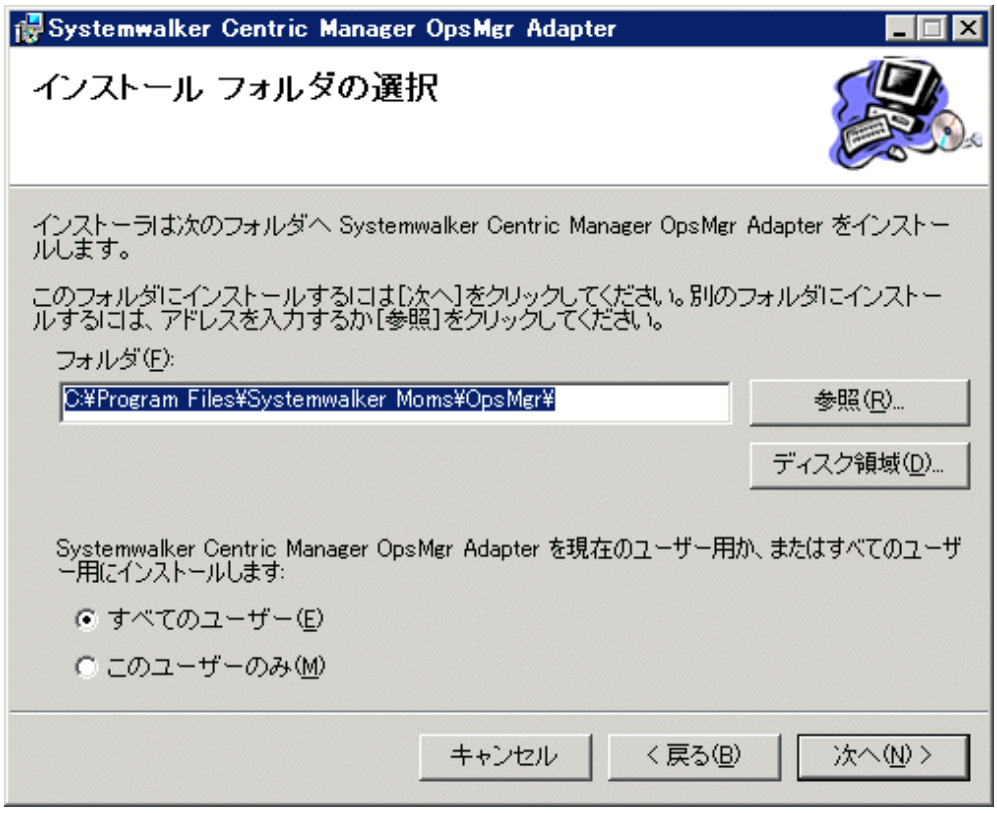
3. 解凍したフォルダ内の以下のインストーラパッケージ(Setup.msi)を起動します。

Setup.msi

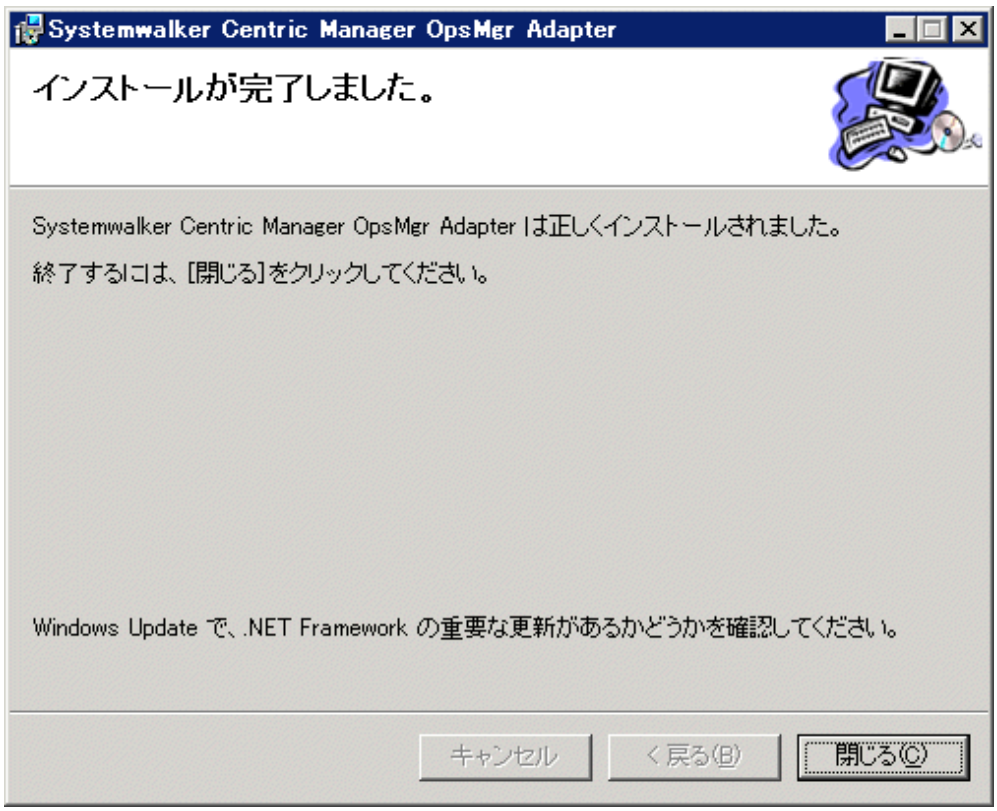
インストールウィザードが起動します。

4. [次へ]をクリックします。

5. [フォルダ]にインストール先フォルダを指定し、[すべてのユーザー]を選択して[次へ]をクリックします。



6. インストール完了後、[閉じる]をクリックし、インストールウィザードを終了します。



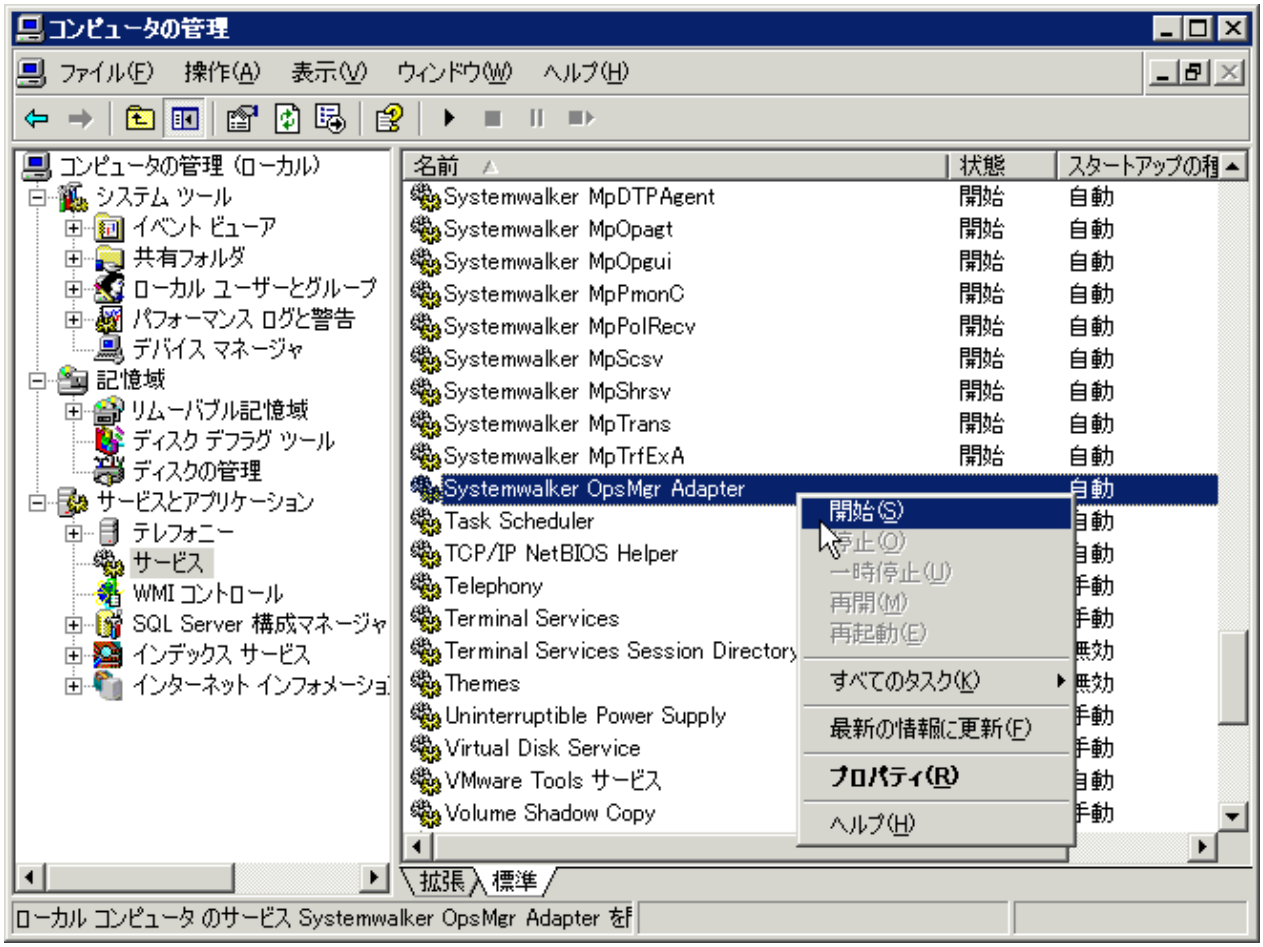
なお、インストールが完了すると、連携アダプタのサービスの状態は自動的に[開始]となります。

注意

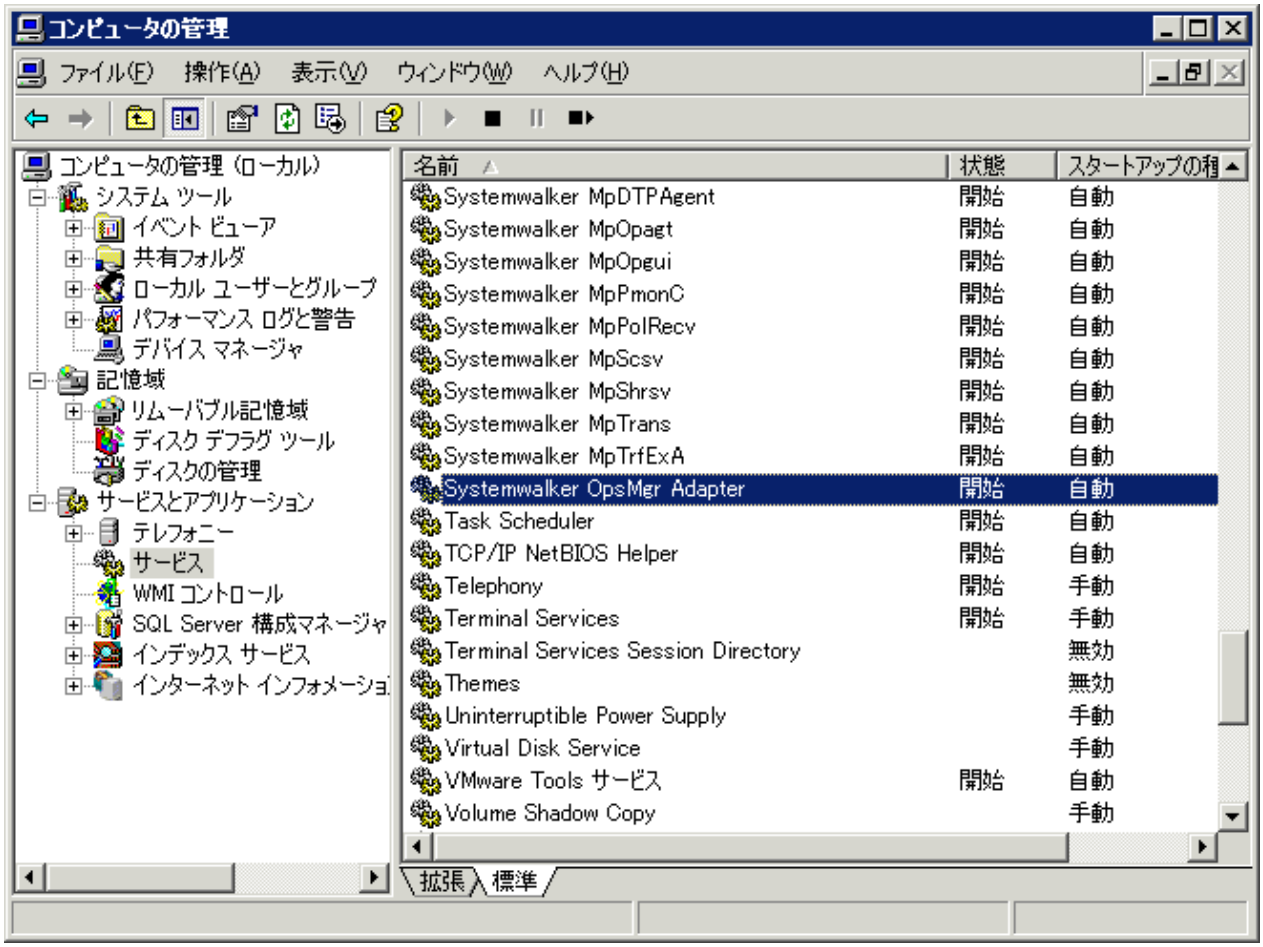
for Microsoft(R) System Center Operations Manager 連携アダプタのインストール後において、連携アダプタのサービスが自動的に開始されない場合があります。このとき、以下の手順でサービスを開始してください。

1. [マイコンピュータ]を右クリックし、[管理]をクリックします。
2. ツリーから[サービス]を選択します。

3. 右ペインで「Systemwalker OpsMgr Adapter」を選択し、右クリックメニューの[開始]選択します。



サービス「Systemwalker OpsMgr Adapter」の状態が[開始]となれば、起動成功です。

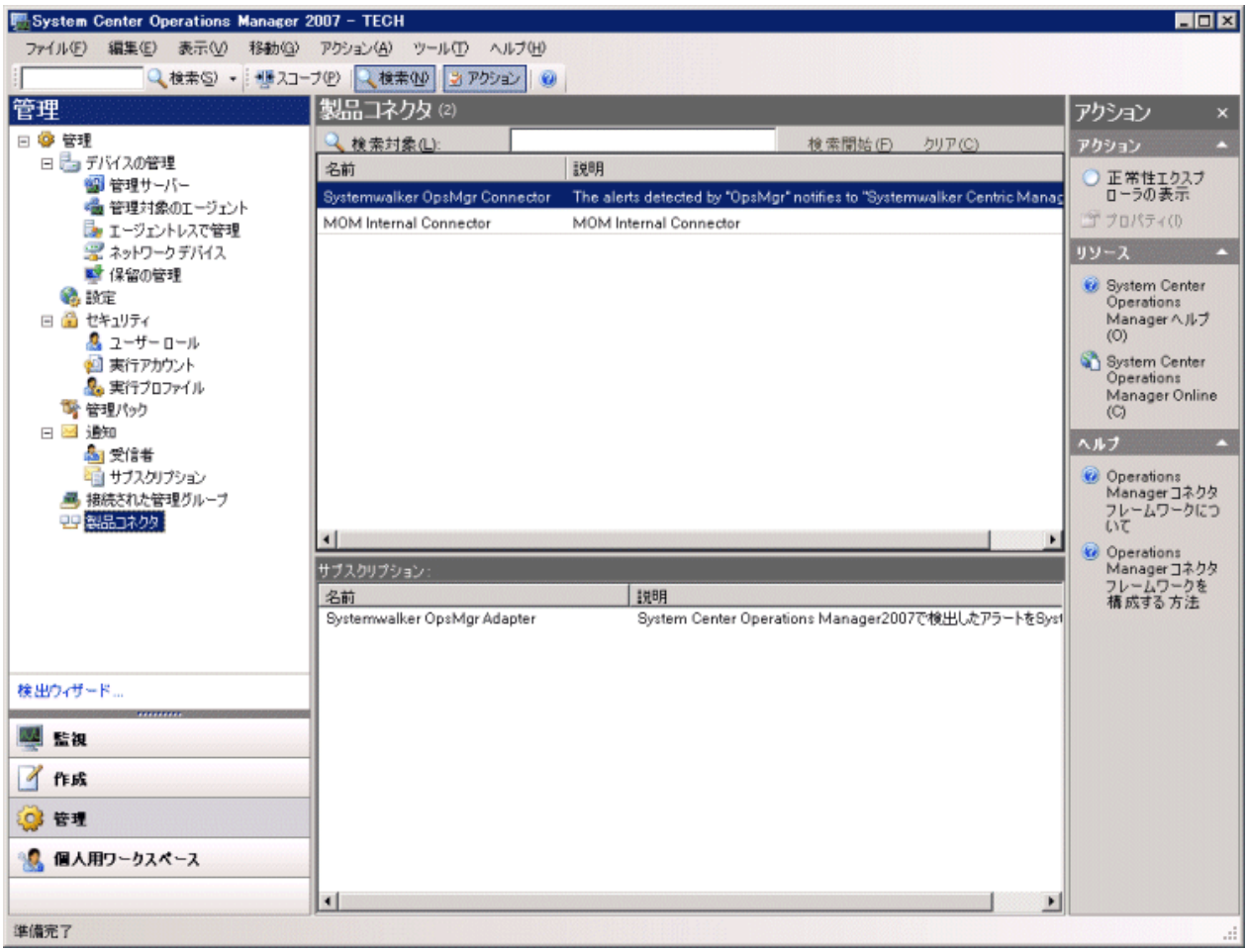


製品コネクタの登録状況の確認手順

System Center Operations Managerのコンソールで、製品コネクタの登録状況を確認します。

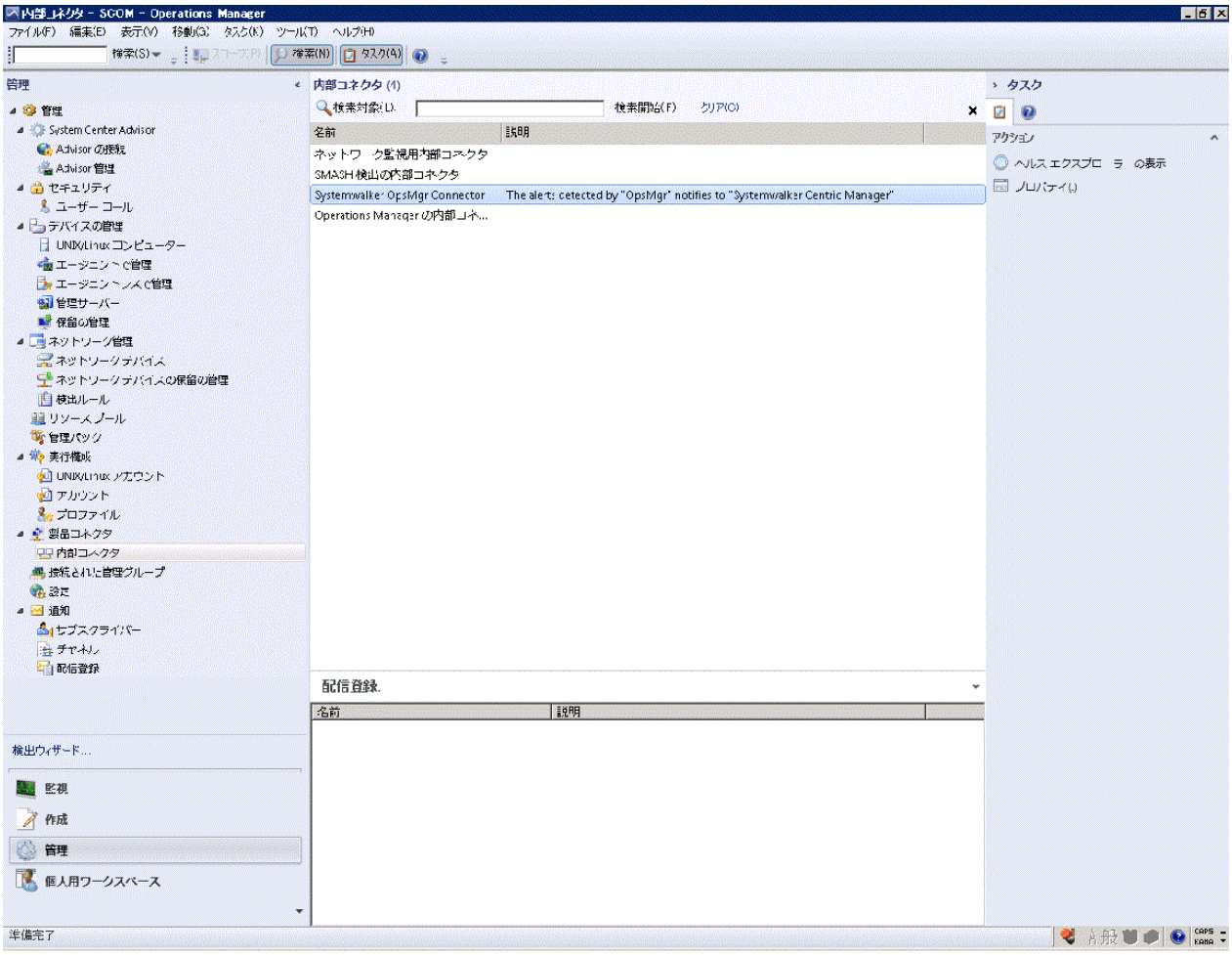
Microsoft System Center Operations Manager 2007の場合

[管理]ペインの[製品コネクタ]画面を開き、「Systemwalker OpsMgr Connector」が表示されていることを確認してください。



Microsoft System Center Operations Manager 2007 R2以降の場合

[管理]ペインの[製品コネクタ]-[内部コネクタ]画面を開き、「Systemwalker OpsMgr Connector」が表示されていることを確認してください。

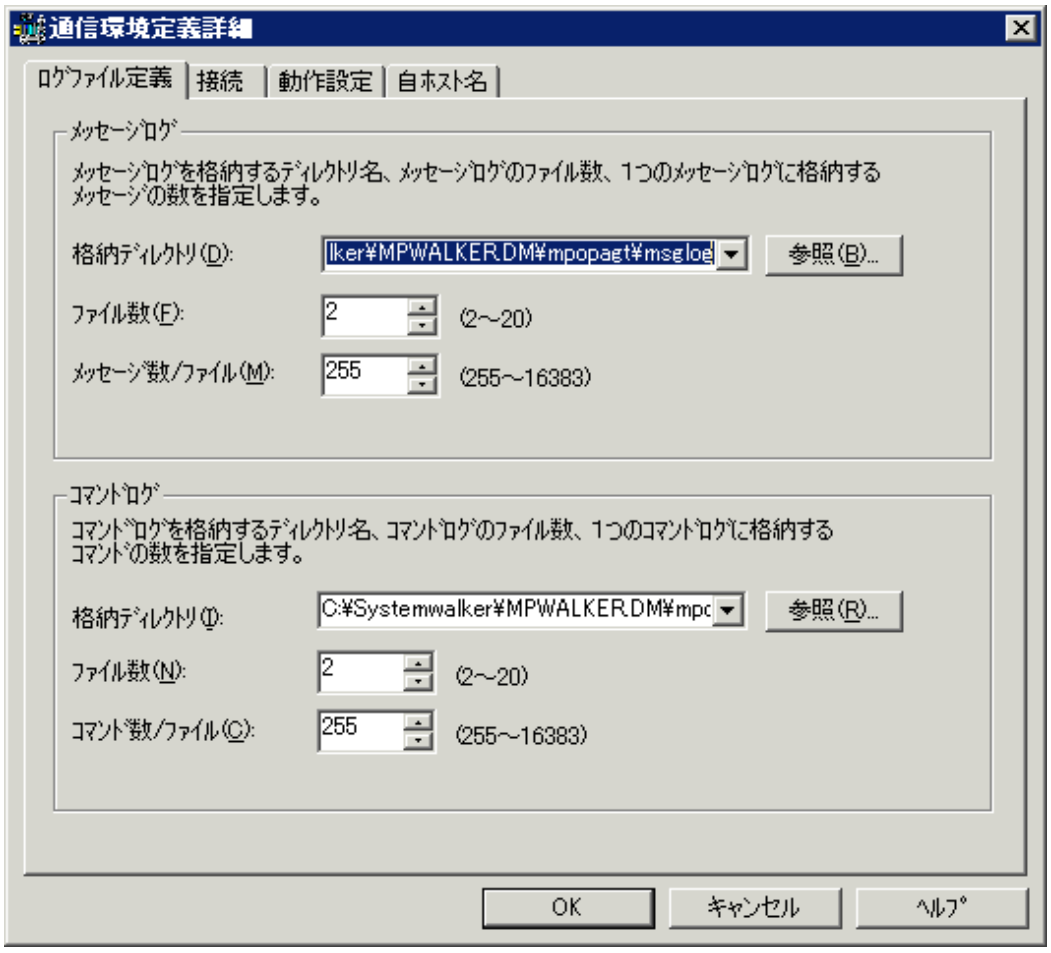


インストール後の設定

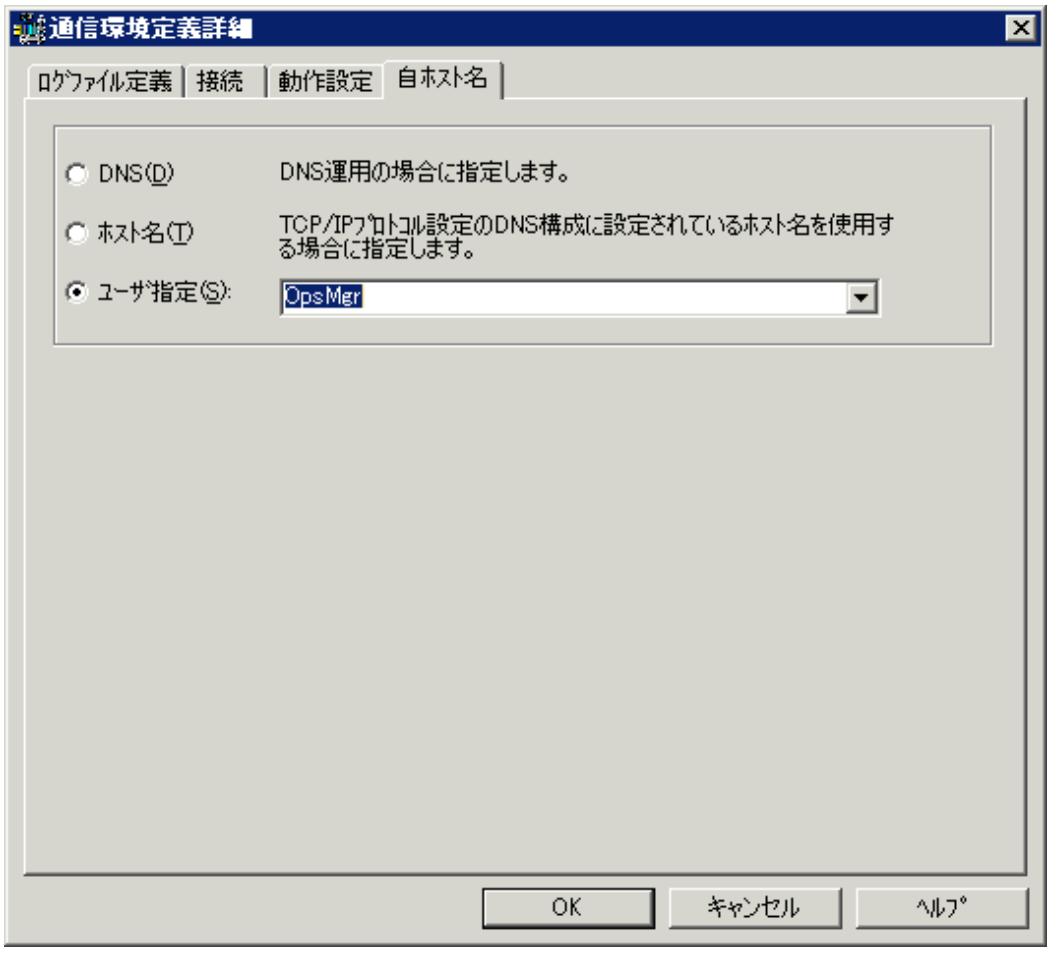
ノードを設定する

Microsoft(R) System Center Operations ManagerからSystemwalker Centric Managerにアラートが通知されたとき、アラート発生元のノードが新ノードに追加されたり、異なるホスト名で複数追加されることがあります。Systemwalker Centric Managerの通信設定を編集して、ノードを適切に設定する方法を以下に示します。

1. 連携アダプタをインストールしたマシンの[通信環境定義]ダイアログボックスを開き、[詳細設定]ボタンをクリックし、[通信環境定義詳細]を表示します。



2. [自ホスト名]タブの、[ユーザ指定]のテキストボックスに連携アダプタをインストールしたマシンのコンピュータ名を入力します。入力後、[OK]ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。



3. 以上で、設定は終了です。対象マシンでSystemwalker Centric Managerのサービスを再起動し、設定を反映します。
4. [Systemwalkerコンソール]上に重複して作成された不要なノードを削除します。

イベント監視機能の無効化

Systemwalker Centric Managerのイベント監視機能を無効化します。

1. Systemwalker Centric Managerのイベント監視機能の無効化

   イベントログ監視設定ファイル(Systemwalkerインストール先ディレクトリ¥MpWalker.dm¥mpopagt¥etc¥opaevt)の以下の設定を“OFF”に変更します。

   【変更前】

   ```
   MPOP_ENABLE_EVTLOG ON
   ```

   【変更後】

   ```
   MPOP_ENABLE_EVTLOG OFF
   ```

2. Systemwalker Centric Managerの再起動

   以下のコマンドで、Systemwalker Centric Managerのサービスを停止、起動するか、システムを再起動する必要があります。

   【停止】

   ```
   pcentricmgr
   ```

【起動】

```
scentricmgr
```

4.3.2 for Microsoft System Center Operations Manager連携アダプタのセットアップ

for Microsoft(R) System Center Operations Manager 連携アダプタのインストール後、以下の設定を行います。

サイトフォルダの作成

全体監視サーバでマルチサイト型の運用を行う場合、サイトフォルダを作成する必要があります。全体監視サーバ上で以下の設定を行います。

1. サイト名の登録

   全体監視サーバ上で以下のコマンドを実行します。

   【Windows版】

   ```
   MpFwSetOval -f add -h ホスト名 -s サイト名 -p IPアドレス
   ```

   【Solaris版】

   ```
   /opt/systemwalker/bin/MpFwSetOval -f add -h ホスト名 -s サイト名 -p IPアドレス
   ```

   MpFwSetOval(全体監視設定コマンド)の詳細については、“Systemwalker Centric Managerリファレンスマニュアル”を参照してください。

2. Systemwalker Centric Managerの再起動

   全体監視サーバのSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

   【Windows版】

   Systemwalker Centric Managerを停止します。

   ```
   pcentricmgr
   ```

   Systemwalker Centric Managerを起動します。

   ```
   scentricmgr
   ```

   【Solaris版】

   Systemwalker Centric Managerを停止します。

   ```
   /opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
   ```

   Systemwalker Centric Managerを起動します。

   ```
   /opt/systemwalker/bin/scentricmgr
   ```

4.4 運用

4.4.1 イベントの通知を行う

4.4.1.1 検出されたノードをフォルダへ振り分ける

for Microsoft(R) System Center Operations Manager 連携アダプタから通知されたイベントにより新たにノードが検出された場合、検出されたノードは[新ノード]フォルダに作成されます。

フォルダに振り分けを行う場合は、以下の手順でフォルダへの振り分けを行います。

1. Systemwalkerコンソールを起動します。
2. [機能]メニューから[機能選択]-[編集]を選択し、編集モードにします。
3. [ファイル]メニューから[新ノードの振り分け]を選択し、検出されたノードをフォルダへ振り分けます。
4. [機能]メニューから[機能選択]-[監視]を選択し、監視モードに戻します。

   なお、IPアドレスが“0.0.0.0”で追加されたノードに関しては、正しいIPアドレスを入力することで、サブネットフォルダへ振り分けることができます。
   ただし、全体監視サーバでマルチサイト型の運用を行っている場合は、[新ノード]フォルダに作成されたノードを[新ノードの振り分け]を行うことでサイトフォルダに振り分け、その後でIPアドレスを入力してください。

   IPアドレスを入力する場合は、以下の手順で入力を行います。

   1. Systemwalkerコンソールを起動します。
   2. [機能]メニューから[機能選択]-[編集]を選択し、編集モードにします。
   3. IPアドレスが“0.0.0.0”のノードを選択します。
   4. [オブジェクト]メニューから[プロパティ]を選択し、ノードプロパティ画面を表示します。
   5. インタフェースタブで、正しいIPアドレス、およびサブネットマスクを設定します。
   6. [機能]メニューから[機能選択]-[監視]を選択し、監視モードに戻します。

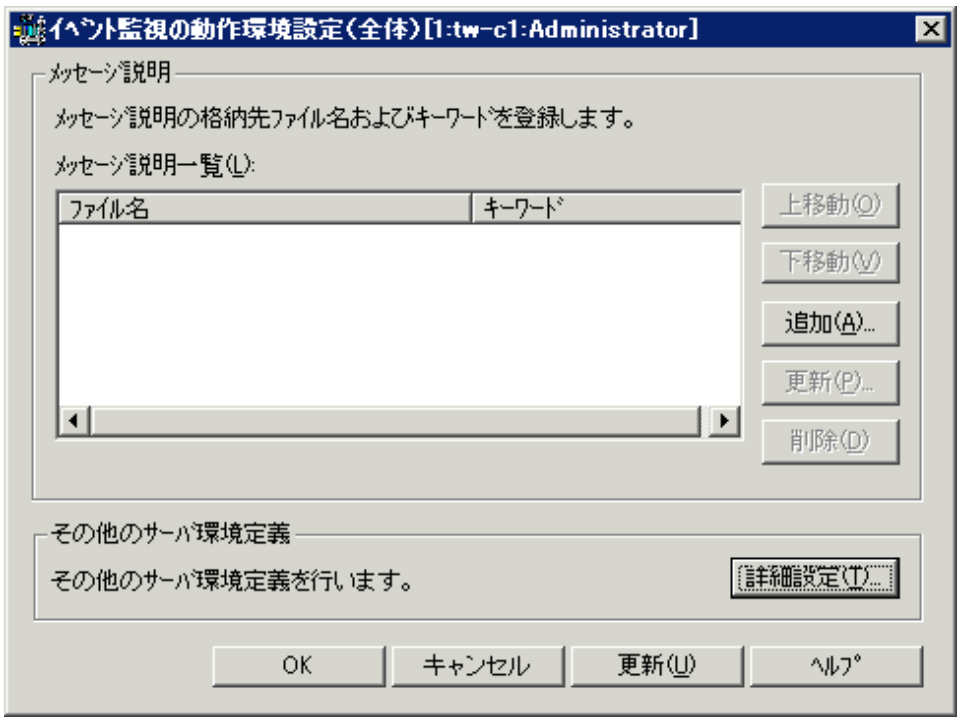
4.4.1.2 イベントの監視イベント種別を表示する

for Microsoft(R) System Center Operations Manager 連携アダプタにより通知されたイベントの監視イベント種別を「OpsMgr」と表示することが可能です。監視イベント種別の表示には、以下2つの手順が必要です。

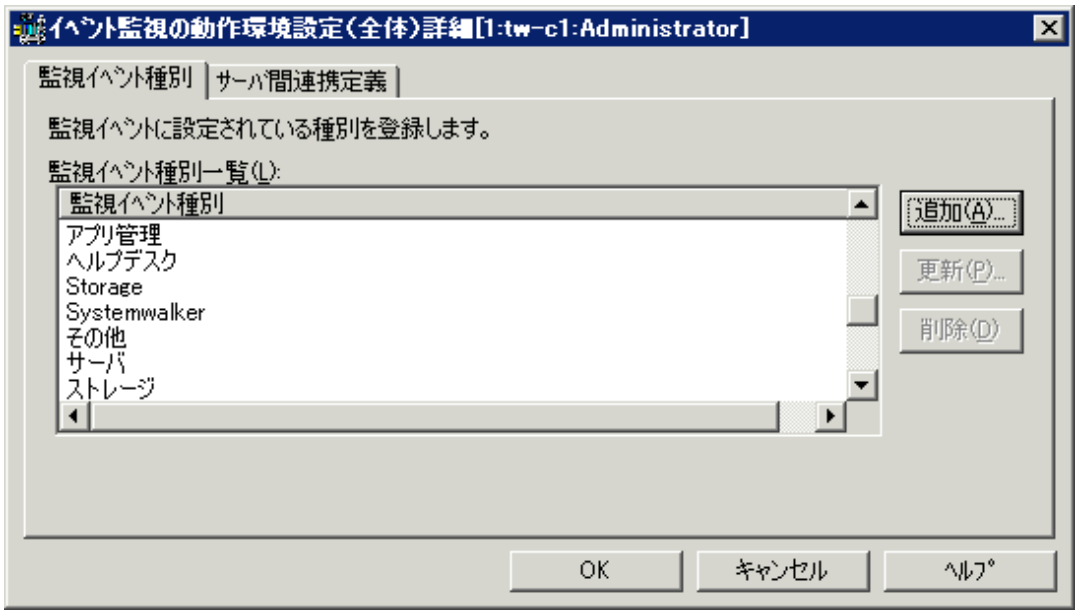
サーバ環境定義の設定

1. Systemwalkerコンソール[監視]のメニューから、[ポリシー]-[監視]-[イベント監視の動作環境(全体)]を選択します。

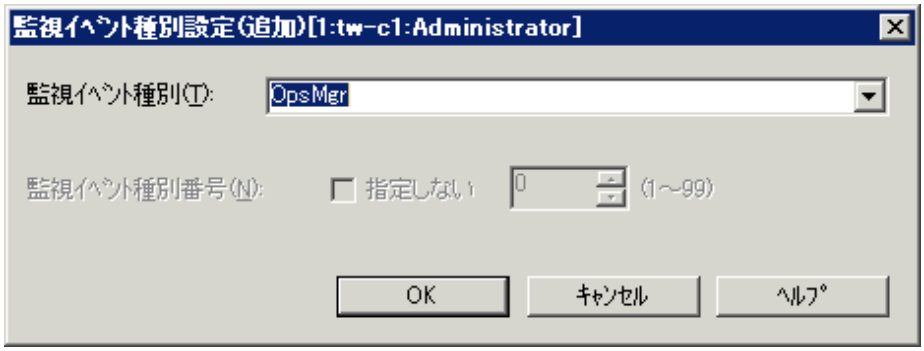
2. [イベント監視の動作環境設定(全体)]画面にある[詳細設定]をクリックします。



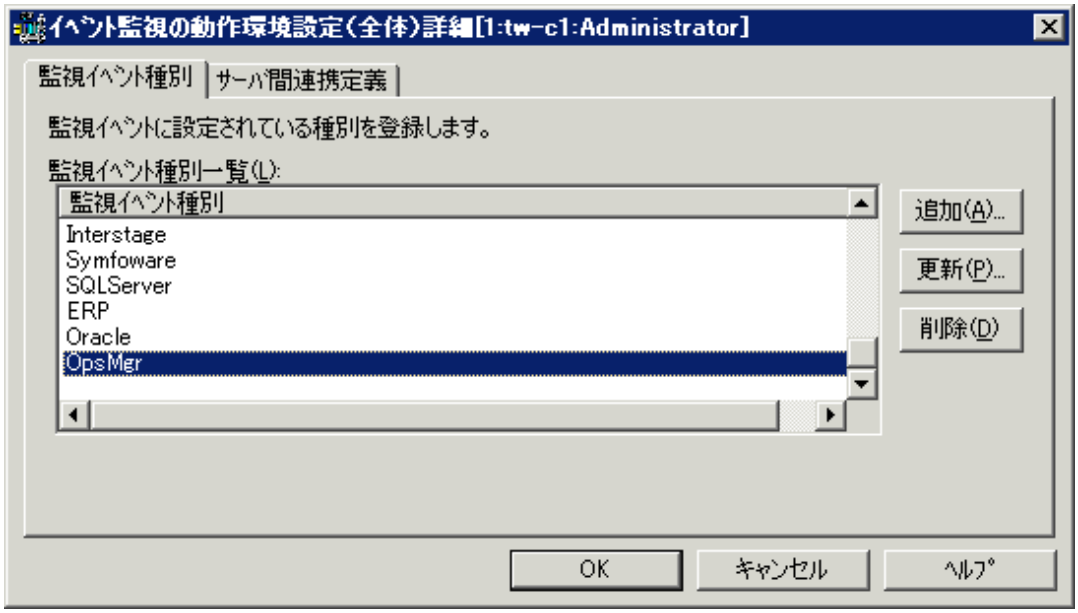
3. [監視イベント種別]タブで[追加]をクリックします。



4. [監視イベント種別]に「OpsMgr」を指定します。

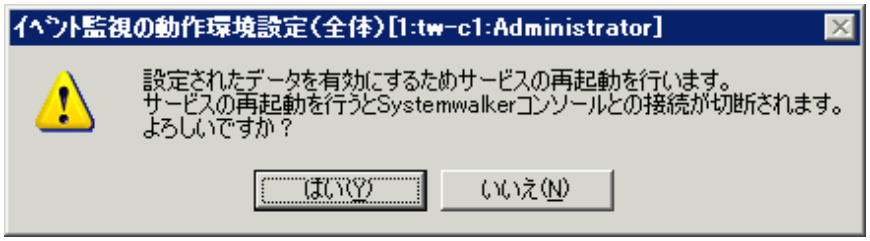


5. [監視イベント種別]に「OpsMgr」が追加されたことを確認し、[OK]を選択します。



6. [イベント監視の動作環境(全体)]画面で[OK]を選択します。

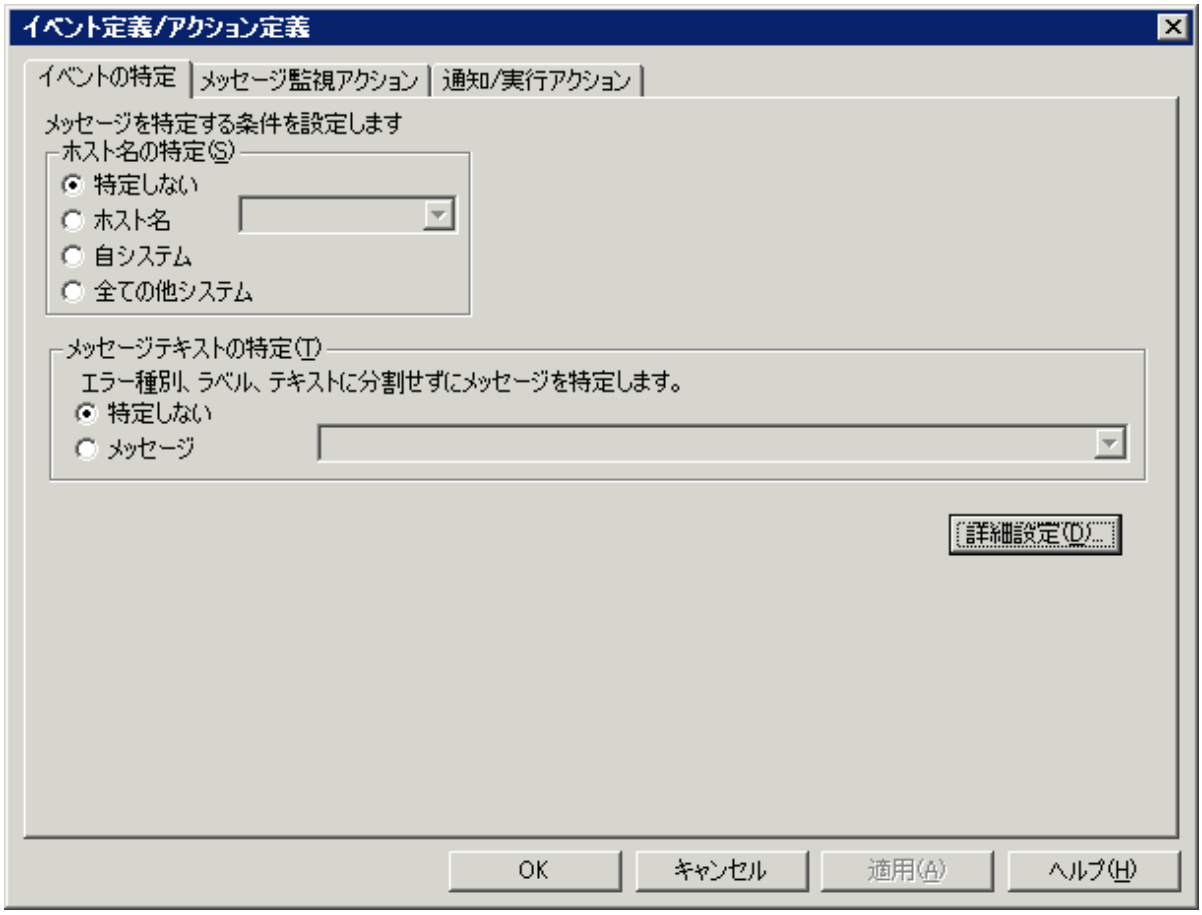
   [OK]を選択すると以下の画面が表示されるので、[はい]を選択し、Systemwalkerのサービスを再起動してください。



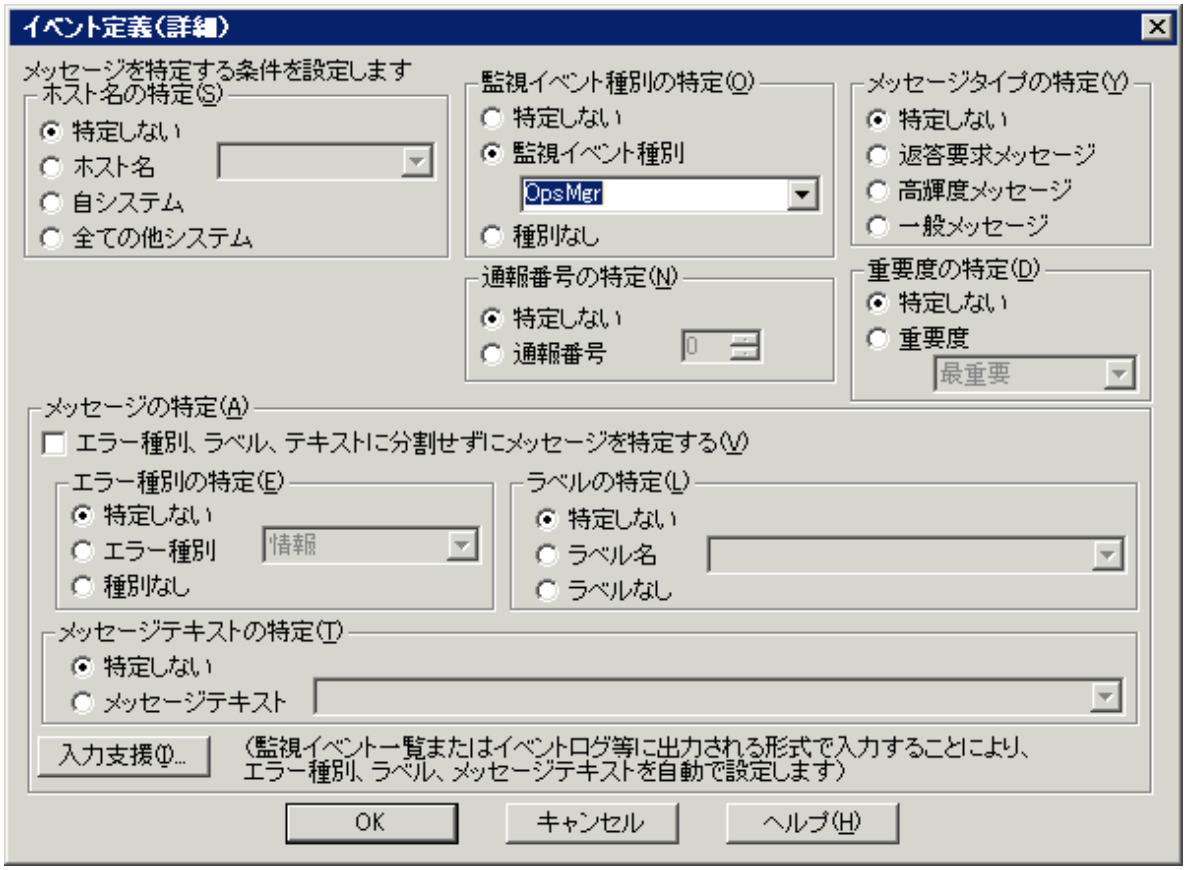
イベント監視の条件定義の設定

1. System Center Operation Managerが導入された業務サーバの[システム監視設定]画面を起動し、[イベント監視の条件定義]を選択します。
2. [イベント監視の条件定義]画面のメニューから、[イベント]-[イベントの追加]を選択します。

3. [イベント定義/アクション定義]画面で[詳細設定]をクリックします。



4. [イベント定義(詳細)]ダイアログの[監視イベント種別の特定]で、[監視イベント種別]に「OpsMgr」を指定し、[OK]をクリックします。



4.4.1.3 アラートを通知する

for Microsoft(R) System Center Operations Manager 連携アダプタ導入後、運用を行う場合は、System Center Operations Managerで検出されたアラートをSystemwalker Centric Managerに通知する方法、通知されたアラートの内容を確認する方法、および通知済みのSystem Center Operations Managerアラートを対処する方法について説明します。

アラートを自動で通知する

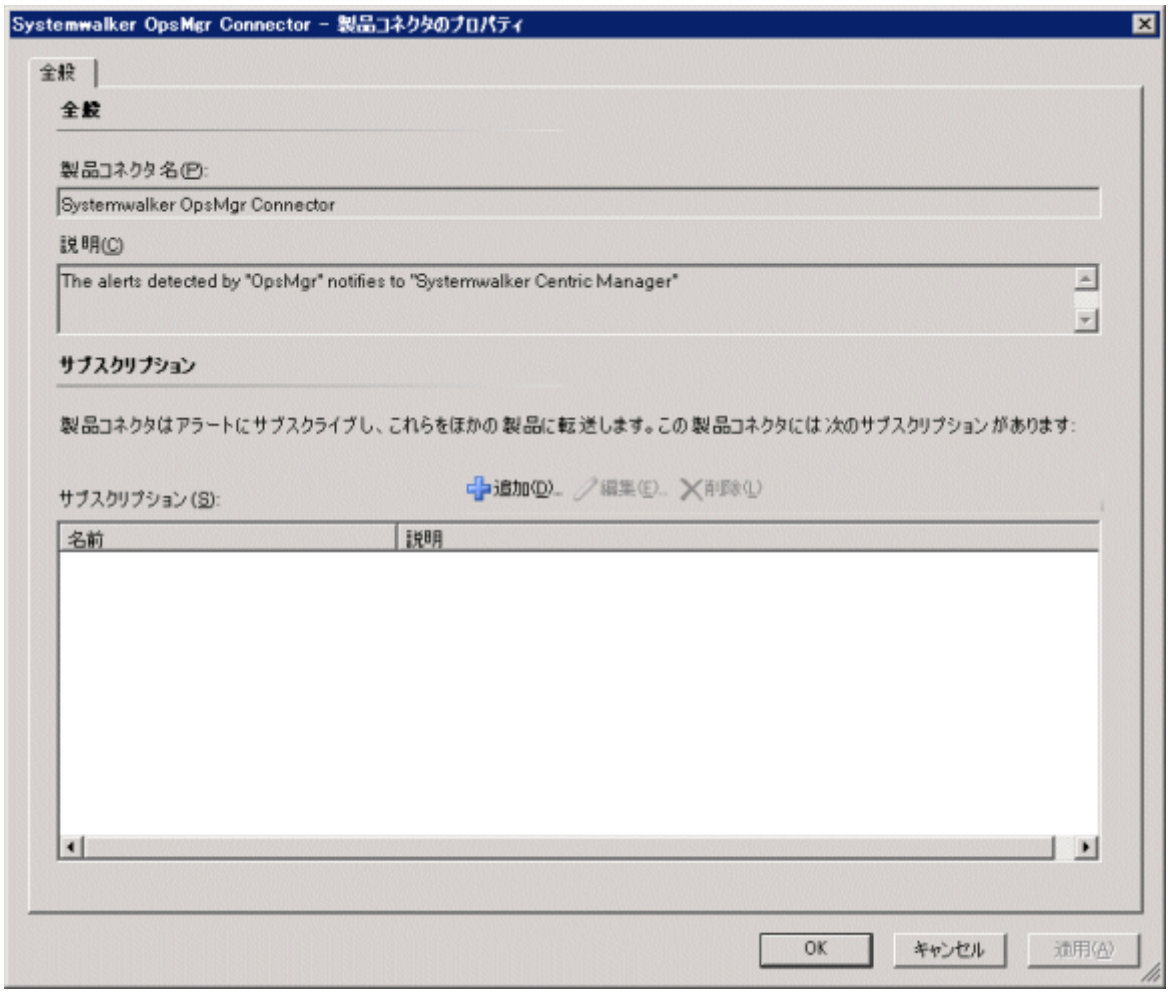
System Center Operations Managerで検出されたアラートを自動的にSystemwalker Centric Managerへ自動的に通知するために必要である「製品コネクタのサブスクリプション」の設定方法を以下に示します。

手順

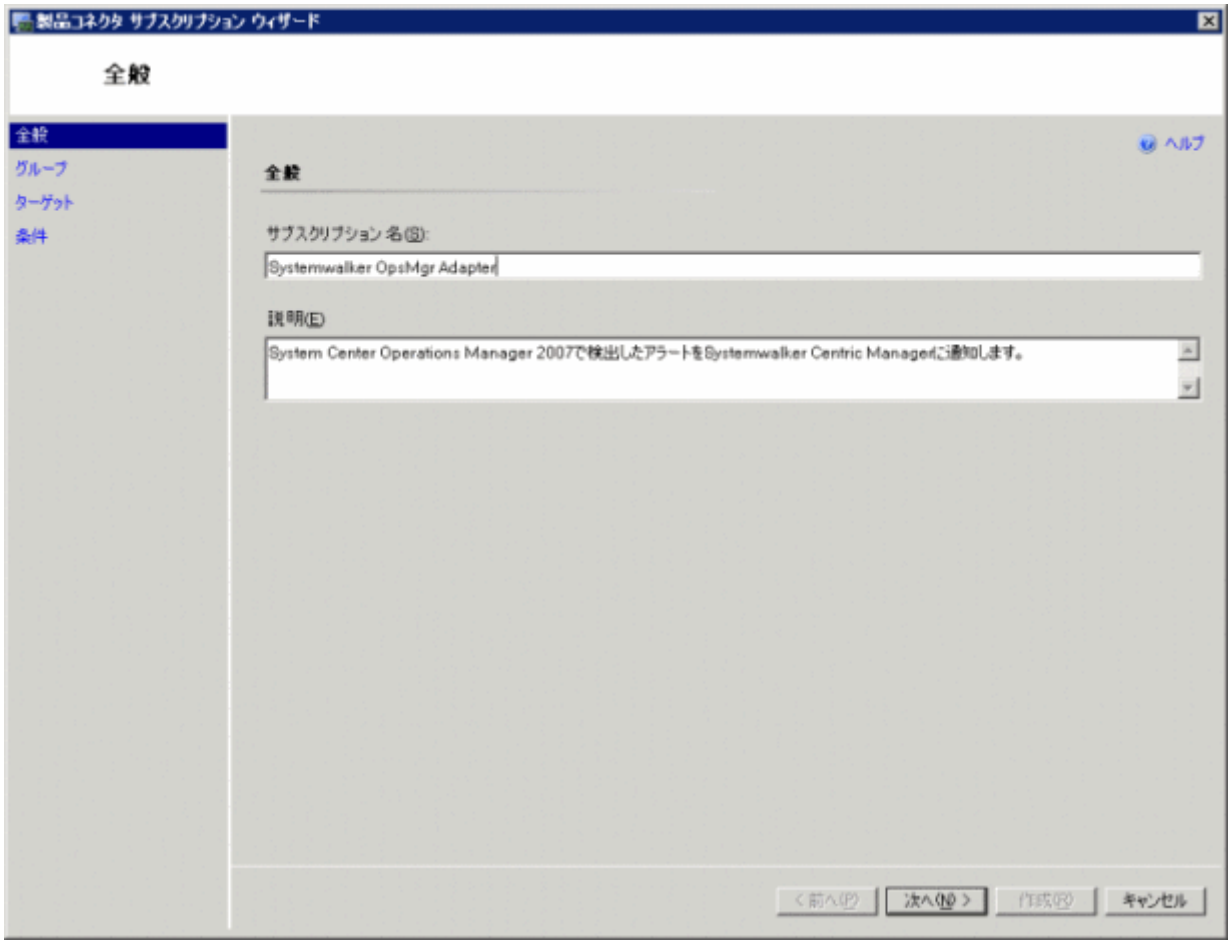
Microsoft System Center Operations Manager 2007での手順

1. [管理]ペインの[製品コネクタ]画面を表示し、[Systemwalker OpsMgr Connector]をダブルクリックして、製品コネクタのプロパティ画面を開きます。

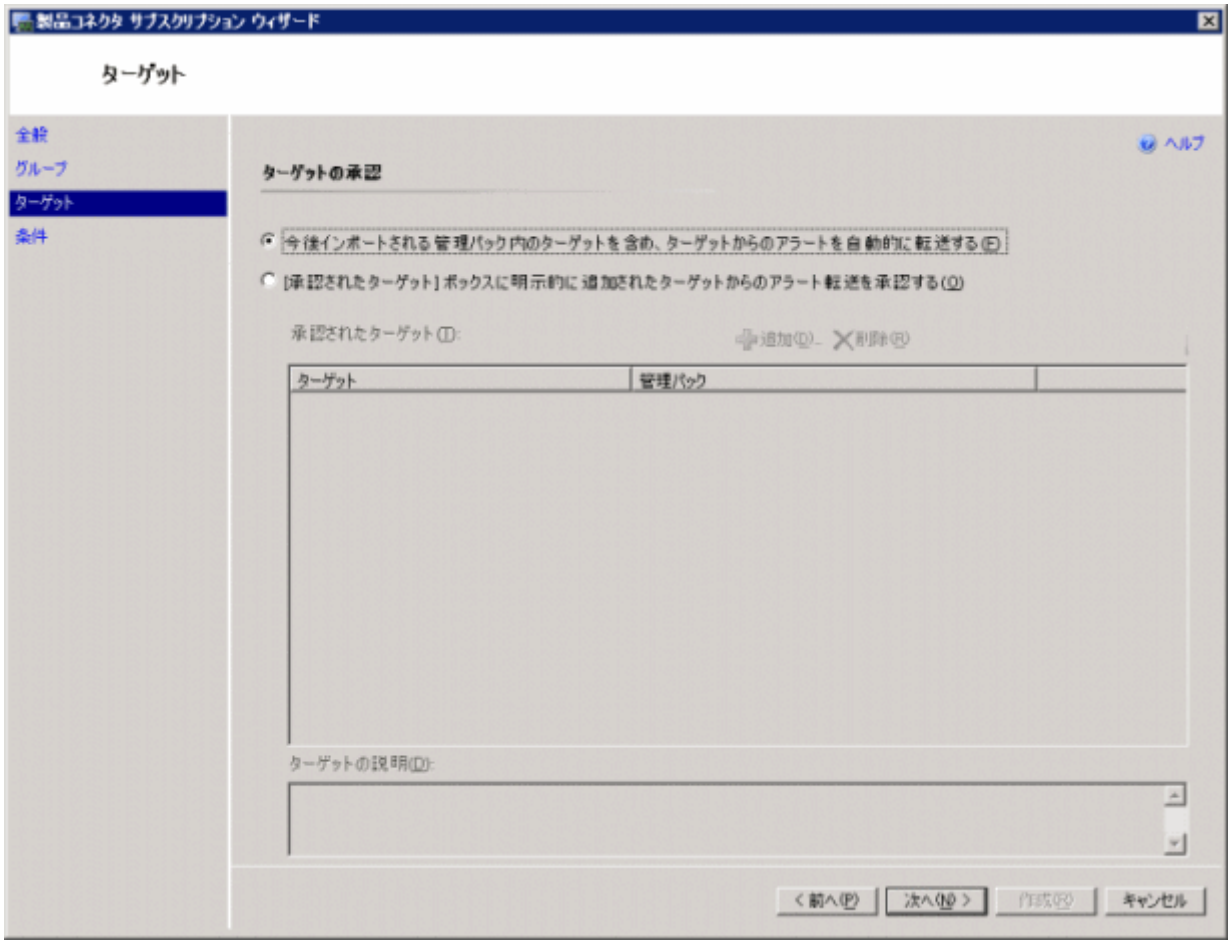
2. [追加]をクリックします。



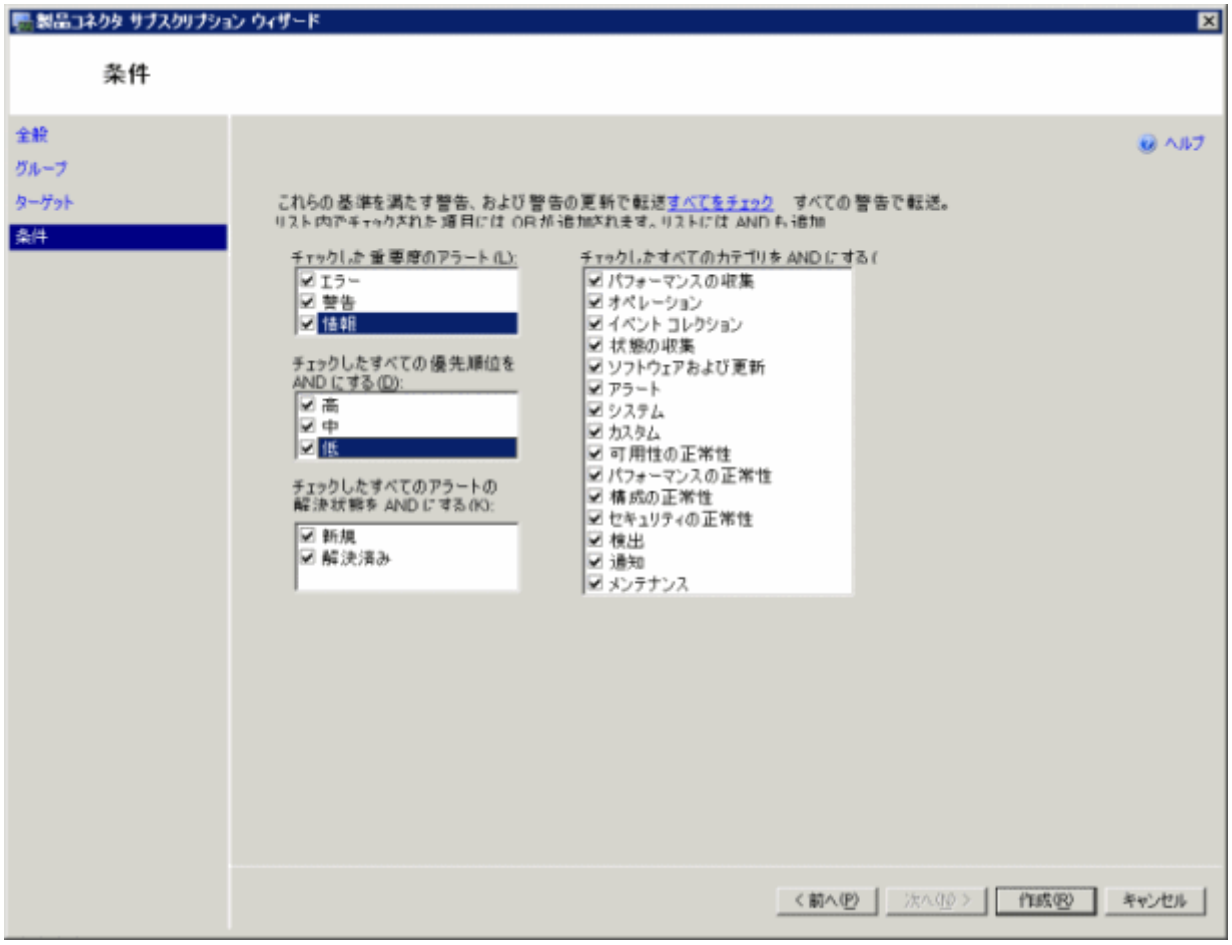
3. [サブスクリプション名]と[説明]を入力します。



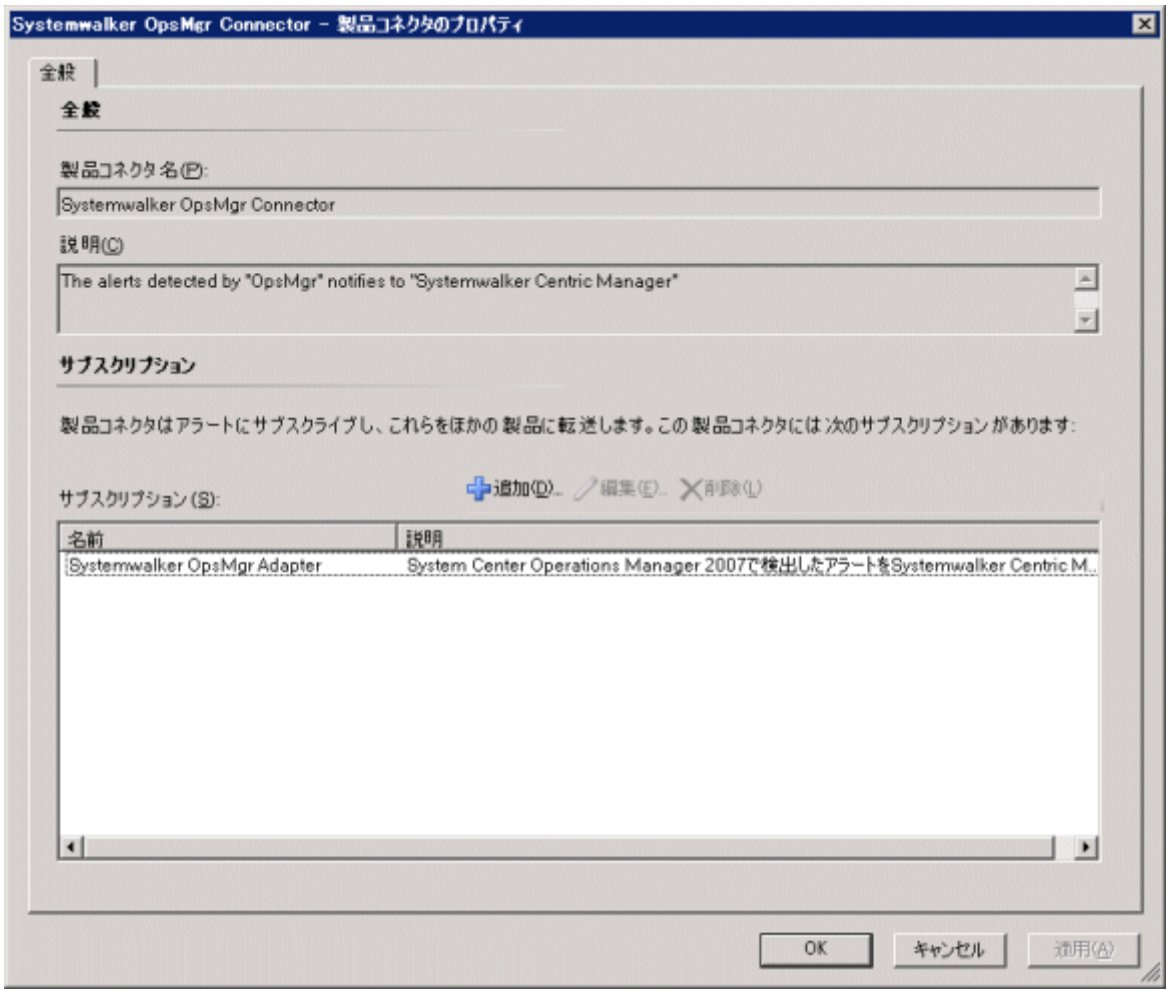
4. Systemwalkerで管理対象とするターゲットを選択します。



5. Systemwalkerへ通知するSystem Center Operations Managerのアラートの条件を選択し、[作成]をクリックします。



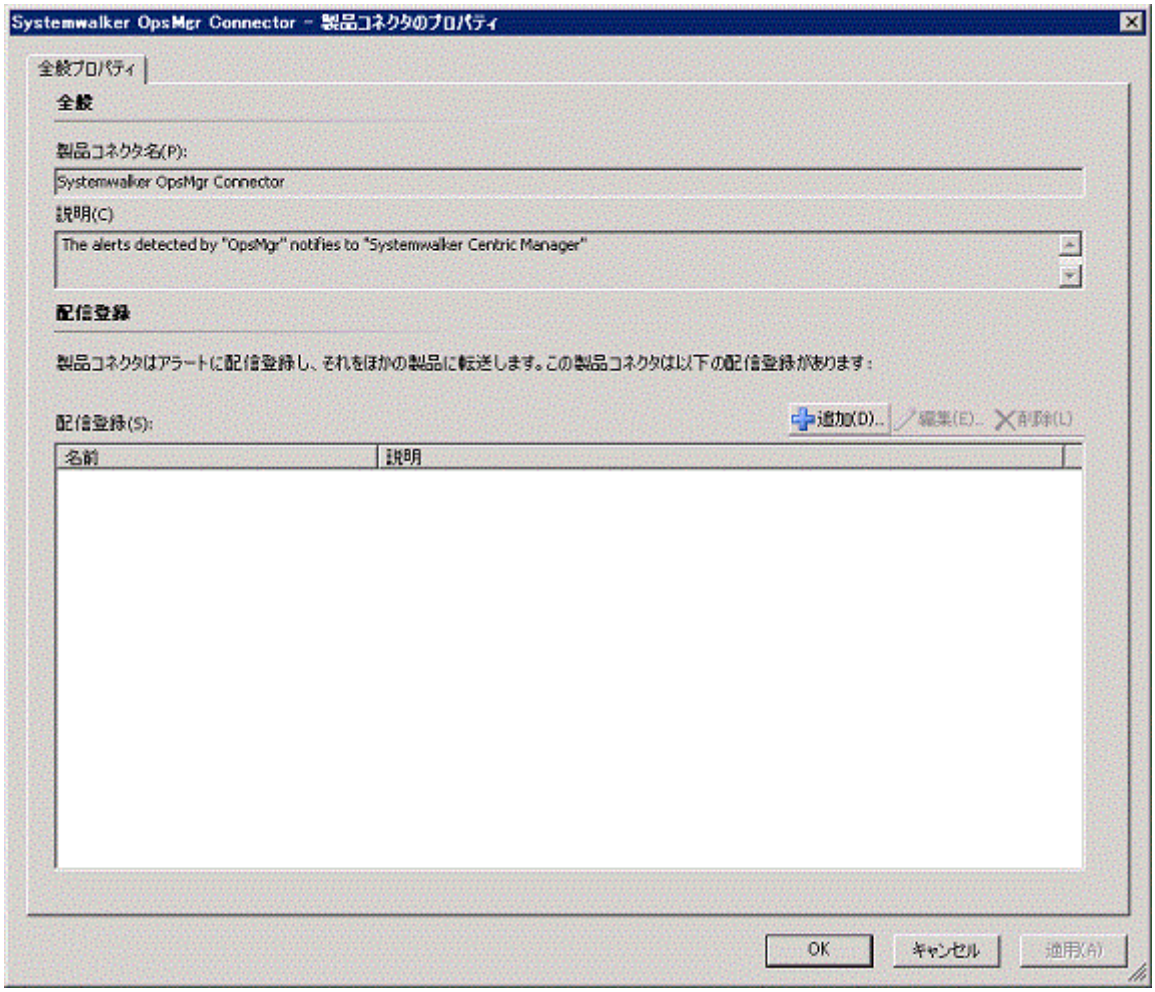
6. [OK]をクリックし、[製品コネクタのプロパティ]画面を閉じます。



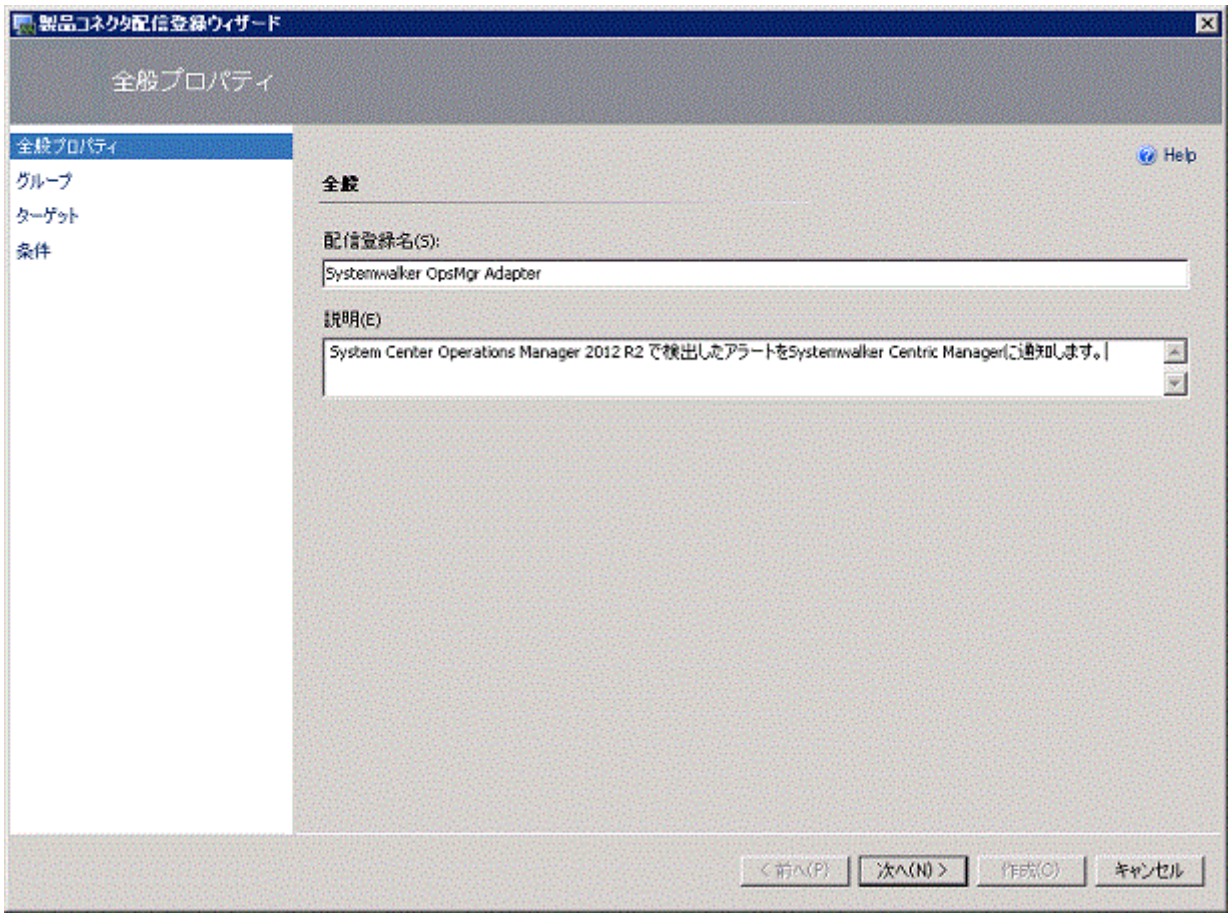
Microsoft System Center Operations Manager 2007R2 以降での手順

1. [管理]ペインの[製品コネクタ]-[内部コネクタ]画面を表示し、[Systemwalker OpsMgr Connector]をダブルクリックして、製品コネクタのプロパティ画面を開きます。

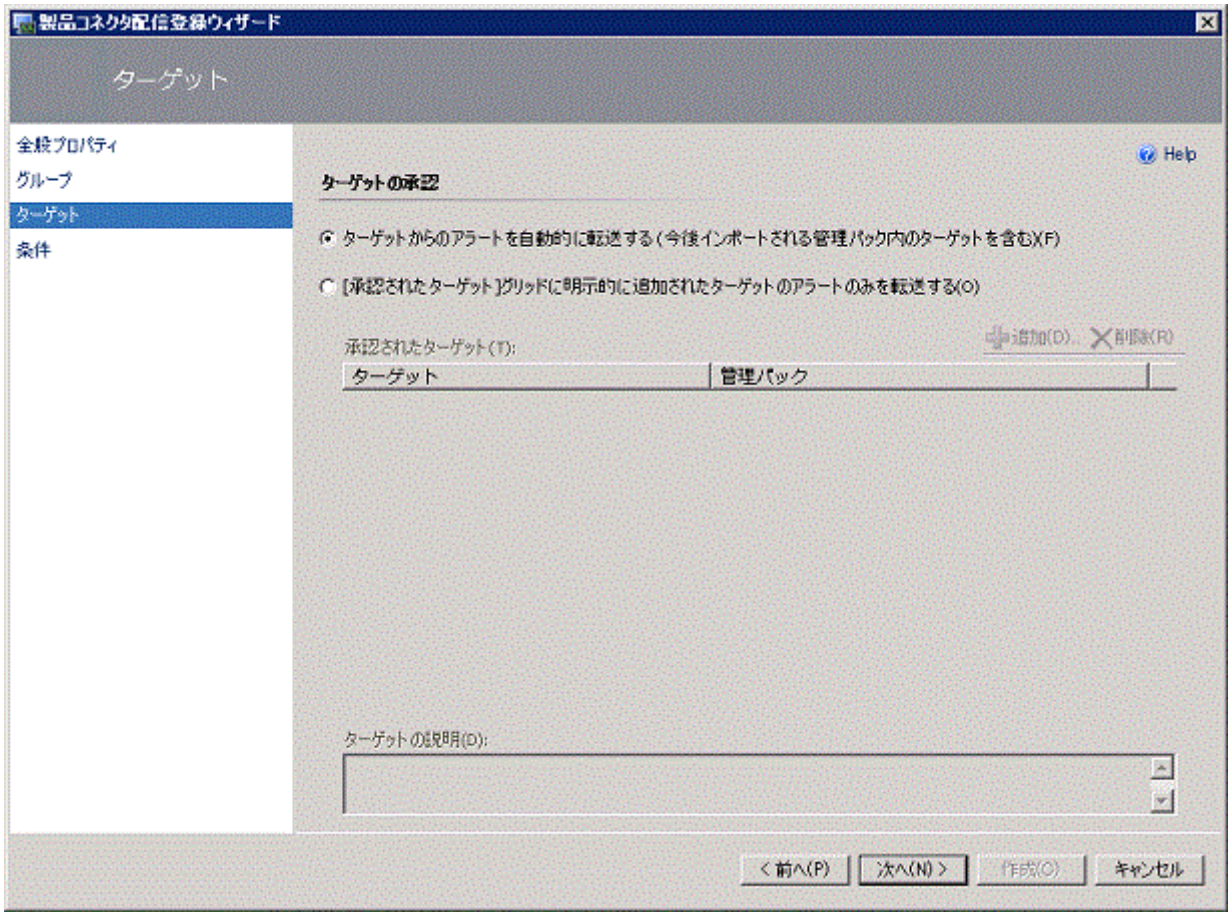
2. [追加]をクリックします。



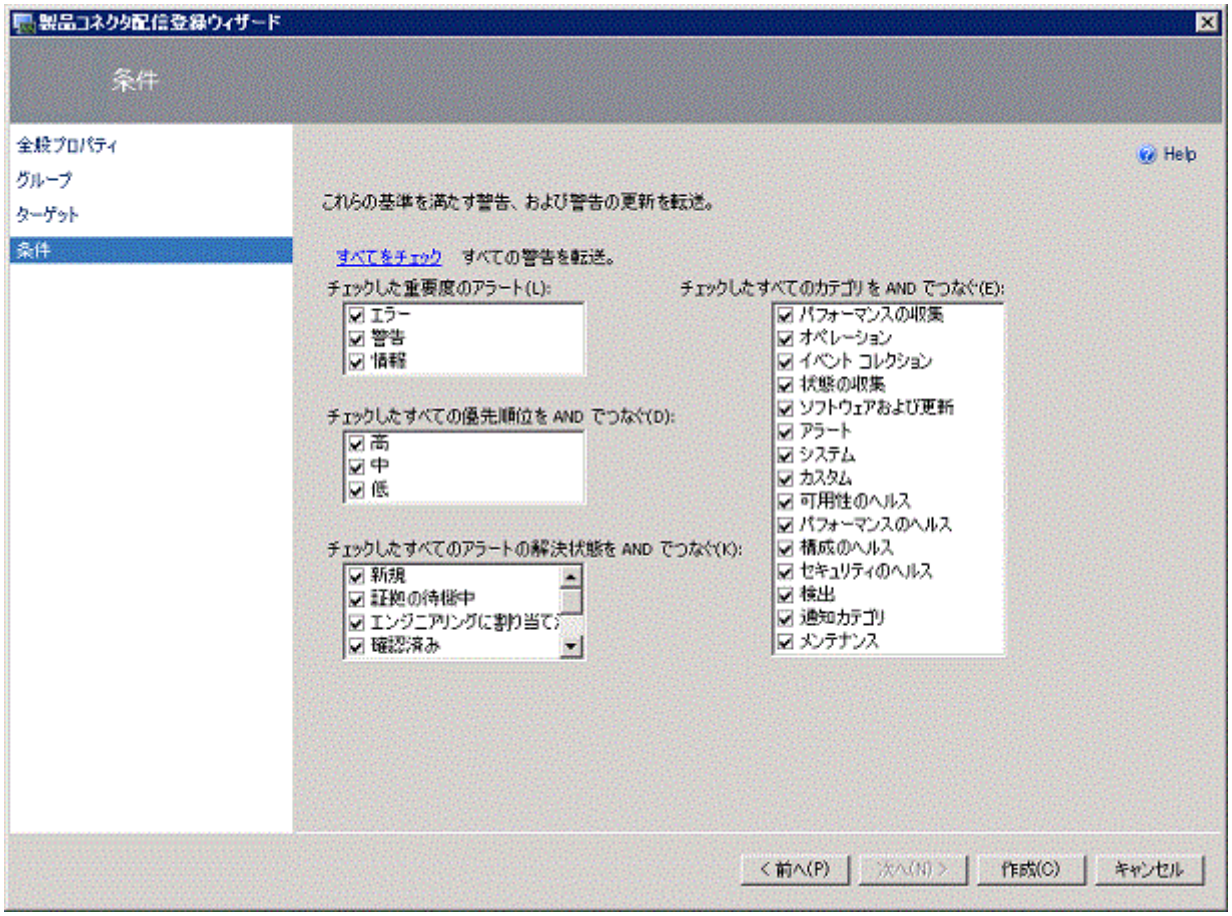
3. [配信登録名]と[説明]を入力します。



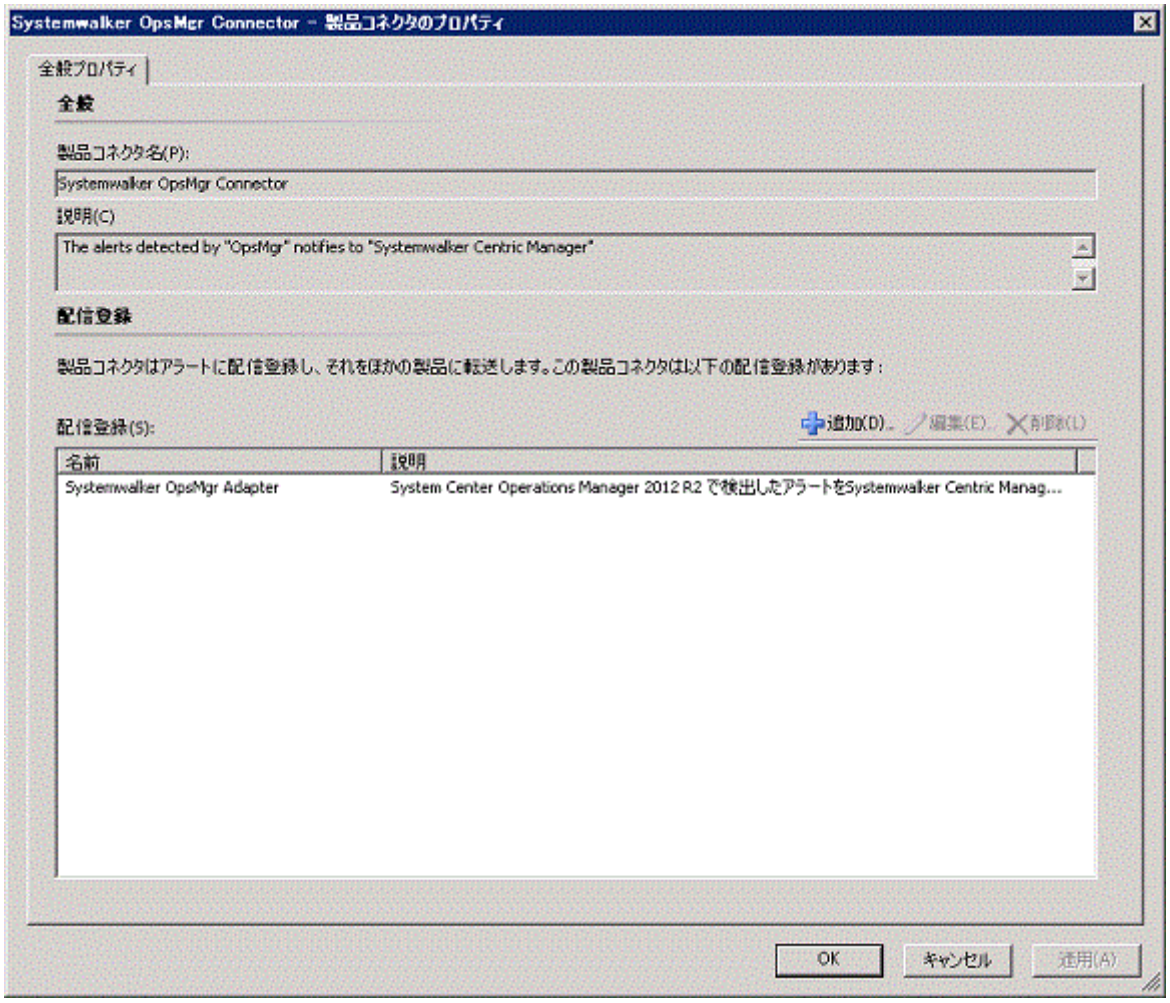
4. Systemwalkerで管理対象とするターゲットを選択します。



5. Systemwalkerへ通知するSystem Center Operations Managerのアラートの条件を選択し、[作成]をクリックします。



6. [OK]をクリックし、[製品コネクタのプロパティ]画面を閉じます。



アラートを手動で通知する

System Center Operations Managerで検出されたアラートを手動でSystemwalkerへ通知する方法を示します。

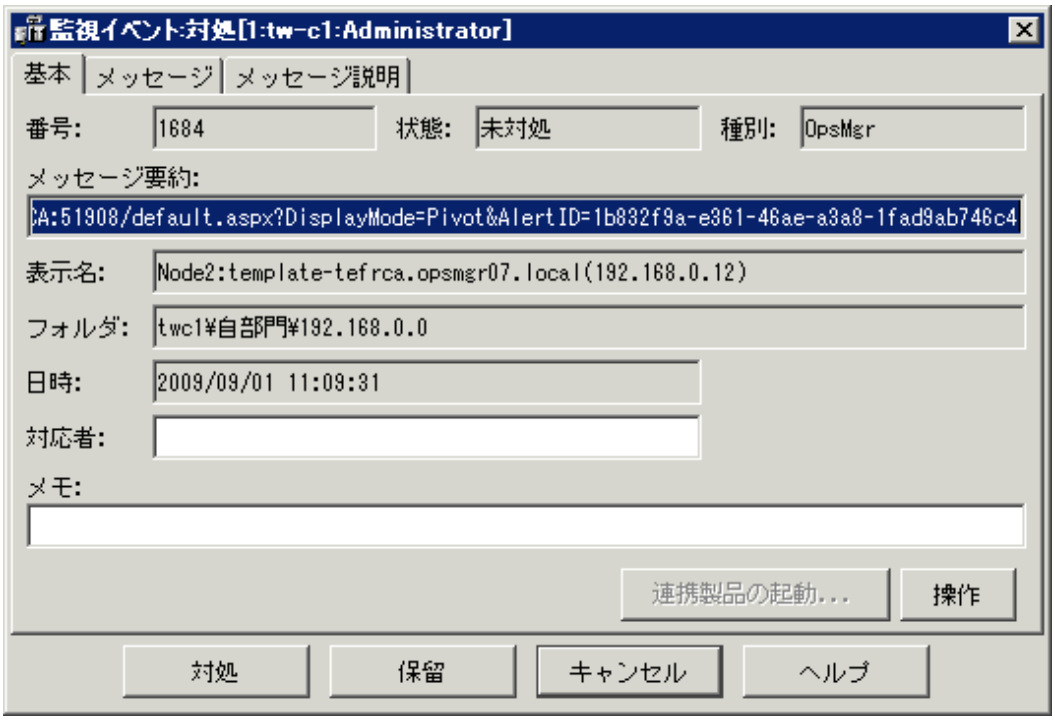
1. [監視]ペインから[アクティブなアラート]画面を表示します。

2. Systemwalkerへ通知するアラートを右クリックし、[転送先]-[Systemwalker OpsMgr Connector]を選択します。

通知されたアラートの内容を確認する

System Center Operations ManagerからSystemwalkerに通知されたアラートも、その他のイベントと同様にSystemwalkerコンソールに表示されます。

Systemwalkerコンソールで内容を確認するイベントを選択し、ダブルクリックするか、または右クリックメニューの[イベントの詳細]を選択すると、[監視イベント詳細]ダイアログが表示され、通知されたアラートの内容を確認することができます。



通知済みのアラートを対処する

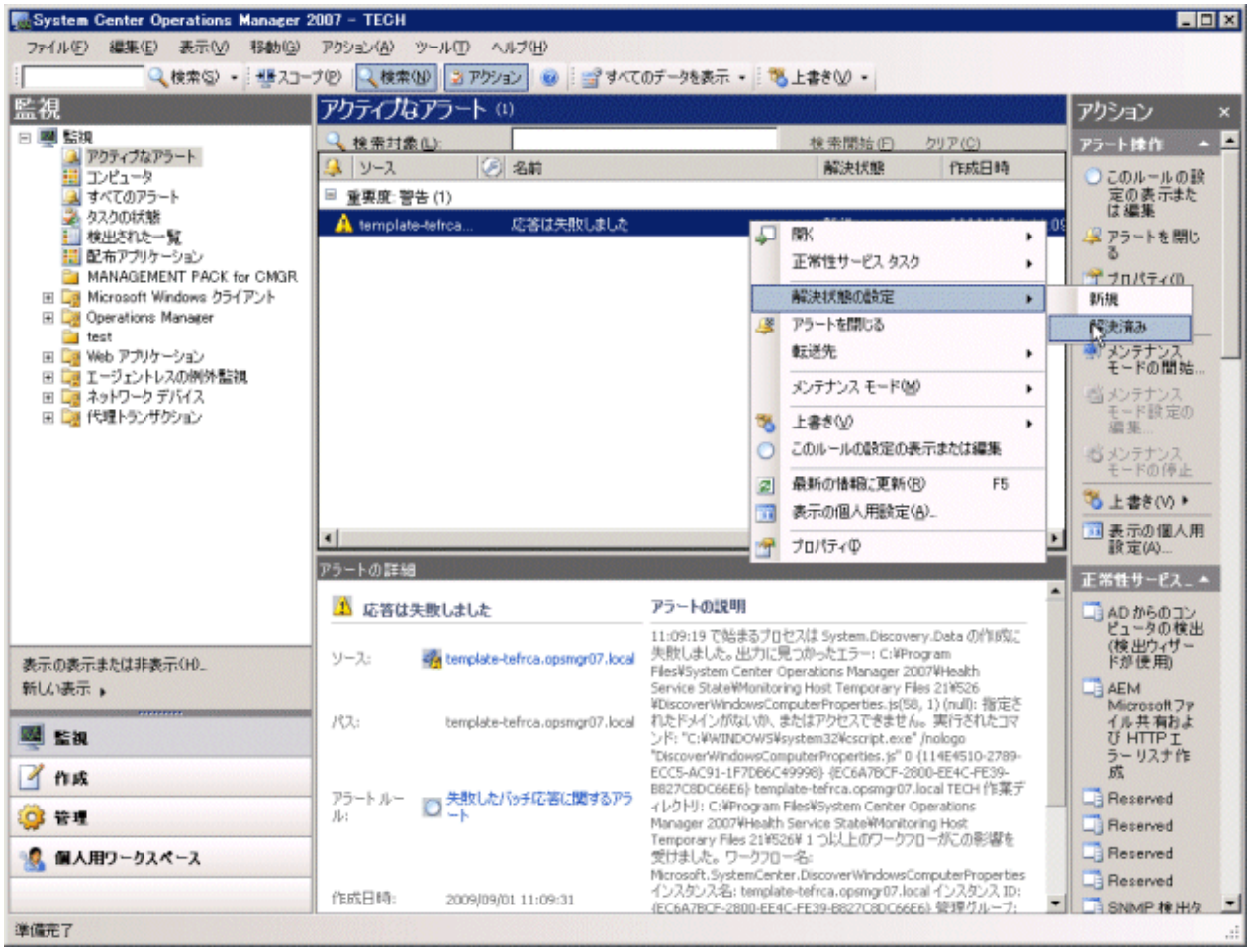
Systemwalkerに通知済みのアラートは、System Center Operations Managerのコンソール上で解決状態を[解決済み]に変更すると、Systemwalkerコンソール上においても、対応するイベントの状態が[対処済]に変更されます。

以下に手順を示します。

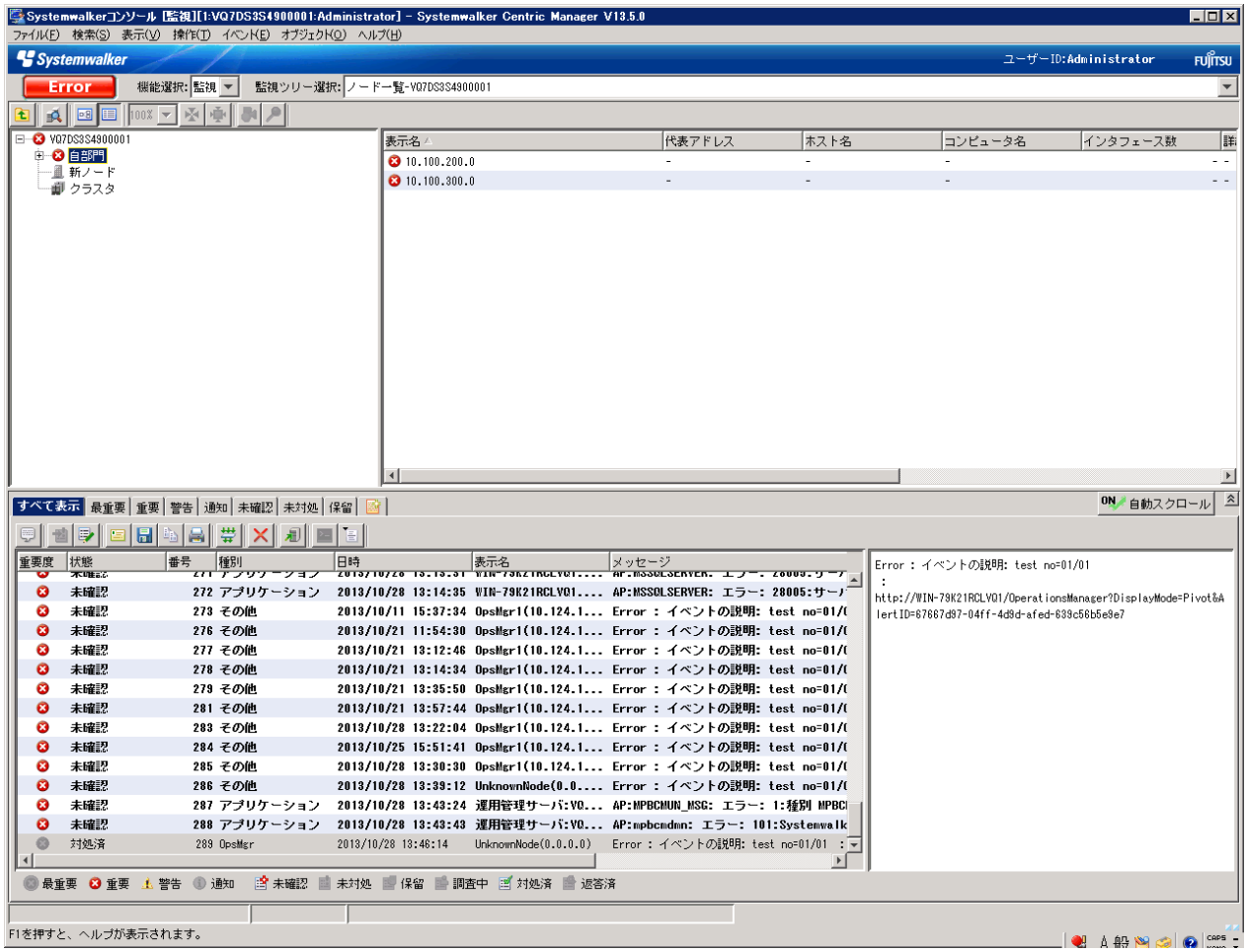
手順

1. System Center Operations Managerコンソールの[監視]ペインで[アクティブなアラート]を選択します。

2. Systemwalkerに通知済みのアラートを選択し、右クリックメニューから[解決状態の設定]-[解決済み]を選択します。



3. Systemwalkerコンソール上で対応するイベントの状態が[対処済]に変更されます。

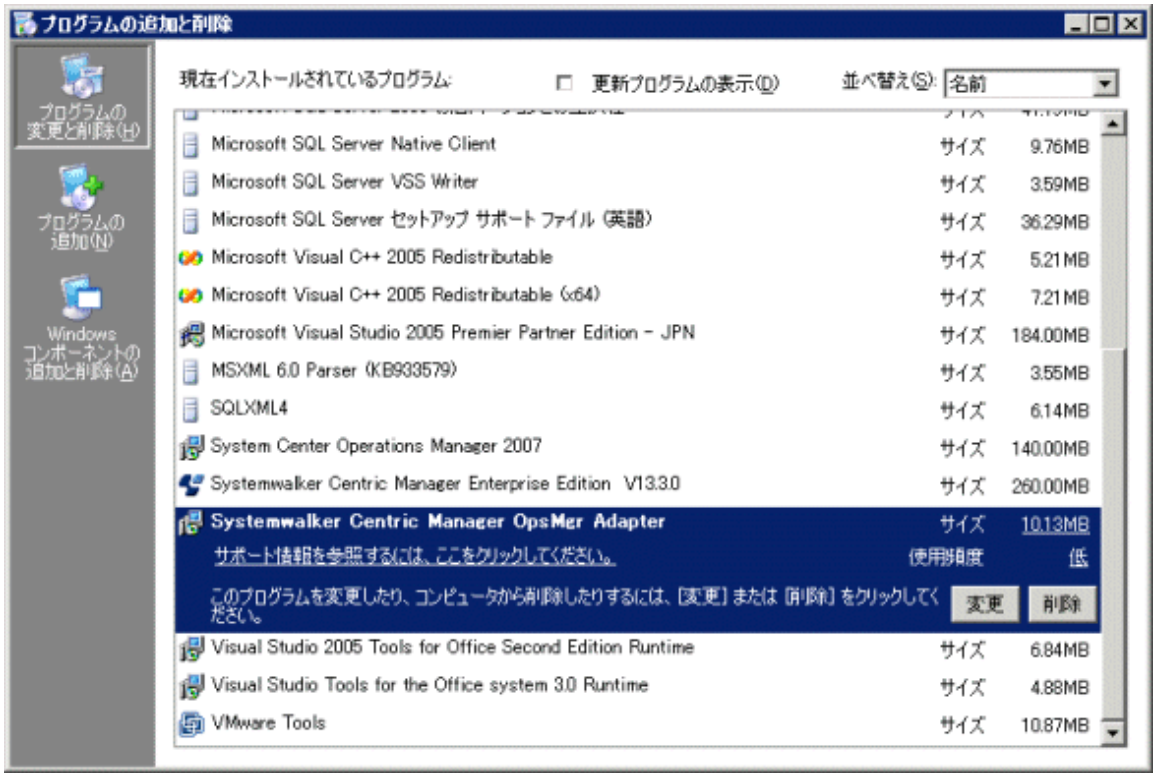


4.5 for Microsoft System Center Operations Manager連携アダプタのアンインストール

アンインストールの手順を以下に示します。

アンインストール手順

1. コントロールパネルから、[アプリケーションの追加と削除]を起動します。そして、[Systemwalker Centric Manager OpsMgr Adapter]を選択し、[削除]ボタンをクリックします。



2. [はい]をクリック、アンインストールを開始します。

なお、アンインストール完了後、製品コネクタ「Systemwalker OpsMgr Connector」も自動的に削除されます。

注意

for Microsoft(R) System Center Operations Manager 連携アダプタをアンインストール後、再度インストールすると、既にSystemwalkerへ通知済みであるアラートの情報が再度、通知されることがあります。

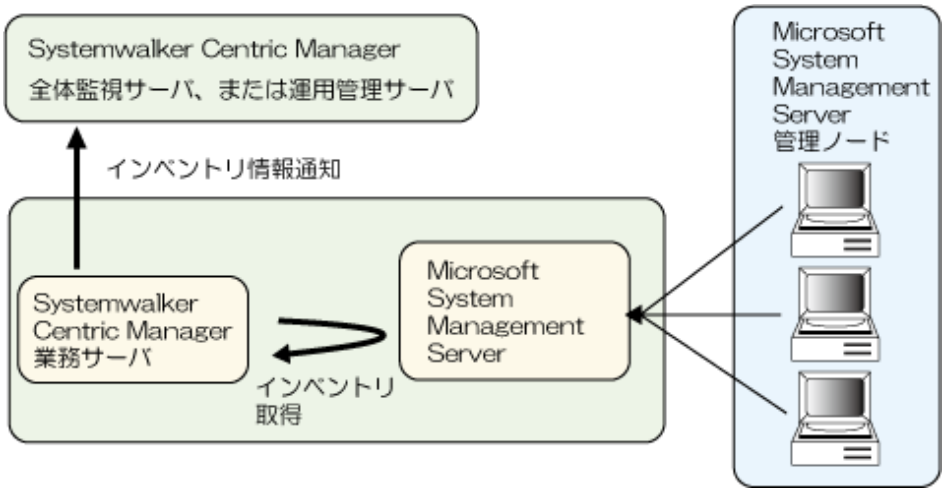
第5章 Microsoft System Management Serverとの連携

Microsoft System Management Serverとの連携について説明します。

- 連携する機能
- 動作環境
- 導入
- 運用
- 保守
- for Microsoft System Management Server連携アダプタのアンインストール

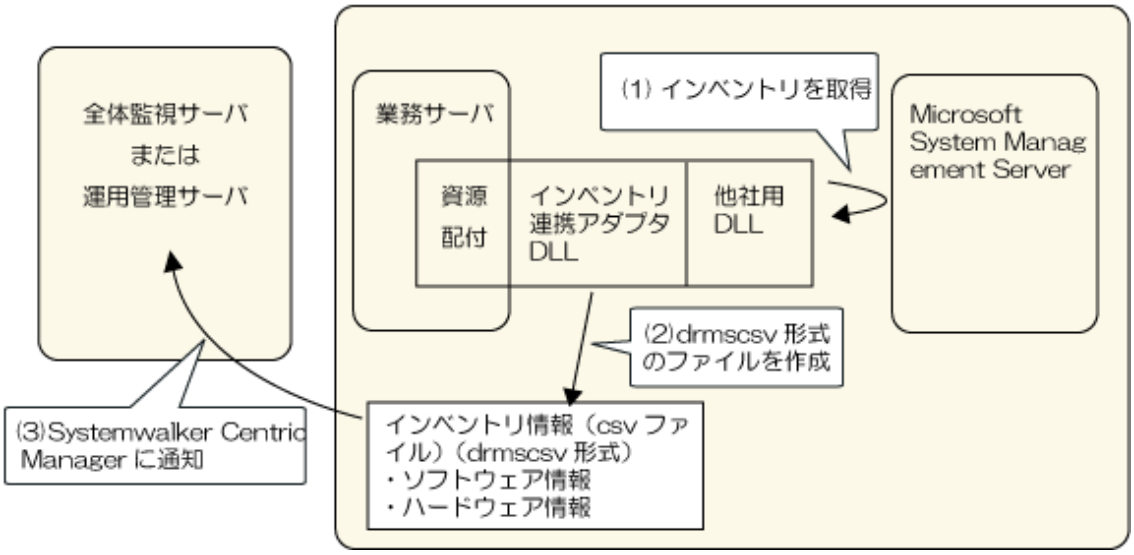
5.1 連携する機能

Microsoft System Management Serverで管理しているハードウェアインベントリ情報、およびソフトウェアインベントリ情報を、Systemwalker Centric Managerで一括して管理することができます。



5.1.1 インベントリ連携

インベントリ連携アダプタを使用し、Microsoft System Management Serverに通知されたインベントリ情報を全体監視サーバ、または運用管理サーバに通知します。



(1):Microsoft System Management Serverからインベントリを取得します。

(2):drmscsv形式でインベントリ情報のファイルが作成されます。インベントリ情報の1項目当たりのデータ長は400バイトまでです。400バイトを超える項目は監視することができません。

(3):インベントリ情報をSystemwalker Centric Managerに通知します。

5.2 動作環境

Microsoft System Management Serverとの連携機能の動作環境について説明します。

システム構成

Microsoft System Management Serverとの連携機能を使用する場合の構成は以下のとおりです。

	Windows	Solaris
全体監視サーバ	Systemwalker Centric Manager EE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0	Systemwalker Centric Manager EE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0
運用管理サーバ	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0
業務サーバ	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0 Microsoft System Management Server 2003	-

全体監視サーバの設定については、“Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド”の“シングルサイト型全体監視の導入と運用”、および“マルチサイト型全体監視の導入と運用”を参照してください。なお、Microsoft System Management Serverとの連携機能は、クラスタ環境には対応していません。

ハードウェア資源

Microsoft System Management Serverとの連携機能で必要なハードウェア資源について説明します。

ディスク容量

Microsoft System Management Serverとの連携機能が必要なディスク容量を以下に示します。

使用領域	必要な容量
for Microsoft System Management Serverのインストール ディレクトリ	1MB以上

“前提ソフトウェア”が使用するディスク容量に加えて、上記のディスク容量が必要です。

メモリ使用量

Microsoft System Management Serverとの連携機能が必要なメモリ使用量の概略値を、以下に示します。

必要なメモリ使用量 : 20MB以上

“前提ソフトウェア”が使用するメモリ使用量に加えて、上記のメモリ使用量が必要です。

ソフトウェア資源

Microsoft System Management Serverとの連携機能で必要なソフトウェア資源について説明します。

動作OS

Microsoft System Management Serverの動作OSを以下に示します。

- Windows(R) 2000 Server
- Windows Server(R) 2003, Standard Edition

・ Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition

前提ソフトウェア

Microsoft System Management Serverとの連携機能は、以下の3つのソフトウェアがインストールされている業務サーバ上で動作します。

・ Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0(*)/V13.4.0(*)、または
Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0(*)/V13.4.0(*)

*) 業務サーバ(エージェントライセンス)

業務サーバには資源配付機能がインストールされている必要があります。

・ Microsoft System Management Server 2003

・ Systemwalker Centric Manager V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0 Manager of Managers for Microsoft System Management Server Adapter

前提ソフトウェアに必要なソフトウェアが別途インストールされている必要があります。詳細は、各ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

5.3 導入

5.3.1 for Microsoft System Management Server連携アダプタのインストール

インストール前の準備

インベントリ連携アダプタをインストールする前に、以下の製品のインストールおよび環境構築が完了している必要があります。

・ Systemwalker Centric Managerの業務サーバ(資源配付機能が必須)

・ Microsoft System Management Server 2003

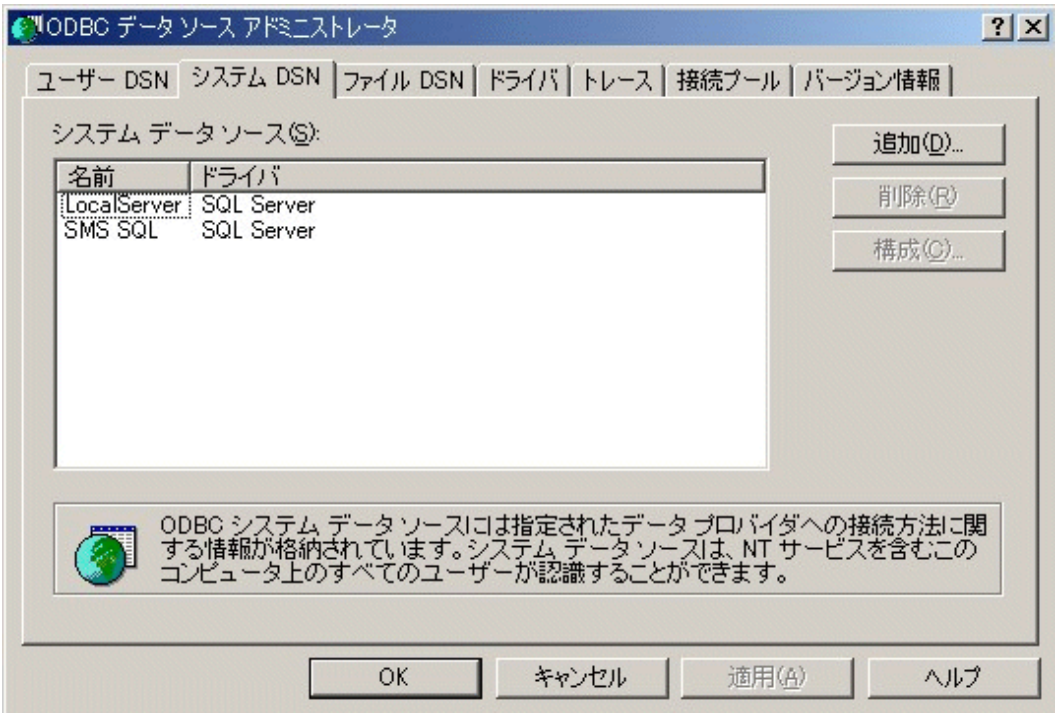
・ データ ソース(ODBC)

ODBCの作成

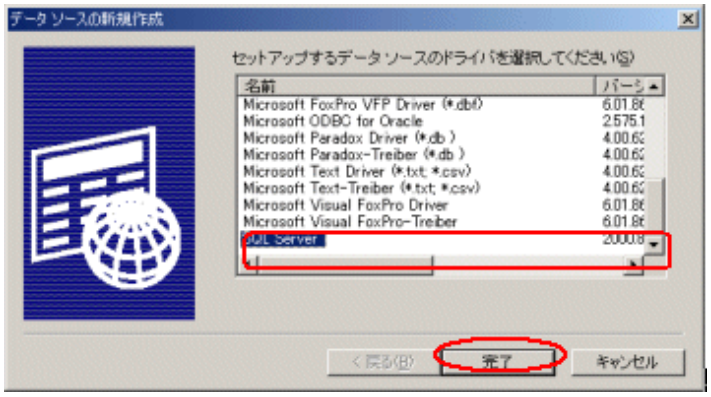
インベントリ連携アダプタが、Microsoft System Management Server 2003のデータベースに接続するために使用するデータ ソース(ODBC)を、以下の手順で作成します。

1. [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[管理ツール]メニューより、[データ ソース(ODBC)]を起動します。

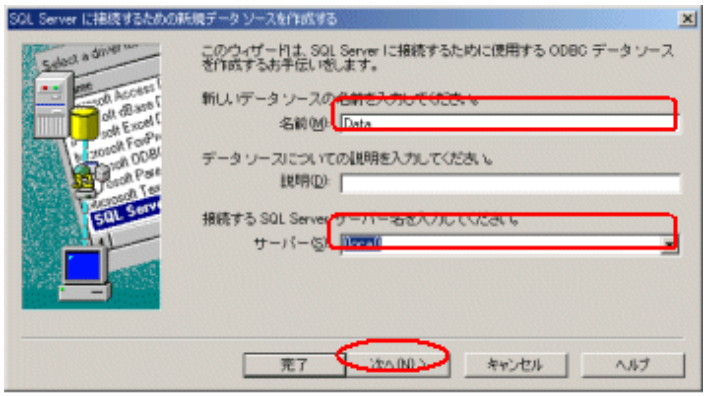
2. [システムDSN]タブで、[追加]ボタンをクリックします。



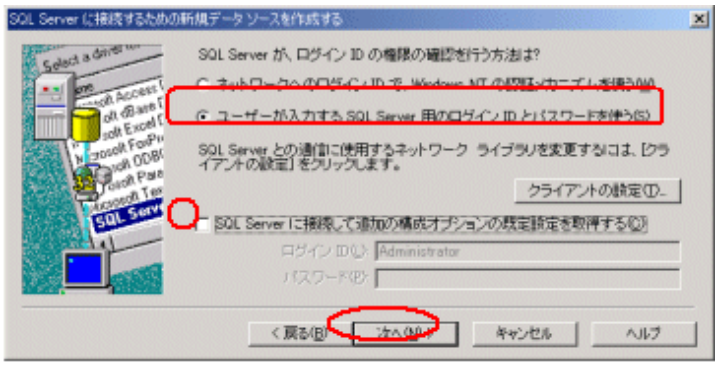
3. セットアップするデータ ソースのドライバの選択で[SQL Server]を選択し、[完了]ボタンをクリックします。



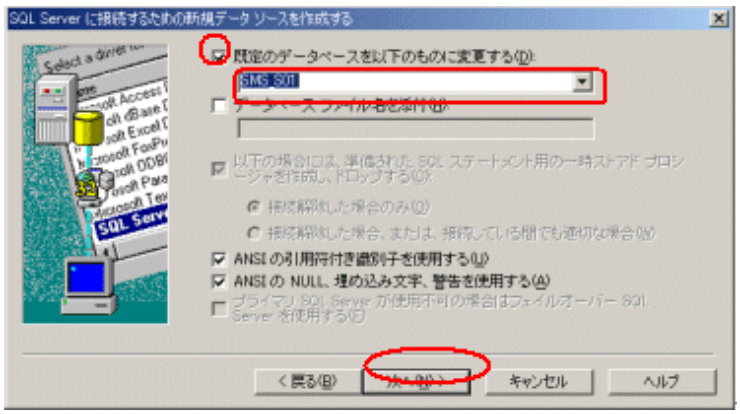
4. 新しいデータ ソースの[名前]には任意の名前を入力し、接続するSQL[サーバー]名には、(local)を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



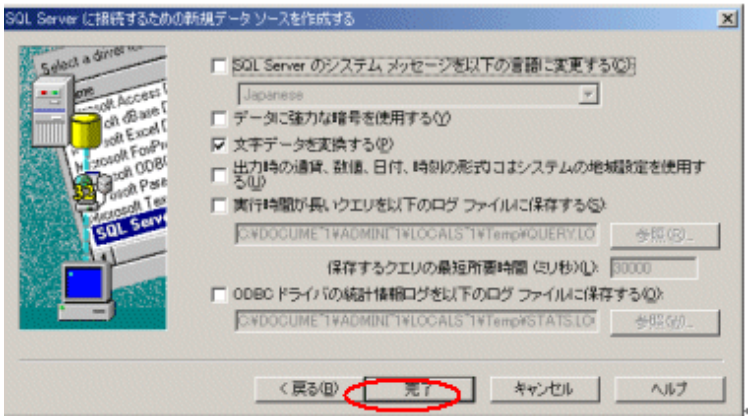
5. [ユーザーが入力するSQL Server用のログインIDとパスワードを使う]を選択し、[SQL Serverに接続して追加の構成オプションの既定設定を取得する]のチェックを外して[次へ]ボタンをクリックします。



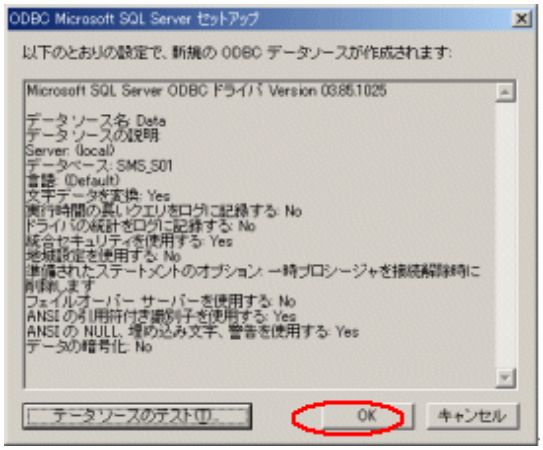
6. [既定のデータベースを以下のものに変更する]をチェックし、Microsoft System Management Server 2003をセットアップした際に設定したデータベース名を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



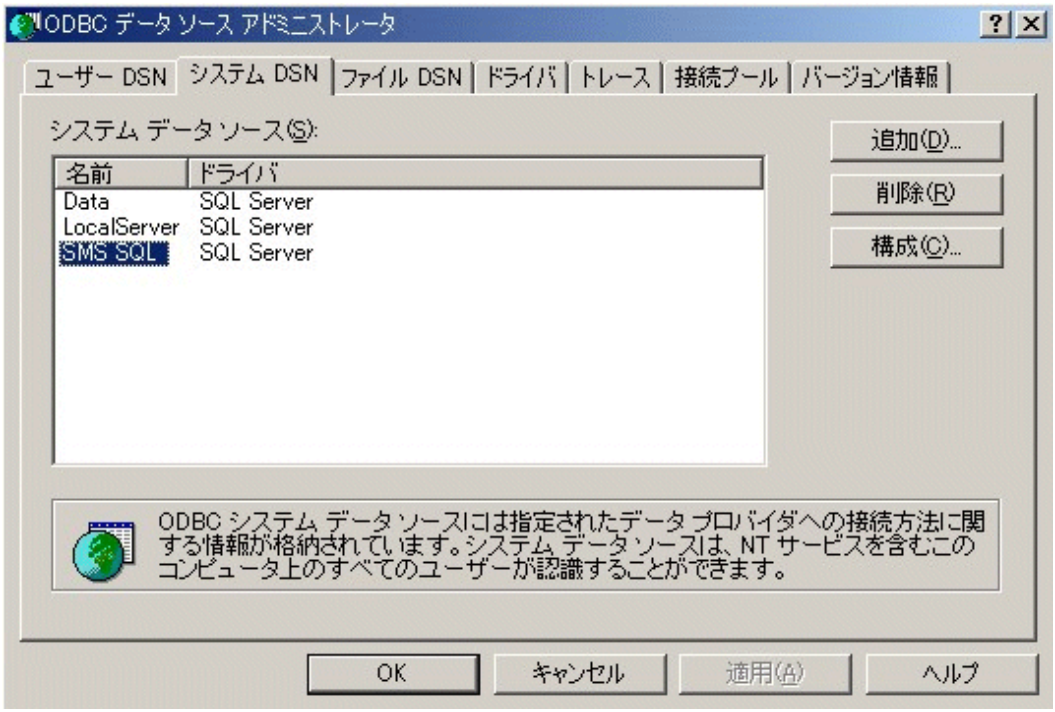
7. [完了]ボタンをクリックします。



8. [OK]ボタンをクリックします。



9. ユーザーデータソースに、作成したデータソースが表示されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



インストール方法

Windowsの業務サーバにfor Microsoft System Management Server連携アダプタをインストールする手順を以下に示します。

1. 以下のコマンドを使用して、Systemwalker Centric Managerを停止します。

```
pcentricmgr
```

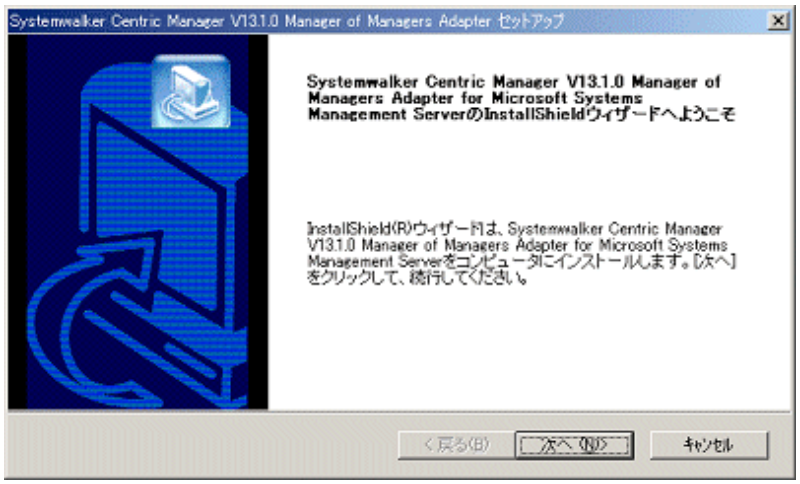
2. 以下からダウンロードし、任意のディレクトリに解凍します。

Systemwalker Centric Manager 技術情報 URL	http://software.fujitsu.com/jp/technical/systemwalker/centricmgr/

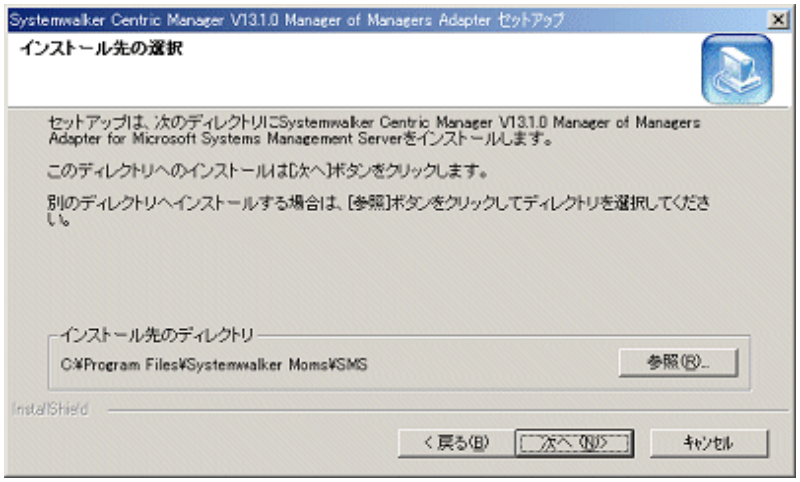
3. 解凍したフォルダ内の以下のコマンドを実行します。

```
swsetup.exe
```

→インストールウィザードが起動ます。



4. [次へ]をクリックします。
5. インストール先ディレクトリを指定します。

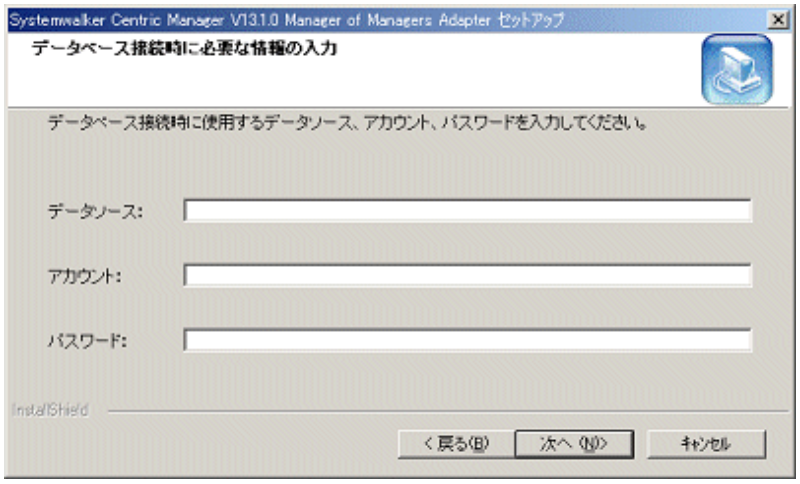


デフォルトのインストールディレクトリは以下のとおりです。

Windowsインストールドライブ¥Program Files¥Systemwalker Moms¥SMS

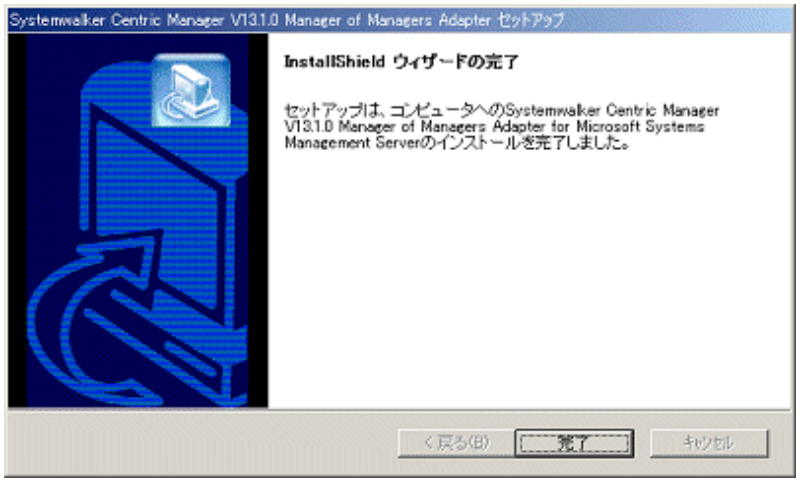
6. データベース接続のために、以下の項目を設定します。
   - インストール前に作成したデータベース接続用の[データソース]の名前
   - データベース管理者用の[アカウント]、および[パスワード]

データソース、アカウントおよびパスワードは64文字以内で指定します。



7. インストール確認ダイアログで[はい]を選択します。

8. インストール完了です。



ポイント

データベース接続するための設定は、以下のコマンドで設定することができます。
mpaddbinf(データベース接続情報設定コマンド)

インストール後の設定

必要に応じて連携定義ファイルをカスタマイズします。連携定義ファイルのカスタマイズ方法については、“Microsoft System Management Server連携 インベントリ定義ファイル”を参照してください。なお、連携定義ファイルは次の場所にインストールされます。

for Microsoft System Management Server Adapterインストールディレクトリ¥etc¥AdpInv.ini

5.3.2 for Microsoft System Management Server連携アダプタのセットアップ

for Microsoft System Management Server連携アダプタのインストール後、以下の設定を行います。

サイトフォルダの作成

全体監視サーバでマルチサイト型の運用を行う場合、サイトフォルダを作成する必要があります。全体監視サーバ上で以下の設定を行います。

以下のコマンドを実行します。

【Windows版】

```
MpFwSetOval -f add -h ホスト名 -s サイト名 -p IPアドレス
```

【Solaris版】

```
/opt/systemwalker/bin/MpFwSetOval -f add -h ホスト名 -s サイト名 -p IPアドレス
```

サイト名は、導入時に指定した識別名です。MpFwSetOval(全体監視設定コマンド)の詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

インベントリ情報を収集する際の設定について

インベントリ情報を収集するためには、以下の手順で、Systemwalker Centric Managerの設定を行う必要があります。

全体監視サーバ、または運用管理サーバでの設定

【全体監視サーバの場合】

1. 動作環境の定義

   以下のDRMS編集ファイルに、オプションを設定します。

   【Windows版】

   ```
   Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpdrmssv¥etc¥drms.dat
   ```

   【Solaris版】

   ```
   /opt/FJSVmpsdl/etc/drmsrc
   ```

   オプションの設定内容

   ```
   inv_oval=YES
   inv_notify_dfn=YES
   ```

2. Systemwalker Centric Managerの再起動

   【Windows版】

   Systemwalker Centric Managerを再起動します。

   以下のコマンドを実行し、サービスを停止します。

   ```
   pcentricmgr
   ```

   以下のコマンドを実行し、サービスを起動します。

   ```
   scentricmgr
   ```

   【Solaris版】

   以下のコマンドを実行し、サービスを停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

以下のコマンドを実行し、サービスを起動します。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

【運用管理サーバの場合】

1. 動作環境の定義

   DRMS編集ファイルに、以下のオプションを設定します。

   【Windows版】

   ```
   Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpdrmssv¥etc¥drms.dat
   ```

   【Solaris版】

   ```
   /opt/FJSVmpsdl/etc/drmsrc
   ```

   オプションの設定内容

   ```
   inv_notify_dfn=YES
   ```

2. サービスの再起動

   【Windows版】

   [サービス]よりMpDrmsを再起動します。

   【Solaris版】

   ```
   /opt/systemwalker/bin/drmsd -f
   /opt/systemwalker/bin/drmsd -s
   ```

業務サーバでの設定

1. 業務サーバ自身のサーバ名、ノード名の定義

   コマンドプロンプトより以下のコマンドを実行します。

   ```
   drmsdfn -a sys -k own -n ノード名 -s システム名
   ```

   -a sys:

   “sys”を指定します。

   -k own:

   “own”を指定します。

   -n **ノード名**:

   自身のIPアドレスを指定します。

   全体監視サーバでマルチサイト型の運用を行っている場合は、ノード名に全体監視サーバで認識できるグローバルIPアドレスを指定します。

   なお、グローバルIPアドレスに対応するホスト名を、hostsファイル、またはDNSサーバに設定する必要があります。

   -s **システム名**:

   自身のシステム名(システム識別子)を指定します。システム名は、ASCII(128文字以内)で指定します。

2. インベントリ情報収集スケジュールの設定

   ノード設定ファイル(Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpdrmssv¥etc¥WSAGENT.INI)に、以下の設定を行います。

```
[Variables]
InventoryUpdateSchedule= week / MM DD hh mm
```

指定の意味は以下のとおりです。

week:

曜日(日曜日:sun、月曜日:mon、火曜日:tue、水曜日:wed、木曜日:thu、金曜日:fri、土曜日:sat)

MM:

月

DD:

日

hh:

時

mm:

分

week、MM、およびDDにおいて値を設定しない項目には“*”を設定します。また、“/”の前後に空白1文字が必要です。

(例) 毎日9時にインベントリ情報を収集する場合

InventoryUpdateSchedule=* / * * 9 0

3. インベントリ情報通知スケジュールの設定

スケジュール情報ファイルに、以下の設定を行います。スケジュール情報ファイルは、テキスト形式で任意のディレクトリに任意のファイル名で作成します。

```
func=event(inventory),type=time(week / MM DD hh mm),option=”sysname(ノード名)”
```

指定の意味は次のとおりです。

func=event(inventory):

インベントリ情報の通知

type=time(week / MM DD hh mm):

インベントリ情報を通知する契機を指定します。

week:

曜日(日曜日:sun、月曜日:mon、火曜日:tue、水曜日:wed、木曜日:thu、金曜日:fri、土曜日:sat)

MM:

月

DD:

日

hh:

時

mm:

分

week、MM、およびDDにおいて値を設定しない項目には“*”を設定します。また、“/”の前後に空白1文字が必須です。

option=”sysname(ノード名)”:

sysname(ノード名):

ノード名として、通知先サーバのIPアドレスを指定します。

(例) 毎週土曜日の22時にインベントリ情報をサーバに通知する場合

func=event(inventory),type=time(Sat / * * 22 0),option=”sysname(133.162.104.216)”

4. 動作環境の定義

   DRMS編集ファイル(Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpdrmssv¥etc¥drms.dat)に、以下のオプションを設定します。

   ```
   schedule=スケジュール情報ファイルフルパス名
   ```

5. サービスの再起動

   [サービス]よりMpDrmsを再起動します。

インベントリ情報の更新手順について

“インベントリ情報を収集する際の設定について”で行ったスケジュール設定によりMicrosoft System Management Serverが管理するインベントリ情報は定期的に全体監視サーバまたは運用管理サーバへ通知されます。

次回、収集スケジュールを待たずに、Microsoft System Management Serverが管理するインベントリ情報を全体監視サーバまたは運用管理サーバへ通知する場合は、以下のとおり実施します。

1. [Systemwalkerコンソール[監視]]を起動します。
2. Microsoft System Management Serverがインストールされているノードを単一選択、またはサイトフォルダを単一選択し、以下のどちらかを実行します。

   ー メニューより[オブジェクト]-[インベントリ情報の収集]を選択します。

   ー 右クリックメニューより[インベントリ情報の収集]を選択します。

3. インベントリ情報の収集中は、処理中のダイアログが表示されます。
4. インベントリ情報の収集が完了すると、作業完了を通知するダイアログが表示されます。また、インベントリ情報の収集に失敗した場合、エラーメッセージが表示されます。

なお、全体監視サーバで実施する場合の必要な設定については、“Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド”を参照してください。

ノードを表示する

業務サーバのインストール時に、イベント通知先を全体監視サーバ、または運用管理サーバに設定する必要があります。イベント通知先を設定しても、ノードがSystemwalkerコンソールに表示されない場合は、以下を実施してください。

業務サーバで接続方法に必要時接続を選択している場合

業務サーバで以下のコマンドを実行してください。

```
opaconstat -a
```

業務サーバで接続方法に常時接続を選択している場合

以下の手順で、業務サーバのSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

1. Systemwalker Centric Managerを停止します。

   ```
   pcentricmgr
   ```

2. Systemwalker Centric Managerを起動します。

   ```
   scentricmgr
   ```

Systemwalker Centric ManagerとMicrosoft System Management Serverのインベントリ情報の比較について

Systemwalker Centric ManagerとMicrosoft System Management Serverのインベントリ情報は、以下のように対応しています。

- ハードウェアインベントリ情報の形式

- ソフトウェアインベントリ情報の形式

表5.1 ハードウェアインベントリ情報の形式

Systemwalker Centric Manager	Microsoft System Management Server	
	項目の有無	テーブル名/フィールド名
文字コード	○	SJIS固定
レコード種別	○	ivh固定
通知受信タイムスタンプ	○	資源配付機能からの時刻を使用
システム名	○	空白
システム種別	○	SERV固定
システムのコメント	×	-
ノード名	○	System_DATA / Name
リザーブ	-	-
BIOSバージョン	○	PC_BIOS_DATA / Version
CPU種別	○	Processor_DATA / Name
物理メモリ量	○	PC_Memory_DATA / TotalVirtualMemory
ビデオ種別	○	Video_Controller_DATA / Name
DOSバージョン	×	
OSバージョン	○	Operating_System_DATA / Operating_System_DATA
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
CD-ROMドライブ	○	CD_ROM_DATA / Drive
固定ドライブ	○	Logical_Disk / DeviceID 条件として、Logical_Disk / Description がローカル固定ディスクのとき
ネットワークドライブ	×	
Aドライブ総容量	○	Logical_Disk / Size 条件として、Logical_Disk / DeviceID が ドライブ:がA～Z
～		
Zドライブ総容量		
全ドライブ総容量	○	Aドライブ総容量～Zドライブ総容量の総和を求め使用する。
Aドライブ空き容量	○	Logical_Disk / FreeSpace 条件として、Logical_Disk / DeviceID が ドライブ:がA～Z
～		
Zドライブ空き容量		
全ドライブ空き容量	○	Aドライブ空き容量～Zドライブ空き容量の総和を求め使用する。
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
ノード番号	○	Network_DATA / MACAddress

Systemwalker Centric Manager	Microsoft System Management Server	
	項目の有無	テーブル名/フィールド名
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
ホスト名	×	-
IPアドレス	○	Network_DATA / IPAddress
ユーザ情報1の項目名	×	-
ユーザ情報1の値		
～		
ユーザ情報10の項目名		
ユーザ情報10の値		
マシン属性	○	Computer_System / Description
CPUの数	○	Processor_DATA / 条件としてループ回数でCPU数算出する
画面解像度	○	Video_Controller_DATA / CurrentHorizontalResoultionと CurrentVerticalResolution
ネットワークカード	×	-
サブネットマスク	○	Network_DATA / IPSubnet
デフォルトゲートウェイ	○	Network_DATA / DefaultIPGateway
リムーバブルドライブ	○	Logical_Disk / DeviceID 条件として、Logical_Disk / Descriptionが リムーバブル ディスク
フロッピードライブ	○	Logical_Disk / DeviceID 条件として、Logical_Disk / Descriptionが 3 1/2 インチ フロッピー ドライブ
コンピュータ名	○	Computer_System / Name
ドメイン名	○	Computer_System /Domain
ワークグループ名	×	
DNSサーバ名	○	Network_DATA / IPAddress
ログイン名	○	Computer_System / UserName
OSビルド番号	○	Operating_System_DATA / BuildNumber
サービスパック	○	Operating_System_DATA / CSDVersion
クロック数	○	Processor_DATA / CurrentClockSpeed
CPU詳細	○	Processor_DATA / Family, Version, ProcessorId
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-

Systemwalker Centric Manager	Microsoft System Management Server	
	項目の有無	テーブル名/フィールド名
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
キーボードタイプ名	○	Keyboard_DATA / Description
インストール言語	×	-
マウスタイプ名	○	Mouse_DATA / Name
マウスボタン数	○	Mouse_DATA / NumberOfButtons
OSの登録者	×	-
OSの登録組織名	×	-
OSのプロダクトID	×	-
Windowsディレクトリ名	○	Operating_System_DATA / WindowDirectory
システムディレクトリ名	○	Operating_System_DATA / SystemDirectory
色数	○	Video_Controller_DATA / VideoModeDescription
スクリーンセーバ	×	-
プリンタ情報	×	-
ネットワーク情報	×	-
ファイルシステム	×	-
ファイルシステム種別	×	-
マウントポイント	×	-
パーティションの容量	×	-
パーティションの空き容量	×	-
リザーブ	-	-
マルチベンダ名	○	Computer_System / Manufacturer
マシンモデル	○	Computer_System / Model
マシンシリアル	×	-
1次キャッシュ	×	-
2次キャッシュ	×	-
スワップサイズ	○	PC_Memory_DATA / TotalPhysicalMemory
CD-ROM装置名	×	
画面リフレッシュレート	○	Video_Controller_DATA / CurrentRefreshRate
モニター名	○	Desktop_Monitor_DATA / Name
ドライブ情報_A?ドライブ情報_Z	△一部可能	Logical_Disk/Size,FreeSpace, , ,FileSystem 条件として、Logical_Disk/ DeviceID がドライブ:で抽出
DHCPサーバ名	×	-

Systemwalker Centric Manager	Microsoft System Management Server	
	項目の有無	テーブル名/フィールド名
DNSサーバ名2	×	-
メモリデバイスロケータ	×	-
メモリサイズ	×	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
ディスクベンダ名	○	Disk_DATA / Manufacturer
ディスクモデル	×	
ディスク容量	○	Disk_DATA / Size
ディスクIF	○	Disk_DATA / InterfaceType
ディスク説明	○	Disk_DATA / Description

表5.2 ソフトウェアインベントリ情報の形式

Systemwalker Centric Manager	Microsoft System Management Server	
	項目の有無	テーブル名/フィールド名
文字コード	○	SJIS固定
レコード種別	○	ivh固定
タイムスタンプ	○	資源配付機能からの時刻を使用
システム名	○	空白
システム種別	○	SERV固定
システムのコメント	×	-
実行可能ファイル名	×	-
更新日時	×	-
製品名	○	Add_Remove_Programs_DATA / DisplayName
V/L	○	Add_Remove_Programs_DATA / Version
リザーブ	-	-
ファイルサイズ	×	-
説明	×	-

5.4 運用

5.4.1 インベントリ連携を行う

for Microsoft System Management Server連携アダプタを導入後、運用を行う場合は、Systemwalker Centric Manager、for Microsoft System Management Server連携アダプタ、およびMicrosoft System Management Serverが起動している必要があります。これらが停止していた場合、運用への影響について説明します。

Microsoft System Management Serverが停止している場合

Microsoft System Management Serverが停止しているときは、インベントリ情報の取得は行いません。

Microsoft System Management Serverが停止しているときは、インベントリ情報は取得されません。Microsoft System Management Serverを起動することにより、インベントリ情報の取得が可能になります。

注意

Microsoft System Management Server自身の稼働監視は行いません。Microsoft System Management Serverの稼働監視を行う場合は、アプリケーションの稼働状況の監視機能を利用します。設定については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”を参照してください。監視するプロセス名等はMicrosoft System Management Serverのマニュアルを参照してください。

Systemwalker Centric Manager(業務サーバ)が停止している場合

業務サーバが停止している場合は、インベントリ情報を取得されません。業務サーバを起動することにより、インベントリ情報の取得が可能になります。

全体監視サーバまたは運用管理サーバが停止している場合

全体監視サーバまたは運用管理サーバが停止中に送信されたインベントリ情報は、全体監視サーバまたは運用管理サーバが起動した際に、Systemwalker Centric Manager(業務サーバ)から通知されます。

5.5 保守

5.5.1 トレース情報の採取

以下の事象が発生した場合、調査用トレース情報を採取してください。

- Microsoft System Management ServerのインベントリとSystemwalker Centric Managerのインベントリ情報が正しく連携できない場合

調査用トレースとして以下の資料を採取します。

- Windowsインストールディレクトリ¥system32¥f3cvgtad配下のMpAdmomsで始まるファイルすべて

なお、調査する際は、トレース以外に以下の資料が必要になります。

- イベントビューア(イベントログ、アプリケーションログ)
- (for Microsoft System Management Serverインストールディレクトリ)¥etc 配下のファイルすべて

5.5.2 バックアップ/リストア

for Microsoft System Management Server Adapterのカスタマイズした定義ファイルの資源をバックアップする

カスタマイズした定義ファイル(Microsoft System Management Server連携 インベントリ定義ファイル)をバックアップすることができます。以下の手順でバックアップを実施してください。

- 以下の資源をバックアップします。

  エクスプローラやコピーコマンドを使用して、対象となる資源を退避します。

for Microsoft System Management Server Adapterインストールディレクトリ¥etc 配下すべて for Microsoft System Management Server Adapterインストールディレクトリ¥var 配下すべて

注意

- ODBCの設定はバックアップできません。
- インストール前に作成したデータソース(ODBC)はバックアップされません。
- インストール時に指定したデータソース名、データベース管理者用アカウント、およびパスワードはバックアップされません。

for Microsoft System Management Server Adapterのカスタマイズした定義ファイルの資源をリストアする

バックアップした定義ファイルをリストアすることができます。以下の手順でリストアを実施してください。

・ バックアップした対象資源を、エクスプローラやコピーコマンドを使用して上書きコピーします。

5.6 for Microsoft System Management Server連携アダプタのアンインストール

アンインストール前の準備

以下のコマンドを使用して、Systemwalker Centric Managerのサービスを停止してください。

```
pcentricmgr
```

アンインストール方法

[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]/[プログラムの追加と削除]/[プログラムと機能]で、以下を選択してアンインストールしてください。

・ Systemwalker Centric Manager V13.1.0 Manager of Managers Adapter for Microsoft Systems Management Server

・ Systemwalker Centric Manager V13.2.0 Manager of Managers Adapter for Microsoft Systems Management Server

・ Systemwalker Centric Manager V13.3.0 Manager of Managers Adapter for Microsoft Systems Management Server

または

・ Systemwalker Centric Manager V13.4.0 Manager of Managers Adapter for Microsoft Systems Management Server

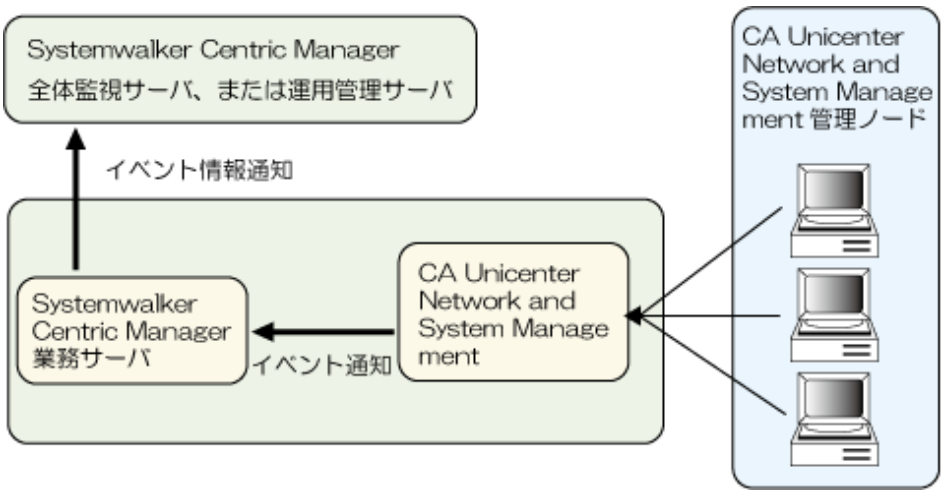
第6章 CA Unicenter Network and Systems Managementとの連携

CA Unicenter Network and Systems Managementとの連携について説明します。

- 連携する機能
- 動作環境
- 導入
- 運用
- 保守
- for CA Unicenter Network and Systems Management連携アダプタのアンインストール

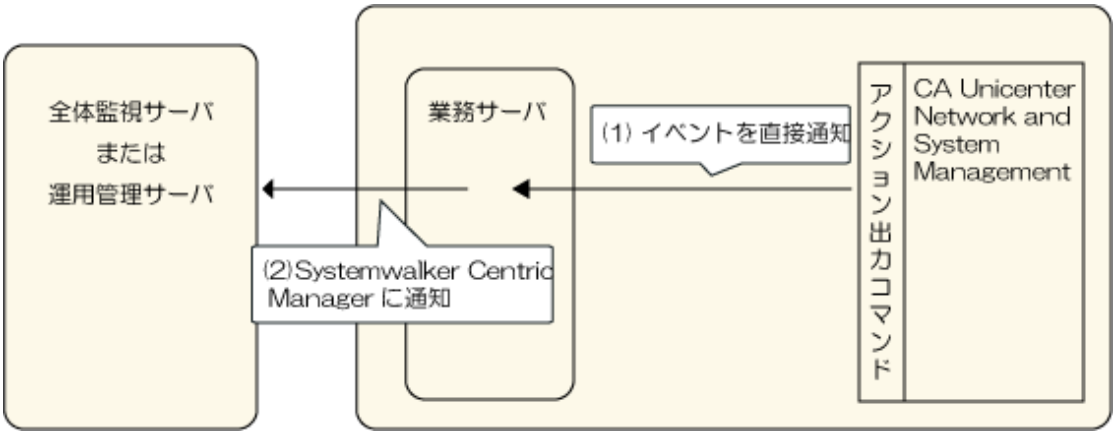
6.1 連携する機能

CA Unicenter Network and Systems Managementで検出したイベントを、Systemwalker Centric Managerに通知することができます。



6.1.1 イベントの通知

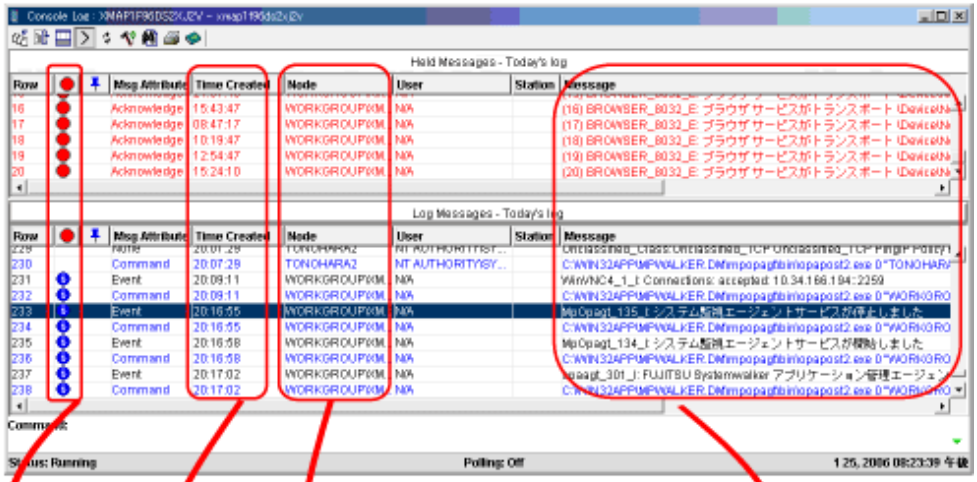
イベント連携アダプタを使用し、CA Unicenter Network and Systems Managementに通知されたイベントを全体監視サーバまたは運用管理サーバに通知します。



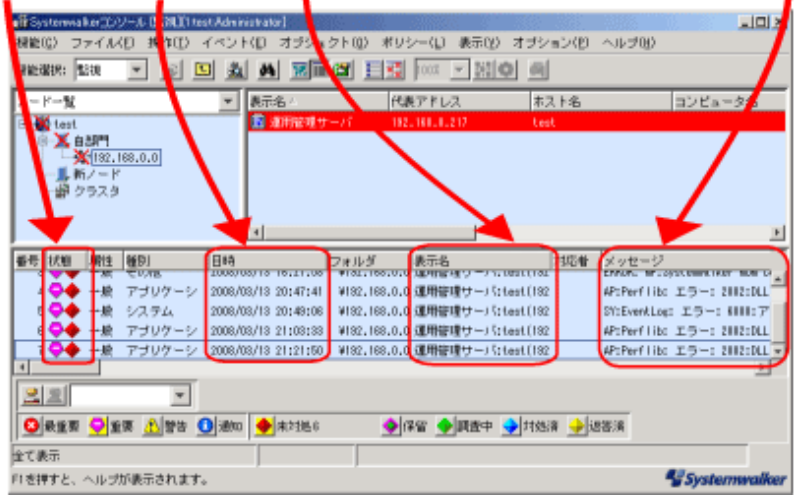
(1):CA Unicenter Network and Systems Managementからイベントが通知されます。
(2):イベントをSystemwalker Centric Managerに通知します。

CA Unicenter Network and Systems Managementでイベントが発生した場合、CA Unicenter Network and Systems Managementおよび[Systemwalkerコンソール]画面には、以下のように通知されます。なお、イベント連携アダプタをインストールする前に発生していたイベントに関しては連携を行いません。

[CA Unicenter NSM コンソール]



[Systemwalker コンソール]



CA Unicenter Network and Systems ManagementからSystemwalker Centric Managerへ通知されるイベントは、以下のように対応しています。

Systemwalker コンソール	CA Unicenter NSMコンソール
状態(注1)	SEVERITY 対応についてはカスタマイズ可能です。カスタマイズの方法については、“CA Unicenter Network and Systems Management連携 イベント定義ファイル”を参照してください。
属性	イベント監視の条件定義によりカスタマイズ可能(注2)
種別	イベント監視の条件定義によりカスタマイズ可能(注2)
日時	Time Created
表示名	Node
メッセージ	Message

注1) Systemwalkerコンソールの[状態]欄は、CA Unicenter NSMコンソールでは以下のように表示されます。

・ 最重要

　― E:Error

・ 重要

　― F:Failure

・ 警告

　― W:Warning

・ 情報

　― S:Success

　― I:Information

注2) [イベント監視の条件定義]については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”を参照してください。

なお、CA Unicenter Network and Systems Managementとの連携機能では、イベントの対処を行うことはできません。

6.2 動作環境

CA Unicenter Network and Systems Managementとの連携機能の動作環境について説明します。

システム構成

CA Unicenter Network and Systems Managementとの連携機能を使用する場合の構成は以下のとおりです。

	Windows	Solaris
全体監視サーバ	Systemwalker Centric Manager EE V13.1.0/ V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0	Systemwalker Centric Manager EE V13.1.0/ V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0
運用管理サーバ	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0
業務サーバ	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0 CA Unicenter Network and Systems Management 3.1、または CA Unicenter Network and Systems Management r11	-

全体監視サーバの設定については、“Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド”の“シングルサイト型全体監視の導入と運用”、および“マルチサイト型全体監視の導入と運用”を参照してください。なお、CA Unicenter Network and Systems Managementとの連携機能は、クラスタ環境には対応していません。

ハードウェア資源

CA Unicenter Network and Systems Managementとの連携機能で必要なハードウェア資源について説明します。

ディスク容量

CA Unicenter Network and Systems Managementとの連携機能が必要なディスク容量を以下に示します。

使用領域	必要な容量
for CA Unicenter Network and Systems Managementのインストール ディレクトリ	5MB以上

“前提ソフトウェア”が使用するディスク容量に加えて、上記のディスク容量が必要です。

メモリ使用量

CA Unicenter Network and Systems Managementとの連携機能が必要なメモリ使用量の概略値を、以下に示します。

必要なメモリ使用量 : 2MB以上

“前提ソフトウェア”が使用するメモリ使用量に加えて、上記のメモリ使用量が必要です。

ソフトウェア資源

CA Unicenter Network and Systems Managementとの連携機能で必要なソフトウェア資源について説明します。

動作OS

CA Unicenter Network and Systems Managementとの連携機能の動作OSを以下に示します。

- Windows(R) 2000 Server
- Windows Server(R) 2003, Standard Edition
- Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition

前提ソフトウェア

CA Unicenter Network and Systems Managementとの連携機能は、以下の3つのソフトウェアがインストールされている業務サーバ上で動作します。

- Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0(*)/V13.4.0(*)、または
  Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0(*)/V13.4.0(*)

  *) 業務サーバ(エージェントライセンス、イベント監視ライセンス)
- CA Unicenter Network and Systems Management 3.1、または
  CA Unicenter Network and Systems Management r11
- Systemwalker Centric Manager V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0 Manager of Managers for CA Unicenter Network and Systems Management Adapter

前提ソフトウェアに必要なソフトウェアが別途インストールされている必要があります。詳細は、各ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

6.3 導入

6.3.1 for CA Unicenter Network and Systems Management連携アダプタのインストール

インストール前の準備

イベント連携アダプタをインストールする前に、以下の製品のインストールおよび環境構築が完了している必要があります。

- Systemwalker Centric Managerの業務サーバ
- CA Unicenter Network and Systems Management

インストール方法

Windowsの業務サーバにfor CA Unicenter Network and Systems Management連携アダプタをインストールする手順を以下に示します。

1. 以下のコマンドを使用して、Systemwalker Centric Managerのサービスを停止します。

pcentricmgr

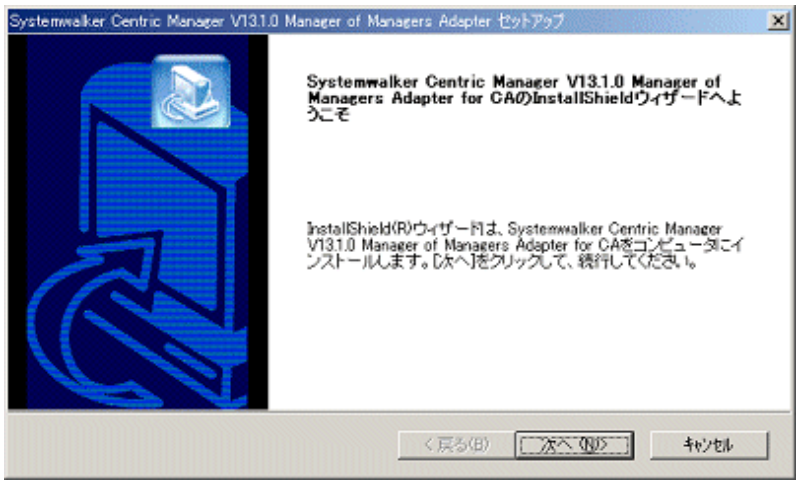
2. 以下からダウンロードし、任意のディレクトリに解凍します。

Systemwalker Centric Manager 技術情報 URL	http://software.fujitsu.com/jp/technical/systemwalker/centricmgr/

3. 解凍したフォルダ内の以下のコマンドを実行します。

```
swsetup.exe
```

→[インストールウィザード]が起動します。

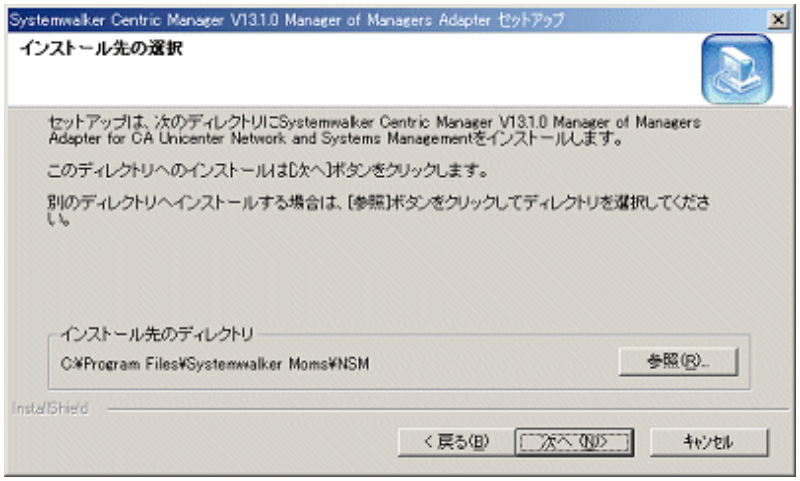


4. [次へ]ボタンをクリックします。
5. インストールする機能を選択します。

→[CA Unicenter Network and Systems Management]を選択します。

なお、CA Unicenter Asset Management連携アダプタを導入する場合は、[CA Unicenter Asset Management]も選択してください。

6. [インストール先ディレクトリ]を指定します。

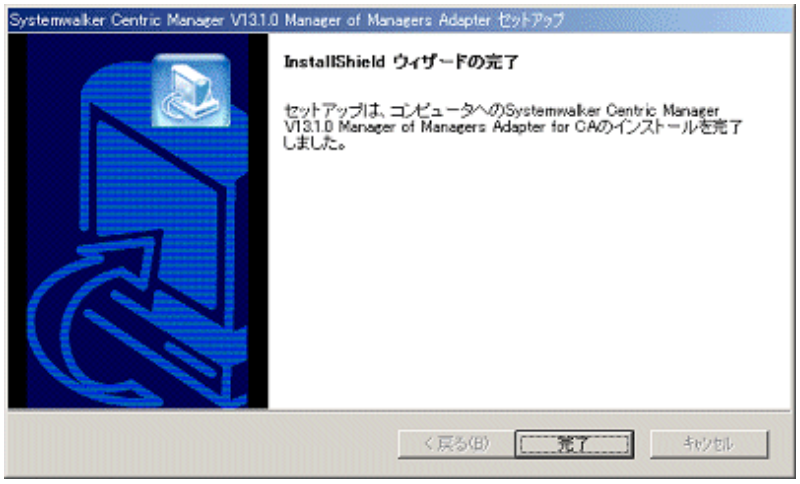


デフォルトのインストールディレクトリは以下のとおりです。

Windowsインストールドライブ¥Program Files¥Systemwalker Moms¥NSM

7. インストール確認ダイアログで[はい]を選択します。

8. インストール完了です。



インストール後の設定

1. Systemwalkerのイベント(syslog)監視機能を無効化します。

   イベントログ監視設定ファイル(Systemwalkerインストールディレクトリ¥MpWalker.dm¥mpopagt¥etc¥opaevt) の以下の設定を“OFF”に変更します。

   【変更前】

MPOP_ENABLE_EVTLOG ON

   【変更後】

```
MPOP_ENABLE_EVTLOG OFF
```

2. アクセス権を設定します。

   以下のどちらかの方法でアクセス権の設定を変更してください。

   【GUIで変更する場合】

   a. 以下のパスを選択します。

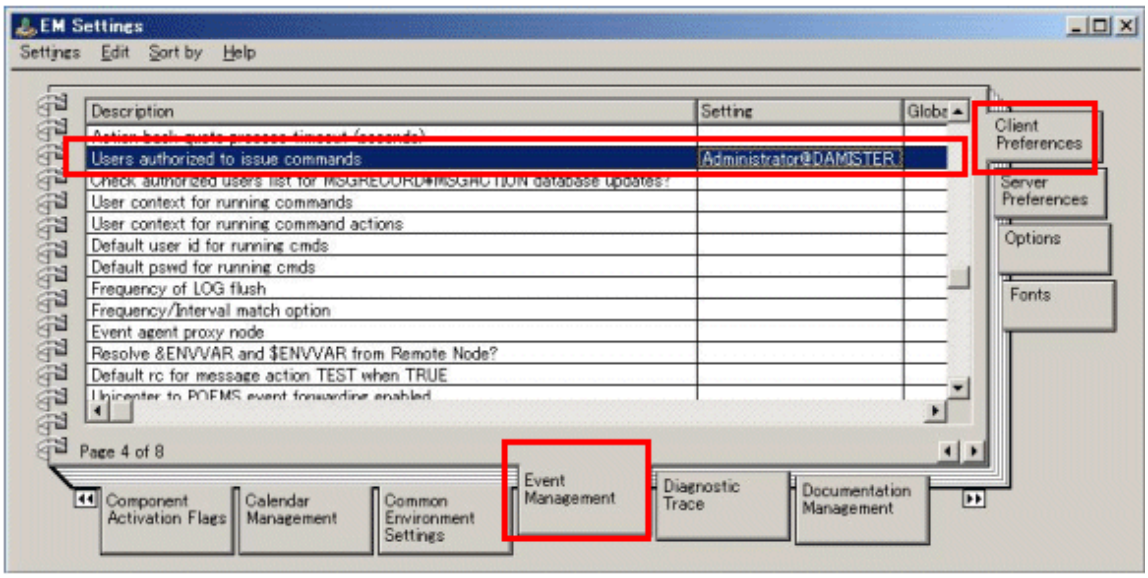
      - r11の場合

        [スタート]メニューの[プログラム]-[Computer Associates]-[Unicenter]-[NSM]-[Enterprise Management]-[EM Settings]を選択します。

      - r3.1の場合

        [スタート]メニューの[プログラム]-[Unicenter TND]-[Enterprise Management]-[EM Settings]を選択します。

   b. [Client Preferences]タブと[Event Management]タブを選択します。



   c. [Users authorized to issue commands]の[Setting]列を[*@*]に変更します。

   d. *@*に変更したあとに[Enter]キーを押すと確認ウィンドウが表示されるので、[Yes]ボタンをクリックします。

   【コマンドで変更する場合】

   a. [スタート]メニューの[プログラム]-[アクセサリ]-[コマンドプロンプト]を選択します。

   b. [コマンドプロンプト]画面に、以下のコマンドを入力します。

```
cautenv setlocal CA_OPR_AUTH_LIST *@*
```

注意

アクセス権の設定を行わなかった場合、イベント連携の際、CA Unicenter Network and Systems ManagementのConsole Log画面に、以下のようにエラー表示されます。

```
%CAOP_E_513,Command execution denied:not autorized by security
```

3. 定義ファイルをカスタマイズします。

   必要に応じて連携定義ファイルをカスタマイズします。連携定義ファイルのカスタマイズ方法については、“CA Unicenter Network and Systems Management連携 イベント定義ファイル”を参照してください。なお、連携定義ファイルは、以下の場所にインストールされます。

for CA Unicenter Network and Systems Management Adapterインストールディレクトリ¥etc¥AdpEvt.ini

4. サービスを起動します。

   以下のコマンドでSystemwalker Centric Managerのサービスを起動するか、システムを再起動してください。

scentricmgr

5. イベントを通知するための設定をします。

   CA Unicenter Network and Systems ManagementからSystemwalkerへイベントを通知する方法として、アクションコマンド設定バッチファイルを使用します。

   以下のバッチファイルをコマンドプロンプトに入力・実行することで、CA Unicenter NSMに通知されたイベントがSystemwalkerまで通知される設定が行われます。

   実行ファイル名

mpadsetup.bat

   格納先

(for CA Unicenter Network and Systems Management Adapterインストールディレクトリ)¥bin

   書式

mpadsetup.bat [for CA Unicenter Network and Systems Management Adapterインストールディレクトリ]

   (for CA Unicenter Network and Systems Management Adapterインストールディレクトリ)にスペースが含まれる場合は、ダブルコーテーションで括る必要があります。

   例)Mpadsetup.bat “C:¥Program Files¥Systemwalker Moms¥NSM”

6. バッチファイルを実行するとMessages Actionに設定が反映されます。

   以下の手順で設定が反映されたことを確認してください。

   ー r11の場合

   1. [スタート]メニューから[プログラム]-[Computer Associates]-[Unicenter]-[NSM]-[Enterprise Management]-[EM Classic]を選択します。

      →[EM for Windows]ウィンドウが起動します。

   2. [EM for Windows]ウィンドウの[Windows]アイコンをダブルクリックします。
   3. 新しく表示されたウィンドウ内の[Event]アイコンをダブルクリックします。
   4. 新しく表示されたウィンドウ内の[Messages Action]アイコンをダブルクリックします。

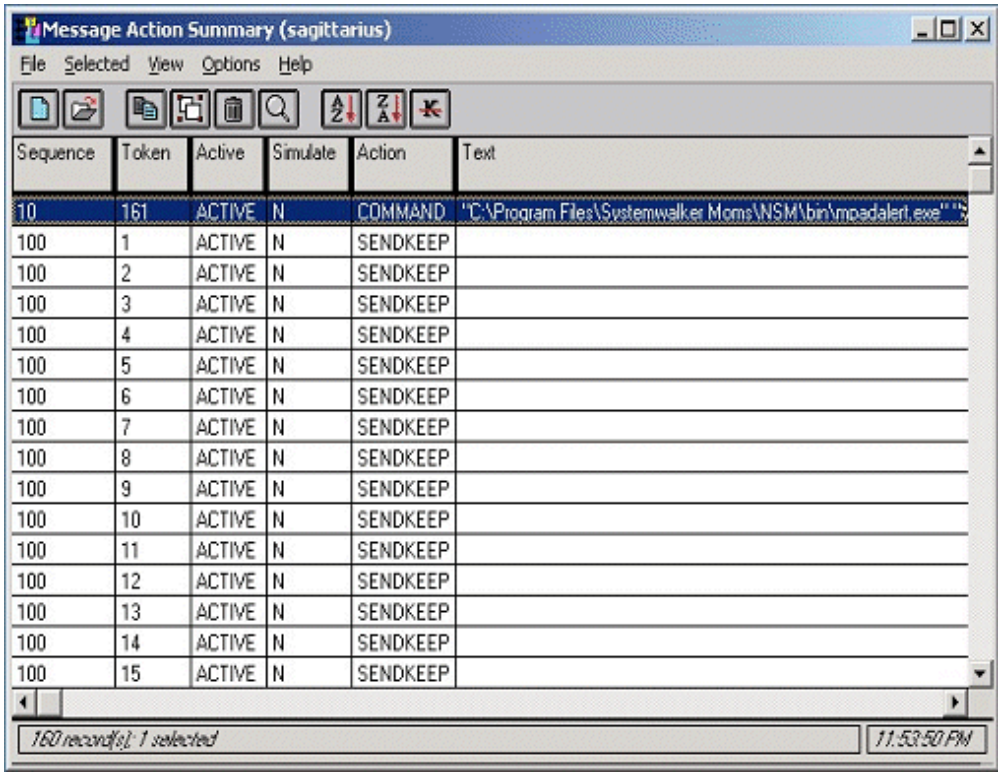
   ー r3.1の場合

   1. [スタート]メニューから[プログラム]-[Unicenter TND]-[Enterprise Management]-[EM Classic]を選択します。

      →[EM for WindowsNT]ウィンドウが起動します。

   2. [EM for WindowsNT]ウィンドウの[WindowsNT]アイコンをダブルクリックします。
   3. 新しく表示されたウィンドウ内の[Event]アイコンをダブルクリックします。

4. 新しく表示されたウィンドウ内の[Messages Action]アイコンをダブルクリックします。



6.3.2 for CA Unicenter Network and Systems Management連携アダプタのセットアップ

for CA Unicenter Network and Systems Management連携アダプタのインストール後、以下の設定を行います。

サイトフォルダの作成

全体監視サーバでマルチサイト型の運用を行う場合、サイトフォルダを作成する必要があります。全体監視サーバ上で以下の設定を行います。

1. サイト名の登録

   全体監視サーバ上で以下のコマンドを実行します。

   【Windows版】

   ```
   MpFwSetOval -f add -h ホスト名 -s サイト名 -p IPアドレス
   ```

   【Solaris版】

   ```
   /opt/systemwalker/bin/MpFwSetOval -f add -h ホスト名 -s サイト名 -p IPアドレス
   ```

   サイト名は、導入時に指定した識別名です。MpFwSetOval(全体監視設定コマンド)の詳細については、“Systemwalker Centric Managerリファレンスマニュアル”を参照してください。

2. Systemwalker Centric Managerの再起動

   全体監視サーバのSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

   【Windows版】

   Systemwalker Centric Managerを停止します。

   ```
   pcentricmgr
   ```

Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
scentricmgr
```

【Solaris版】

Systemwalker Centric Managerを停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

イベント通知先の設定

業務サーバのインストール時に、イベント通知先を全体監視サーバまたは運用管理サーバに設定する必要があります。イベント通知先を設定しても、ノードが[Systemwalkerコンソール]に表示されない場合は、以下の方法で登録してください。

業務サーバが接続方法に必要時接続を選択している場合

業務サーバで以下のコマンドを実行してください。

```
opaconstat -a
```

業務サーバが接続方法に常時接続を選択している場合

業務サーバのSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

1. Systemwalker Centric Managerの停止

   ```
   pcentricmgr
   ```

2. Systemwalker Centric Managerの起動

   ```
   scentricmgr
   ```

6.4 運用

6.4.1 イベントの通知を行う

6.4.1.1 検出されたノードをフォルダへ振り分ける

for CA Unicenter Network and Systems Management Adapterがイベント連携することで通知されたイベントにより新たにノードが検出された場合、検出されたノードは[新ノード]フォルダに作成されます。

フォルダに振り分けを行う場合は、以下の手順でフォルダへの振り分けを行います。

1. Systemwalkerコンソールを起動します。
2. [ファイル]メニューから[機能選択]-[編集]を選択し、編集モードにします。
3. [ファイル]メニューから[新ノードの振り分け]を選択し、検出されたノードをフォルダへ振り分けます。
4. [ファイル]メニューから[機能選択]-[監視]を選択し、監視モードに戻します。

なお、IPアドレスが“0.0.0.0”で追加されたノードに関しては、正しいIPアドレスを入力することで、サブネットフォルダへ振り分けることができます。
ただし、全体監視サーバでマルチサイト型の運用を行っている場合は、[新ノード]フォルダに作成されたノードを[新ノードの振り分け]を行うことでサイトフォルダに振り分け、その後でIPアドレスを入力してください。

IPアドレスを入力する場合は、以下の手順で入力を行います。

1. Systemwalkerコンソールを起動します。
2. [ファイル]メニューから[機能選択]-[編集]を選択し、編集モードにします。
3. IPアドレスが“0.0.0.0”のノードを選択します。
4. [ファイル]メニューから[プロパティ]を選択し、ノードプロパティ画面を表示します。
5. インタフェースタブで、正しいIPアドレス、およびサブネットマスクを設定します。
6. [ファイル]メニューから[機能選択]-[監視]を選択し、監視モードに戻します。

6.4.1.2 監視を再開する

CA Unicenter Network and Systems Managementが停止している場合

CA Unicenter Network and Systems Managementが停止しているため、イベント通知は行われません。

CA Unicenter Network and Systems Managementを起動してください。イベント通知が再開されます。

注意

本機能ではCA Unicenter Network and Systems Managementの稼働監視は行いません。CA Unicenter Network and Systems Managementの稼働監視を行う場合は、アプリケーションの稼働状況の監視機能を利用します。設定については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”を参照してください。監視するプロセス名等はCA Unicenter Network and Systems Managementのマニュアルを参照してください。

Systemwalker Centric Manager(業務サーバ)が停止している場合

Systemwalker Centric Manager(業務サーバ)が停止している場合も、CA Unicenter Network and Systems Managementで出力したイベントを通知します。Systemwalker Centric Managerが停止している間に通知したイベントは500件まで受け付けられますが、500件を超えると古いイベントから順に破棄されます。通知したイベントが破棄された場合、Systemwalker Centric Manager起動時に、以下に示すイベントログが記録されます。

ID	205
テキスト	監視対象メッセージを破棄しました (データ数=XXX) (連携製品においてSystemwalker Centric Manager起動前の監視対象メッセージが500件を超えました)

XXX:破棄データ数

6.5 保守

6.5.1 トレース情報の採取

以下の問題が発生した場合、調査のためにトレース情報を採取してください。

- CA Unicenter Network and Systems ManagementのイベントとSystemwalker Centric Managerのイベントの情報が正しく連携できない場合

調査用トレースとして、以下の情報を採取します。

- Windowsインストールディレクトリ¥system32¥f3cvgtad配下のMpAdmomsで始まるすべてのファイル

なお、調査する際には、トレース以外に以下の資料が必要になります。

- イベントビューア(イベントログ、アプリケーションログ)
- (for CA Unicenter Network and Systems Management Adapterインストールディレクトリ)¥etc配下のすべてのファイル

6.5.2 バックアップ/リストア

for CA Unicenter Network and Systems Management Adapterのカスタマイズした定義ファイルの資源をバックアップする

カスタマイズした定義ファイル(CA Unicenter Network and Systems Management連携 イベント定義ファイル)をバックアップすることができます。以下に示す手順に従い、バックアップを実施してください。

- 以下の資源をバックアップします。

  エクスプローラやコピーコマンドを使用して、対象となる資源を退避します。

for CA Unicenter Network and Systems Management Adapterインストールディレクトリ¥etc配下すべて

for CA Unicenter Network and Systems Management Adapterのカスタマイズした定義ファイルの資源をリストアする

バックアップした定義ファイルをリストアすることができます。以下に示す手順に従い、リストアを実施してください。

- バックアップした対象資源を、エクスプローラやコピーコマンドを使用して上書きコピーします。

6.6 for CA Unicenter Network and Systems Management連携アダプタのアンインストール

アンインストール前の準備

1. 以下のコマンドで、Systemwalker Centric Managerのサービスを停止してください。

pcentricmgr

2. 設定したアクション出力コマンドを削除します。

   まずコマンドを削除する前にコマンドのToken番号を確認します。

   以下の手順で削除したいコマンドのToken番号を確認してください。

   r11の場合

   1. [スタート]メニューから[プログラム]-[Computer Associates]-[Unicenter]-[NSM]-[Enterprise Management]-[EM Classic]を選択します。

      →[EM for Windows]ウィンドウが起動します。

   2. [EM for Windows]ウィンドウの[Windows]アイコンをダブルクリックします。
   3. 新しく表示されたウィンドウ内の[Event]アイコンをダブルクリックします。
   4. 新しく表示されたウィンドウ内の[Messages Action]アイコンをダブルクリックします。

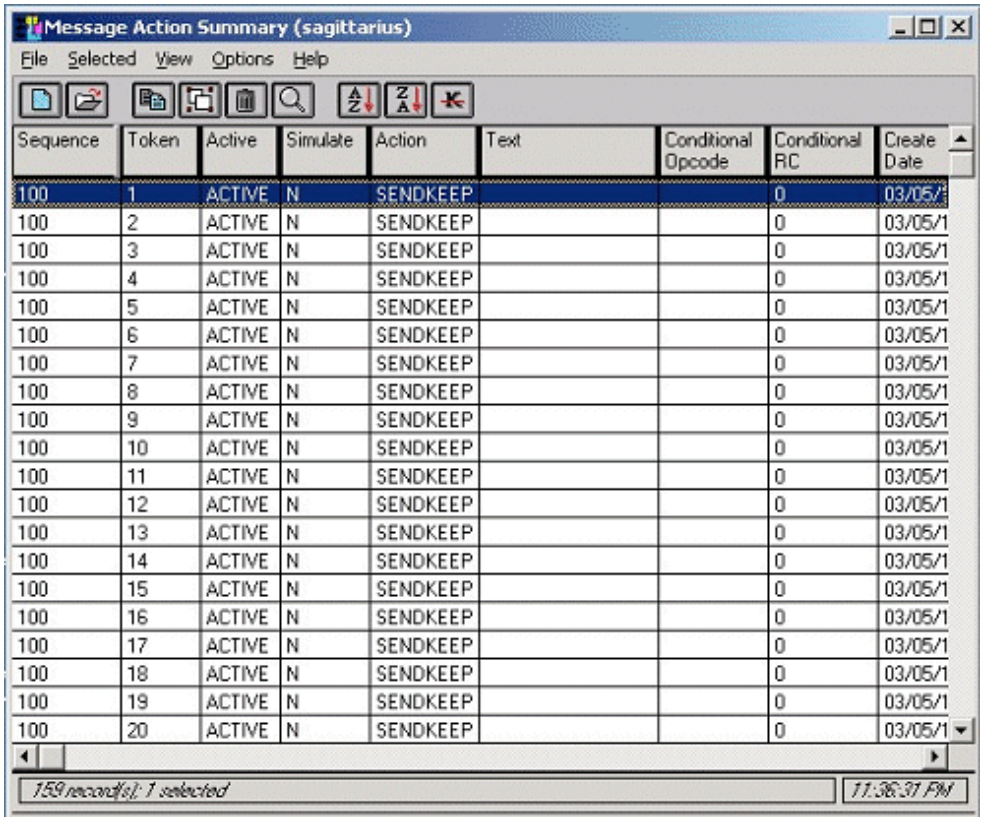
   r3.1の場合

   1. [スタート]メニューから[プログラム]-[Unicenter TND]-[Enterprise Management]-[EM Classic]を選択します。

      →[EM for WindowsNT]ウィンドウが起動します。

   2. [EM for WindowsNT]ウィンドウの[WindowsNT]アイコンをダブルクリックします。
   3. 新しく表示されたウィンドウ内の[Event]アイコンをダブルクリックします。

4. 新しく表示されたウィンドウ内の[Messages Action]アイコンをダブルクリックします。



3. 以下のバッチファイルをコマンドプロンプトに入力し実行することで、Token番号を指定したコマンドの削除を行うことができます。

   実行ファイル名

mpadremove.bat

   格納先

for CA Unicenter Network and Systems Management Adapterインストールディレクトリ¥bin

   書式

mpadremove.bat [Token番号指定]

   例)

   mpadremove.bat 150

   実行する際にmpadremove.batのオプションに削除したいコマンドのToken番号を入力します。

4. 入力決定後コマンドが削除されるので以下の手順でコマンドが削除されたことを確認してください。

   ー r11の場合

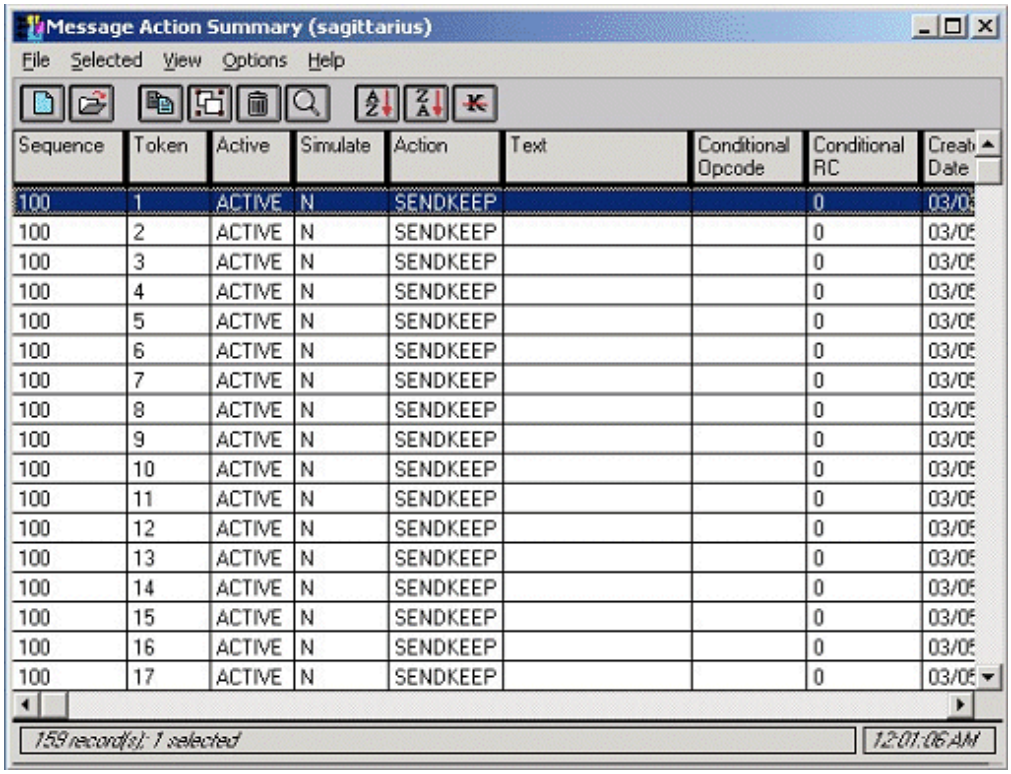
   1. [スタート]メニューから[プログラム]-[Computer Associates]-[Unicenter]-[NSM]-[Enterprise Management]-[EM Classic]を選択します。

      →[EM for Windows]ウィンドウが起動します。

   2. [EM for Windows]ウィンドウの[Windows]アイコンをダブルクリックします。
   3. 新しく表示されたウィンドウ内の[Event]アイコンをダブルクリックします。
   4. 新しく表示されたウィンドウ内の[Messages Action]アイコンをダブルクリックします。

－ r3.1の場合

1. [スタート]メニューから[プログラム]-[Unicenter TND]-[Enterprise Management]-[EM Classic]を選択します。
   →[EM for WindowsNT]ウィンドウが起動します。
2. [EM for WindowsNT]ウィンドウの[WindowsNT]アイコンをダブルクリックします。
3. 新しく表示されたウィンドウ内の[Event]アイコンをダブルクリックします。
4. 新しく表示されたウィンドウ内の[Messages Action]アイコンをダブルクリックします。



アンインストール方法

[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]/[プログラムの追加と削除]/[プログラムと機能]で、以下を選択してアンインストールしてください。

- Systemwalker Centric Manager V13.1.0 Manager of Managers Adapter for CA
- Systemwalker Centric Manager V13.2.0 Manager of Managers Adapter for CA
- Systemwalker Centric Manager V13.3.0 Manager of Managers Adapter for CA

  または

- Systemwalker Centric Manager V13.4.0 Manager of Managers Adapter for CA

なお、CA Unicenter Asset Management連携アダプタも選択インストールしている場合は、CA Unicenter Asset Management連携アダプタもアンインストールされます。

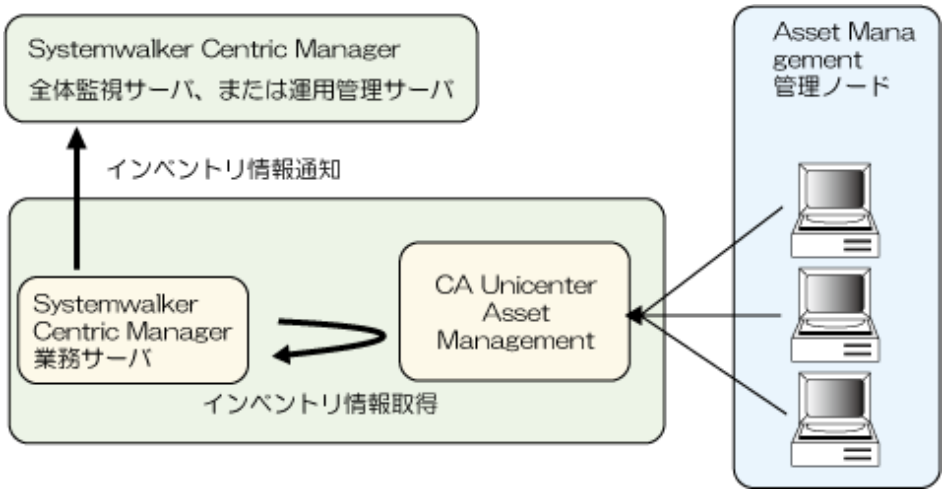
第7章 CA Unicenter Asset Managementとの連携

CA Unicenter Asset Managementとの連携について説明します。

- 連携する機能
- 動作環境
- 導入
- 運用
- 保守
- for CA Unicenter Asset Management連携アダプタのアンインストール

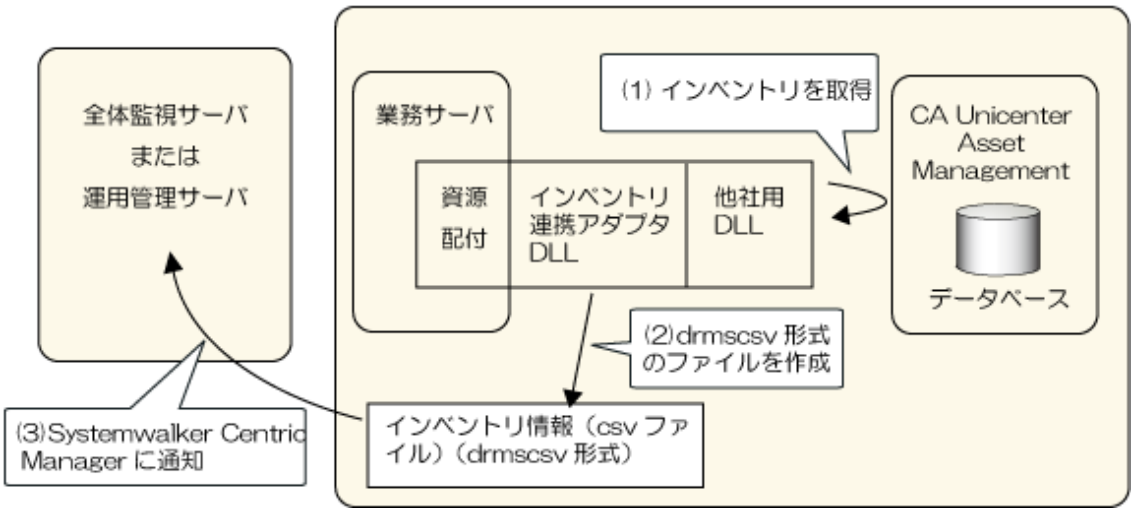
7.1 連携する機能

本機能により、CA Unicenter Asset Managementで管理しているインベントリ情報を、Systemwalker Centric Managerで一括して管理することができます。



7.1.1 インベントリ連携

インベントリ連携アダプタを使用し、CA Unicenter Asset Managementに通知されたインベントリ情報を、全体監視サーバまたは運用管理サーバに通知します。



(1):CA Unicenter Asset Managementからインベントリを取得します。
(2):drmscsv形式でインベントリ情報のファイルが作成されます。インベントリ情報の1項目当たりのデータ長は400バイトまでです。400バイトを超える項目は監視することができません。
(3):インベントリ情報をSystemwalker Centric Managerに通知します。

7.2 動作環境

CA Unicenter Asset Managementとの連携機能の動作環境について説明します。

システム構成

CA Unicenter Asset Managementとの連携機能を使用する場合の構成は以下のとおりです。

	Windows	Solaris
全体監視サーバ	Systemwalker Centric Manager EE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0	Systemwalker Centric Manager EE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0
運用管理サーバ	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0
業務サーバ	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0 CA Unicenter Asset Management r4、またはCA Unicenter Asset Management r11	-

全体監視サーバの設定については、“Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド”の“シングルサイト型全体監視の導入と運用”、および“マルチサイト型全体監視の導入と運用”を参照してください。なお、CA Unicenter Asset Managementとの連携機能は、クラスタ環境には対応していません。

ハードウェア資源

CA Unicenter Asset Managementとの連携機能で必要なハードウェア資源について説明します。

ディスク容量

CA Unicenter Asset Managementとの連携機能が必要なディスク容量を以下に示します。

使用領域	必要な容量
for CA Unicenter Asset Managementのインストール ディレクトリ	1.5MB以上

“前提ソフトウェア”が使用するディスク容量に加えて、上記のディスク容量が必要です。

メモリ使用量

CA Unicenter Asset Managementとの連携機能が必要なメモリ使用量の概略値を、以下に示します。

必要なメモリ使用量 : 20MB以上

“前提ソフトウェア”が使用するメモリ使用量に加えて、上記のメモリ使用量が必要です。

ソフトウェア資源

CA Unicenter Asset Managementとの連携機能で必要なソフトウェア資源について説明します。

動作OS

CA Unicenter Asset Managementとの連携機能の動作OSを以下に示します。

- Windows(R) 2000 Server
- Windows Server(R) 2003, Standard Edition

・ Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition

前提ソフトウェア

CA Unicenter Asset Managementとの連携機能は、以下の3つのソフトウェアがインストールされている業務サーバ上で動作します。

・ Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0(*)/V13.4.0(*)、または
Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0(*)/V13.4.0(*)

*) 業務サーバ(エージェントライセンス)

業務サーバには資源配付機能がインストールされている必要があります。

・ CA Unicenter Asset Management r4、または
CA Unicenter Asset Management r11

・ Systemwalker Centric Manager V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0 Manager of Managers for CA Unicenter Asset Management Adapter

前提ソフトウェアに必要なソフトウェアが別途インストールされている必要があります。詳細は、各ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

留意事項

ネットワーク内のノードのホスト名は小文字で設定してください。また、hostsファイルに定義するホスト名は、必ず一意なホスト名で解決できるように定義してください。

ホスト名に大文字が含まれる場合、または一意なホスト名で解決できない場合は、Systemwalkerコンソールに、1つのノードが複数の異なる名前でノード追加される場合があります。

7.3 導入

7.3.1 for CA Unicenter Asset Management連携アダプタのインストール

インストール前の準備

インベントリ連携アダプタをインストールする前に、以下の製品のインストール、および環境構築が完了している必要があります。

・ Systemwalker Centric Managerの業務サーバ(資源配付機能必須)

・ CA Unicenter Asset Management r4、または
CA Unicenter Asset Management r11

・ データソース(ODBC)

インベントリ連携アダプタが、CA Unicenter Asset Managementのデータベースに接続するために使用するデータソース(ODBC)を以下の手順で作成します。

CA Unicenter Asset Managementのデータベースとして、以下の製品を使用することができますが、ここではAdvantage Ingres 3.0、およびMicrosoft SQL Server 2000に関して説明します。なお、ほかの製品に関しても同様の手順でデータソース(ODBC)を作成することができます。

・ Advantage Ingres 2.5

・ Advantage Ingres 2.6

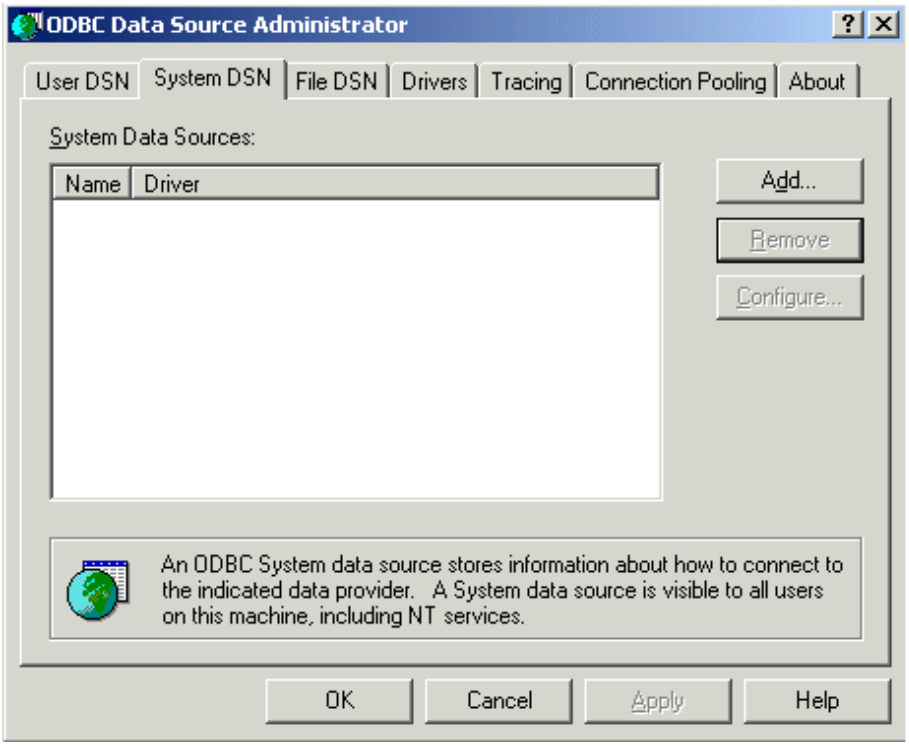
・ Advantage Ingres 3.0

・ Microsoft SQL Server 7

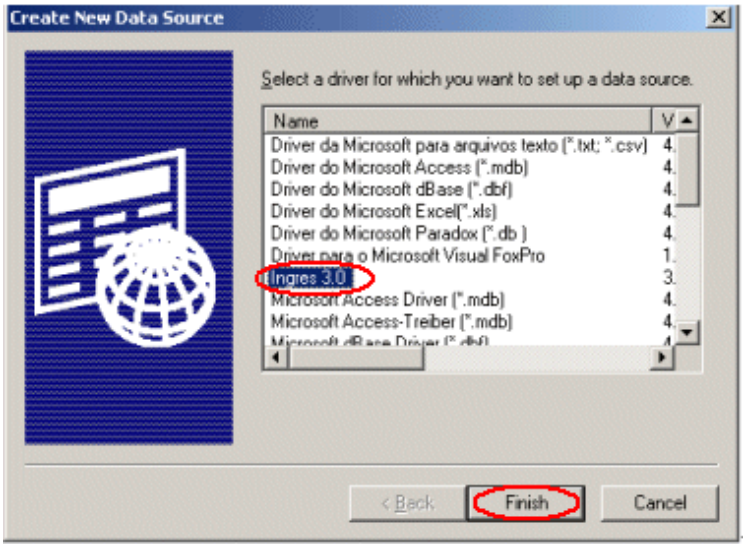
・ Microsoft SQL Server 2000

【Ingres 3.0の場合】

1. [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[管理ツール]メニューより[データソース(ODBC)]を起動し、[System DSN]タブの[Add]ボタンをクリックします。



2. 作成するデータソースのドライバとして[Ingres 3.0]を選択し、[Finish]ボタンをクリックします。



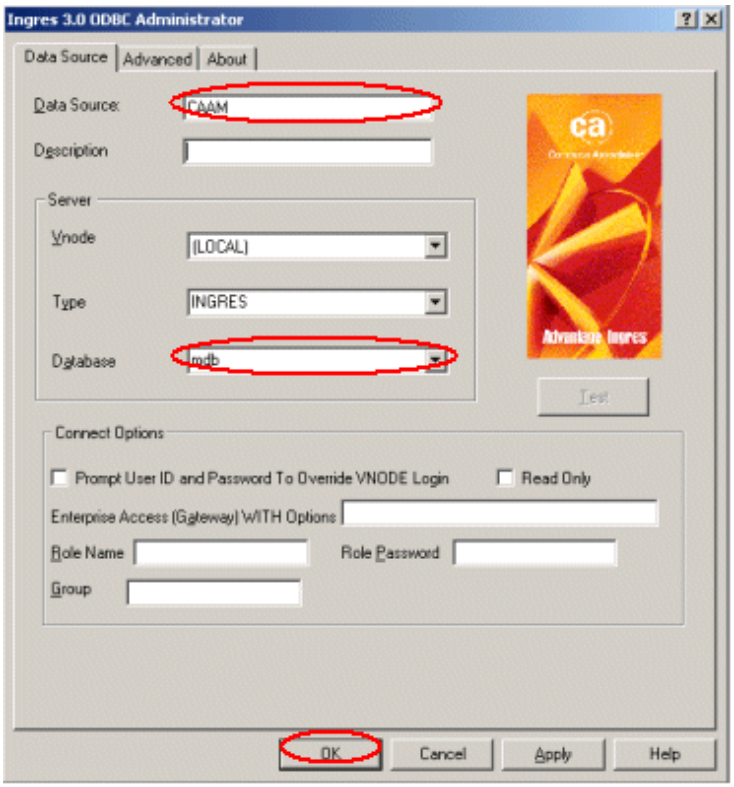
3. [Data Source]には、新しく作成するデータソースの名前(任意)を入力し、[Database]には、以下の文字列を入力します。

CA Unicenter Asset Management r4の場合

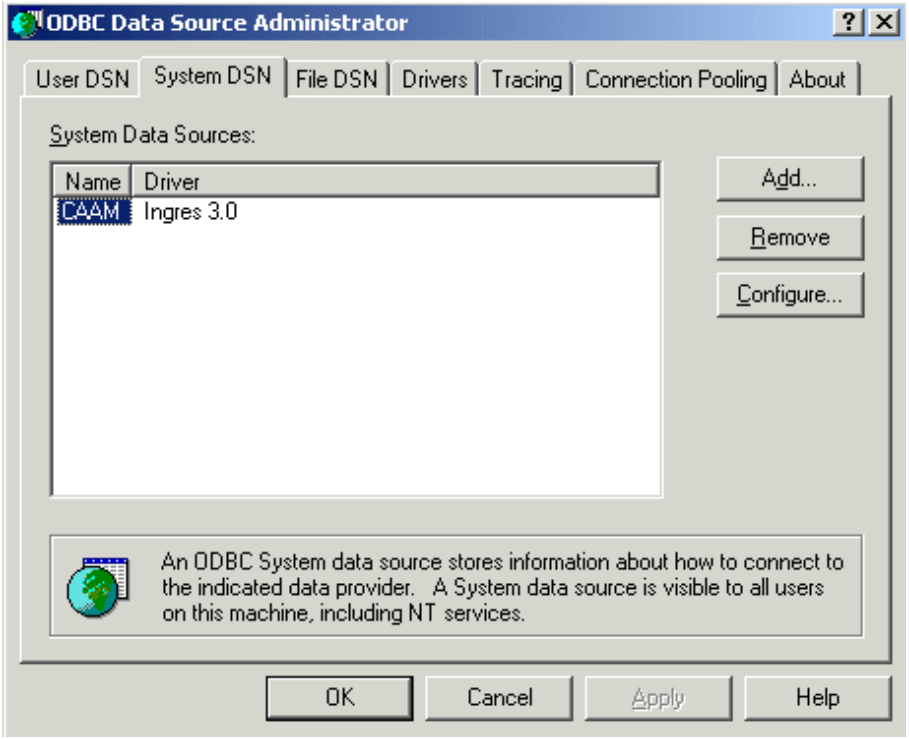
CAAMDB

CA Unicenter Asset Management r11の場合

mdb

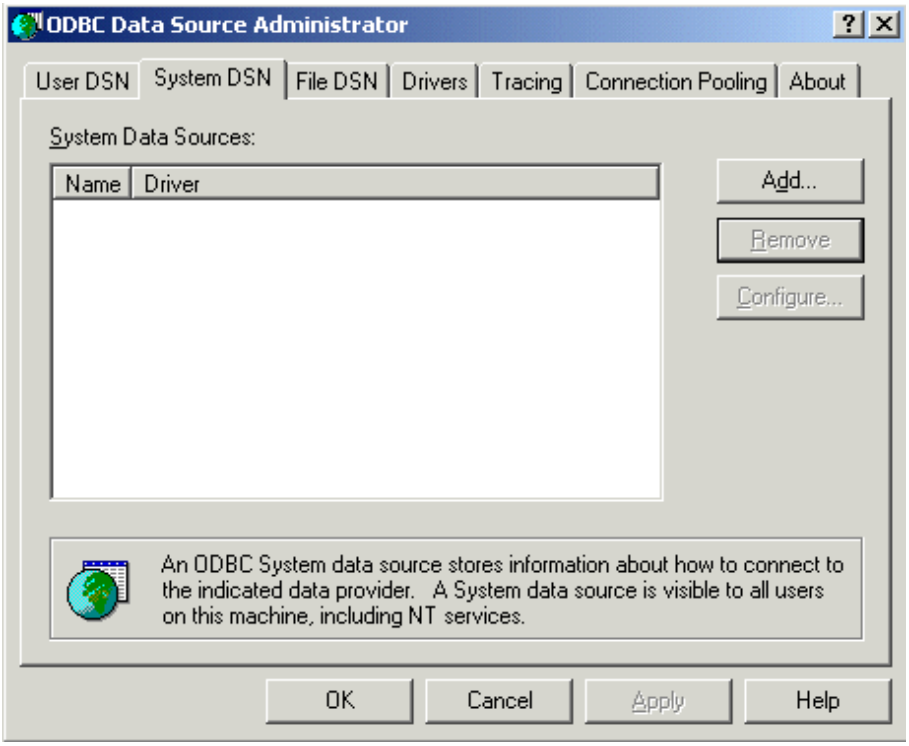


4. [System DSN]タブに作成したデータソースが表示されていることを確認します。

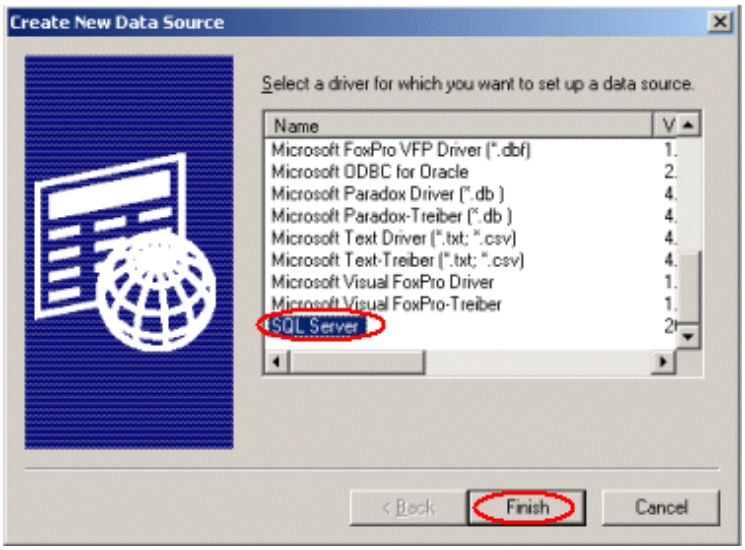


【Microsoft SQL Server 2000の場合】

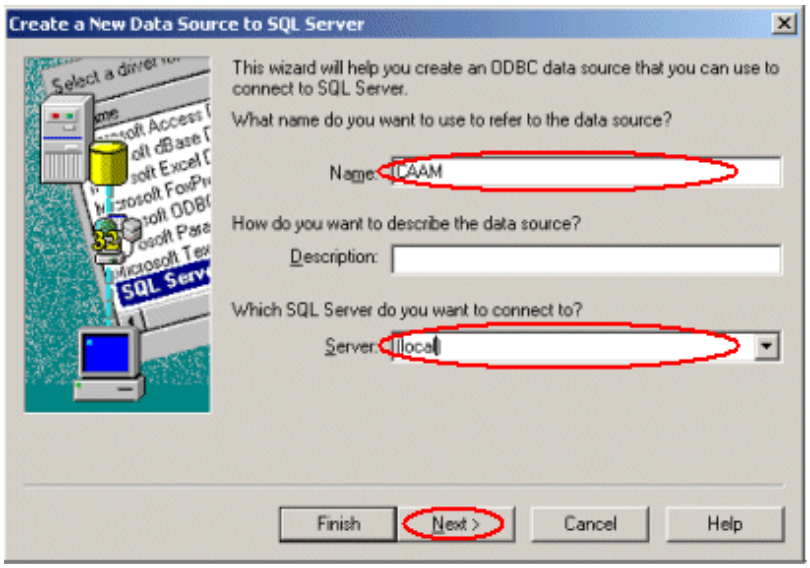
1. [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[管理ツール]メニューより[データソース(ODBC)]を起動し、[System DSN]タブで[Add]ボタンをクリックします。



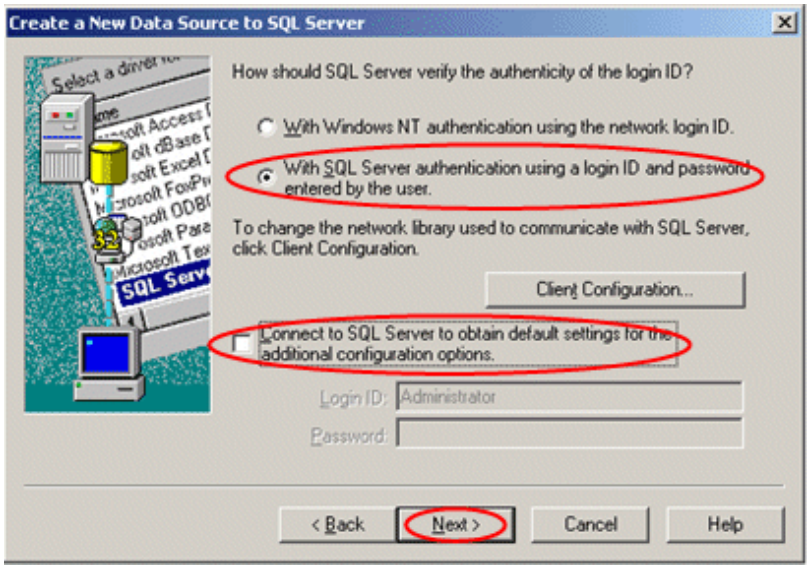
2. 作成するデータソースのドライバとして[SQL Server]を選択し、[Finish]ボタンをクリックします。



3. [Name]には新しく作成するデータソースの名前(任意)を入力し、[Server]には接続するSQL Serverのサーバ名として[local]を選択して[Next>]ボタンをクリックします。



4. [With SQL Server authentication using a login ID and password entered by the user]を選択し、[Connect to SQL Server to obtain default settings for the additional configuration options.]のチェックを外して[Next>]ボタンをクリックします。



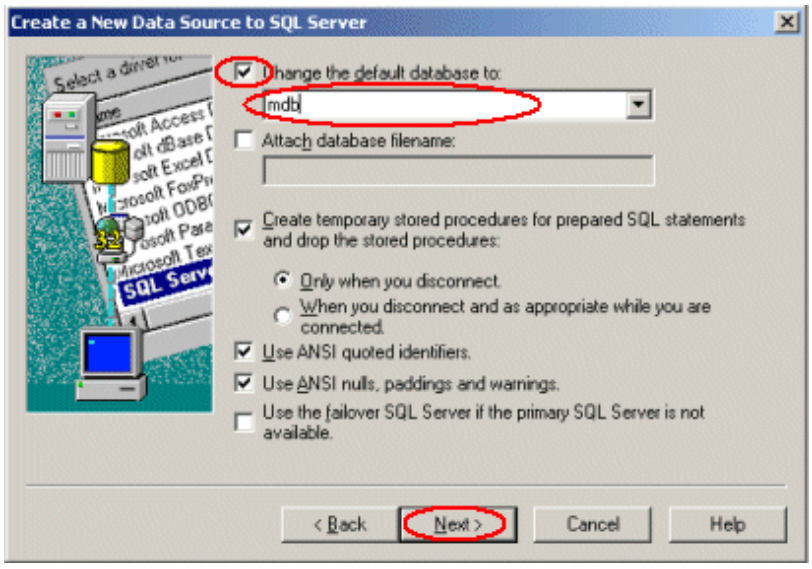
5. [Change the default database to:]をチェックし、データベースとして以下の文字列を入力後、[Next>]ボタンをクリックします。

CA Unicenter Asset Management r4の場合

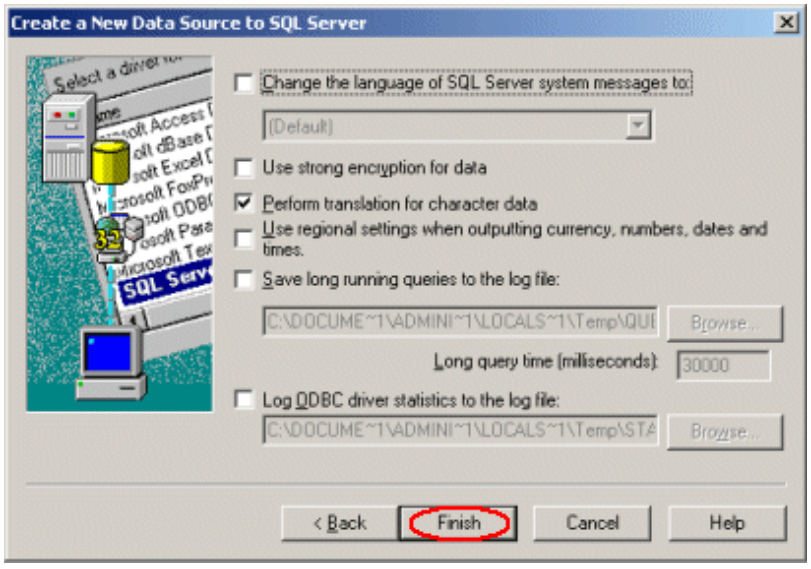
CAAMDB

CA Unicenter Asset Management r11の場合

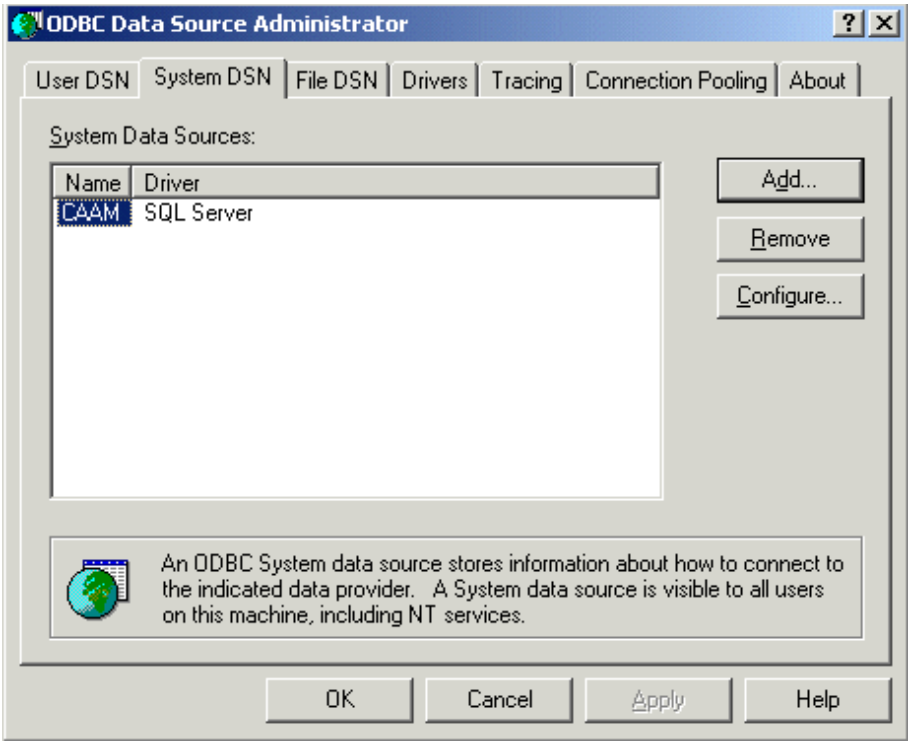
mdb



6. [Finish]ボタンをクリックします。



7. [System DSN]タブに作成したデータソースが表示されていることを確認します。



インストール方法

Windowsの業務サーバにfor CA Unicenter Asset Management連携アダプタをインストールする手順を以下に示します。

1. 以下のコマンドを使用し、Systemwalker Centric Managerのサービスを停止します。

pcentricmgr

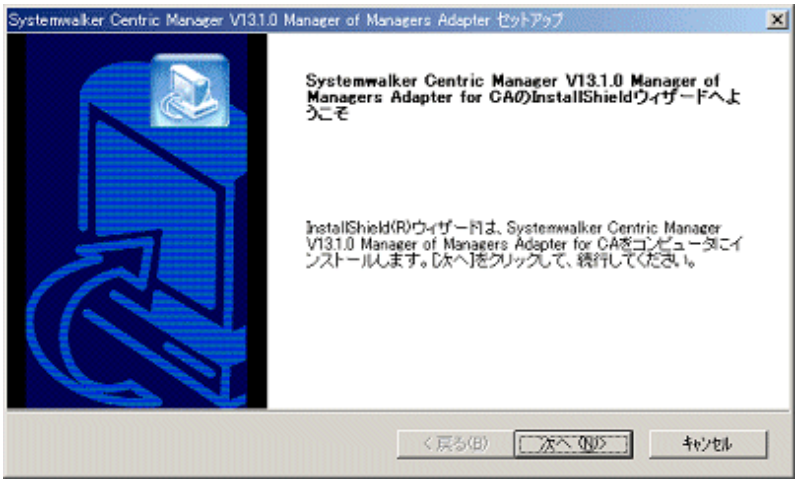
2. 以下からダウンロードし、任意のディレクトリに解凍します。

Systemwalker Centric Manager 技術情報 URL	http://software.fujitsu.com/jp/technical/systemwalker/centricmgr/

3. 解凍したフォルダ内の以下のコマンドを実行します。

swsetup.exe

→インストールウィザードが起動します。

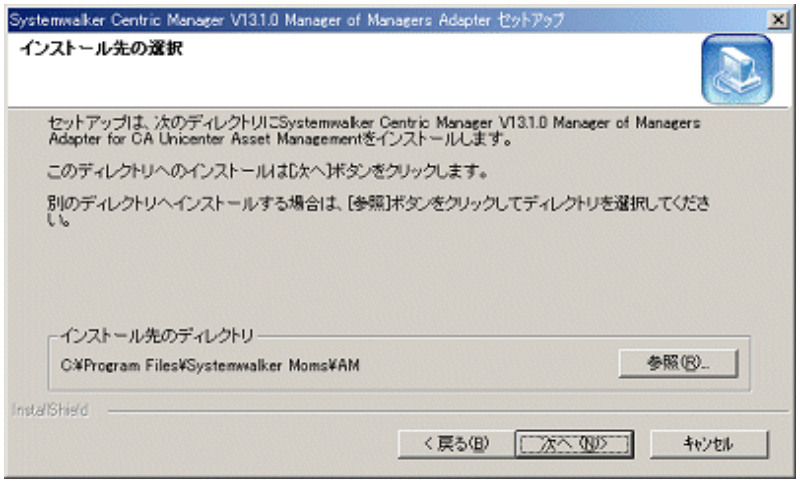


4. [次へ]をクリックします。
5. インストールする機能を選択します。

   →[CA Unicenter Asset Management]を選択します。

   なお、CA Unicenter Network and Systems Management連携アダプタを導入する場合は、[CA Unicenter Network and Systems Management]も選択してください。

6. インストール先ディレクトリを指定します。



   デフォルトインストールディレクトリは以下のとおりです。

Windowsインストールドライブ¥Program Files¥Systemwalker Moms¥AM

7. CA Unicenter Asset Management のバージョンを選択します。

8. データベース接続のために各種設定をします。

   以下を設定してください。

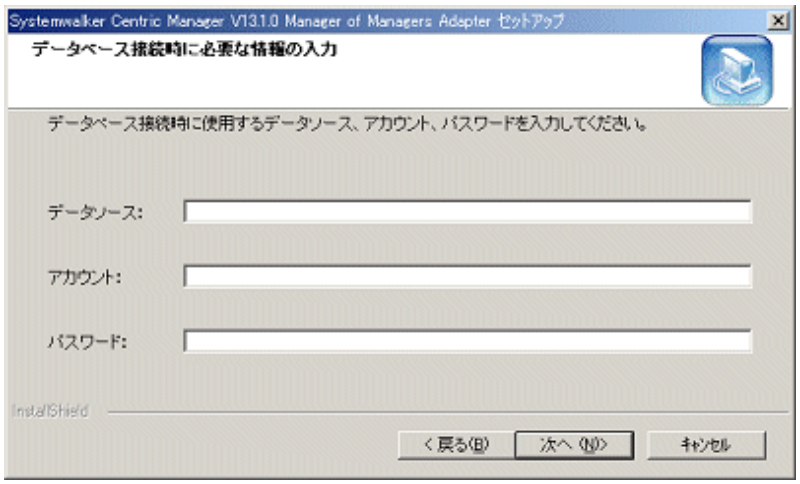
   ー インストール前に作成したデータベース接続用の[データソース]の名前

   ー データベース管理者用の[アカウント]、および[パスワード]

   データソース、アカウントおよびパスワードは64文字以内で指定します。

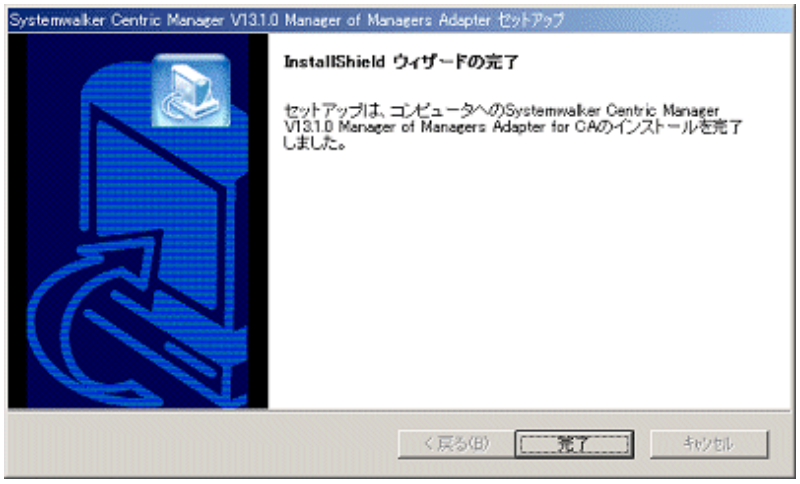
   データベース管理者用の[アカウント]および[パスワード]は、CA Unicenter Asset Managementのインストール時に設定したデータベース管理者用アカウントとパスワードを指定してください。なお、CA Unicenter Asset Managementのインストール方法によっては、設定作業が省略されます。その場合、CA Unicenter Asset Managementのデフォルトのアカウントとパスワードを指定してください。

   デフォルトのアカウントおよびパスワードについては、CA Unicenter Asset Managementのマニュアルを参照してください。



9. インストール確認ダイアログで[はい]を選択します。

10. インストール完了です。



ポイント

データベース接続するための設定は、以下のコマンドで設定することができます。
mpaddbinf(データベース接続情報設定コマンド)

インストール後の設定

1. 定義ファイルのカスタマイズ

   必要に応じて連携定義ファイルをカスタマイズします。連携定義ファイルのカスタマイズ方法については、“CA Unicenter Asset Management連携 インベントリ定義ファイル”を参照してください。なお、連携定義ファイルは次の場所にインストールされます。

   ```
   for CA Unicenter Asset Management Adapterインストールディレクトリ¥etc¥AdpInv.ini
   ```

2. サービスの開始

   以下のコマンドを使用して、Systemwalker Centric Managerのサービスを起動するか、システムを再起動してください

   ```
   scentricmgr
   ```

7.3.2 for CA Unicenter Asset Management連携アダプタのセットアップ

for CA Unicenter Asset Management連携アダプタのインストール後、以下の設定を行います。

サイトフォルダの作成

全体監視サーバでマルチサイト型の運用を行う場合、サイトフォルダを作成する必要があります。全体監視サーバ上で以下の設定を行います。

以下のコマンドを実行します。

【Windows版】

```
MpFwSetOval -f add -h ホスト名 -s サイト名 -p IPアドレス
```

【Solaris版】

```
/opt/systemwalker/bin/MpFwSetOval -f add -h ホスト名 -s サイト名 -p IPアドレス
```

サイト名は、導入時に指定した識別名です。MpFwSetOval(全体監視設定コマンド)の詳細については、“Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル”を参照してください。

インベントリ情報を収集する際の設定について

インベントリ情報を収集するためには、以下に示す手順に従い、Systemwalker Centric Managerの設定を行う必要があります。

全体監視サーバ、または運用管理サーバでの設定

【全体監視サーバの場合】

1. 動作環境の定義

   以下のDRMS編集ファイルに、以下のオプションを設定します。

   【Windows版】

   ```
   Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpdrmssv¥etc¥drms.dat
   ```

   【Solaris版】

   ```
   /opt/FJSVmpsdl/etc/drmsrc
   ```

   オプションの設定内容

   ```
   inv_oval=YES
   inv_notify_dfn=YES
   ```

2. Systemwalker Centric Managerの再起動

   【Windows版】

   Systemwalker Centric Managerを再起動します。

   以下のコマンドを実行し、サービスを停止します。

   ```
   pcentricmgr
   ```

   以下のコマンドを実行し、サービスを起動します。

   ```
   scentricmgr
   ```

   【Solaris版】

   以下のコマンドを実行し、サービスを停止します。

   ```
   /opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
   ```

   以下のコマンドを実行し、サービスを起動します。

   ```
   /opt/systemwalker/bin/scentricmgr
   ```

【運用管理サーバの場合】

1. 動作環境の定義

   DRMS編集ファイルに、以下のオプションを設定します。

   【Windows版】

   ```
   Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpdrmssv¥etc¥drms.dat
   ```

   【Solaris版】

   ```
   /opt/FJSVmpsdl/etc/drmsrc
   ```

   オプションの設定内容

```
inv_notify_dfn=YES
```

2. サービスの再起動

【Windows版】

[サービス]よりMpDrmsを再起動します。

【Solaris版】

```
/opt/systemwalker/bin/drmsd -f
/opt/systemwalker/bin/drmsd -s
```

業務サーバでの設定

1. 業務サーバ自身のサーバ名、ノード名の定義

コマンドプロンプトより、以下のコマンドを実行します。

```
drmsdfn -a sys -k own -n ノード名 -s システム名
```

-a sys:

“sys”を指定します。

-k own:

“own”を指定します。

-n **ノード名**:

自身のIPアドレスを指定します。

全体監視サーバでマルチサイト型の運用を行っている場合は、ノード名に全体監視サーバで認識できるグローバルIPアドレスを指定します。

なお、グローバルIPアドレスに対応するホスト名を、hostsファイル、またはDNSサーバに設定する必要があります。

-s **システム名**:

自身のシステム名(システム識別子)を指定します。システム名は、ASCII(128文字以内)で指定します。

2. インベントリ情報収集スケジュールの設定

ノード設定ファイル(Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpdrmssv¥etc¥WSAGENT.INI)に、以下の設定を行います。

```
[Variables]
InventoryUpdateSchedule= week / MM DD hh mm
```

指定の意味は以下のとおりです。

week:

曜日(日曜日:sun、月曜日:mon、火曜日:tue、水曜日:wed、木曜日:thu、金曜日:fri、土曜日:sat)

MM:

月

DD:

日

hh:

時

mm:

分

week、MM、およびDDにおいて値を設定しない項目には“*”を設定します。また、“/”の前後に空白1文字が必須です。

(例) 毎日9時にインベントリ情報を収集する場合

InventoryUpdateSchedule=* / * * 9 0

3. インベントリ情報通知スケジュールの設定

スケジュール情報ファイルに、以下の設定を行います。スケジュール情報ファイルは、テキスト形式で任意のディレクトリに任意のファイル名で作成します。

```
func=event(inventory),type=time(week / MM DD hh mm),option=”sysname(ノード名)”
```

指定する項目の意味は次のとおりです。

func=event(inventory):

インベントリ情報の通知

type=time(week / MM DD hh mm):

インベントリ情報を通知する契機を指定します。

week:

曜日(日曜日:sun、月曜日:mon、火曜日:tue、水曜日:wed、木曜日:thu、金曜日:fri、土曜日:sat)

MM:

月

DD:

日

hh:

時

mm:

分

week、MM、およびDDにおいて値を設定しない項目には“*”を設定します。また、“/”の前後に空白1文字が必須です。

option=”sysname(ノード名)”:

sysname(ノード名):

ノード名として、通知先サーバのIPアドレスを指定します。

(例) 毎週土曜日の22時にインベントリ情報をサーバに通知する場合

func=event(inventory),type=time(Sat / * * 22 0), option=”sysname(133.162.104.216)”

4. 動作環境の定義

DRMS編集ファイル(Systemwalkerインストールディレクトリ¥mpdrmssv¥etc¥drms.dat)に、以下のオプションを設定します。

```
schedule=スケジュール情報ファイルフルパス名
```

5. サービスの再起動

[サービス]よりMpDrmsを再起動します。

インベントリ情報の更新手順について

“インベントリ情報を収集する際の設定について”で行ったスケジュール設定により、CA Unicenter Asset Managementが管理するインベントリ情報は定期的に全体監視サーバまたは運用管理サーバへ通知されます。

次回の収集スケジュールを待たずにCA Unicenter Asset Managementが管理するインベントリ情報を、全体監視サーバまたは運用管理サーバへ通知する場合には、以下のように実施します。

1. [Systemwalkerコンソール[監視]]を起動します。

2. CA Unicenter Asset Managementがインストールされているノードを単一選択、またはサイトフォルダを単一選択し、以下のどちらかを実行します。

   ー [オブジェクト]メニューの[インベントリ情報の収集]を選択します。

   ー 右クリックして表示されるメニューより[インベントリ情報の収集]を選択します。

   インベントリ情報の収集中は、処理中のダイアログが表示されます。インベントリ情報の収集が完了すると、作業完了を通知するダイアログが表示されます。また、インベントリ情報の収集に失敗した場合、エラーメッセージが表示されます。

なお、全体監視サーバで実施する場合に必要な設定については、“Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド”を参照してください。

ノードを表示する

業務サーバのインストール時に、イベント通知先を全体監視サーバ、または運用管理サーバに設定する必要があります。イベント通知先を設定しても、ノードがSystemwalkerコンソールに表示されない場合は、以下を実施してください。

業務サーバが接続方法に必要時接続を選択している場合

業務サーバで以下のコマンドを実行してください。

```
opaconstat -a
```

業務サーバが接続方法に常時接続を選択している場合

以下の手順で、業務サーバのSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

1. Systemwalker Centric Managerを停止します。

   ```
   pcentricmgr
   ```

2. Systemwalker Centric Managerを起動します。

   ```
   scentricmgr
   ```

Systemwalker Centric ManagerとCA Unicenter Asset Managementのインベントリ情報の比較について

Systemwalker Centric ManagerとCA Unicenter Asset Managementのインベントリ情報について説明します。

- ハードウェアインベントリ情報の形式
- ソフトウェアインベントリ情報の形式

表7.1 ハードウェアインベントリ情報の形式

Systemwalker Centric Manager	CA Unicenter Asset Management	
	項目の有無	テーブル名/フィールド名
文字コード	○	SJIS固定
レコード種別	○	ivh固定
通知受信タイムスタンプ	○	資源配付機能からの時刻を使用
システム名	○	空白
システム種別	○	SERV固定
システムのコメント	×	-
ノード名	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
リザーブ	-	-
BIOSバージョン	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
CPU種別	○	inv_generalinventory_item/item_value_text

Systemwalker Centric Manager	CA Unicenter Asset Management	
	項目の有無	テーブル名/フィールド名
物理メモリ量	○	inv_generalinventory_item/item_value_double
ビデオ種別	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
DOSバージョン	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
OSバージョン	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
CD-ROMドライブ	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
固定ドライブ	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
ネットワークドライブ	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
Aドライブ総容量	○	inv_generalinventory_item/item_value_double
～		
Zドライブ総容量		
全ドライブ総容量	○	Aドライブ総容量～Zドライブ総容量の総和を求め使用する。
Aドライブ空き容量	○	inv_generalinventory_item/item_value_double
～		
Zドライブ空き容量		
全ドライブ空き容量	○	Aドライブ空き容量～Zドライブ空き容量の総和を求め使用する。
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
ノード番号	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
ホスト名	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
IPアドレス	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
ユーザ情報1の項目名	×	-
ユーザ情報1の値		
～		
ユーザ情報10の項目名		
ユーザ情報10の値		
マシン属性	×	-
CPUの数	○	inv_generalinventory_item/item_value_long
画面解像度	○	inv_generalinventory_item/item_value_text

Systemwalker Centric Manager	CA Unicenter Asset Management	
	項目の有無	テーブル名/フィールド名
ネットワークカード	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
サブネットマスク	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
デフォルトゲートウェイ	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
リムーバブルドライブ	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
フロッピードライブ	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
コンピュータ名	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
ドメイン名		
ワークグループ名	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
DNSサーバ名	×	-
ログイン名	×	-
OSビルド番号	○	inv_generalinventory_item/item_value_long
サービスパック	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
クロック数	○	inv_generalinventory_item/item_value_long
CPU詳細	×	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
キーボードタイプ名	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
インストール言語	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
マウスタイプ名	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
マウスボタン数	○	inv_generalinventory_item/item_value_long
OSの登録者	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
OSの登録組織名	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
OSのプロダクトID	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
Windowsディレクトリ名	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
システムディレクトリ名	×	-
色数	×	-
スクリーンセーバ	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
プリンタ情報	○	inv_generalinventory_item/item_value_text

Systemwalker Centric Manager	CA Unicenter Asset Management	
	項目の有無	テーブル名/フィールド名
ネットワーク情報	×	-
ファイルシステム	×	-
ファイルシステム種別	×	-
マウントポイント	×	-
パーティションの容量	×	-
パーティションの空き容量	×	-
リザーブ	-	-
マルチベンダ名	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
マシンモデル	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
マシンシリアル	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
1次キャッシュ	×	-
2次キャッシュ	○	inv_generalinventory_item/item_value_long
スワップサイズ	×	
CD-ROM装置名	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
画面リフレッシュレート	○	inv_generalinventory_item/item_value_long
モニター名	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
ドライブ情報_A?ドライブ情報_Z	×	-
DHCPサーバ名	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
DNSサーバ名2	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
メモリデバイスロケータ		inv_generalinventory_item/item_value_text
メモリサイズ	○	inv_generalinventory_item/item_value_double
リザーブ	-	-
リザーブ	-	-
ディスクベンダ名	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
ディスクモデル	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
ディスク容量	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
ディスクIF	○	inv_generalinventory_item/item_value_text
ディスク説明	×	-

表7.2 ソフトウェアインベントリ情報の形式

Systemwalker Centric Manager	CA Unicenter Asset Management	
	項目の有無	テーブル名/フィールド名
文字コード	○	SJIS固定
レコード種別	○	ivh固定
タイムスタンプ	○	資源配付機能からの時刻を使用
システム名	○	空白
システム種別	○	SERV固定
システムのコメント	×	-

Systemwalker Centric Manager	CA Unicenter Asset Management	
	項目の有無	テーブル名/フィールド名
実行可能ファイル名	○	ca_discovered_software/install_path
更新日時	×	-
製品名	○	ca_software_def/name
V/L	○	ca_software_def/version_label
リザーブ	-	-
ファイルサイズ	×	-
説明	×	-

7.4 運用

7.4.1 インベントリ連携を行う

Systemwalker Centric Manager(業務サーバ)が停止している場合

Systemwalker Centric Manager(業務サーバ)が停止している場合は、インベントリ情報を取得することはできません。

インベントリ連携を行うには、Systemwalker Centric Manager(業務サーバ)を起動してください。インベントリ情報の取得が再開されます。

CA Unicenter Asset Managementが停止している場合

インベントリ情報を格納しているデータベースが停止している場合は、インベントリ情報を取得することはできません。

インベントリ情報を格納しているデータベースを起動することで、次の収集要求からインベントリ情報が取得できるようになります。

注意

CA Unicenter Asset Management自身の稼働監視は行いません。CA Unicenter Asset Managementの稼働監視を行う場合は、アプリケーションの稼働状況の監視機能を利用します。設定については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”を参照してください。監視するプロセス名等は、CA Unicenter Asset Managementのマニュアルを参照してください。

7.5 保守

7.5.1 トレース情報の採取

以下の事象が発生した場合、調査のためにトレース情報を採取します。

- CA Unicenter Asset ManagementのインベントリとSystemwalker Centric Managerのインベントリ情報が正しく連携できない場合

調査用トレースとして以下の資料を採取します。

Windowsインストールディレクトリ¥system32¥f3cvgtad配下のMpAdmomsで始まるファイルすべて

なお、調査する際は、トレース以外に以下の資料が必要になります。

- イベントビューア(イベントログ、アプリケーションログ)
- (for CA Unicenter Asset Managementインストールディレクトリ)¥etc配下のファイルすべて

7.5.2 バックアップ/リストア

for CA Unicenter Asset Management Adapterのカスタマイズした定義ファイルの資源をバックアップする

カスタマイズした定義ファイル(CA Unicenter Asset Management連携 インベントリ定義ファイル)をバックアップすることができます。以下の手順でバックアップを実施してください。

- エクスプローラやコピーコマンドを使用して、対象となる資源を退避します。

for CA Unicenter Asset Management Adapterインストールディレクトリ¥etc 配下すべて
for CA Unicenter Asset Management Adapterインストールディレクトリ¥var 配下すべて

以下の資源はバックアップされません。

ー インストール前に作成したデータソース(ODBC)

ー インストール時に指定したデータソース名、データベース管理者用アカウント、およびパスワード

for CA Unicenter Asset Management Adapterのカスタマイズした定義ファイルの資源をリストアする

バックアップした定義ファイルをリストアすることができます。以下の手順でリストアを実施してください。

- バックアップした対象資源を、エクスプローラやコピーコマンドを使用して上書きコピーします。

7.6 for CA Unicenter Asset Management連携アダプタのアンインストール

アンインストール前の準備

以下のコマンドを使用して、Systemwalker Centric Managerのサービスを停止してください。

pcentricmgr

アンインストール方法

[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]/[プログラムの追加と削除]/[プログラムと機能]で、以下を選択してアンインストールしてください。

- Systemwalker Centric Manager V13.1.0 Manager of Managers Adapter for CA
- Systemwalker Centric Manager V13.2.0 Manager of Managers Adapter for CA
- Systemwalker Centric Manager V13.3.0 Manager of Managers Adapter for CA

  または

- Systemwalker Centric Manager V13.4.0 Manager of Managers Adapter for CA

なお、CA Unicenter Network and Systems Management連携アダプタも選択インストールしている場合は、CA Unicenter Network and Systems Management連携アダプタもアンインストールされます。

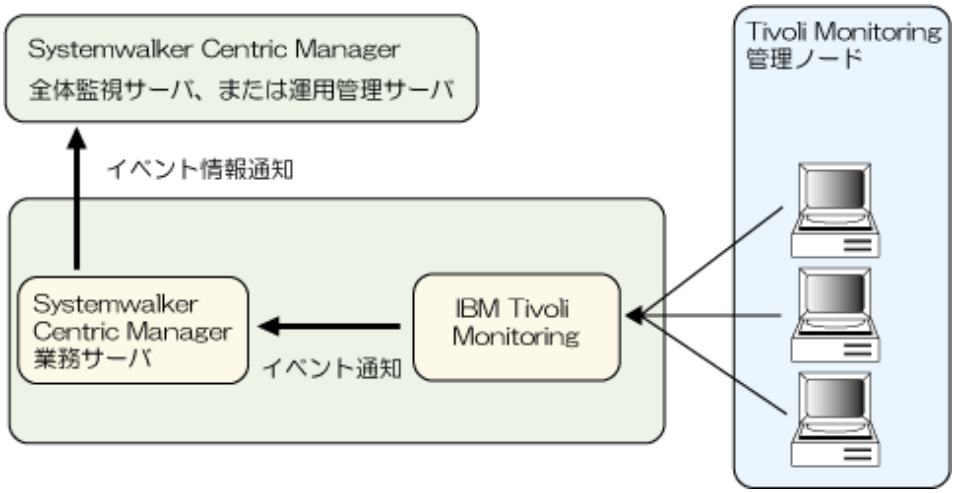
第8章 IBM Tivoli Monitoringとの連携

IBM Tivoli Monitoringとの連携について説明します。

- 連携する機能
- 動作環境
- 導入
- 運用
- 保守
- for IBM Tivoli Monitoring連携アダプタのアンインストール

8.1 連携する機能

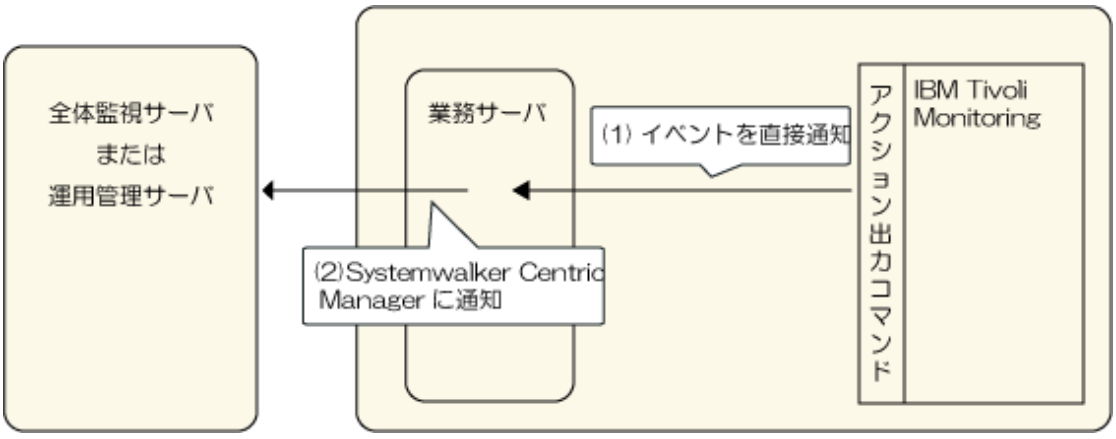
IBM Tivoli Monitoringで監視を行っている情報を、Systemwalker Centric Managerで監視、および管理することができます。



8.1.1 イベントの通知

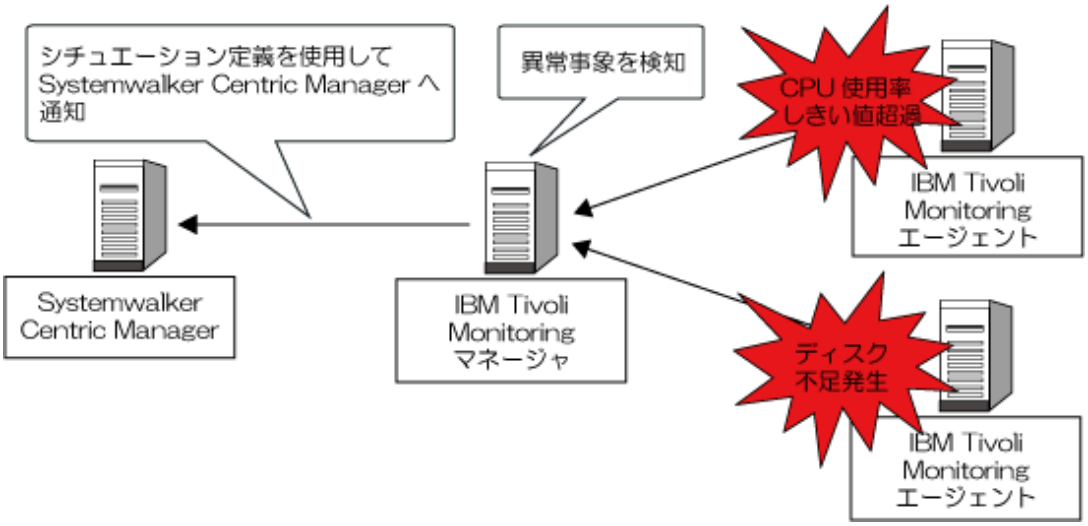
イベント連携アダプタを使用し、IBM Tivoli Monitoringで検出した事象をイベントとして全体監視サーバ、または運用管理サーバに通知します。

以下に、イベント連携アダプタの動作概要を示します。



(1): IBM Tivoli Monitoringからイベントが通知されます。
(2): イベントをSystemwalker Centric Managerに通知します。

イベント連携アダプタは、IBM Tivoli Monitoringが事象を検出した場合、IBM Tivoli Monitoringのシチュエーション定義によるアクション出力コマンドを使用してSystemwalker Centric Managerにイベントを通知します。



シチュエーションは、事象を検出した時にコマンドを実行することが可能なアクションコマンドを実行機能です。
シチュエーションの定義については、“インストール後の作業”を参照してください。

8.2 動作環境

IBM Tivoli Monitoringとの連携機能の動作環境について説明します。

システム構成

IBM Tivoli Monitoringとの連携機能を使用する場合の構成は以下のとおりです。

	Windows	Solaris
全体監視サーバ	Systemwalker Centric Manager EE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0	Systemwalker Centric Manager EE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0
運用管理サーバ	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0
業務サーバ	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0 IBM Tivoli Monitoring 6.1 Windows版	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0 IBM Tivoli Monitoring 6.1 Solaris版

全体監視サーバの設定については、“Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド”の“シングルサイト型全体監視の導入と運用”、および“マルチサイト型全体監視の導入と運用”を参照してください。

なお、IBM Tivoli Monitoringとの連携機能は、クラスタ環境には対応していません。

ハードウェア資源

IBM Tivoli Monitoringとの連携機能で必要なハードウェア資源について説明します。

ディスク容量

IBM Tivoli Monitoringとの連携機能が必要なディスク容量を以下に示します。

使用領域	必要な容量	OS
ITMフォルダ移動先	1MB以上	Windows

使用領域	必要な容量	OS
FJSVmomsディレクトリ移動先	1MB以上	Solaris

“前提ソフトウェア”が使用するディスク容量に加えて、上記のディスク容量が必要です。

メモリ使用量

IBM Tivoli Monitoringとの連携機能が必要なメモリ使用量の概略値を、以下に示します。

必要なメモリ使用量	OS
5MB以上	Windows
2MB以上	Solaris

“前提ソフトウェア”が使用するメモリ使用量に加えて、上記のメモリ使用量が必要です。

ソフトウェア資源

IBM Tivoli Monitoringとの連携機能で必要なソフトウェア資源について説明します。

動作OS

IBM Tivoli Monitoringの動作OSを以下に示します。

- Windows(R) 2000 Server
- Windows Server(R) 2003, Standard Edition
- Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
- Solaris 9/10

前提ソフトウェア

IBM Tivoli Monitoringとの連携機能は、以下の3つのソフトウェアがインストールされている業務サーバ上で動作します。

- Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0(*)/V13.4.0(*)、または
  Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0(*)/V13.4.0(*)

  *) 業務サーバ(エージェントライセンス、イベント監視ライセンス)
- IBM Tivoli Monitoring 6.1 の Tivoli Enterprise Management Server
- Systemwalker Centric Manager V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0 Manager of Managers Adapter for IBM Tivoli Monitoring Adapter

前提ソフトウェアに必要なソフトウェアが別途インストールされている必要があります。詳細は、各ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

留意事項

【OS共通】

1. ネットワーク内のノードのホスト名は小文字で設定してください。また、hostsファイルに定義するホスト名は、必ず一意なホスト名で解決できるように定義してください。ホスト名に大文字が含まれる場合、または一意なホスト名で解決できない場合は、[Systemwalkerコンソール]に、1つのノードが複数の異なる名前でノード追加される場合があります。
2. ネットワーク内のノードのホスト名にマルチバイト文字を使用しないでください。
3. 他社連携アダプタは、IBM Tivoli Monitoringの管理対象システム名からノード名を割り出します。そのため、ネットワーク内のノード名は、IBM Tivoli Monitoringの管理対象システム名が32バイト以内になるように設定してください。IBM Tivoli Monitoringは、管理対象システム名が32バイトを越える場合、ノード名の部分を切り捨てることで32バイトの管理対象システム名にするためです。

【Solaris版固有】

・ 他社連携アダプタのインストール先で動作するTivoli Enterprise Management Server(TEMS)は、システム管理者(スーパーユーザ)権限で起動してください。一般ユーザ権限で起動されている場合、他社連携アダプタのイベント連携は正しく動作しません。

8.3 導入

8.3.1 for IBM Tivoli Monitoring連携アダプタのインストール

インストール前の準備

for IBM Tivoli Monitoring連携アダプタをインストールする前に、以下の製品のインストールおよび環境構築が完了している必要があります。

・ Systemwalker Centric Manager 業務サーバ

・ Tivoli Enterprise Management Server

インストール方法

業務サーバにfor IBM Tivoli Monitoring連携アダプタをインストールする手順を以下に示します。

【Windows版】

1. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerのサービスを停止します。

```
pcentricmgr
```

2. for IBM Tivoli Monitoring連携アダプタを以下からダウンロードし、任意のフォルダに解凍します。

Systemwalker Centric Manager 技術情報 URL	http://software.fujitsu.com/jp/technical/systemwalker/centricmgr/

解凍先には、ITMフォルダが作成されます。

```
ITM
  + bin
  |   + mpadevtalert.exe
  |   + mpaditmalert.dll
  |            :
  + etc
```

3. 解凍して作成されたITMフォルダを任意のフォルダに移動します。移動する際は、パスにスペースを含まない場所に移動してください。

例:

```
C:¥Moms¥ITM
```

4. セットアップコマンドmpaditmsetup.batを実行します。

```
ITMフォルダ移動先¥ITM¥bin¥mpaditmsetup.bat
```

【Solaris版】

1. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerのサービスを停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

2. for IBM Tivoli Monitoring連携アダプタを以下からダウンロードし、任意のフォルダに解凍します。

Systemwalker Centric Manager 技術情報 URL	http://software.fujitsu.com/jp/technical/systemwalker/centricmgr/

解凍先には、FJSVmomsディレクトリが作成されます。

```
FJSVmoms
  ＋ITM
      ＋ bin
      |   ＋ mpadevtalert.exe
      |   ＋ libmpaditmalert.so
      |            :
      ＋ etc
```

3. 解凍して作成されたFJSVmomsディレクトリを任意のディレクトリに移動します。

   例:

   ```
   /opt/FJSVmoms
   ```

4. セットアップコマンドmpaditmsetup.shを実行します。

   ```
   FJSVmomsディレクトリ移動先/FJSVmoms/ITM/bin/mpaditmsetup.sh
   ```

以上でfor IBM Tivoli Monitoring連携アダプタのインストールは完了です。

インストール後の作業

1. Systemwalker Centric Managerのイベント(syslog)監視機能を無効化します。

   【Windows版】

   イベントログ監視設定ファイル(Systemwalkerインストールディレクトリ¥MpWalker.dm¥mpopagt¥etc¥opaevt) の以下の設定を“OFF”に変更します。

   ー【変更前】

   ```
   MPOP_ENABLE_EVTLOG ON
   ```

   ー【変更後】

   ```
   MPOP_ENABLE_EVTLOG OFF
   ```

   【Solaris版】

   syslog.confファイルに含まれるSystemwalker Centric Manager用の定義を、以下のどちらかの方法で削除または無効化します。

   ー 削除する場合

   /etc/syslog.confに定義されている/var/opt/FJSVsagt/fifo/slgの定義を削除します。

   ー 無効化する場合

   /etc/syslog.confに定義されている /var/opt/FJSVsagt/fifo/slgの定義の先頭に#を入れます。

2. 定義ファイルのカスタマイズ

   必要に応じて連携定義ファイルをカスタマイズします。連携定義ファイルのカスタマイズ方法については、“IBM Tivoli Monitoring 連携 イベント定義ファイル”を参照してください。なお、連携定義ファイルは、以下の場所に存在します。

   【Windows版】

   ```
   ITMフォルダ移動先¥ITM¥etc¥AdpEvt.ini
   ```

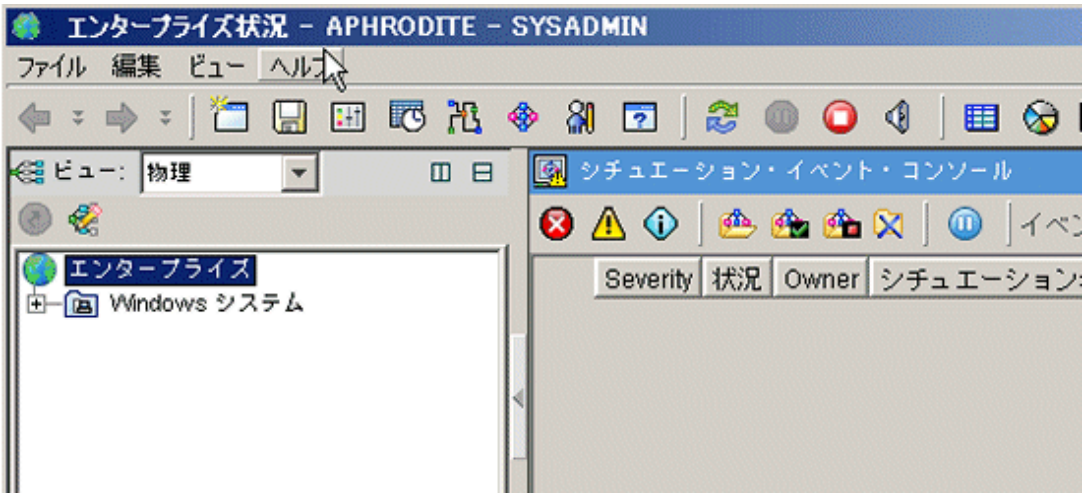
   【Solaris版】

   ```
   FJSVmomsディレクトリ移動先/FJSVmoms/ITM/etc/AdpEvt.ini
   ```

3. IBM Tivoli Monitoringが検出した事象をSystemwalker Centric Managerに通知するために、IBM Tivoli Monitoringのシチュエーション定義を作成します。手順は以下のとおりです。

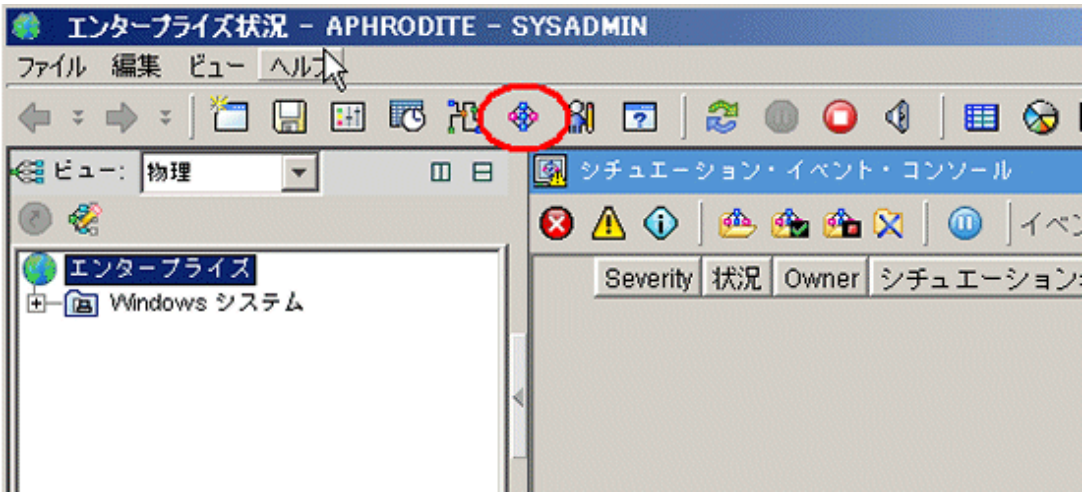
   a. Tivoli Enterprise Portalを起動します。

      [スタート]メニューの[プログラム]-[IBM Tivoli Monitoring]-[Tivoli Enterprise Portal]を選択します。
      →[エンタープライズ状況]画面が表示されます。

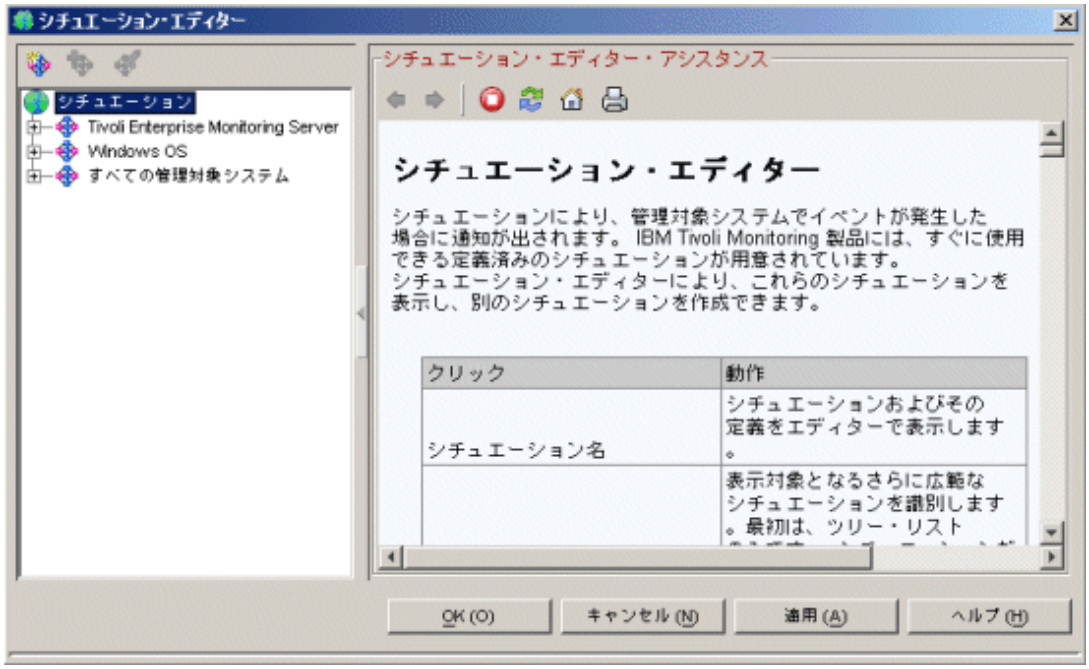


   b. シチュエーション・エディターを起動します。

      以下の[シチュエーション・エディター]ボタンをクリックします。



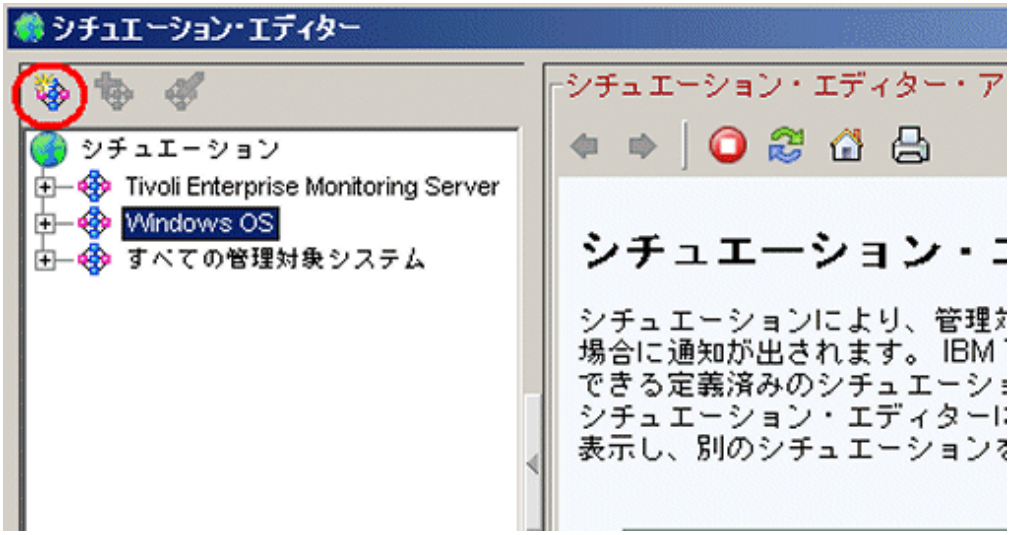
→[シチュエーション・エディター]が表示されます。



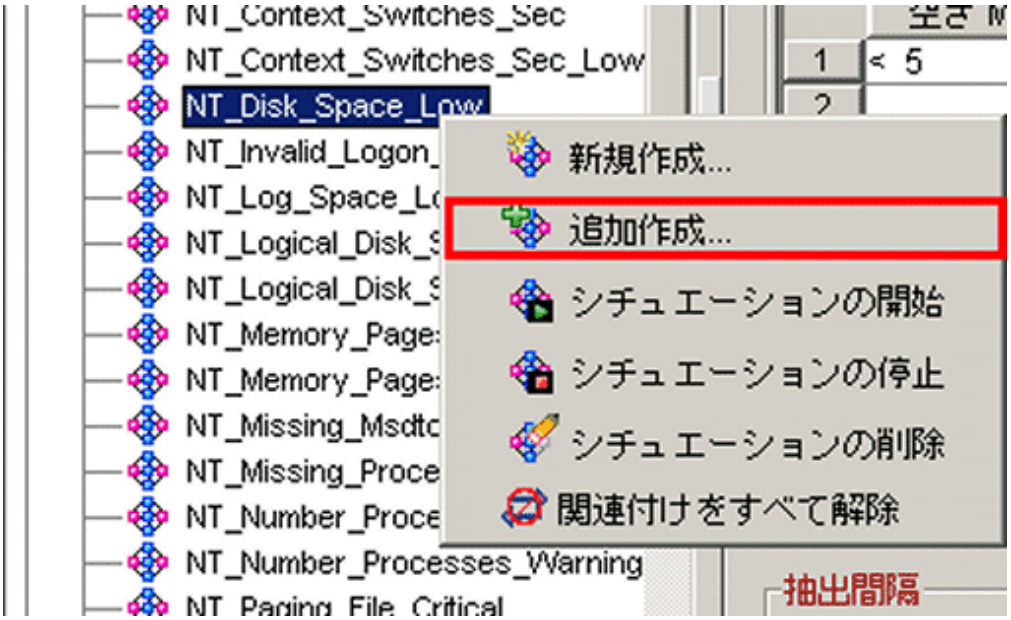
c. 監視する事象をシチュエーション・エディターで定義します。

1. 新しく定義する場合は、[シチュエーションの新規作成]ボタンをクリックします。すでに監視している事象をSystemwalker Centric Managerにも通知する、またはすでに定義済みのシチュエーションを元に作成する場合は、コピー元のシチュエーションを選択し右クリックメニューより[追加作成]を選択します。

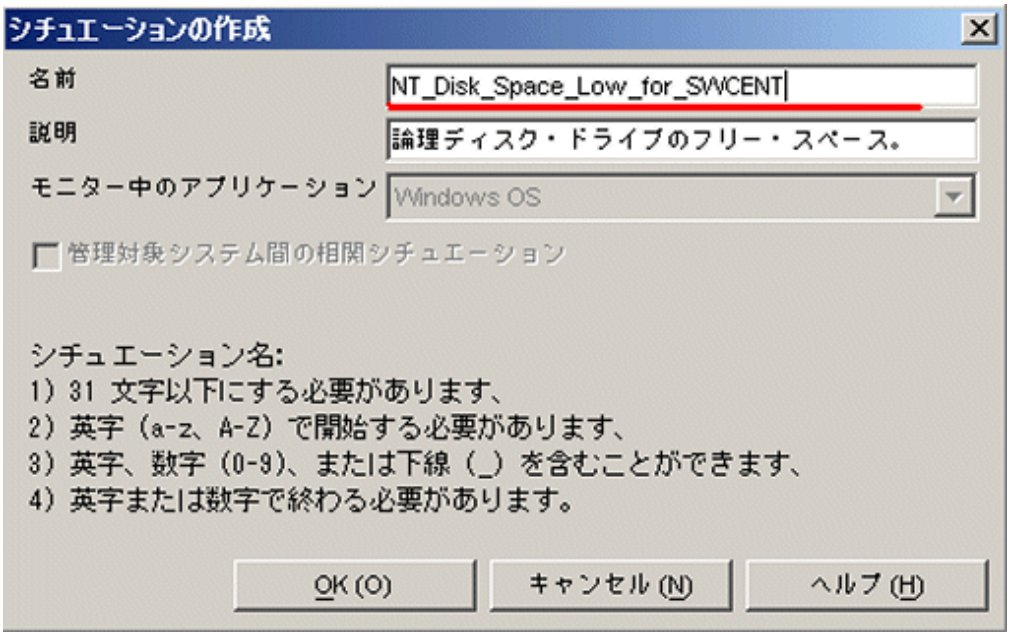
   【新しくシチュエーション定義を作成する場合】



【定義済みのシチュエーションを元に作成する場合】



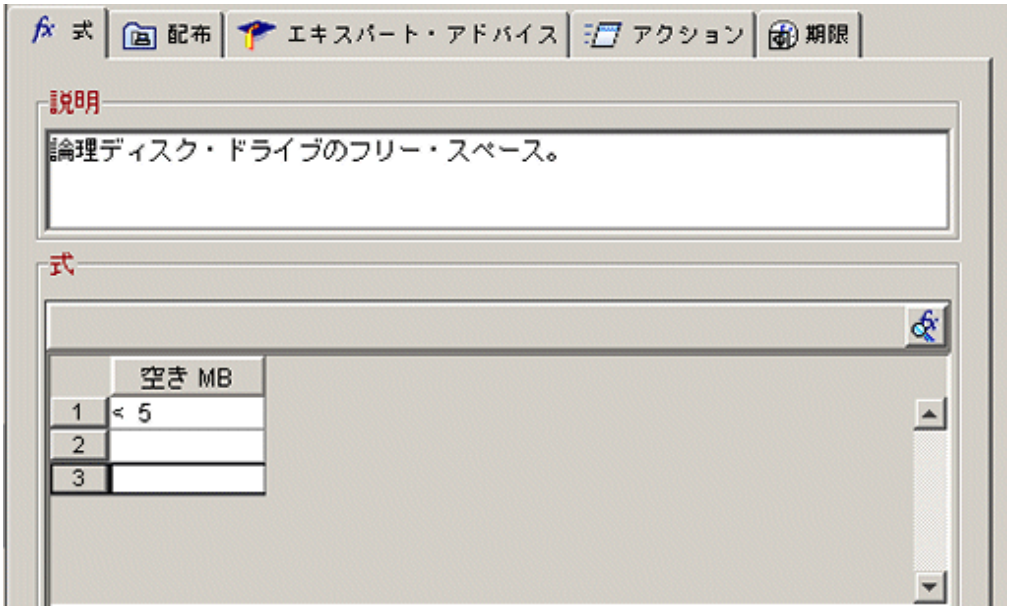
2. シチュエーションに任意の名前をつけ[OK]ボタンをクリックします。



3. シチュエーションを定義します。

【監視する条件】

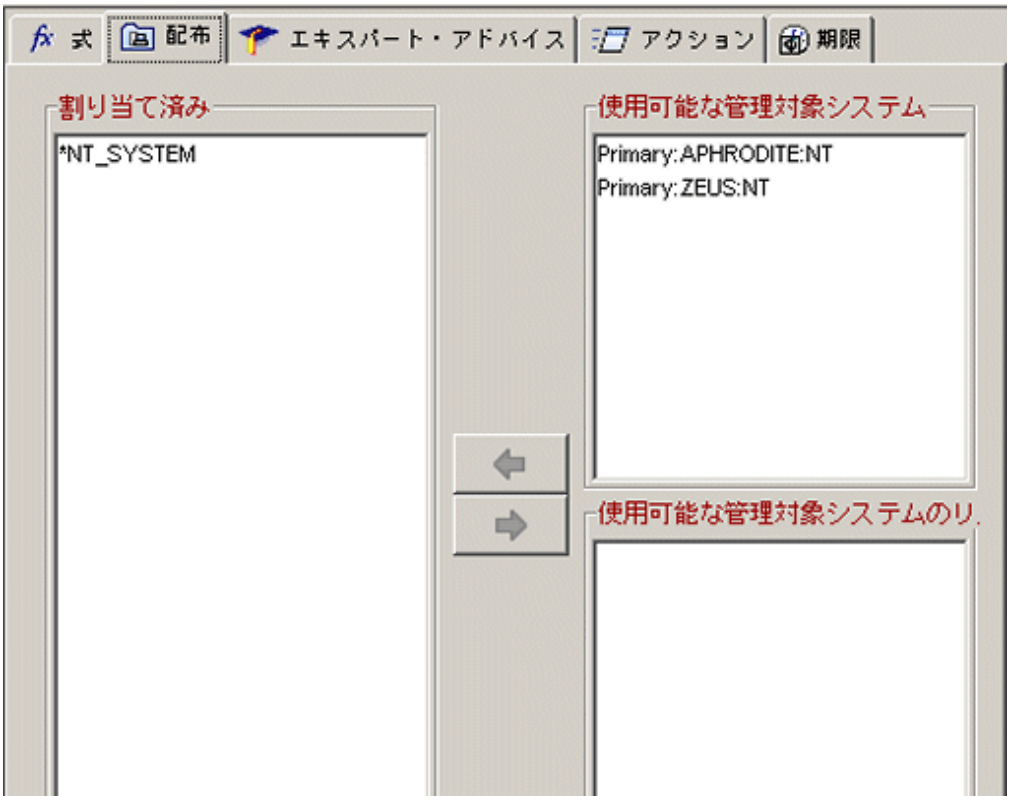
以下の例は、ディスクスペースが5MBより少ない場合を定義しています。



【配付先】

以下の例は、配付先として、[*NT_SYSTEM]を指定しています。

[*NT_SYSTEM]とは[使用可能な管理対象システムのリスト]であり、詳しくは、IBM Tivoli Monitoringのヘルプを参照ください。



4. アクションの設定を行います。

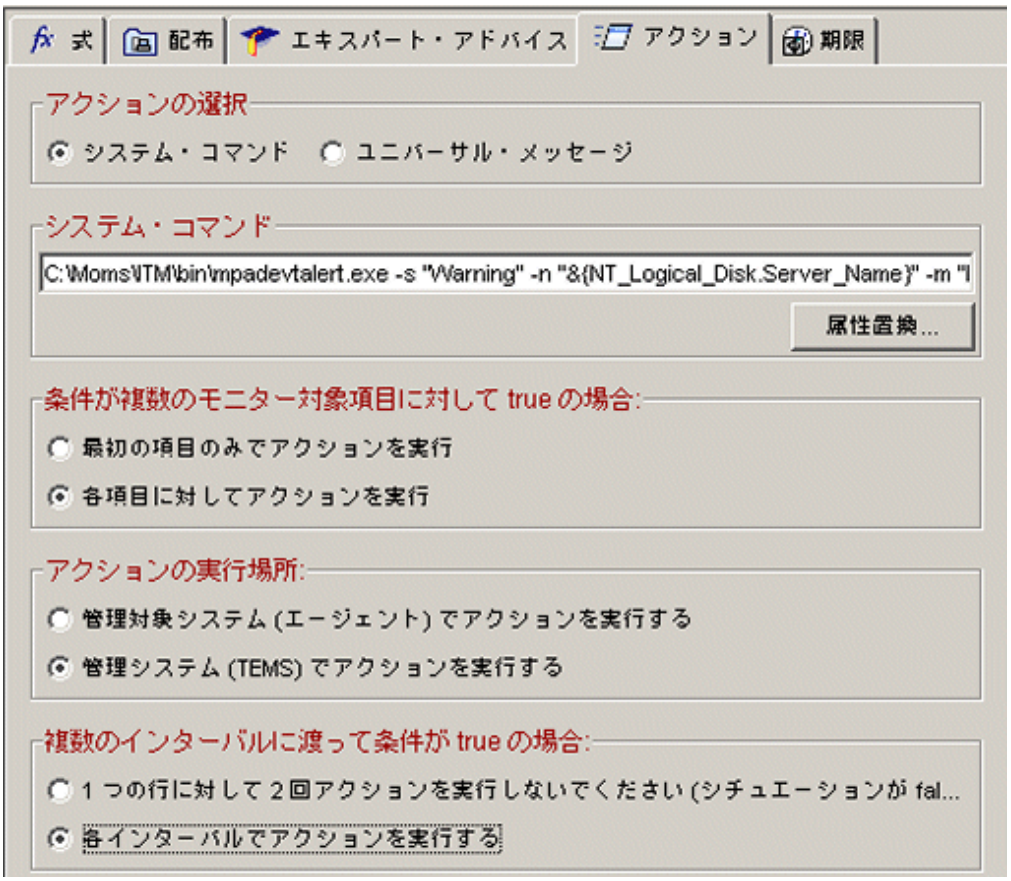
   アクションの選択:
   [システム・コマンド]を選択します。

システム・コマンド:
mpadevtalert.exeを指定します。パラメータに関しては、“mpadevtalert(IBM Tivoli Monitoringイベント連携コマンド)”を参照の上、任意に設定してください。

条件が複数のモニター対象項目に対してtrueの場合:
[各項目に対してアクションを実行]にチェックすることを推奨します。

アクションの実行場所:
[管理システム(TEMS)でアクション実行する]をチェックしてください。

複数のインターバルに渡って条件がtrueの場合:
[各インターバルでアクションを実行する]にチェックすることを推奨します。



5. [OK]ボタンをクリックすることで即時反映されます。

d. 監視する事象に対して、前項「監視する事象をシチュエーション・エディターで定義します。」の手順を繰り返します。

4. サービスを起動します。

以下のコマンドでSystemwalker Centric Managerのサービスを起動するか、システムを再起動してください。

【Windows版】

```
scentricmgr
```

【Solaris版】

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

8.3.2 for IBM Tivoli Monitoring連携アダプタのセットアップ

for IBM Tivoli Monitoring連携アダプタのインストール後、以下の設定を行います。

サイトフォルダの作成

全体監視サーバでマルチサイト型の運用を行う場合、サイトフォルダを作成する必要があります。全体監視サーバ上で以下の設定を行います。

1. サイト名の登録

   全体監視サーバ上で以下のコマンドを実行します。

   【Windows版】

   ```
   MpFwSetOval -f add -h ホスト名 -s サイト名 -p IPアドレス
   ```

   【Solaris版】

   ```
   /opt/systemwalker/bin/MpFwSetOval -f add -h ホスト名 -s サイト名 -p IPアドレス
   ```

   サイト名は、導入時に指定した識別名です。MpFwSetOval(全体監視設定コマンド)の詳細については、“Systemwalker Centric Managerリファレンスマニュアル”を参照してください。

2. Systemwalker Centric Managerの再起動

   全体監視サーバのSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

   【Windows版】

   Systemwalker Centric Managerを停止します。

   ```
   pcentricmgr
   ```

   Systemwalker Centric Managerを起動します。

   ```
   scentricmgr
   ```

   【Solaris版】

   Systemwalker Centric Managerを停止します。

   ```
   /opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
   ```

   Systemwalker Centric Managerを起動します。

   ```
   /opt/systemwalker/bin/scentricmgr
   ```

イベント通知先の設定

業務サーバのインストール時に、イベント通知先を全体監視サーバまたは運用管理サーバに設定する必要があります。イベント通知先を設定しても、ノードが[Systemwalkerコンソール]に表示されない場合は、以下の方法で登録してください。

- 業務サーバが接続方法に必要時接続を選択している場合

  業務サーバで以下のコマンドを実行してください。

  【Windows版】

  ```
  opaconstat -a
  ```

  【Solaris版】

  ```
  /opt/systemwalker/bin/opaconstat -a
  ```

- 業務サーバが接続方法に常時接続を選択している場合

  以下の手順で、業務サーバのSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

  【Windows版】

1. Systemwalker Centric Managerを停止します。

```
pcentricmgr
```

2. Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
scentricmgr
```

【Solaris版】

1. Systemwalker Centric Managerを停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

2. Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

8.4 運用

8.4.1 イベントの通知を行う

8.4.1.1 検出されたノードをフォルダへ振り分ける

for IBM Tivoli Monitoring連携アダプタがイベント連携することで通知されたイベントにより新たにノードが検出された場合、検出されたノードは[新ノード]フォルダに作成されます。

フォルダに振り分けを行う場合は、以下の手順でフォルダへの振り分けを行います。

1. [Systemwalkerコンソール]を起動します。
2. [ファイル]メニューから[機能選択]-[編集]を選択し、編集モードにします。
3. [ファイル]メニューから[新ノードの振り分け]を選択し、検出されたノードをフォルダへ振り分けます。
4. [ファイル]メニューから[機能選択]-[監視]を選択し、監視モードに戻します。

なお、IPアドレスが“0.0.0.0”で追加されたノードに関しては、正しいIPアドレスを入力することで、サブネットフォルダへ振り分けることができます。
ただし、全体監視サーバでマルチサイト型の運用を行っている場合は、[新ノード]フォルダに作成されたノードを[新ノードの振り分け]を行うことでサイトフォルダに振り分け、その後でIPアドレスを入力してください。

IPアドレスを入力する場合は、以下の手順で入力を行います。

1. [Systemwalkerコンソール]を起動します。
2. [ファイル]メニューから[機能選択]-[編集]を選択し、編集モードにします。
3. IPアドレスが“0.0.0.0”のノードを選択します。
4. [ファイル]メニューから[プロパティ]を選択し、ノードプロパティ画面を表示します。
5. インタフェースタブで、正しいIPアドレス、およびサブネットマスクを設定します。
6. [ファイル]メニューから[機能選択]-[監視]を選択し、監視モードに戻します。

8.4.1.2 監視を再開する

運用中に、イベントの通知ができない場合、Systemwalker Centric Manager、IBM Tivoli Monitoringの停止が考えられます。これらの現象に対する運用への影響と対処方法について説明します。

IBM Tivoli Monitoring が停止している場合

IBM Tivoli Monitoring が停止しているため、イベント通知は行われません。

IBM Tivoli Monitoringを起動してください。イベント通知が再開されます。

注意

本機能ではIBM Tivoli Monitoringの稼働監視は行いません。IBM Tivoli Monitoringの稼働監視を行う場合は、アプリケーションの稼働状況の監視機能を利用します。設定については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”を参照してください。監視するプロセス名などはIBM Tivoli Monitoringのマニュアルを参照してください。

Systemwalker Centric Manager(業務サーバ)が停止している場合

Systemwalker Centric Manager(業務サーバ)が停止している場合も、IBM Tivoli Monitoring で出力したイベントを通知します。Systemwalker Centric Managerが停止している間に通知したイベントは500件まで受け付けられますが、500件を超えると古いイベントから順に破棄されます。通知したイベントが破棄された場合、Systemwalker Centric Manager起動時に、以下に示すイベントログが記録されます。

ID	205
テキスト	監視対象メッセージを破棄しました (データ数=XXX) (連携製品においてSystemwalker Centric Manager起動前の監視対象メッセージが500件を超えました)

XXX:破棄データ数

8.5 保守

8.5.1 トレース情報の採取

以下の事象が発生した場合、調査用トレース情報を採取してください。

- IBM Tivoli Monitoring のイベントとSystemwalker Centric Managerのイベントの情報が正しく連携できない場合

調査用トレースとして、以下の情報を採取します。

Solaris版の場合、採取する資料の中には、スーパーユーザ権限を必要とする資料が含まれているため、資料を採取する際は、スーパーユーザで採取してください。

【Windows版】

- Windowsインストールディレクトリ¥system32¥f3cvgtad 配下のMpAdmomsで始まるすべてのファイル

【Solaris版】

- /var/opt/FJSVftlc/trc 配下のMpAdmomsで始まるすべてのファイル

なお、調査する際には、トレース以外に以下の資料が必要になります。

【Windows版】

- イベントビューア(イベントログ、アプリケーションログ)
- (ITMフォルダ移動先)配下のファイルすべて

【Solaris版】

- /var/adm配下のmessagesで始まるファイルすべて
- (FJSVmomsディレクトリ移動先)配下のファイルすべて

8.5.2 バックアップ/リストア

バックアップする資源はありません。

8.6 for IBM Tivoli Monitoring連携アダプタのアンインストール

アンインストール前の準備

1. Systemwalker Centric Managerのサービスまたはデーモン停止してください。

   【Windows版】

   ```
   pcentricmgr
   ```

   【Solaris版】

   ```
   /opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
   ```

2. シチュエーション定義の削除

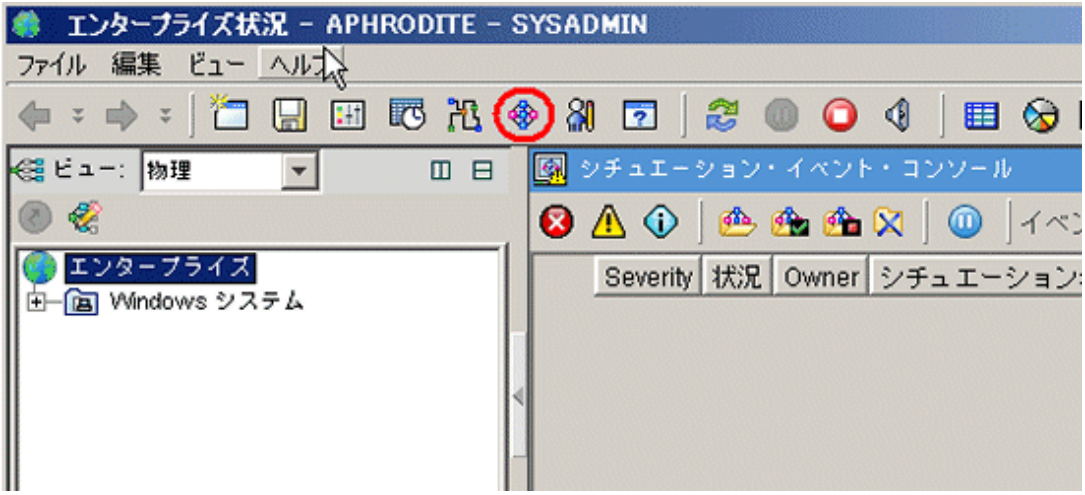
   インストール時に定義したシチュエーション定義を削除します。
   手順は次のとおりです。

   a. Tivoli Enterprise Portalを起動します。

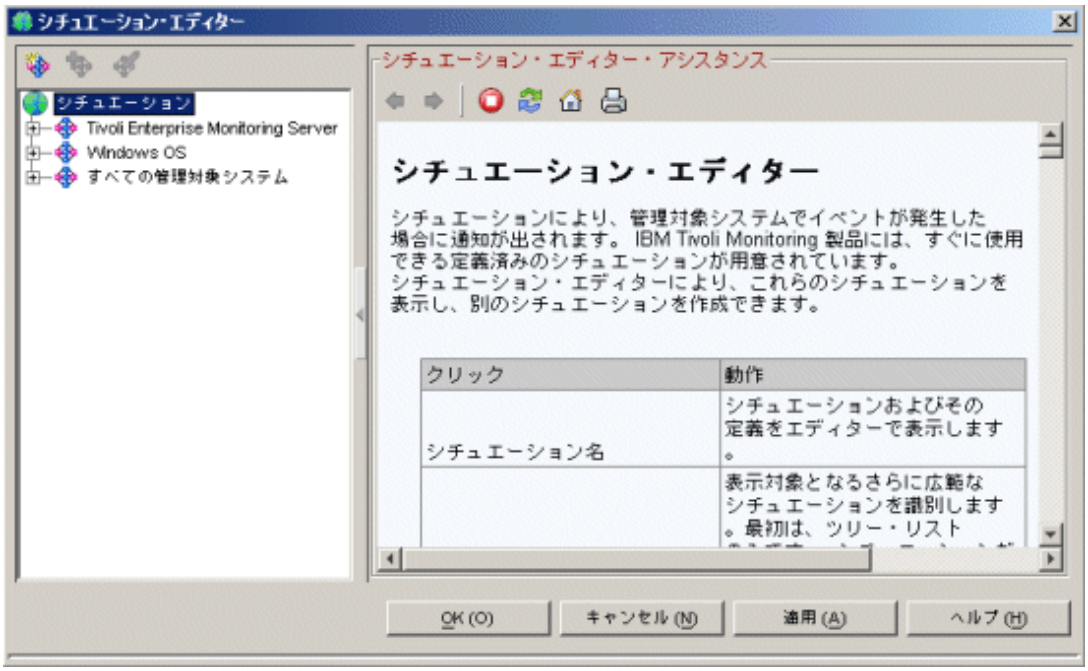
      [スタート]メニューの[プログラム]-[IBM Tivoli Monitoring]-[Tivoli Enterprise Portal]を選択します。
      →[エンタープライズ状況]画面が表示されます。

   b. シチュエーション・エディターを起動します。

      以下の[シチュエーション・エディター]ボタンをクリックします。



→シチュエーション・エディターが表示されます。



c. インストール時に作成したシチュエーション定義を選択し、右クリックメニューより[シチュエーションの削除]を選択します。

d. インストール時に作成したシチュエーション定義すべてに対してa～cを繰り返します。

アンインストール方法

【Windows版】

1. 以下のコマンドを実行し、インストール時に行ったセットアップを解除します。

   ITMフォルダ移動先¥ITM¥bin¥mpaditmremove.bat

2. インストール時にコピーしたファイルおよびディレクトリをすべて削除します。

【Solaris版】

1. 以下のコマンドを実行し、インストール時に行ったセットアップを解除します。

   FJSVmomsディレクトリ移動先/FJSVmoms/ITM/bin/mpaditmremove.sh

2. インストール時にコピーしたファイルおよびディレクトリをすべて削除します。

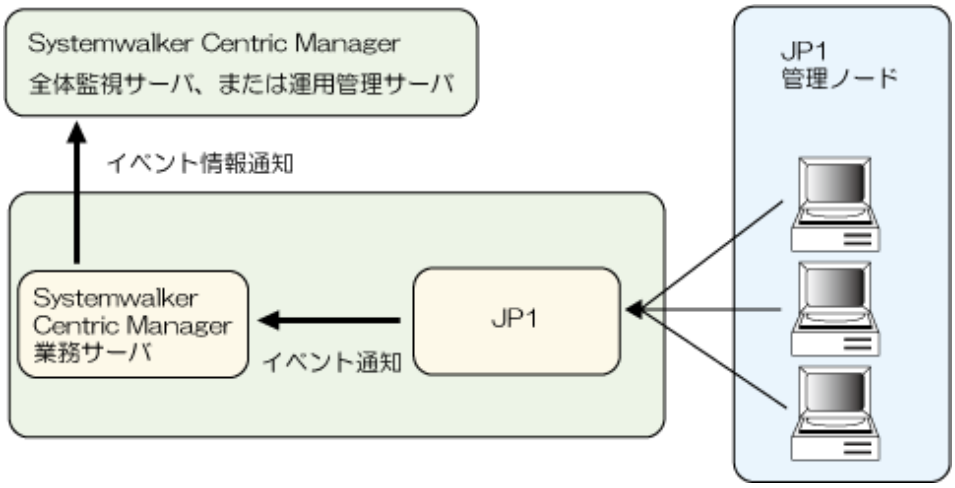
第9章 JP1との連携

JP1との連携について説明します。

- 連携する機能
- 動作環境
- 導入
- 運用
- 保守
- for JP1連携アダプタのアンインストール

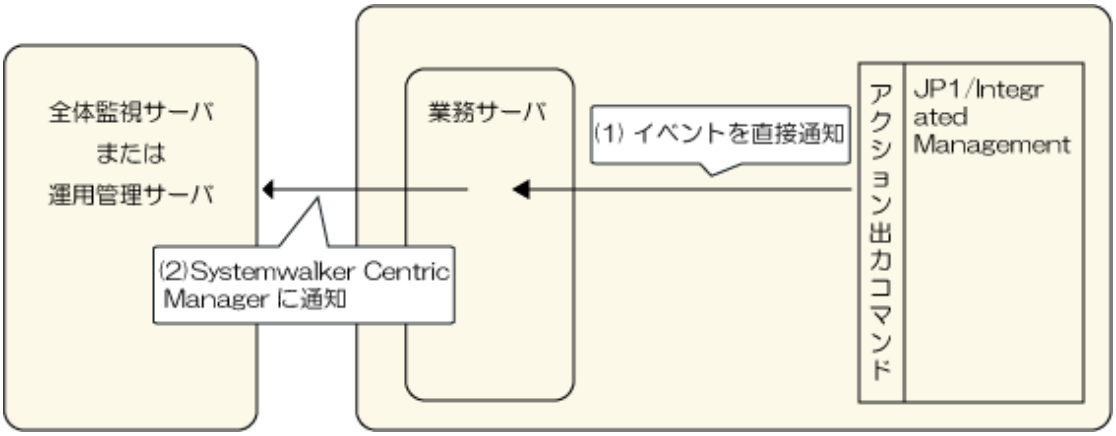
9.1 連携する機能

JP1で検出したイベントを、Systemwalker Centric Managerに通知することができます。



9.1.1 イベントの通知

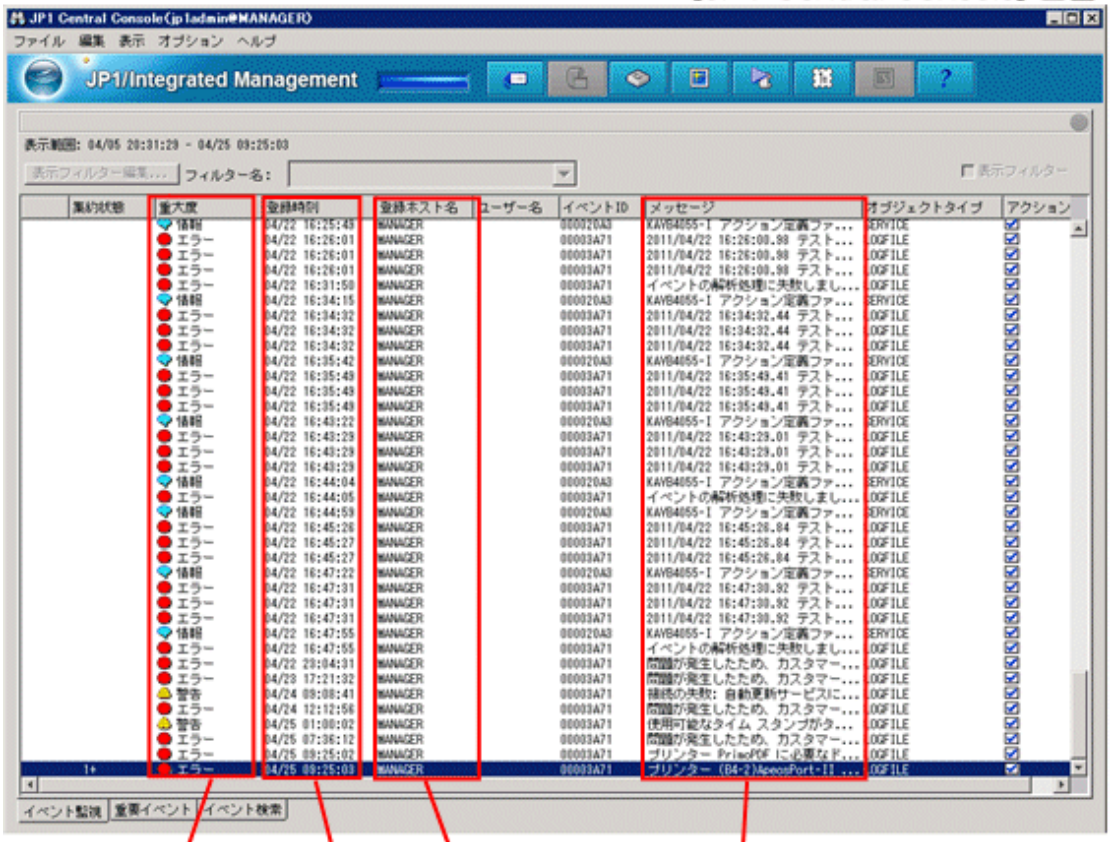
イベント連携アダプタを使用し、JP1に通知されたイベントを全体監視サーバ、または運用管理サーバに通知します。



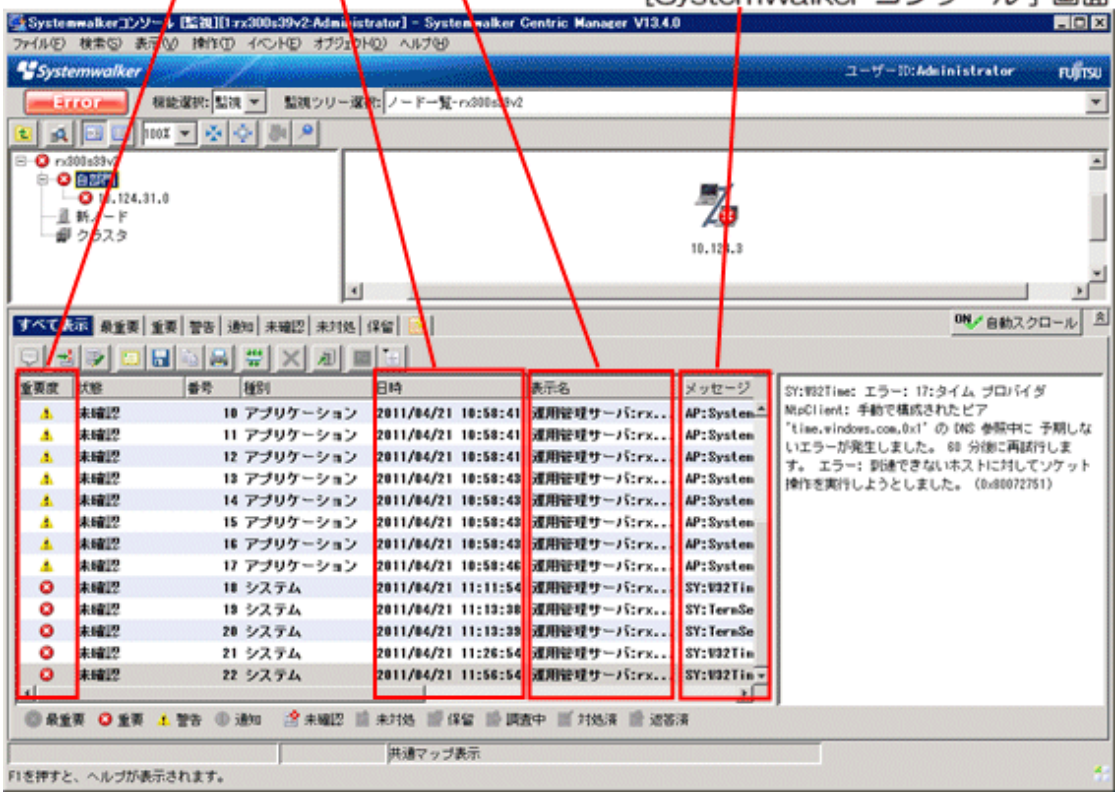
(1) JP1からイベントが通知されます。
(2) イベントをSystemwalker Centric Managerに通知します。

JP1でイベントが発生した場合、[JP1 Central Console]画面、および[Systemwalkerコンソール]画面には、以下のように表示されます。

[JP1 Central Console] 画面



[Systemwalker コンソール] 画面



なお、イベント連携アダプタをインストールする前に発生していたイベントに関しては連携を行いません。

JP1からSystemwalker Centric Managerへ通知されるイベントは、以下のように対応しています。

Systemwalkerコンソール	JP1 Central Console
重要度(注1)	重大度 対応についてはカスタマイズ可能です。 カスタマイズ方法については、“mpadevtalert(JP1イベント連携コマンド)”を参照してください。
種別	イベント監視の条件定義によりカスタマイズ可能(注2)
日時	登録時刻
表示名	登録ホスト名
メッセージ	メッセージ

注1)

[Systemwalkerコンソール]の[重要度]欄は、[JP1 Central Console]では以下のように表示されます。

・最重要

Emergency(緊急)

Critical(致命的)

・重要

Error(エラー)

・警告

Alert(警戒)

Warning(警告)

・情報

Notice(通知)

Information(情報)

Debug(デバッグ)

注2)

[イベント監視の条件定義]については、“Systemwalker Centric Manager使用手引書 監視機能編”を参照してください。

なお、for JP1連携アダプタでは、イベントの対処を行うことはできません。

9.2 動作環境

JP1との連携機能の動作環境について説明します。

システム構成

JP1との連携機能を使用する場合の構成は以下のとおりです。

	Windows	Solaris
全体監視サーバ	Systemwalker Centric Manager EE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0	Systemwalker Centric Manager EE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0
運用管理サーバ	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0
業務サーバ	Systemwalker Centric Manager EE/SE V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0 JP1 Version 8 JP1/Base JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager	-

	Windows	Solaris
	JP1 Version 9 JP1/Base JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager	

全体監視サーバの設定については、“Systemwalker Centric Manager全体監視適用ガイド”の“シングルサイト型全体監視の導入と運用”、および“マルチサイト型全体監視の導入と運用”を参照してください。
なお、JP1との連携機能は、クラスタ環境には対応していません。

ハードウェア資源

JP1との連携機能で必要なハードウェア資源について説明します。

ディスク容量

JP1との連携機能が必要なディスク容量を以下に示します。

使用領域	必要な容量
JP1フォルダ移動先	1MB以上

“前提ソフトウェア”が使用するディスク使用量に加えて、上記のディスク容量が必要です。

メモリ使用量

JP1との連携機能が必要なメモリ使用量の概略値を、以下に示します。

必要なメモリ使用量: 5MB以上

“前提ソフトウェア”が使用するメモリ使用量に加えて、上記のメモリ容量が必要です。

ソフトウェア資源

JP1との連携機能で必要なソフトウェア資源について説明します。

動作OS

JP1の動作OSを以下に示します。

- Windows(R) 2000 Server
- Windows Server(R) 2003, Standard Edition
- Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition

前提ソフトウェア

JP1との連携機能は、以下の4つのソフトウェアがインストールされている業務サーバ上で動作します。

- Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0(*)/V13.4.0(*)、または
  Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0(*)/V13.4.0(*)

  *) 業務サーバ(エージェントライセンス、イベント監視ライセンス)
- JP1 Version 8 JP1/Base、またはJP1 Version 9 JP1/Base
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager、またはJP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager
- Systemwalker Centric Manager V13.1.0/V13.2.0/V13.3.0/V13.4.0 Manager of Managers for JP1 Adapter

前提ソフトウェアに必要なソフトウェアが別途インストールされている必要があります。詳細は、各ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

留意事項

- ネットワーク内のノードのホスト名は小文字で設定してください。また、hostsファイルに定義するホスト名は、必ず一意なホスト名で解決できるように定義してください。
  ホスト名に大文字が含まれる場合、または一意なホスト名で解決できない場合は、Systemwalkerコンソールに、1つのノードが複数の異なる名前でノード追加される場合があります。
- ネットワーク内のノードのホスト名にマルチバイト文字を使用しないでください。

9.3 導入

9.3.1 for JP1連携アダプタのインストール

インストール前の準備

for JP1連携アダプタをインストールする前に、以下の製品のインストールおよび環境構築が完了している必要があります。

- Systemwalker Centric Managerの業務サーバ
- JP1/Base
- JP1/Integrated Management - Manager

インストール方法

業務サーバにfor JP1連携アダプタをインストールする手順を以下に示します。

1. 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerのサービスを停止します。

   ```
   pcentricmgr
   ```

2. for JP1連携アダプタを以下からダウンロードし、任意のフォルダに解凍します。

Systemwalker Centric Manager 技術情報 URL	http://software.fujitsu.com/jp/technical/systemwalker/centricmgr/

   解凍先には、JP1フォルダが作成されます。

   ```
   JP1
     + bin
     |   + mpadevtalert.exe
     |   + mpadjp1alert.dll
     |           :
     + etc
   ```

3. 解凍して作成されたJP1フォルダを任意のフォルダに移動します。

   例)

   ```
   C:¥Moms¥JP1
   ```

4. セットアップコマンドmpadjp1setup.batを実行します。

   ```
   JP1フォルダ移動先¥JP1¥bin¥mpadjp1setup.bat
   ```

以上でfor JP1連携アダプタのインストールは完了です。

インストール後の設定

Systemwalker Centric Managerのイベント監視機能を無効化します。

1. Systemwalkerのイベント監視機能を無効化します。

   イベントログ監視設定ファイル(Systemwalkerインストールディレクトリ¥MpWalker.dm¥mpopagt¥etc¥opaevt) の以下の設定を“OFF”に変更します。

   【変更前】

MPOP_ENABLE_EVTLOG ON

   【変更後】

MPOP_ENABLE_EVTLOG OFF

2. 定義ファイルのカスタマイズ

   必要に応じて連携定義ファイルをカスタマイズします。連携定義ファイルのカスタマイズ方法については、“JP1連携 イベント定義ファイル”を参照してください。なお、連携定義ファイルは、以下の場所に存在します。

JP1フォルダ移動先¥JP1¥etc¥AdpEvt.ini

3. イベント連携を行うためにJP1の自動アクションの設定を行います。手順は以下のとおりです。

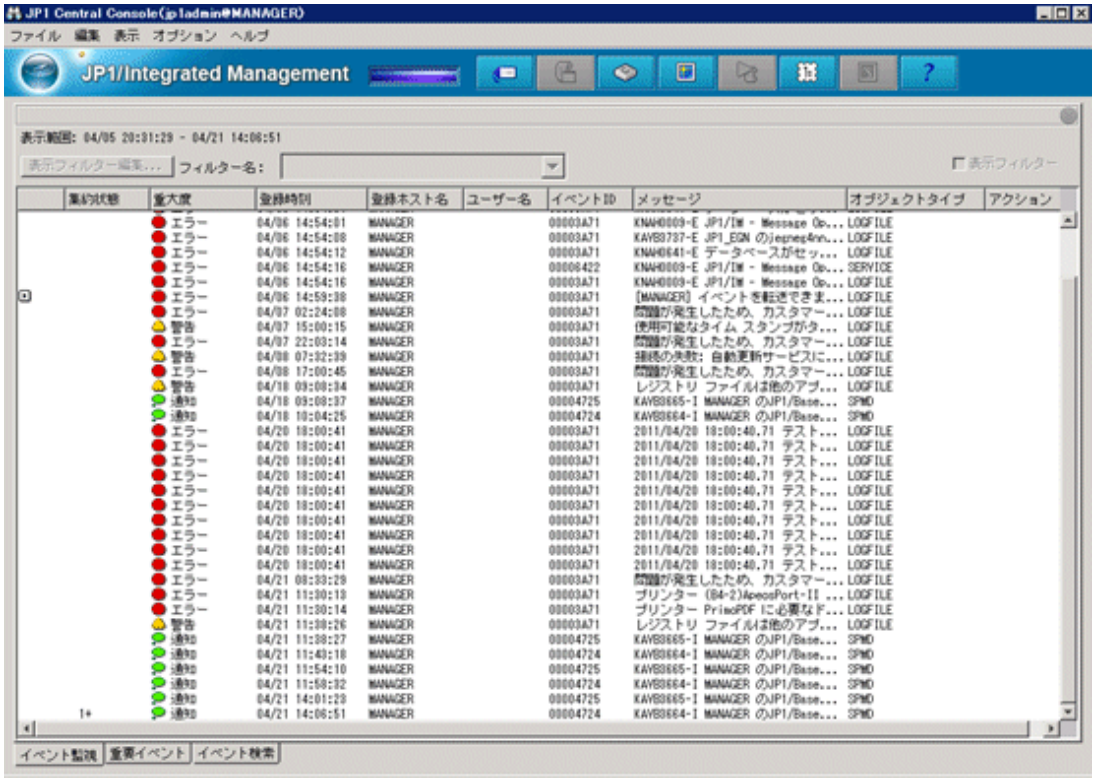
   a. [統合ビュー]を起動します。

      [スタート]メニューの[プログラム]-[JP1-integrated Management - View]より[統合ビュー]を選択します。

      →[JP1/IM - View - ログイン]画面が表示されます。

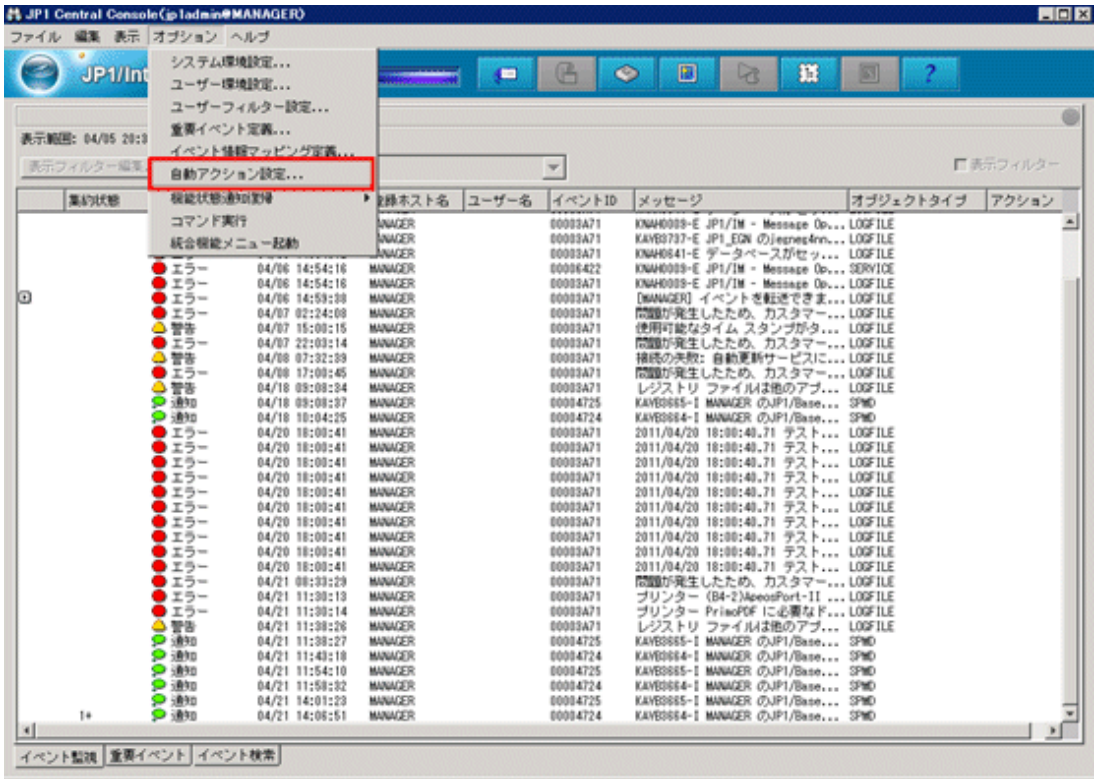
b. [ユーザー名]、[パスワード]、[接続ホスト名]を入力します。また、[セントラルコンソール]をチェックし[OK]ボタンをクリックします。

→[JP1 Central Console]画面が表示されます。



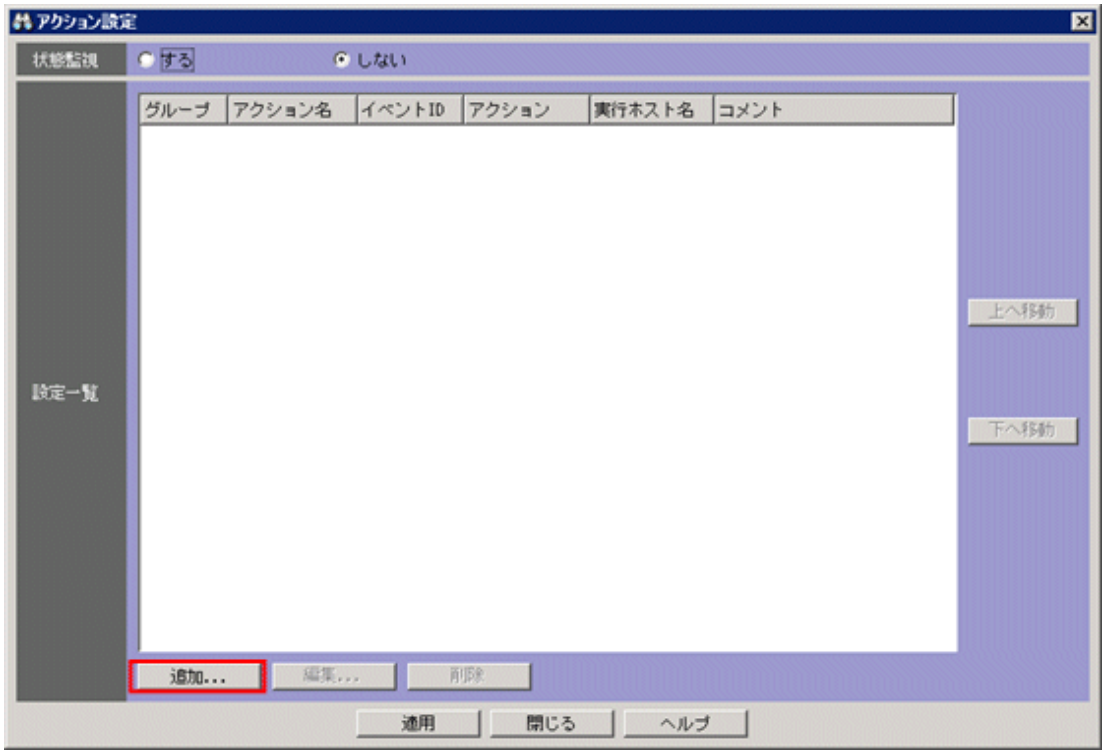
c. [オプション]メニューより[自動アクション設定]を選択します。

→[アクション設定]画面が表示されます。

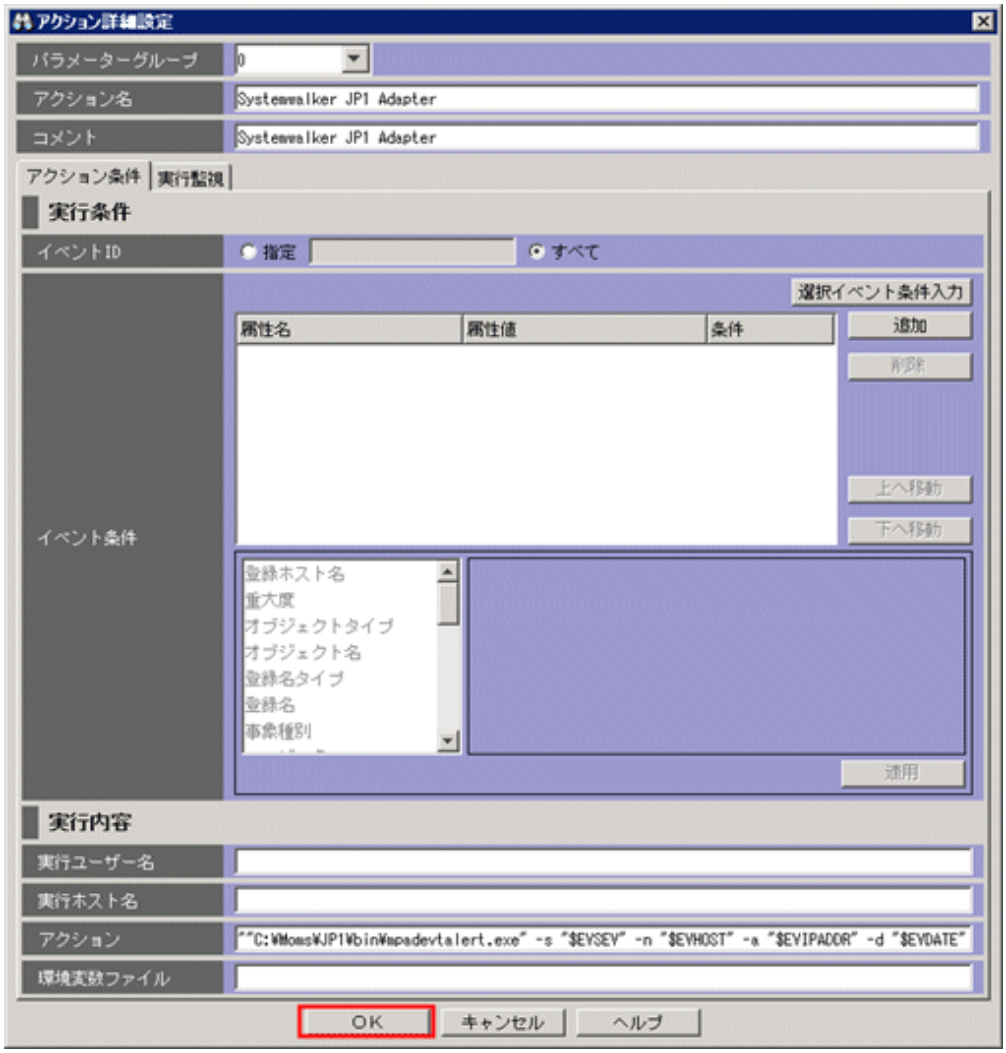


d. [追加]ボタンをクリックします。

→[アクション詳細設定]画面が表示されます。



e. [アクション詳細設定]画面の必要部分に入力し[OK]ボタンをクリックします。



アクションの詳細設定は、以下のとおりです。

※説明のない項目については、必要がない項目になりますので、そのまま進めてください。

※パラメーターグループについては、アクション設定1件につき1つのパラメーターグループを使用してください。
パラメーターグループが重複する場合、そのパラメーターグループに設定したアクションが1件しか実行されません。

[アクション詳細設定]

入力項目	入力・設定内容	説明
パラメーターグループ	0	0～9の1桁の数字または“&”を指定します。“&”はAND条件を表します。
アクション名	Systemwalker JP1 Adapter	アクションを識別する名前です。左記以外の任意の名前も設定できます。
イベントID	すべて	自動アクションの実行条件とするイベントIDを指定します。
実行ユーザー名	JP1で使用しているユーザー名 (注1)	アクションを実行するJP1ユーザー名を31バイト以内で指定します。空白を含む名称は指定できません。
実行ホスト名	(注2)	アクションを実行するホスト名を255バイト以内で指定します。空白を含む名称は指定できません。

入力項目	入力・設定内容	説明
アクション	""C:¥Moms¥JP1¥bin¥mpadevtalert.exe" -s "$EVSEV" -n "$EVHOST" -a "$EVIPADDR" -d "$EVDATE" -t "$EVTIME" -m "$EVMSG"" (注3)	アクションとして実行するコマンドを指定します。
コメント	ここへの入力は任意です	自動アクション定義設定に対するコメントを入力します。

注1)省略可能です。省略した場合はjp1adminとなります。jp1adminまたは省略を推奨します。

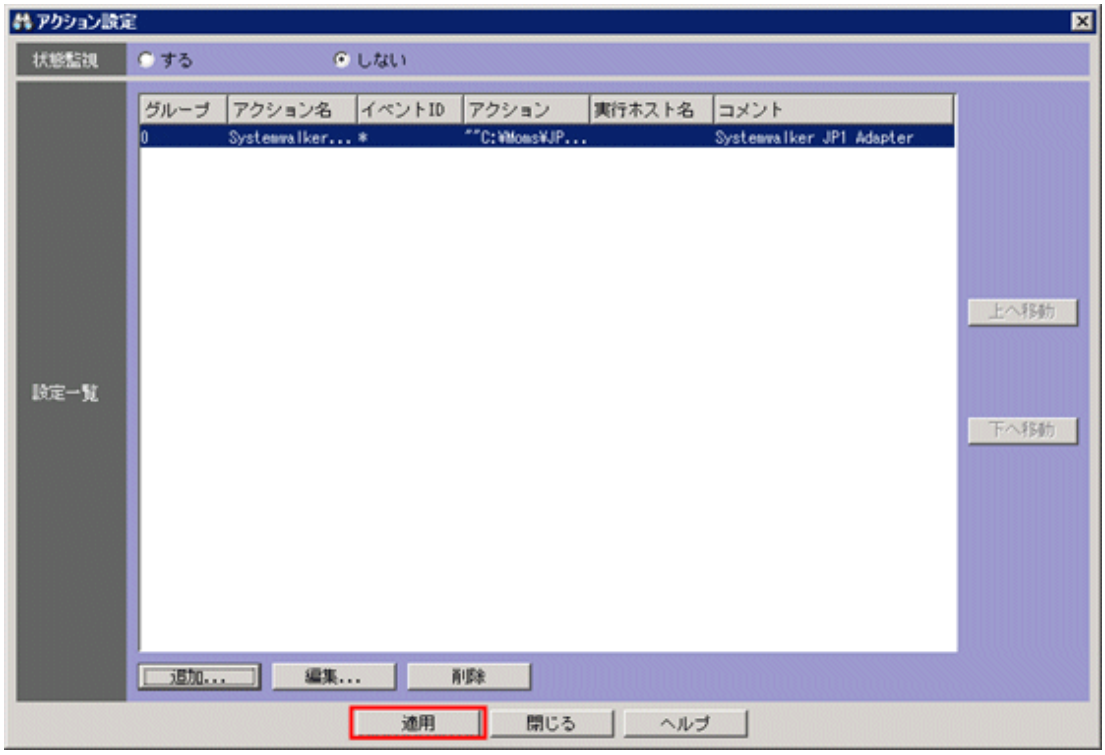
注2)JP1/Integrated Management - Manager、およびfor JP1連携アダプタがインストールされているマシン名を入力してください。省略可能です。省略した場合、JP1/Integrated Management - Managerがインストールされているマシン名になります。

注3)for JP1連携アダプタがインストールされているマシン上のパスを入力してください。なお、コマンド名およびアクション定義で使用できる変数名は必ず“"”で囲ってください。また、定義全体をさらに“"”で囲ってください。

```
""C:¥Moms¥JP1¥bin¥mpadevtalert.exe" -s "$EVSEV" -n "$EVHOST" -a "$EVIPADDR" -d "$EVDATE" -t "$EVTIME" -m "$EVMSG""
```

設定した内容が[アクション設定]画面の[設定一覧]リストに登録されます。

f. [適用]ボタンをクリックすることで、自動アクションの登録を完了します。



4. サービスを起動します。

以下のコマンドでSystemwalker Centric Managerのサービスを起動するか、システムを再起動してください。

```
scentricmgr
```

9.3.2 for JP1連携アダプタのセットアップ

for JP1連携アダプタのインストール後、以下の設定を行います。

サイトフォルダの作成

全体監視サーバでマルチサイト型の運用を行う場合、サイトフォルダを作成する必要があります。全体監視サーバ上で以下の設定を行います。

1. サイト名の登録

   全体監視サーバ上で以下のコマンドを実行します。

   【Windows版】

   ```
   MpFwSetOval -f add -h ホスト名 -s サイト名 -p IPアドレス
   ```

   【Solaris版】

   ```
   /opt/systemwalker/bin/MpFwSetOval -f add -h ホスト名 -s サイト名 -p IPアドレス
   ```

   サイト名は、導入時に指定した識別名です。MpFwSetOval(全体監視設定コマンド)の詳細については、“Systemwalker Centric Managerリファレンスマニュアル”を参照してください。

2. Systemwalker Centric Managerの再起動

   以下のコマンドを実行して、全体監視サーバのSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

   【Windows版】

   Systemwalker Centric Managerを停止します。

   ```
   pcentricmgr
   ```

   Systemwalker Centric Managerを起動します。

   ```
   scentricmgr
   ```

   【Solaris版】

   Systemwalker Centric Managerを停止します。

   ```
   /opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
   ```

   Systemwalker Centric Managerを起動します。

   ```
   /opt/systemwalker/bin/scentricmgr
   ```

イベント通知先の設定

業務サーバのインストール時に、イベント通知先を全体監視サーバまたは運用管理サーバに設定する必要があります。イベント通知先を設定しても、ノードが[Systemwalkerコンソール]に表示されない場合は、以下の方法で登録してください。

業務サーバが接続方法に必要時接続を選択している場合

業務サーバで以下のコマンドを実行してください。

```
opaconstat -a
```

業務サーバが接続方法に常時接続を選択している場合

以下の手順で、業務サーバのSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

1. Systemwalker Centric Managerを停止します。

   ```
   pcentricmgr
   ```

2. Systemwalker Centric Managerを起動します。

```
scentricmgr
```

9.4 運用

9.4.1 イベントの通知を行う

9.4.1.1 検出されたノードをフォルダへ振り分ける

for JP1連携アダプタがイベント連携することで通知されたイベントにより新たにノードが検出された場合、検出されたノードは自動的に所属するフォルダ(ネットワークセグメント)に振り分けられます。

なお、IPアドレスが“0.0.0.0”で追加されたノードは[新ノード]フォルダに作成されますが、正しいIPアドレスを入力することで、サブネットフォルダへ振り分けることができます。

ただし、全体監視サーバでマルチサイト型の運用を行っている場合は、[新ノード]フォルダに作成されたノードを[新ノードの振り分け]を行うことでサイトフォルダに振り分け、その後でIPアドレスを入力してください。

フォルダに振り分けを行う場合は、以下の手順でフォルダへの振り分けを行います。

1. [Systemwalkerコンソール]を起動します。
2. [ファイル]メニューから[機能選択]-[編集]を選択し、編集モードにします。
3. [ファイル]メニューから[新ノードの振り分け]を選択し、検出されたノードをフォルダへ振り分けます。
4. [ファイル]メニューから[機能選択]-[監視]を選択し、監視モードに戻します。

IPアドレスを入力する場合は、以下の手順で入力を行います。

1. [Systemwalkerコンソール]を起動します。
2. [ファイル]メニューから[機能選択]-[編集]を選択し、編集モードにします。
3. IPアドレスが“0.0.0.0”のノードを選択します。
4. [ファイル]メニューから[プロパティ]を選択し、[ノードプロパティ]画面を表示します。
5. インタフェースタブで、正しいIPアドレス、およびサブネットマスクを設定します。
6. [ファイル]メニューから[機能選択]-[監視]を選択し、監視モードに戻します。

9.4.1.2 監視を再開する

JP1が停止している場合

JP1が停止しているため、イベント通知は行われません。

イベント連携を再開する場合は、JP1を起動してください。

注意

本機能ではJP1の稼働監視は行いません。JP1の稼働監視を行う場合は、アプリケーションの稼働状況の監視機能を利用します。設定については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”を参照してください。監視するプロセス名などは、JP1のマニュアルを参照してください。

Systemwalker Centric Manager(業務サーバ)が停止している場合

Systemwalker Centric Manager(業務サーバ)が停止している場合も、JP1で出力したイベントを通知します。Systemwalker Centric Managerが停止している間に通知したイベントは、500件まで受け付けられますが、500件を超えると古いイベントから順に破棄されます。通知したイベントが破棄された場合、Systemwalker Centric Manager起動時に、以下に示すイベントログが記録されます。

ID	205
テキスト	監視対象メッセージを破棄しました (データ数=XXX) (連携製品においてSystemwalker Centric Manager起動前の監視対象メッセージが500件を超えました)

XXX:破棄データ数

9.5 保守

9.5.1 トレース情報の採取

調査用トレースとして、以下の情報を採取します。

- Systemwalker Centric Manager V13.1.0の場合

  Windowsインストールディレクトリ¥system32¥f3cvgtad 配下のMpAdmomsで始まるすべてのファイル

- Systemwalker Centric Manager V13.2.0以降の場合

  Systemwalkerインストールディレクトリ¥f3cvgtad 配下のMpAdmomsで始まるすべてのファイル

9.5.2 バックアップ/リストア

バックアップする資源はありません。

9.6 for JP1連携アダプタのアンインストール

アンインストール前の準備

1. Systemwalker Centric Managerのサービスを停止してください。

   ```
   pcentricmgr
   ```

2. 自動アクション設定の削除

   JP1/Integrated Management - Viewをインストールしたマシンで以下の手順を行ってください。

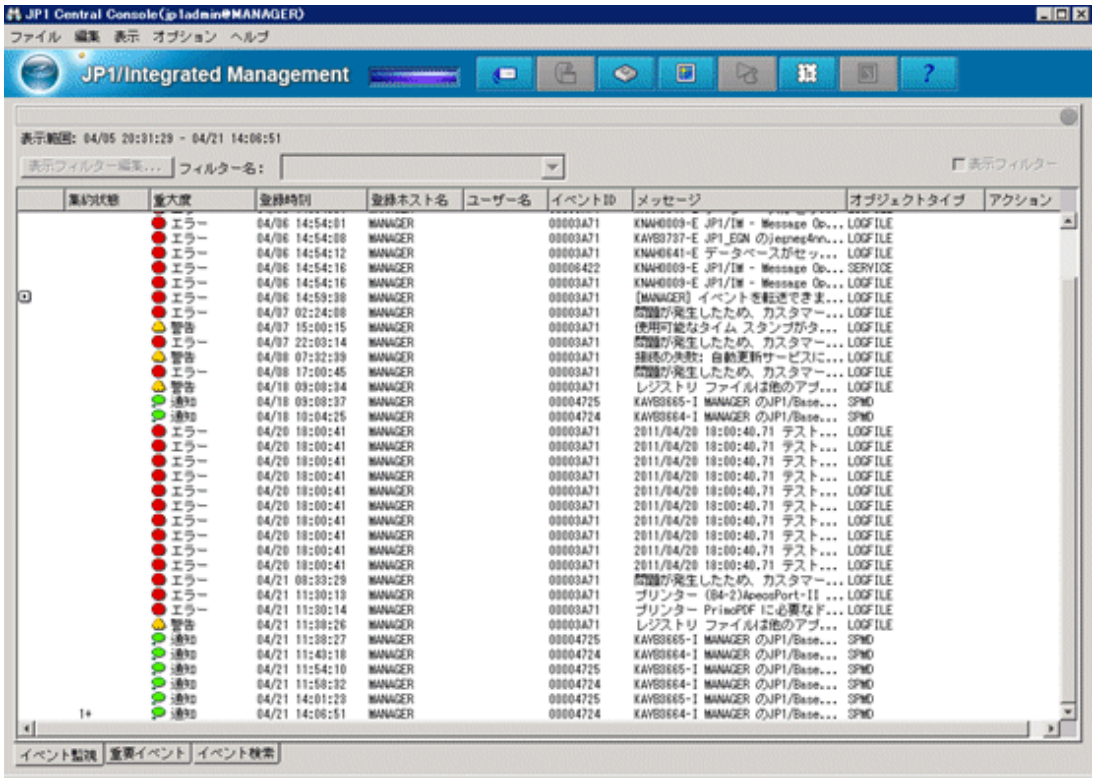
   a. [統合ビュー]を起動します。

      [スタート]メニューの[プログラム]-[JP1_Integrated Management - View]より[統合ビュー]を選択します。

→[JP1/IM - View - ログイン]画面が表示されます。

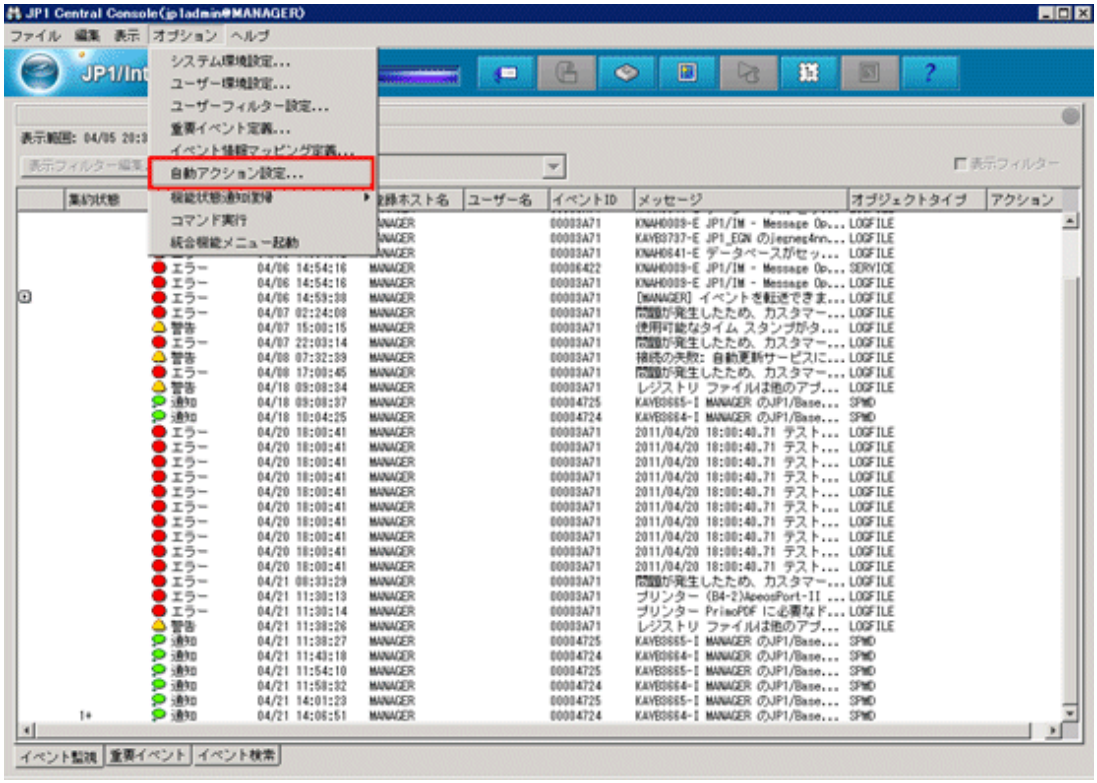
b. [ユーザー名]、[パスワード]を入力します。また、[セントラルコンソール]をチェックして[OK]ボタンをクリックします。

→ログイン後、[JP1 Central Console]画面が表示されます。

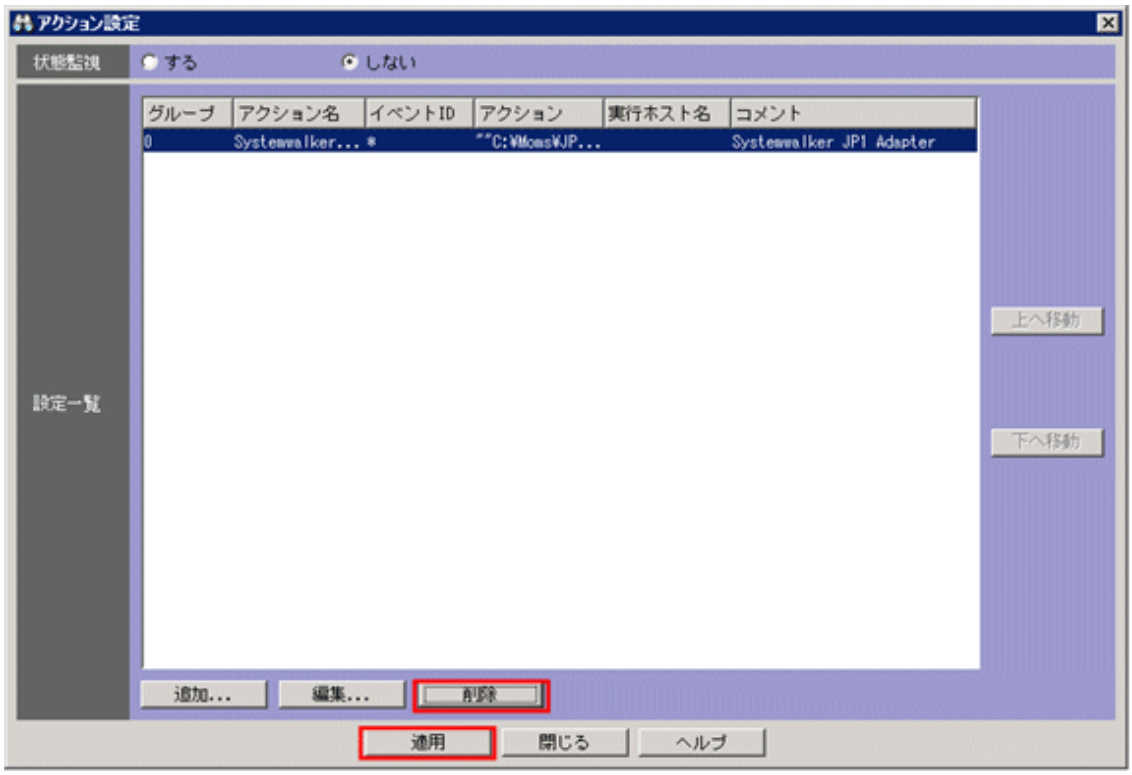


c. [オプション]メニューより[自動アクション設定]を選択します。

→[アクション設定]画面が表示されます。



d. インストール時に設定したアクションを[設定一覧]リストから選択し[削除]ボタンをクリックし、[適用]します。自動アクション設定の削除は完了です。



アンインストール方法

1. 以下のコマンドを実行し、インストール時に行ったセットアップを解除します。

```
JP1フォルダ移動先¥JP1¥bin¥mpadjp1remove.bat
```

2. インストール時にコピーしたファイルおよびディレクトリをすべて削除します。

第10章　コマンドリファレンス

10.1 IBM Tivoli Monitoringとの連携コマンド

10.1.1 mpadevtalert(IBM Tivoli Monitoringイベント連携コマンド)

機能説明

Systemwalker Centric Manager システム監視エージェントにメッセージを通知します。

記述形式

【Windows版】

mpadevtalert.exe	[-s Severity] [-n 発生元ホスト] [-m メッセージ]

【Solaris版】

mpadevtalert	[-s Severity] [-n 発生元ホスト] [-m メッセージ]

オプション

-s Severity:

エラー種別を指定します。

エラー種別は、以下のどれかの文字列を指定します。本オプションが指定されていない場合、または指定に誤りがある場合は、Errorが指定されます。

エラー種別	指定する文字列
HALT	Halt
ERROR	Error、またはCritical
WARNING	Warning
INFO	Information、またはInformational

エラー種別と指定する文字列については、変更が可能です。

変更方法については、“IBM Tivoli Monitoring連携 イベント定義ファイル”を参照してください。

-n 発生元ホスト:

メッセージの発生元ホスト名を指定します。

指定されていない場合は、実行環境マシンのホスト名が指定されます。

なお、IBM Tivoli Monitoringのシチュエーションのシステム・コマンドとして本コマンドを使用する場合は、[属性置換]から以下のどれかを指定することを推奨します。

－ [サーバー名]

－ [システム名]

－ [管理対象システム]

属性置換により、置換されたホスト名が以下の形式の場合、コマンドは、hostname部のみ抽出しホスト名として使用します。

hostname:UD
subsystem_name:hostname:UD

-m メッセージ:

Systemwalker Centric Manager システム監視エージェントに通知するメッセージを指定します。

2048バイトを越える文字列が指定された場合、2048バイト以降は破棄します。

復帰値

0:

常に0を返却します。

コマンド格納場所

Windows	ITMフォルダ移動先¥ITM¥bin
Solaris	FJSVmomsディレクトリ移動先/FJSVmoms/ITM/bin

実行に必要な権限/実行環境

【Windows版】

- Administrator権限が必要です。

【Solaris版】

- システム管理者(スーパーユーザ)権限が必要です。

注意事項

- 本コマンドが失敗した場合、イベントログにエラーを出力します。ただし、コマンドが連続して失敗した場合、2度目以降のエラーは出力しません。
- 本コマンドで通知されたメッセージは、コマンドが実行された日時がメッセージの発生日時として通知されます。

使用例

以下のコマンドを実行すると、指定したメッセージがSystemwalker Centric Manager システム監視エージェントに通知されます。

```
> mpadevtalert.exe -s Error -m “Space is left, and there are a few disks. A rate of use is 90%.”
```

10.1.2 mpaditmsetup(IBM Tivoli Monitoringイベント連携セットアップコマンド)

機能説明

for Tivoli Monitoring連携アダプタの実行環境を構築します。

記述形式

【Windows版】

```
mpaditmsetup.bat
```

【Solaris版】

```
mpaditmsetup.sh
```

復帰値

0:

正常終了

0以外:

異常終了

コマンド格納場所

Windows	ITMフォルダ移動先¥ITM¥bin
Solaris	FJSVmomsディレクトリ移動先/FJSVmoms/ITM/bin

実行に必要な権限/実行環境

【Windows版】

- Administrator権限が必要です。

【Solaris版】

- システム管理者(スーパーユーザ)権限が必要です。

使用例

Windows版で以下のコマンドを実行すると、IBM Tivoli Monitoringイベント連携アダプタの実行環境を構築することができます。

```
> ITMフォルダ移動先¥ITM¥bin¥mpaditmsetup.bat
```

Solaris版で以下のコマンドを実行すると、IBM Tivoli Monitoringイベント連携アダプタの実行環境を構築することができます。

```
> FJSVmomsディレクトリ移動先/FJSVmoms/ITM/bin/mpaditmsetup.sh
```

実行結果/出力形式

コマンド実行後にメッセージが表示されます。

```
Setup Success.
```

10.1.3 mpaditmremove(IBM Tivoli Monitoringイベント連携アンセットアップコマンド)

機能説明

for Tivoli Monitoring連携アダプタの実行環境を削除します。

記述形式

【Windows版】

```
mpaditmremove.bat
```

【Solaris版】

```
mpaditmremove.sh
```

復帰値

0:

正常終了

0以外:

異常終了

コマンド格納場所

Windows	ITMフォルダ移動先¥ITM¥bin
Solaris	FJSVmomsディレクトリ移動先/FJSVmoms/ITM/bin

実行に必要な権限/実行環境

【Windows版】

・ Administrator権限が必要です。

【Solaris版】

・ システム管理者(スーパーユーザ)権限が必要です。

使用例

Windows版で以下のコマンドを実行すると、IBM Tivoli Monitoringイベント連携アダプタの実行環境を削除します。

```
> ITMフォルダ移動先¥ITM¥bin¥mpaditmremove.bat
```

Solaris版で以下のコマンドを実行すると、IBM Tivoli Monitoringイベント連携アダプタの実行環境を削除します。

```
> FJSVmomsディレクトリ移動先/FJSVmoms/ITM/bin/mpaditmremove.sh
```

実行結果/出力形式

コマンド実行後にメッセージが表示されます。

```
Unsetup Success.
```

10.2 JP1との連携コマンド

10.2.1 mpadevtalert(JP1イベント連携コマンド)

機能説明

Systemwalker Centric Manager システム監視エージェントにメッセージを通知します。

記述形式

mpadevtalert.exe	[-s Severity] [-n 発生元ホスト名] [-a 発生元ホストのIPアドレス] [-d イベント発生年月日] [-t イベント発生時間] [-m メッセージ]

オプション

-s Severity:

エラー種別を指定します。

エラー種別は、以下のどれかの文字列を指定します。文字列が指定されていない場合、または指定に誤りがある場合は、Errorが指定されます。

エラー種別	指定する文字列
HALT	Emergency、またはCritical
ERROR	Error
WARNING	Alert、またはWarning

エラー種別	指定する文字列
INFO	Notice、Information、またはDebug

エラー種別と指定する文字列については、変更が可能です。

変更方法については、“JP1連携 イベント定義ファイル”を参照してください。

なお、JP1のアクション設定のアクションとして本コマンドを使用する場合は、JP1アクション定義で使用できる変数“$EVSEV”を指定することを推奨します。

-n 発生元ホスト名:

メッセージの発生元ホスト名を指定します。指定がない場合は、実行環境マシンのホスト名が指定されます。128バイトを越える文字列が指定された場合、本コマンドは失敗します。

なお、JP1のアクション設定のアクションとして本コマンドを使用する場合は、JP1アクション定義で使用できる変数“$EVHOST”を指定することを推奨します。

-a 発生元ホストのIPアドレス:

メッセージ発生元ホスト名のIPアドレスを指定します。指定がない場合は、IPアドレス情報は通知しません。指定に誤りがある場合は、本コマンドは失敗します。

なお、JP1のアクション設定のアクションとして本コマンドを使用する場合は、JP1アクション定義で使用できる変数“$EVIPADDR”を指定することを推奨します。

-d イベント発生年月日:

イベントが発生した年月日を“YYYY/MM/DD”の形式で指定します。

本オプションを指定した場合、[-t イベント発生時間]も指定してください。

どちらかが指定されていない場合、または指定に問題がある場合、本コマンドが実行された日時がイベントの発生時間として通知されます。

なお、JP1のアクション設定のアクションとして本コマンドを使用する場合は、JP1アクション定義で使用できる変数“$EVDATE”を指定することを推奨します。

-t イベント発生時間:

イベントが発生した時間を“hh:mm:ss”の形式で指定します。

本オプションを指定した場合、[-d “$EVDATE”]も指定してください。

どちらかが指定されていない場合、または指定に問題がある場合、本コマンドが実行された日時がイベントの発生時間として通知されます。

なお、JP1のアクション設定のアクションとして本コマンドを使用する場合は、JP1アクション定義で使用できる変数“$EVTIME”を指定することを推奨します。

-m メッセージ:

Systemwalker Centric Manager システム監視エージェントに通知するメッセージを指定します。2048バイトを越える文字列が指定された場合、2048バイト以降は破棄します。

なお、JP1のアクション設定のアクションとして本コマンドを使用する場合は、JP1アクション定義で使用できる変数“$EVMSG”を指定することを推奨します。

復帰値

0:

常に0を返却します。

コマンド格納場所

Windows	JP1フォルダ移動先¥JP1¥bin

実行に必要な権限/実行環境

【Windows版】

- Administrator権限が必要です。

注意事項

- 本コマンドが失敗した場合、イベントログにエラーを出力します。ただし、コマンドが連続して失敗した場合、2度目以降のエラーは出力しません。

使用例

以下のコマンドがJP1から実行されると、Systemwalker Centric Manager システム監視エージェントにJP1のメッセージが通知されます。

```
> mpadevtalert.exe -s “$EVSEV” -n “$EVHOST” -a “$EVIPADDR” -d “$EVDATE” -t “$EVTIME” -m “$EVMSG”
```

10.2.2 mpadjp1setup(JP1イベント連携セットアップコマンド)

機能説明

for JP1連携アダプタの実行環境を構築します。

記述形式

```
mpadjp1setup.bat
```

復帰値

0:

正常終了

0以外:

異常終了

コマンド格納場所

Windows	JP1フォルダ移動先¥JP1¥bin

実行に必要な権限/実行環境

【Windows版】

- Administrator権限が必要です。

使用例

以下のコマンドを実行すると、for JP1連携アダプタの実行環境を構築することができます。

```
> JP1フォルダ移動先¥JP1¥bin¥mpadjp1setup.bat
```

実行結果/出力形式

コマンド実行後にメッセージが表示されます。

```
Setup Success.
```

10.2.3 mpadjp1remove(JP1イベント連携アンセットアップコマンド)

機能説明

for JP1連携アダプタの実行環境を削除します。

記述形式

mpadjp1remove.bat

復帰値

0:

正常終了

0以外:

異常終了

コマンド格納場所

Windows	JP1フォルダ移動先¥JP1¥bin

実行に必要な権限/実行環境

- Administrator権限が必要です。

使用例

以下のコマンドを実行すると、for JP1連携アダプタの実行環境を削除します。

```
> JP1フォルダ移動先¥JP1¥bin¥mpadjp1remove.bat
```

実行結果/出力形式

コマンド実行後に以下のメッセージが表示されます。

```
Unsetup Success.
```

10.3 データベース接続情報設定コマンド

10.3.1 mpaddbinf(データベース接続情報設定コマンド)

機能説明

Microsoft System Management Server、または CA Unicenter Asset Managementがインベントリ情報を格納しているデータベースに連携アダプタが接続するためのデータソース名、ユーザ名、パスワードの設定を行います。

記述形式

mpaddbinf.exe	-d DSN名 -u ユーザ名 -p パスワード [-o ログファイル]

オプション

-d DSN名:

連携アダプタをインストールする前に作成したデータソース(ODBC)名を指定します。

-u ユーザ名:

データベースに接続する権限を持つユーザアカウントを指定します。

-p パスワード:

ユーザアカウントに対するパスワードを指定します。

-o ログファイル:

コマンド実行時のエラー内容を格納するファイルをフルパスで指定します。本オプションは省略可能です。

省略した場合は、エラー内容を標準エラー出力に表示します。

復帰値

0:

成功

0以外:

失敗

コマンド格納場所

Windows	連携アダプタインストールディレクトリ¥bin

実行に必要な権限/実行環境

- Administrator権限が必要です。

注意事項

- データベースに接続する権限を持たないユーザ名を指定した場合や、データソース名やパスワードの指定に間違いがある場合、インベントリ情報の取得に失敗します。

  インベントリ情報の取得に失敗した場合は、以下の対処を実施してください。

  ー 指定したユーザ名、およびパスワードでデータベースにログインできることを確認してください。

  ー 指定したデータソースの名前と作成したデータソース(ODBC)の名前が一致していることを確認してください。

使用例

以下のコマンドを実行すると、Microsoft System Management Server、または CA Unicenter Asset Managementがインベントリ情報を格納しているデータベースに連携アダプタが接続するためのデータソース名、ユーザ名、パスワードの設定を行います。

```
> mpaddbinf.exe -d CAAM -u ca_itrm -p ca_itrm
```

第11章　ファイルの形式

HP OpenView Network Node Manager連携、Microsoft System Management Server連携、CA Unicenter Network and System Management連携、CA Unicenter Asset Management連携、IBM Tivoli Monitoring連携、JP1連携で使用する定義ファイルについて説明します。

- HP OpenView Network Node Manager連携 イベント定義ファイル
- HP OpenView Network Node Manager連携 インベントリ定義ファイル
- Microsoft System Management Server連携 インベントリ定義ファイル
- Microsoft System Center Operations Manager連携 設定ファイル
- CA Unicenter Network and Systems Management連携 イベント定義ファイル
- CA Unicenter Asset Management連携 インベントリ定義ファイル
- IBM Tivoli Monitoring連携 イベント定義ファイル
- JP1連携 イベント定義ファイル

11.1 HP OpenView Network Node Manager連携 イベント定義ファイル

ファイル名

AdpEvt.ini

使用用途

HP OpenView Network Node Managerのアラームログと Systemwalker Centric Managerのイベントを連携するため、HP OpenView Network Node ManagerのSeverity情報とSystemwalkerの状態を対応付けするために使用するファイルです。

格納場所

Windows	for HP OpenView Network Node Manager Adapterインストールディレクトリ¥etc
Solaris	/etc/opt/FJSVmoms/NNM

ファイル形式

```
[SectionName]
Key = 値
```

イベント定義の関連付けを行うために、以下の形式のiniファイルを使用します。

SectionName	Key	値	デフォルト値
Severity	0	0～3、または5	2
	1	0～3、または5	3
	2	0～3、または5	3
	3	0～3、または5	3
	4	0～3、または5	0
	5	0～3、または5	1

各“Key”はHP OpenView Network Node ManagerのSeverity情報を表しています。各“Key”に対応付けされたSeverity情報は以下のとおりです。

・ 0: Unknown(不明)

・ 1: Normal(正常域)

・ 2: Warning(注意域)

・ 3: Minor(警戒域)

・ 4: Major(重要警戒域)

・ 5: Critical(危険域)

“Keyの値”には、Systemwalker Centric Managerでの状態を示す値を設定します。“Keyの値”に設定できる値は以下のとおりです。

・ 0: 重要

・ 1: 最重要

・ 2: 警告

・ 3: 情報

・ 5: 通知(注)

注)“5”は、Systemwalker Centric ManagerがV13.3.0以降の場合のみ指定可能です。

パラメタ

ファイル形式を参照してください。

注意事項

・ パラメタに不正な値を設定した場合は、イベント送信に失敗する場合があります。

・ 編集後に、for HP OpenView Network Node Manager Adapterのサービス(デーモン)の再起動が必要です。

使用例

HP OpenView Network Node Manager とSystemwalker Centric Managerとの重要度を関連付けます。

```
;OpenView Network Node Manager Severity情報
[Severity]
0=2
1=3
2=3
3=3
4=0
5=1
```

11.2 HP OpenView Network Node Manager連携 インベントリ定義ファイル

ファイル名

AdpInv.ini

使用用途

HP OpenView Network Node Managerで収集した情報をSystemwalkerのインベントリ情報CSVファイルに関連付けするために使用するファイルです。

格納場所

Windows	for HP OpenView Network Node Manager Adapterインストールディレクトリ¥etc

Solaris	/etc/opt/FJSVmoms/NNM

ファイル形式

```
[SectionName]
Key = 値
```

インベントリ定義ファイルは、iniファイルで定義します。セクション名およびキー名は次のとおりです。

SectionName	Key	default値	備考(説明)
Table	1	select nnm_objects.* from nnm_objects, nnm_nodes where nnm_nodes.ip_hostname = '%s' and nnm_nodes.topo_id = nnm_objects.topo_id;	nnm_objects テーブル
	2	select nnm_nodes.* from nnm_nodes where nnm_nodes.ip_hostname = '%s';	nnm_nodes テーブル
	3	select nnm_interfaces.* from nnm_interfaces, nnm_nodes, nnm_objects where nnm_nodes.ip_hostname = '%s' and nnm_nodes.topo_id = nnm_objects.topo_id and nnm_objects.ovw_id = nnm_interfaces.node_id;	nnm_interfaces テーブル
	4	select nnm_nodes_cap.* from nnm_nodes_cap, nnm_nodes where nnm_nodes.ip_hostname = '%s' and nnm_nodes.topo_id = nnm_nodes_cap.topo_id;	nnm_nodes_cap テーブル
NodeInfo	1	select ip_hostname, snmpaddr from nnm_nodes ORDER BY ip_hostname;	ホスト名および、IPアドレス一覧を取得するSQL文
Interface	1	select count(*) from nnm_interfaces, nnm_nodes, nnm_objects where nnm_nodes.ip_hostname = '%s' and nnm_nodes.topo_id = nnm_objects.topo_id and nnm_objects.ovw_id = nnm_interfaces.node_id;	取得ノードに対するインタフェース数を取得するSQL文
HardwareSetting	count	199	Key定義数
	1	1,7,0,0,0	文字コード
	2	1,3,0,0,0	レコード種別
	3	2,19,0,0,0	通知受信タイムスタンプ
	4	0,128,0,0,0	システム名
	5	1,4,0,0,0	システム種別
	6	0,30,1,0,0	システムのコメント
	7	3,0,1,0,0	ノード名
	:	:	:
	197	0,0,1,0,0	ディスク容量
	198	0,0,1,0,0	ディスクIF
	199	0,0,1,0,0	ディスク説明
HardwareSeparator			複数定義可能時の定義間の区切り方法(16進数で定義)

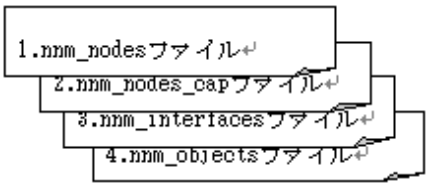
SectionName	Key	default値	備考(説明)
HardwareConvert			単位変換が必要なマクロ名
HardwareInventory	1	SJIS	文字コード
	2	ivh	レコード種別
	3	TIMEGET	通知受信タイムスタンプ
	4		システム名
	5	SERV	システム種別
	6		システムのコメント
	7	2:2	ノード名
	:	:	:
	197		ディスク容量
	198		ディスクIF
	199		ディスク説明
RepositorySetting	count	29	Key定義数
	1	1,0,1,0,0	構成情報種別
	2	3,0,1,0,0	ホスト名
	:	:	:
	24	3,0,1,0,0	インタフェースサブネットマスク
	25	3,0,1,0,0	インタフェース名
	26	0,0,1,0,0	インタフェースMACアドレス
	27	3,0,1,0,0	インタフェースType
	28	0,0,0,0,0	インタフェースSpeed
	29	0,0,0,0,0	インタフェースIndex
RepositorySeparator			複数定義可能時の定義間の区切り方法(16進数で定義)
RepositoryConvert			単位変換が必要なマクロ名
RepositoryInventory	1	NODE10EX	構成情報種別
	2	2:2	ホスト名
	:		:
	24	3:5	インタフェースサブネットマスク
	25	3:2	インタフェース名
	26		インタフェースMACアドレス
	27	3:14	インタフェースType
	28		インタフェースSpeed
	29		インタフェースIndex

SectionName	Key	default値	備考(説明)
RepositoryMachineName	count	16	Key定義数
	1	Computer	マシン名1
	:	:	:
	16	Blade	マシン名16
RepositoryMachineID	1	4:5|6	マシン名1の関連付け
	:	:	:
	16		マシン名16の関連付け
SingleRepSetting	count	29	Key定義数
	1	1,0,1,0,0	構成情報種別
	2	3,0,1,0,0	ホスト名
	:	:	:
	24	3,0,1,0,0	インタフェースサブネットマスク
	25	3,0,1,0,0	インタフェース名
	26	0,0,1,0,0	インタフェースMACアドレス
	27	3,0,1,0,0	インタフェースType
	28	0,0,0,0,0	インタフェースSpeed
	29	0,0,0,0,0	インタフェースIndex
SingleRepSeparator			複数定義可能時の定義間の区切り方法(16進数で定義)
SingleRepConvert			単位変換が必要なマクロ名
SingleRepInventory	1	NODE10EX	構成情報種別
	2	2:2	ホスト名
	:		:
	24	3:5	インタフェースサブネットマスク
	25	3:2	インタフェース名
	26		インタフェースMACアドレス
	27	3:14	インタフェースType
	28		インタフェースSpeed
	29		インタフェースIndex
SingleRepMachineName	count	16	Key定義数
	1	Computer	マシン名1
	:	:	:
	16		マシン名16
SingleRepMachineID	1	4:5|6	マシン名1の関連付け
	:	:	:

SectionName	Key	default値	備考(説明)
	16		マシン名16の関連付け
MultiRepSetting	count	33	Key定義数
	1	1,0,1,0,0	構成情報種別
	2	3,0,1,0,0	ホスト名
	:	:	:
	15	3,0,1,0,0	OS名
	:	:	:
	33	0,0,0,0,0	インタフェースINDEX
MultiRepSeparator			複数定義可能時の定義間の区切り方法(16進数で定義)
MultiRepConvert			単位変換が必要なマクロ名
MultiRepInventory	1	INTERNET_NODE	構成情報種別
	2	2:2	ホスト名
	:		:
	15	4:3	OS名
	:	:	:
	33		インタフェースINDEX
MultiRepMachineName	count	16	Key定義数
	1	Computer	マシン名1
	:	:	:
	16	Blade	マシン名16
MultiRepMachineID	1	4:5|6	マシン名1の関連付け
	:	:	:
	16		マシン名16の関連付け

[Table]

インベントリ情報を取得するためのテーブル名を記述します。ここで設定されたテーブルに対して、ホストごとにフィールドの情報を取得し内部ファイルとして作成されます。



[NodeInfo]

ホスト名一覧および、IPアドレスを取得するSQL文を記述します。

```
1=select ip_hostname, snmpaddr from nnm_nodes ORDER BY ip_hostname;
```

[Interface]

取得ノードに対してのインタフェースの数を取得するSQL文を記述します。

```
1=select count(*) from nnm_interfaces, nnm_nodes, nnm_objects where nnm_nodes.ip_hostname
= '%s' and nnm_nodes.topo_id = nnm_objects.topo_id and nnm_objects.ovw_id =
nnm_interfaces.node_id;
```

[HardwareSetting]

ハードウェアインベントリ情報

[RepositorySetting]

ノード構成情報(V10拡張形式)

[SingleRepSetting]

ノード構成情報(V10拡張形式)

[MultiRepSetting]

ノード構成情報(INTERNET-NODE形式)

count

各SettingのKey定義数を設定します。
Systemwalkerのインベントリ情報CSVに関連付ける項目を設定します。

形式については以下のとおりです。

```
n=種別,固定長,”の有無,複数定義,変換の有無
  (1)   (2)      (3)      (4)      (5)
```

(1)種別:
Systemwalkerに通知する方法を定義します。

0:設定値なし
1:固定文字
2:マクロ
3:データベースから取得

(2)固定長:
情報の長さを指定します。設定する情報が指定した長さに満たない場合は、残りのフィールドは空白を設定します。0を指定した場合は、不定長として扱います。

(3)”の有無:
設定値を”で囲むか囲まないかの指定をします。

0:設定値を”で囲まない
1:設定値を”で囲む

(4)複数定義:
設定値が複数定義可能かどうかを指定します。可能に設定した場合は、各Separatorにて詳細な定義方法を設定します。

0:不可／1:可能

(5)変換の有無:
Systemwalkerのインベントリ情報とHP OpenView Network Node Managerのインベントリ情報で、単位の違いなどによる設定値の変換処理が必要かどうかを指定します。必要に設定した場合は、各Convertにて詳細な定義方法を設定します。

0:不要／1:必要

[HardwareSeparator]

ハードウェアインベントリ情報

[RepositorySeparator]

ノード構成情報(V10拡張形式)

[SingleRepSeparator]

ノード構成情報(V10拡張形式)

[MultiRepSeparator]

ノード構成情報(INTERNET-NODE形式)

複数定義が可能な際の、定義と定義の間の区切りに使用する文字を設定します。16進数のASCIIコードで設定する必要があります。

,(カンマ)区切りの場合:0x2c
空白区切りの場合 :0x20

[HardwareConvert]

ハードウェアインベントリ情報

[RepositoryConvert]

ノード構成情報(V10拡張形式)

[SingleRepConvert]

ノード構成情報(V10拡張形式)

[MultiRepConvert]

ノード構成情報(INTERNET-NODE形式)

変換が必要な場合、マクロ名を設定します。

[HardwareInventory]

ハードウェアインベントリ情報

[RepositoryInventory]

ノード構成情報(V10拡張形式)

[SingleRepInventory]

ノード構成情報(V10拡張形式)

[MultiRepInventory]

ノード構成情報(INTERNET-NODE形式)

Systemwalkerのインベントリ情報定義に関連付ける項目を設定します。

Key名は、インベントリCSVファイルのフィールド番号に対応します。

設定する項目がない場合

設定は行いません。

固定文字を設定する場合

Systemwalkerのインベントリ情報に設定する固定文字を設定します。

マクロを定義して取得したい場合

マクロ文を設定します。マクロを実行した結果を、Systemwalkerのインベントリ情報に設定します。

テーブルのセクションから情報を取得する場合

Tableで設定した情報から、フィールド番号を指定することにより、指定された箇所の情報を、Systemwalkerのインベントリ情報に設定することができます。

1つのテーブルを参照して、指定のフィールドを参照する。

TableNoとFieldNoの間に“:”を付けることにより、指定テーブル番号内の指定されたフィールドの情報を引き出すことができます。

構文:TableNo:FieldNo

抽出条件を指定する。

ドライブ指定など、抽出条件を指定する場合は、参照箇所の後ろ“,”を付け、抽出条件を行う2つのテーブル:フィールドを設定します。抽出条件間に“=”を設定します。

なお、抽出条件の指定は1件までです。

下記例では、TableNo1のField5が、”C:”のときのField1の情報を取得する方法です。

構文:TableNo1:FieldNo1,TableNo1:FieldNo5=”C:”

取得したいフィールド 抽出条件

[RepositoryMachineName]

構成管理情報(NODE形式)

[SingleRepMachineName]

INTERNET-NODE (シングルサイト形式)

[MultiRepMachineName]

INTERNET-NODE (シングルサイト形式)

count

各MachineNameのKey定義数を設定します。

マシン名を設定します。各MachineIDに設定された条件と一致した場合は、ここで設定された、マシン名を設定します。

[RepositoryMachineID]

構成管理情報(NODE形式)

[SingleRepMachineID]

INTERNET-NODE (シングルサイト形式)

[MultiRepMachineID]

INTERNET-NODE (シングルサイト形式)

マシン種別との関連付けを行う項目名を設定します。設定方法は、以下のとおりです。

1つのテーブルを参照して、指定のフィールドを取得する。

構文:TableNo:FieldNo

参照フィールドが複数ある場合

構文:TableNo1:FieldNo1|FieldNo2|FieldNo3

“|”を付けることにより、参照フィールドを複数持つことが可能です。

- ハードウェアインベントリ フィールド番号一覧

1. nnm_nodesテーブル

フィールド番号	対応する項目
1	topo_id
2	ip_hostname
3	snmp_sysdescr
4	snmp_syslocation
5	snmp_syscontact
6	topm_interface_cnt
7	snmp_sysobjid
8	ipforwarding
9	snmpstate
10	snmpaddr
11	atcycletime

フィールド番号	対応する項目
12	rootport
13	Vendor
14	Agent
15	ipx_address
16	ipxServerName
17	sysName

2. nnm_nodes_capテーブル

フィールド番号	対応する項目
1	topo_id
2	vendor_name
3	agent_name
4	isComputer
5	isPC
6	isWorkstation
7	isMini
8	isMainFrame
9	isConnector
10	isBridge
11	isRouter
12	isIPRouter
13	isIPXRouter
14	isRepeater
15	isHub
16	isSwitch
17	isDevice
18	isPrinter
19	isAnalyzer
20	isIP
21	isIPX
22	isSNMPSupported
23	isSNMPProxied
24	isNetWareServer
25	isMcClusterMember
26	isCollectionStationNode
27	isRDMISupported
28	isHTTPSupported
29	isHTTPManaged
30	isRMON
31	isRMON2

フィールド番号	対応する項目
32	isDS1
33	isDS3
34	isFrameRelay
35	isSONET
36	isATM
37	isCDP

3. nnm_interfacesテーブル

フィールド番号	対応する項目
1	topo_id
2	snmp_ifname
3	segchangetime
4	ip_address
5	ip_subnet_mask
6	Ifnumber
7	net_id
8	seg_id
9	node_id
10	rem_net_id
11	rem_seg_id
12	rem_node_id
13	seg_type
14	snmp_iftype
15	snmp_ifphysaddr
16	snmp_ifdescr
17	snmpstate
18	llafrom
19	maskfrom
20	portclass
21	ipx_address
22	snmp_ifalias
23	segchangetimestamp

4. nnm_objectsテーブル

フィールド番号	対応する項目
1	topo_id
2	ovw_id
3	remote_id
4	station_id
5	class_id

フィールド番号	対応する項目
6	ctime
7	mtime
8	sym_time
9	stat_time
10	label_time
11	flags_time
12	ip_status
13	rem_status
14	flags
15	extra0
16	extra1
17	ctimestamp
18	mtimestamp
19	sym_timestamp
20	stat_timestamp
21	label_timestamp
22	flags_timestamp

パラメタ

ファイル形式を参照してください。

参照

インベントリ情報CSVファイル

注意事項

- 編集後に他社連携アダプタのサービス(デーモン)の再起動が必要です。
- パラメタに不正な値を設定した場合は、インベントリ情報取得に失敗する場合があります。

使用例

以下に使用例を示します。

```
-------------------------------------------------
;-------------------------------------------------------
; テーブル情報
;-------------------------------------------------------
[Table]
1=select nnm_objects.* from nnm_objects, nnm_nodes Where  nnm_nodes.
ip_hostname = '%s' and nnm_nodes.topo_id = nnm_objects.topo_id;
2= select nnm_nodes.* from nnm_nodes where nnm_nodes.ip_hostname =
'%s';
3= select nnm_interfaces.* from nnm_interfaces, nnm_nodes, nnm_objects where nnm_nodes.ip_hostname = '%s' and
nnm_nodes.topo_id =
 nnm_objects.topo_id and nnm_objects.ovw_id = nnm_interfaces.
node_id;
4= select nnm_nodes_cap.* from nnm_nodes_cap, nnm_nodes where nnm_nodes.ip_hostname = '%s' and nnm_nodes.topo_id =
nnm_nodes_cap.topo_id;
;-------------------------------------------------------
; ノード情報
```

```
;-------------------------------------------------------
[NodeInfo]
1=select ip_hostname, snmpaddr from nnm_nodes ORDER BY ip_hostname;
;-------------------------------------------------------
; インタフェース情報
;-------------------------------------------------------
[Interface]
1=select count(*) from nnm_interfaces, nnm_nodes, nnm_objects where nnm_nodes.ip_hostname = '%s' and nnm_nodes.topo_id =
nnm_objects.topo_id and nnm_objects.ovw_id = nnm_interfaces.node_id;
-------------------------------------------------------
; ハードウェアインベントリ情報
;-------------------------------------------------------
[HardwareSetting]
count=199
1=1,7,0,0,0
2=1,3,0,0,0
   :
199=0,0,1,0,0
[HardwareSeparator]

[HardwareConvert]

[HardwareInventory]
1=SJIS
2=ivh
   :
199=
;-------------------------------------------------------
; 構成管理情報（NODE形式）
;-------------------------------------------------------
[RepositorySetting]
count=29
1=1,0,1,0,0
2=3,0,1,0,0
   :
29=0,0,0,0,0
[RepositorySeparator]

[RepositoryConvert]

[RepositoryInventory]
1=NODE10EX
2=2:2
   :
30=
[RepositoryMachineName]
count=16
1=Computer
2=Network
   :
16=Blade
[RepositoryMachineID]
1=4:5|6
2=
   :
16=

;-------------------------------------------------------
; 構成管理情報（INTERNET-NODE シングルサイト形式）
;-------------------------------------------------------
[SingleRepSetting]
count=29
1=1,0,1,0,0
```

```
2=3,0,1,0,0
 :
29=0,0,1,0,0

[SingleRepSeparator]

[SingleRepConvert]

[SingleRepInventory]
1=NODE10EX
2=2:2
 :
29=

[SingleRepMachineName]
count=16
1=Computer
 :
16=

[SingleRepMachineID]
1=4:5|6
2=
 :
16=

;-----------------------------------------------------
; 構成管理情報（INTERNET-NODE マルチサイト形式）
;-----------------------------------------------------
[MultiRepSetting]
count=33
1=1,0,1,0,0
2=3,0,1,0,0
 :
33=0,0,0,0,0

[MultiRepSeparator]

[MultiRepConvert]

[MultiRepInventory]
1=NODE10EX
2=2:2
 :
33=

[MultiRepMachineName]
count=16
1=Computer
 :
16=Blade


[MultiRepMachineID]
1=4:5|6
2=
 :
16=

-----------------------------------------------
```

11.3 Microsoft System Management Server連携 インベントリ定義ファイル

ファイル名

AdpInv.ini

使用用途

Microsoft System Management Serverで収集したインベントリ情報を、Systemwalker Centric Managerのインベントリ情報CSVファイルに関連付けるために使用するファイルです。

格納場所

Windows	for Microsoft System Management Server Adapterインストールディレクトリ¥etc

ファイル形式

```
[SectionName]
Key = 値
```

インベントリ定義ファイルは、iniファイル形式で定義します。セクション名およびキー名は以下のとおりです。

SectionName	Key	値	備考
NodeInfo	1	select Computer_System.Name, Network_DATA.IPAddress from Computer_System, Network_DATA where Computer_System.MachineID = Network_DATA. MachineID	ホスト名および、IPアドレス一覧を取得するSQL文
HardwareTable	1	select CD_ROM_DATA.* from CD_ROM_DATA, Computer_System_Data where Computer_System_Data.Name0 = '%s' and Computer_System_Data.MachineID = CD_ROM_DATA.MachineID	CD_ROMデータテーブル
	2	select Computer_System_DATA.* from Computer_System_Data where Computer_System_Data.Name0 = '%s'	コンピュータシステム テーブル
	:	:	:
	24	select Motherboard_DATA.* from Motherboard_DATA, Computer_System_Data where Computer_System_Data.Name0 = '%s' and Computer_System_Data.MachineID = Motherboard_DATA.MachineID	マザーボード情報 テーブル
	25	select WorkstationStatus_DATA.* from WorkstationStatus_DATA, Computer_System_Data where Computer_System_Data.Name0 = '%s' and Computer_System_Data.MachineID = WorkstationStatus_DATA.MachineID	ワークステーション テーブル
HardwareSetting	count	199	Key定義数
	1	1,7,0,0,0	文字コード
	2	1,3,0,0,0	レコード種別
	3	2,19,0,0,0	通知受信タイムスタンプ

SectionName	Key	値	備考
	4	0,128,0,0,0	システム名
	5	1,4,0,0,0	システム種別
	6	0,30,1,0,0	システムのコメント
	7	3,0,1,0,0	ノード名
	:	:	:
	197	3,0,1,1,0	ディスク容量
	198	3,0,1,1,0	ディスクIF
	199	3,0,1,1,0	ディスク説明
HardwareSeparator	197	0x20	ディスク容量
	198	0x2c	ディスクIF
	199	0x2c	ディスク説明
HardwareConvert	23	MBTOB	Aドライブ総容量
	:	:	:
	76	MBTOB	全ドライブ空き容量
	79	REMOVE	ノード番号
HardwareInventory	1	SJIS	文字コード
	2	ivh	レコード種別
	3	TIMEGET	通知受信タイムスタンプ
	4		システム名
	5	SERV	システム種別
	6		システムのコメント
	7	19:6	ノード名
	:	:	:
	197	4:20	ディスク容量
	198	4:10	ディスクIF
	199	4:7	ディスク説明
SoftwareTable	26	select Add_Remove_Programs_DATA.* from Add_Remove_Programs_DATA, Computer_System_Data where Computer_System_Data.Name0 = '%s' and Computer_System_Data.MachineID = Add_Remove_Programs_DATA.MachineID	ソフトウェア情報
SoftwareSetting	count	13	Key定義数
	1	1,7,0,0,0	文字コード
	2	1,3,0,0,0	レコード種別
	3	2,19,0,0,0	通知受信タイムスタンプ
	4	0,128,0,0,0	システム名

SectionName	Key	値	備考
	:	:	:
	11	0,0,1,0,0	リザーブ
	12	0,0,0,0,0	ファイルサイズ
	13	0,0,1,0,0	説明
SoftwareSeparator			複数定義可能時の定義間の区切り方法
SoftwareConvert			単位変換が必要なマクロ名
SoftwareInventory	1	SJIS	文字コード
	2	ivs	レコード種別
	3	TIMEGET	通知受信タイムスタンプ
	4	OVW	システム名
	:	:	:
	11		リザーブ
	12		ファイルサイズ
	13		説明

[NodeInfo]

ホスト名一覧および、IPアドレスを取得するSQL文を記述します。

```
NodeName = select Computer_System_Data.Name0,
           Network_DATA.IPAddress0
           from Computer_System_Data, Network_DATA
           where IPAddress0 is not NULL and
           Computer_System_Data.MachineID = Network_DATA.MachineID
```

[HardwareTable]

インベントリ情報を取得するためのテーブル名を記述します。

[HardwareSetting]または[SoftwareSetting]

ハードウェアインベントリ情報またはソフトウェアインベントリ情報

count

各SettingのKey定義数を設定します。

1～199

Systemwalkerのインベントリ情報CSVに関連付ける項目を設定します。形式は以下のとおりです。

```
n=種別,固定長,"の有無,複数定義,変換の有無
```

種別:

Systemwalkerに通知する方法を定義します。

0:設定値なし
1:固定文字
2:マクロ
3:データベースから取得

固定長:

情報の長さを指定します。設定する情報が指定した長さに満たない場合は、残りのフィールドは空白を設定します。0を指定した場合は、不定長として扱います。

"の有無:

設定値を"で囲むか囲まないかの指定をします。

0:設定値を"で囲まない
1:設定値を"で囲む

複数定義:

設定値が複数定義可能かどうかを指定します。可能に設定した場合は、[HardwareSeparator]または[SoftwareSeparator]で詳細な定義方法を設定します。

0:不可／1:可能

変換の有無:

Systemwalkerのインベントリ情報とMicrosoft System Management Serverのインベントリ情報で、単位の違いなどによる設定値の変換処理が必要かどうかを指定します。必要に設定した場合は、各Convert情報([～Convert])にて詳細な定義方法を設定します。

0:不要／1:必要

[HardwareSeparator]または[SoftwareSeparator]

ハードウェアインベントリ情報またはソフトウェアインベントリ情報

複数定義が可能な場合、定義と定義の間の区切りに使用する文字を設定します。16進数のASCIIコードで設定する必要があります。

,(カンマ)区切りの場合:0x2c
空白区切りの場合 :0x20

[HardwareConvert]または[SoftwareConvert]

ハードウェアインベントリ情報またはソフトウェアインベントリ情報

変換が必要な場合、マクロ名を設定します。

[HardwareInventory]または[RepositoryInventory]

ハードウェアインベントリ情報またはソフトウェアインベントリ情報

Systemwalkerのインベントリ情報定義に関連付ける項目を設定します。Key名は、インベントリCSVファイルのフィールド番号に対応します。

設定する項目がない場合

設定は行いません。

固定文字を設定する場合

Systemwalkerのインベントリ情報に設定する固定文字を設定します。

マクロを定義して取得したい場合

マクロ文を設定します。マクロを実行した結果を、Systemwalkerのインベントリ情報に設定します。

テーブルのセクションから情報を取得する場合

Tableで設定した情報から、フィールド番号を指定することにより、指定された箇所の情報を、Systemwalkerのインベントリ情報に設定することができます。

1つのテーブルを参照して、指定のフィールドを参照する場合

TableNoとFieldNoの間に":"を付けることにより、指定テーブル番号内の指定されたフィールドの情報を引き出すことができます。

構文:TableNo:FieldNo

抽出条件を指定する場合

ドライブ指定など、抽出条件を指定する場合は、参照箇所の後ろ“,”を付け、抽出条件を行う2つのテーブル:フィールドを設定します。抽出条件間に“=”を設定します。

なお、抽出条件の指定可能数は1件までです。

下記例では、TableNo1のField5が、”C:”のときのField1の情報を取得する方法です。

構文:TableNo1:FieldNo1,TableNo1:FieldNo5=”C:”

ハードウェアインベントリ フィールド番号一覧

1. CD_ROM_DATAテーブル		
	フィールド番号	対応する項目
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	Avalability
	7	DeviceID
	8	DeviceID
	9	Drive
	10	MediaType
	11	SCSITargetId
	12	SystemName
	13	VolumeName
	14	Description
	15	Manufacturer
2. Computer_System_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	CurrentTimeZone
	7	Description
	8	Domain
	9	Model
	10	Name
	11	Roles
	12	Status
	13	UserName
	14	DomainRole
	15	Manufacturer

	16	NumberOfProcessors
	17	SystemType
	18	PauseAfterReset
3. Desktop_Monitor_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	Description
	7	DeviceID
	8	DisplayType
	9	MonitorManfacturer
	10	MonitorType
	11	Name
	12	PixelPerXLogicalInch
	13	PixelPerYLogicalInch
	14	ScreenHight
	15	ScreenWidth
4. Disk_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	Avalability
	7	Description
	8	DeviceID
	9	Index
	10	InterfaceType
	11	Manufacturer
	12	MediaType
	13	Name
	14	Partitions
	15	PNP DeviceID
	16	SCSI Bus
	17	SCSILogicalUnit
	18	SCSIPort
	19	SCSITargetId
	20	Size

	21	SystemName
	22	TotalCylinders
	23	TotalSectors
	24	TotalTracks
5. IDE_Controller_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	Avalability
	7	Description
	8	DeviceID
	9	Manufacturer
	10	Name
	11	Status
6. Logical_Disk_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	Availability
	7	Description
	8	DeviceID
	9	FileSystem
	10	FreeSpace
	11	Name
	12	Size
	13	SystemName
	14	VolumeName
	15	Compressed
	16	VolumeSerialNumber
	17	DriveType
	18	NumberOfBlocks
7. Keyboard_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID

	5	TimeKey
	6	DeviceID
	7	Description
	8	Name
	9	Layout
8. Mouse_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	DeviceID
	7	HardwareType
	8	Name
	9	NumberOfButtons
	10	Status
9. Netcard_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	AdapterType
	7	Description
	8	DeviceID
	9	MACAddress
	10	Manufacturer
	11	Name
	12	ProductName
	13	ServiceName
	14	Status
	15	MaxSpeed,Speed
10. Network_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	DefaultIPGateway
	7	DHCPEnabled

	8	Index
	9	IPAddress
	10	IPSubnet
	11	MACAddress
	12	ServiceName
	13	DHCPServer
	14	IPEnabled
	15	IPXEnabled
11. Network_Client_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	Description
	7	Manufacturer
	8	Name
	9	Status
12. Operating_System_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	BootDevice
	7	BuildNumber
	8	Caption
	9	CountryCode
	10	CSDVersion
	11	Description
	12	FreePhysicalMemory
	13	FreeVirtualMemory
	14	InstallDate
	15	LastBootUpTime
	16	Locale
	17	Manufacturer
	18	Name
	19	SystemDirectory
	20	TotalSwapSpaceSize
	21	TotalVirtualMemorySize

	22	Version
	23	WindowDirectory
	24	OSLangeage
	25	TotalVisibleMemorySize
	26	MaxNumberOfProcessors
13. Parallel_Port_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	Avalability
	7	Capabilities
	8	DeviceID
	9	Name
	10	Status
14. Partition_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	Access
	7	Bootable
	8	BootPartition
	9	Description
	10	DeviceID
	11	Name
	12	PrimaryPartition
	13	Size
	14	SystemName
	15	Type
	16	NumberOfBlocks
15. PC_BIOS_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	Description

	7	Manufacturer
	8	Name
	9	ReleaseDate
	10	Version
	11	SerialNumber
	12	SMBIOSBIOSVersion
	13	SoftwareElement
	14	SoftwareElementState
	15	TargetOperatingSystem
16. PC_Memory_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	AvalableVirtualMemory
	7	Name
	8	TotalPhysicalMemory
	9	TotalVirtualMemory
17. Processor_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	CurrentClockSpeed
	7	DeviceID
	8	Family
	9	Manufacturer
	10	MaxClockSpeed
	11	Name
	12	Status
	13	SystemName
	14	Version
	15	ProcessorId
	16	ProcessorType
	17	Revision
	18	AddressWidth
	19	DataWidth
	20	SocketDesignation

18. SCSI_Controller_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	Avalability
	7	Description
	8	DeviceID
	9	DriverName
	10	HardwareVersion
	11	Index
	12	Manufacturer
	13	Name
	14	Status
	15	MaxTransferRate
19. System_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	Name
	7	SMSID
	8	Domain
	9	SystemRole
	10	SystemType
20. System_Enclosure_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	ChassisTypes
	7	Manufacturer
	8	SerialNumber
	9	SMBIOS
	10	AssetTag
	11	Tag
21. Tape_Drive_DATAテーブル		

	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	Avalability
	7	Description
	8	DeviceID
	9	MediaType
	10	Name
	11	Status
22. USB_Controller_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	Availability
	7	Description
	8	DeviceID
	9	Name
23. Video_Controller_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	AdapterCompatibility
	7	AdapterDACType
	8	CurrentBitsPerPixel
	9	CurrentHorizontalResoultion
	10	CurrentNumberOfColomns
	11	CurrentNumberOfRows
	12	CurrentRefreshRate
	13	CurrentScanMode
	14	CurrentVerticalResolution
	15	Description
	16	DeviceID
	17	DriverDate
	18	DriverVersion

	19	InstallDisplayDriver
	20	Name
	21	NumberOfColorPlanes
	22	SpecificationVersion
	23	VideoMode
	24	VideoModeDescription
	25	VideoProcessor
	26	AdapterRAM
	27	CurrentNumberOfColors
	28	DeviceSpecificPen
24. Motherboard_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	Description
	7	DeviceID
	8	PrimaryBusType
	9	RevisionNumber
	10	SecondaryBusType
	11	Status
	12	StatusInfo
	13	SystemName
25. WorkstationStatus_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	LastHWScan
26. Add_Remove_Programs_DATAテーブル		
	1	MachineID
	2	InstanceKey
	3	RevisionID
	4	AgentID
	5	TimeKey
	6	ProdID
	7	DisplayName
	8	InstallDate

	9	Publisher
	10	Version

パラメタ

ファイル形式を参照してください。

注意事項

- パラメタに不正な値を設定した場合は、インベントリ情報取得に失敗する場合があります。
- 編集後に他社連携アダプタのサービスの再起動が必要です。

使用例

以下に使用例を示します。

```
;-----------------------------------------------------
; ノード情報
;-----------------------------------------------------
[NodeInfo]
1=select Computer_System.Name, Network_DATA.IPAddress
   from Computer_System, Network_DATA
   where Computer_System.MachineID = Network_DATA. MachineID

;-----------------------------------------------------
; ハードウェアテーブル情報
;-----------------------------------------------------
[HardwareTable]
 1=select CD_ROM_DATA.* from CD_ROM_DATA, Computer_System_Data where Computer_System_Data.Name0 = '%s' and
Computer_System_Data.MachineID = CD_ROM_DATA.MachineID
 2=select Computer_System_DATA.* from Computer_System_Data where Computer_System_Data.Name0 = '%s'
       :
       :
 25=select WorkstationStatus_DATA.* from WorkstationStatus_DATA, Computer_System_Data where Computer_System_Data.Name0 =
'%s' and Computer_System_Data.MachineID = WorkstationStatus_DATA.MachineID


;-----------------------------------------------------
; ハードウェアインベントリ情報
;-----------------------------------------------------
[HardwareSetting]
count=199
1=1,7,0,0,0
2=1,3,0,0,0
    :
197=3,0,1,1,0
198=3,0,1,1,0
199=3,0,1,1,0

[HardwareSeparator]
9=0x2c
12=0x2c
  :
197=0x20
198=0x2c
199=0x2c

[HardwareConvert]
23=MBTOB
  :
76=MBTOB
```

```
79=REMOVE

[HardwareInventory]
1=SJIS
2=ivh
   :
197=4:20
198=4:10
199=4:7

;-----------------------------------------------------
; ソフトウェアテーブル情報
;-----------------------------------------------------
[SoftwareTable]
26=select Add_Remove_Programs_DATA.* from Add_Remove_Programs_DATA, Computer_System_Data where Computer_System_Data.Name0
= '%s' and Computer_System_Data.MachineID = Add_Remove_Programs_DATA.MachineID

;-----------------------------------------------------
; ソフトウェアインベントリ情報
;-----------------------------------------------------
[SoftwareSetting]
count=13
1=1,7,0,0,0
2=1,3,0,0,0
3=2,19,0,0,0
4=0,128,0,0,0
   :
9=3,0,1,0,0
10=3,0,1,0,0
   :
13=0,0,1,0,0

[SoftwareSeparator]

[SoftwareConvert]

[SoftwareInventory]
1=SJIS
2=ivs
3=TIMEGET
4=
   :
9=26:7
10=26:10
   :
13=
-----------------------------------------------
```

11.4 Microsoft System Center Operations Manager連携 設定ファイル

ファイル名

settings.ini

使用用途

Microsoft System Center Operations Manager連携アダプタの設定を変更するときに使用するファイルです。

格納場所

Windows	for Microsoft System Center Operations Manager 連携アダプタのインストールディレクトリ

ファイル形式

```
[SectionName]
Key = 値
```

イベント定義の関連付けを行うために、以下の形式のiniファイルを使用します。

SectionName	Key	値	デフォルト値
OpsMgr Adapter	PoolingInterval	1000～30000	5000
	Language	1～2	2

各“Key”は設定項目を表しています。各“Key”に対応付けられた設定項目は以下のとおりです。

- PoolingInterval：System Center Operation Managerへのポーリングの実行間隔
- Language : Systemwalker Centric Managerへ通知されるイベントのメッセージ中に含まれる System Center Operations Managerアラートの重要度の言語表示

“Keyの値”には、値を設定します。

- PoolingInterval : ポーリングの実行間隔をミリ秒単位で指定します。
- Language : 表示する言語の番号を入力します。

なお、言語と番号の対応は以下のとおりです。

表示する言語	番号
日本語	1
英語	2

パラメタ

ファイル形式を参照してください。

注意事項

- 以下の値を設定した場合、連携アダプタはデフォルト値で動作します。
  - ー 数以外の文字を含む文字列、頭に0が付く数・文字列を設定した場合
  - ー 設定可能範囲外の値
  - ー 値を設定していない場合
  - ー インストールディレクトリに“settings.ini"が存在しない場合
- ファイル内容の変更後、サービス[Systemwalker OpsMgr Adapter]を再起動することで、設定内容の変更が有効になります。

使用例

以下に使用例を示します。

```
[OpsMgr Adapter]
PoolingInterval=10000
Language =1
```

11.5 CA Unicenter Network and Systems Management連携 イベント定義ファイル

ファイル名

AdpEvt.ini

使用用途

CA Unicenter Network and Systems ManagementのイベントとSystemwalker Centric Managerのイベントを連携するために、CA Unicenter Network and System ManagementのSeverity情報とSystemwalker Centric Managerの状態との対応付けや各種定義を行うために使用するファイルです。

格納場所

Windows	for CA Unicenter Network and Systems Management Adapterインストールディレクトリ¥etc

ファイル形式

```
[SectionName]
Key = 値
```

イベント定義の関連付けを行うために、以下の形式のiniファイルを使用します。

SectionName	Key	値	デフォルト値
Severity	E	0～3、または5	1
	F	0～3、または5	0
	W	0～3、または5	2
	S	0～3、または5	3
	I	0～3、または5	3

各“Key”はCA Unicenter Network and System ManagementのSeverity情報を表しています。各“Key”に対応付けされたSeverity情報は以下のとおりです。

- E: Error
- F: Failure
- W: Warning
- S: Success
- I: Information

“Keyの値”には、CA Unicenter Network and System ManagementのSeverity情報とSystemwalkerの状態との関連付けを設定しています。設定できる値は以下のとおりです。

- 0: 重要
- 1: 最重要
- 2: 警告
- 3: 情報
- 5: 通知(注)

注)“5”は、Systemwalker Centric ManagerがV13.3.0以降の場合のみ指定可能です。

パラメタ

ファイル形式を参照してください。

注意事項

- パラメタに不正な値を設定した場合は、イベント送信に失敗する場合があります。
- 編集した後に発生したイベントより設定が有効になります。

使用例

CA Unicenter Network and System Management とSystemwalker Centric Managerとの重要度を関連付けます。

```
;CA Unicenter Network and System Management Severity情報
[Severity]
E=0
F=2
W=2
S=3
I=3
```

11.6 CA Unicenter Asset Management連携 インベントリ定義ファイル

ファイル名

AdpInv.ini

使用用途

CA Unicenter Asset Management r4、またはCA Unicenter Asset Management r11で収集したインベントリ情報を、Systemwalker Centric Managerのインベントリ情報CSVファイルに関連付けるために使用するファイルです。

格納場所

Windows	for CA Unicenter Asset Management Adapterインストールディレクトリ¥etc

ファイル形式

```
[SectionName]
Key = 値
```

インベントリ定義ファイルは、iniファイル形式で定義します。セクション名およびキー名は次のとおりです。

SectionName	Key	値	備考
HardwareSetting	count	199	Keyの数
	1	1,7,0,0,0	文字コード
	2	1,3,0,0,0	レコード種別
	3	2,19,0,0,0	通知受信タイムスタンプ
	:	:	:
	11	3,0,0,0,1	物理メモリ量
	:	:	:
	25	3,0,0,0,0	Cドライブ総容量
	:	:	:
	79	3,0,1,0,1	ノード番号

SectionName	Key	値	備考
	:	:	:
	146	2,0,1,1,0	プリンタ情報
	:	:	:
	191	3,0,1,1,0	メモリデバイスロケータ
	:	:	:
	199	0,0,1,0,0	ディスク説明
HardwareSeparator	146	0x2C	プリンタ情報
	191	0x20	メモリデバイスロケータ
HardwareConvert	11	BTOKB	物理メモリ量
	79	REMOVE	ノード番号
HardwareInventory	1	SJIS	文字コード
	2	ivh	レコード種別
	:	:	:
	11	1:“$System$”:”Total Memory”:14	物理メモリ量
	:	:	:
	25	1:“$Local File Systems $”:”Size”:14, 1:“$Local File Systems $”:”Name”:10= “C:¥”	Cドライブ総容量
	:	:	:
	79	1:“TCP/IP”:”MAC Address”:10	ノード番号
	:	:	:
	146	PRINTER(1:”$Local Printer $”:”Model” :10,0)	プリンタ情報
	:	:	:
	191	1:“$Memory$”:”Memory Bank”:10	メモリデバイスロケータ
	:	:	:
	199		ディスクの説明
SoftwareSetting	count	13	Keyの数
	1	1,7,0,0,0	文字コード
	2	1,3,0,0,0	レコード種別
	3	2,19,0,0,0	通知受信タイムスタンプ
	4	1,128,0,0,0	システム名
	5	1,4,0,0,0	システム種別
	6	1,30,1,0,0	システムのコメント
	7	3,0,1,0,0	実行可能ファイル名
	8	0,0,1,0,0	更新日時

SectionName	Key	値	備考
	9	3,0,1,0,0	製品名
	10	3,0,1,0,0	V/L
	11	0,0,1,0,0	リザーブ
	12	0,0,0,0,0	ファイルサイズ
	13	0,0,1,0,0	説明
SoftwareSeparator			
SoftwareConvert			
SoftwareInventory	1	SJIS	文字コード
	2	ivs	レコード種別
	3	TIMEGET	通知受信スタンプ
	4		システム名
	5	SERV	システム種別
	6		システムのコメント
	7	1:11	実行可能ファイル名
	8		更新日時
	9	2:2	製品名
	10	2:3	V/L
	11		リザーブ
	12		ファイルサイズ
	13		説明
TextSetting	flag	0	テキスト情報取得フラグ
	count	9	Keyの数
	1	1,7,0,0,0	文字コード
	2	1,3,0,0,0	レコード種別
	3	2,19,0,0,0	通知受信タイムスタンプ
	4	1,128,0,0,0	システム名
	5	1,4,0,0,0	システム種別
	6	1,30,1,0,0	システムのコメント
	7	2,0,1,0,0	
	8	2,0,0,0,0	
	9	2,0,1,0,0	
TextSeparator			
TextConvert			
TextInventory	1	SJIS	文字コード
	2	ivt	レコード種別
	3	TIMESET	通知受信スタンプ
	4		システム名
	5	SERV	システム種別
	6		システムのコメント

SectionName	Key	値	備考
	7	FNAME	
	8	LINE	
	9	TEXT	

[HardwareSetting]

countは、Keyの数を設定します。

Systemwalkerのハードウェアインベントリ情報CSVファイルに関連付けるための情報を、[Key=取得方法,長さ,"の有無,複数定義の可否,変換処理の有無]の形式で設定します。Key名は、Systemwalkerのハードウェアインベントリ情報CSVファイル形式のフィールド番号に対応します。

取得方法:

設定する値の取得方法を指定します。取得方法は、以下のどれかを指定します。

種別	指定する値
取得しない	0
固定文字	1
マクロ	2
データベース	3

長さ:

設定する値の長さを指定します。[HardwareSetting]セクションの取得方法に従い取得した情報が指定した長さに満たない場合は、残りのフィールドは空白を設定します。0を指定した場合は、不定長として扱います。

"の有無:

設定する値を"で囲むか囲まないかを指定します。

0: 設定値を"で囲まない
1: 設定値"で囲む

複数定義の可否:

設定する値が複数定義可能かどうかを指定します。

0: 不可
1: 可能

複数定義の可否で1を指定した場合、[HardwareSeparator]セクションの設定を行ってください。設定方法に関しては、後述の[HardwareSeparator]セクションの説明を参照してください。

変換処理の有無:

Systemwalkerのインベントリ情報とCA Unicenter Asset Managementのインベントリ情報で、単位の違いなどによる設定値の変換処理が必要かどうかを指定します。

0: 不要
1: 必要

変換処理の有無で"1"を指定した場合、[HardwareConvert]セクションの設定を行ってください。設定方法に関しては、後述の[HardwareConvert]セクションの説明を参照してください。

[HardwareInventory]

Systemwalkerのハードウェアインベントリ情報CSVファイル形式に設定する値を指定します。Key名は、Systemwalkerのハードウェアインベントリ情報CSVファイルのフィールド番号に対応します。設定する値は、[HardwareSetting]セクションで指定した取得方法により異なります。

取得しない(=0)を指定した場合

何も設定しません。

固定文字(=1)を指定した場合

設定する固定文字を指定します。固定文字として空白を設定する場合は、何も設定しません。

マクロ(=2)を指定した場合

使用するマクロを、マクロ名(引数1,引数2,…)の形式で指定します。引数がない場合は、マクロ名のみを指定します。

データベース(=3)を指定した場合

1. 条件指定なしの場合
   テーブル番号:“GroupName”:”ItemName”:フィールド番号の形式で指定します。
   GroupName、ItemNameは、それぞれ””で囲む必要があります。
2. 条件指定ありの場合
   テーブル番号:“GroupName”:”ItemName”:フィールド番号, “GroupName”:“ItemName”:フィールド番号=”条件”の形式で指定します。
   GroupName、ItemNameは、それぞれ””で囲む必要があります。
   条件指定が複数ある場合は、&に続けて2つ目以降の条件を指定します。

GroupName、ItemNameはCA Unicenter Asset Managementで定義されています。指定可能なGroupName、ItemNameに関しては、後述のGroupName一覧、ItemName一覧を参照してください。

指定可能なテーブル番号、フィールド番号に関しては、後述のハードウェアインベントリ フィールド番号一覧を参照してください。

[HardwareSeparator]

複数定義可能な項目に関する各値の区切り文字を、ASCIIコードで指定します。[HardwareSetting]セクションの複数定義の可否で、“1”を指定したKeyのみ参照します。[HardwareSetting]セクションの複数定義の可否で“1”を指定したKeyに関しては定義は必須ですが、“0”を指定したKeyに関しては省略可能です。

Systemwalkerのハードウェアインベントリ情報CSVファイルには、“設定値1 設定値2 設定値3”の形式で設定されます。

（例）区切り文字を空白とする場合

```
[HardwareSetting]
1=3,0,1,①0 ──▶ 複数定義の可否=1

[HardwareSeparator]
1=0x20
```

[HardwareConvert]

変換処理を行うマクロの名前を指定します。[HardwareSetting]セクションの変換処理の有無で1を指定したKeyのみ参照します。[HardwareSetting]セクションの変換処理の有無にて“1”を指定したKeyに関しては定義は必須ですが、“0”を指定したKeyに関しては省略可能です。

Systemwalkerのハードウェアインベントリ情報CSVファイルには、BTOKBマクロを実行した結果が設定されます。

（例）変換処理マクロとしてBTOKBマクロを指定する場合

```
[HardwareSetting]
1=3,0,0,0,① ──▶ 変換処理の有無=1

[HardwareConvert]
1=BTOKB
```

[SoftwareSetting]

[HardwareSetting]の説明を参照してください。

[SoftwareSeparator]

[HardwareSeparator]の説明を参照してください。

[SoftwareConvert]

[HardwareConvert]の説明を参照してください。

[SoftwareInventory]

Systemwalkerのソフトウェアインベントリ情報CSVファイル形式に設定する値を指定します。Key名は、Systemwalkerのソフトウェアインベントリ情報CSVファイルのフィールド番号に対応します。設定する値は、[SoftwareSetting]セクションで指定した取得方法により異なります。

取得しない(=0)を指定した場合

何も設定しません。

固定文字(=1)を指定した場合

設定する固定文字を指定します。固定文字として空白を設定する場合は、何も設定しません。

マクロ(=2)を指定した場合

使用するマクロを、マクロ名(引数1,引数2,…)の形式で指定します。引数がない場合は、マクロ名のみを指定します。

データベース(=3)を指定した場合

条件指定なしの場合

テーブル番号:フィールド番号の形式で指定します。

条件指定ありの場合

テーブル番号:フィールド番号,テーブル番号:フィールド番号=”条件”の形式で指定します。条件指定が複数ある場合は、&に続けて2つ目以降の条件を指定します。

指定可能なテーブル番号、フィールド番号に関しては、後述のソフトウェアインベントリ テーブル番号一覧、フィールド番号一覧を参照してください。

[TextSetting]

flagは、テキストインベントリ情報を取得するかどうかを指定します。

0:テキストインベントリ情報を取得しない(デフォルト)

1:テキストインベントリ情報を取得する

countは、Keyの数を設定します。

Systemwalkerのテキストインベントリ情報CSVファイルに関連付けるための情報を、[Key=取得方法,長さ,”の有無,複数定義の可否,変換処理の有無]の形式で設定します。Key名は、Systemwalkerのテキストインベントリ情報CSVファイル形式のフィールド番号に対応します。

[Key=取得方法,長さ,”の有無,複数定義の可否,変換処理の有無]の形式の詳細に関しては、[HardwareSetting]の説明を参照してください。

※ただし、テキストインベントリ情報に関しては、取得方法としてデータベース(=3)を指定することはできません。

[TextSeparator]

[HardwareSeparator]の説明を参照してください。

[TextConvert]

[HardwareConvert]の説明を参照してください。

[TextInventory]

Systemwalkerのテキストインベントリ情報CSVファイル形式に設定する値を指定します。Key名は、Systemwalkerのテキストインベントリ情報CSVファイルのフィールド番号に対応します。設定する値は、[TextSetting]セクションで指定した取得方法により異なります。

取得しない(=0)を指定した場合

何も設定しません。

固定文字(=1)を指定した場合

設定する固定文字を指定します。固定文字として空白を設定する場合は、何も設定しません。

マクロ(=2)を指定した場合

使用するマクロを、マクロ名(数1,引数2,…)の形式で指定します。引数がない場合は、マクロ名のみを指定します。

・ テーブル番号一覧

	テーブル番号	対応するテーブル
【CA Unicenter Asset Management r11の場合】	1	inv_generalinventory_item
【CA Unicenter Asset Management r4の場合】	1	INFOTXT
	2	INFOLNG
	3	INFODBL

・ GroupName一覧

	GroupName
【CA Unicenter Asset Management r11の場合】	$40General Inventory$
	$System$
	$Installation$
	$Fixed Drives$
	$Operating System$
	$Processors$
	$System Devices$
	$Network Adapters$
	$Network$
	TCP/IP
	$File Systems$
	$Local File Systems$
	$External Devices
	$Local Printer$
	$Modem$
	$Monitor$
	$Logical Volumes$
	$Partitions$
	$Input Devices$
	$Keyboard$
	$Pointing Devices$
	DNS
	$WINS$
	$Display Settings$
	$Regional Settings$
	$System Updates$
	$Power Settings$
	$AC Adapter$
	$Battery$

	GroupName
	$Power Policy$
	$Storage$
	$CD-Rom Drives$
	$Firewire Controllers$
	$IDE Controllers$
	$PCMCIA Controllers$
	$Sound Adapters$
	$USB Controllers$
	$Video Adapters$
	$System Status$
	$I/O Ports$
	$Mainboard$
	$Memory$
	$System Bios$
	$System Slots$
	$Floppy Drives$
	$Floppy Controllers$
	$Network File Systems$
	$PCI Controllers$
【CA Unicenter Asset Management r4の場合】	$Country$
	$Display Adapter$
	$Display$
	$Drives$
	$GeneralInventory$
	I/O
	$Keyboard$
	$Memory$
	$Mouse$
	$Network Adapter$
	$Network$
	$Operating System$
	$Processors$
	$Stamp$
	$System BIOS Information$
	$40GeneralInventory$
	$Docking Devices$
	$External Devices$
	$File Systems$
	$Input Devices$

	GroupName
	$Network Bindings$
	TCP/IP
	$Installation$
	$Regional Settings$
	$Power Supply$
	$Storage$
	$CD-Rom Drives$
	$Fixed Drives$
	$Floppy Drives$
	$System Devices$
	$Floppy$
	IDE
	$Network Adapters$
	$Sound Adapters$
	USB
	$Video Adapters$
	$System Status$
	$System$
	$I/O Ports$
	$Main Board$
	$System Bios$
	$Logical Volumes$
	$Monitor$
	$Network Printer$
	$Local File Systems$
	$Network File Systems$
	$Partitions$
	$Pointing Devices$
	$Display Settings$
	$Power Settings$
	$Power Policy$
	$Floppy Controllers$
	$IDE Controllers$
	$USB Controllers$
	$Mainboard$
	$System Slots$
	DNS
	$WINS$
	$Local Printer$

	GroupName
	$Tape Drives$
	$SCSI Controllers$

・ ItemName一覧

	ItemName
【CA Unicenter Asset Management r11の場合】	Type
	Serial Number
	Version
	Service Pack
	Model
	Vendor
	Total Memory
	Size
	No. of Processors
	Asset Tag
	System ID
	VendorID
	Speed
	No. of Network Adapters
	MAC Address
	Description
	Operating System
	Language
	Computer Name
	IP Address
	Domain Name
	Network Adapter
	Host Name
	Domain
	Name
	Used
	Free
	Used %
	Default Printer
	No. of Modems
	No. of Monitors
	No. of Printers
	Comment
	Location
	Port

	ItemName
	Attached To
	Driver
	Driver Provider
	Driver Version
	Status
	Status Text
	Max Resolution
	Production Week
	Production Year
	Device
	File System
	Mount Point
	Volume Label
	Drive Device
	Drive Model
	Volume Device
	Volume Free
	Volume Size
	Volume Used
	Volume Used %
	Bootable
	Partition Number
	Partition Type
	Recognized Partition
	Start Offset
	Keyboard
	Pointing Device
	Button Swapped
	Left Handed
	No. of Buttons
	Wheel
	Host
	Primary Server
	Quaternary Server
	Secondary Server
	Tertiary Server
	DHCP
	DHCP Server
	Default Gateway

	ItemName
	Device Name
	Domain Name Server
	Lease Expires
	Lease Obtained
	Primary WINS Server
	Secondary WINS Server
	Subnet Mask
	WINS
	Local Language
	Windows Update
	Adapter Name
	Color Depth
	Display Frequency
	Horizontal Resolution
	Resolution
	Screen Saver
	Vertical Resolution
	Wallpaper
	Wallpaper Style
	Build Number
	Install Date
	Licensee
	Major Version
	Minor Version
	Organisation
	Product ID
	System Path
	Country Code
	Country Name
	Currency Style
	Currency Symbol
	Data Separator
	Date Format
	Date Separator
	Decimal Separator
	Measurement System
	Significant Digits In Currency
	Thousands Separator
	Time Format

	ItemName
	Time Separator
	Installed By
	Installed Date
	Uninstall Program
	Update
	Support Hibernatio
	UPS Present
	AC Power
	Capacity %
	Estimated Time
	Number Of Recharges
	Power Status
	Production Date
	UniqueID
	No. of CD-ROM Drives
	No. of Fixed Drives
	No. of Floppy Drives
	No. of Tape Drives
	Total Disk Space
	DVD Drive
	Firmware Revision
	Interface
	Target ID
	Bytes Per Sector
	Cache Size
	Cylinder
	Sectors Per Track
	Tracks Per Cylinder
	No. of Firewire Controllers
	No. of IDE Controllers
	No. of PCMCIA Controllers
	No. of Sound Adapters
	No. of USB Controller
	No. of Video Adapter
	Adapter Typ
	Bios String
	Chip Typ
	Memory Size
	Refresh Frequency

	ItemName
	X Resolution
	Y Resolution
	Boot Time
	Current User
	Hardware Scan
	Up Time
	No. of COM Ports
	No. of Printer Ports
	No. of USB Ports
	No. of Video Ports
	Wake-up Type
	External Connector Typ
	External Designator
	External Port Type
	Internal Connector Type
	Internal Designator
	BIOS ROM Size
	No. of CPU Sockets
	No. of Free CPU Sockets
	No. of Free Memory Banks
	No. of Memory Banks
	No. of PCMCIA Slots
	No. of Used CPU Sockets
	No. of Used Memory Banks
	Frequency
	Memory Bank
	Memory Form
	Use
	-
	Max Speed
	Socket Designation
	Date
	ROM Size
	SM Bios Version
	Bus Type
	Bus Width
	Characteristics
	Current Usage
	Processor Count

	ItemName
	Network Adapters
	Fixed Drives
	L2 Cache
	Summary Period Begins (date)
	Summary Period Ends (date)
	Summary Period (days)
	Summary Status
	-
	Virtual Machine
	No. of Local File Systems
	No. of Logical Volumes
	No. of Partitions
	Sequence
	Server
	Server Name
	Platform Type
	Product Key
	No. of PCI Slots
	Hyper-Threading
【CA Unicenter Asset Management r4の場合】	Authenticating Agent
	Available Memory in Swapfile
	Available NCBs
	Available Physical Memory
	Available Virtual Memory
	BIOS info
	Build
	Build Number
	Bus Number
	Bus Type
	Cache Size
	Class Name
	Client for Microsoft Networks
	Client for NetWare Networks
	Color depth
	Common Files Directory
	Company Name
	Computer Browser
	Computer Description
	Configured NCBs

	ItemName
	Conventional
	Country Code
	Country Name
	CSD Version
	Currency Style
	Currency Symbol
	Current User
	Data
	Date Format
	Date Separator
	Decimal Separator
	Description
	Device ID
	Device Loader
	Device VxDs
	Devices With Problems Count
	DHCP Server IP Address
	Dial-Up Adapter
	Display Name
	DNS Enabled
	Domain
	Driver Description
	Driver Name (NDIS2)
	Error Control
	Extended
	File and printer sharing for Microsoft Networks
	File Date
	File Name (NDIS2)
	File Sharing
	File Size
	File System
	File Time
	File Version
	Frame Type
	Free
	Gateway Service for NetWare
	Group Name
	Help Text
	Hidden in Network GUI

	ItemName
	High Resolution Timer Frequency
	Hostname
	ID String
	Image Path
	IO Address
	IO Base Address
	IP Address
	IP Address via DHCP
	IP Domain
	IP Hostname
	IP Subnet Mask
	IP via DHCP
	IPX/SPX-compatible Protocol
	IRQ
	IRQ Number
	LANA number
	Language
	Left Handed
	Legal Copyright
	Legal Trademark
	LM Announce
	Log Driver Name (NDIS)
	Logged on User
	Logon Validated
	Lower Interface (Ndi)
	MAC Address
	Major Version
	Manufacturer
	Max Instance
	Maximum Message Size
	Maximum NCBs
	Measurement System
	Media
	Media Type
	Memory
	Microsoft Network
	Microsoft Windows Network
	Minor Version
	Name

	ItemName
	Names in Local Table
	NetBEUI Protocol
	NetBIOS Interface
	NETBIOS support for IPX/SPX-compatible Protocol
	NetWare
	NetWare or Compatible Network
	Network Adapter Count
	Network Driver Count
	Network ID
	Network Protocol Count
	Network Provider
	Network Provider Count
	Network Providers
	Network Service Count
	Number of buttons
	NWLink IPX/SPX Compatible Transport
	NWLink NetBIOS
	NWLink SPX Protocol
	Operating System
	OS Version
	Physical
	Physical Memory
	Platform
	Plus! detected
	Plus! Product ID
	Plus! Version Number
	Primary Provider
	Print Sharing
	Process Login Script
	Product ID
	Product Name
	Product Version
	Program Files Directory
	Protocol Version
	Protocols
	Provider Path
	Registered Organization
	Registered Owner

	ItemName
	RemoteAccess
	Resolution
	RPC Configuration
	Server
	Service
	Service Pack
	Service Type
	Significant Digits In Currency
	Size
	Speed
	Startup Type
	Static VxD
	Status
	Sub Version Number
	Subnet Mask
	Swapfile Size
	System
	System Root Directory
	Table #0 Name
	Table #0 Number
	Table #0 Status
	Table #1 Name
	Table #1 Number
	Table #1 Status
	Table #2 Name
	Table #2 Number
	Table #2 Status
	Table #3 Name
	Table #3 Number
	Table #3 Status
	Table #4 Name
	Table #4 Number
	Table #4 Status
	Table #5 Name
	Table #5 Number
	Table #5 Status
	TCP/IP
	TCP/IP Protocol
	Thousands Separator

	ItemName
	Time Format
	Time Separator
	Total Virtual Memory
	Transceiver Type
	Type
	Unit Address
	Upper Interface (Ndi)
	User Name
	Vendor
	VendorID
	Version
	Version Major
	Version Minor
	Volume Label
	Windows Hotfixes Count
	WINS Client(TCP/IP)
	WINS Enabled
	Workgroup
	Workstation
	X Resolution
	Y Resolution
	Primary Language
	SubLanguage
	Additional Equipment
	Additional Information
	Monitor Number
	Monitor Type
	Optional 1
	Optional 2
	Optional 3
	Optional 4
	Optional 5
	Company Number
	Keyboard Type
	Model Type
	Table #4 Number
	Table #4 Status
	Table #5 Name
	Table #5 Number

	ItemName
	Mouse Type
	Purchase Date
	Serial Number
	Printer Number
	Printer Type
	Default User
	Additional Text
	Default Workstation
	Department
	Phone
	Address
	City
	Country
	First Name
	Home Phone
	Last Name
	ZipCode
	Default Gateway
	DHCP Server
	Domain Name Server
	Lease Expires
	Lease Obtained
	Drive D: Volume Name
	Adapter String
	Chip Type
	Color Palette
	Interlaced
	Memory Size
	Refresh Frequency
	chips
	Display Adapter Count
	Drive C: bytes per sector
	Drive C: File System Flags
	Drive C: File System Name
	Drive C: Maximum Component Length
	Drive C: Mb free
	Drive C: Mb used
	Drive C: sectors per clusters
	Drive C: Serial Number

	ItemName
	Drive C: Size in Mb
	Drive C: total clusters
	Drive C: Volume Name
	Drive P: bytes per sector
	Drive P: File System Flags
	Drive P: File System Name
	Drive P: Maximum Component Length
	Drive P: Mb free
	Drive P: Mb used
	Drive P: sectors per clusters
	Drive P: Serial Number
	Drive P: Size in Mb
	Drive P: total clusters
	Drive P: Volume Name
	Drive R: bytes per sector
	Drive R: File System Flags
	Drive R: File System Name
	Drive R: Maximum Component Length
	Drive R: Mb free
	Drive R: Mb used
	Drive R: sectors per clusters
	Drive R: Serial Number
	Drive R: Size in Mb
	Drive R: total clusters
	Drive R: Volume Name
	COM1 I/O Address
	COM1 I/O Interrupt
	COM1 I/O Range
	LPT1 I/O Address
	LPT1 I/O Interrupt
	LPT1 I/O Range
	Main Processor Family
	Main Processor Model
	Main Processor Name
	Main Processor Speed
	Main Processor Stepping
	Main Processor Type
	Main Processor Vendor

	ItemName
	Main Processor Vendor ID
	Math Processor Status
	Math Processor Type
	Remote Access Mac
	Remote Access WAN Wrapper
	Remote Access Autodial Manager
	Remote Access Connection Manager
	Remote Access Server Service
	Scsiprnt Device
	Check Point Value
	Controls Accepted
	Current State
	Exit Code
	Exit Code Text
	Exit Code Type
	Interact With Desktop
	Wait Hint Value [ms]
	Alerter
	ClipBook Server
	DHCP Client
	Directory Replicator
	EventLog
	Messenger
	Net Logon
	Network DDE
	Network DDE DSDM
	NT LM Security Support Provider
	Plug and Play
	Protected Storage
	Remote Access Server
	Remote Procedure Call (RPC) Locator
	Remote Procedure Call (RPC) Service
	Schedule
	Service Count
	Spooler
	TCP/IP NetBIOS Helper
	Telephony Service
	UPS

	ItemName
	DHCP Enabled
	Highest Version
	Largest UDP Datagram size in bytes
	Max TCP Sockets
	Name Resolver
	System Status
	Server Name
	Revision
	Revision Date
	Copyright Notice
	Revision #
	Maximum Connections
	Used Connections
	Current Connections
	Maximum Supported Volumes
	System Fault Tolerance
	Transaction Tracking
	Maximum Supported LAN boards
	Configured LAN boards
	Maximum Supported Protocols
	Configured Protocols
	Number of Processors
	Group ID
	Full Name
	User ID
	Volume Name
	Volume Number
	Total Blocks
	Available Blocks
	Purgeable Blocks
	Not Yet Purgeable Blocks
	Total Directories
	Available Directories
	Sectors Per Block
	Total Size
	Free Space
	Volume Type
	Logical Name
	Node Address

	ItemName
	Configuration Version
	Driver Version
	Primary I/O Port
	Primary I/O Range
	Primary Interrupt Number
	Primary DMA Channel
	Secondary I/O Port
	Secondary I/O Range
	Secondary Interrupt Number
	Secondary DMA Channel
	Installed Protocol: 0
	Installed Protocol: 1
	Installed Protocol: 2
	Stack Name
	Stack Version
	Stack Short Name
	NLM Count
	NetWare 4.01/4.02/4.10 ISADISK Device Driver
	NetWare Unicode Library NLM
	NetWare 4.1 Directory Services Loader
	Netware Time Synchronization Services
	NetWare STREAMS
	NetWare 4.10 C NLM Runtime Library
	NetWare 4.1 Directory Services
	NetWare 3.11 Compatible NLM Support Module
	System Console Logger
	NetWare Transport Level Interface Library
	NetWare STREAMS IPX Protocol
	SNMP Agent
	Novell Generic Media Support Module
	Novell Ethernet Topology Specific Module
	NetWare Call Support Layer and IPX Connection Manager Stub
	Novell TCP/IP Module

	ItemName
	NetWare 4.1 Remote Console
	NetWare Remote Console SPX Driver
	NetWare NLM Utility User Interface
	NetWare STREAMS SPXII Protocol
	Btrieve NLM
	Remote NLM Spawn Utility
	NetWare Directory Services API Library v4.10
	File Name
	Copyright Information
	Identification Number (NLM ID)
	Flags
	Module Type
	Parent NLM ID
	Major Version Number
	Minor Version Number
	Timestamp
	Available Bytes For NLM
	Reclaimable bytes
	Message Language
	Referenced External Symbols
	StreetTalk Group
	Home Server
	Item Create Time
	Item Modify Time
	Formatted Name
	Title
	Location
	Telephone Number
	FAX Number
	Primary Project
	Server That Maintains This Object
	Group Sequence Number
	Group Server
	Controler name (NIC #1)
	Controller type (NIC #1)
	Slot number (NIC #1)
	MAC Address (NIC #1)
	Physical Node Address (NIC #1)

	ItemName
	VINES supported (NIC #1)
	TCP/IP supported (NIC #1)
	AppelTalk supported (NIC #1)
	Number of LANs
	Server key serial #
	Banyan software rev #
	Banyan software rev # string
	Processor type
	Product type
	Product type string
	Operating sys type
	Operating sys type string
	Operating sys revision
	Operating sys rev string
	Size of server RAM
	Last server boot time
	Current time on server
	Localtime
	Total cache size [KB]
	Cache buffer size [KB]
	Number of 1 KB I/O buffers
	Size of server RAM
	Last server boot time
	Current time on server
	Localtime
	Total cache size [KB]
	Cache buffer size [KB]
	Number of 1 KB I/O buffers
	Allocated inodes table entries
	Allocated file table entries
	Allocated mount table entries
	Allocated process table entries
	Max number of concurrent processes
	Max number of open files per process
	Total amount of process mem size [KB]
	Total amount of swap space
	Buffer space used for communications [KB]
	Max number of open sockets

	ItemName
	Number of protocol stacks configured
	Name (Stack 1)
	Number of protocols stack supports (Stack 1)
	Prot id (Stack 1, Prot1)
	Name (Stack 1, Prot1)
	Prot id (Stack 1, Prot2)
	Name (Stack 1, Prot2)
	Prot id (Stack 1, Prot3)
	Name (Stack 1, Prot3)
	Name (Stack 2)
	Number of protocols stack supports (Stack 2)
	Prot id (Stack 2, Prot1)
	Name (Stack 2, Prot1)
	Prot id (Stack 2, Prot2)
	Name (Stack 2, Prot2)
	Prot id (Stack 2, Prot3)
	Name (Stack 2, Prot3)
	Prot id (Stack 2, Prot4)
	Name (Stack 2, Prot4)
	Prot id (Stack 2, Prot5)
	Name (Stack 2, Prot5)
	Number of services
	Name (disk 1)
	Size (disk 1) [MB]
	Number of disks
	Number of printers
	CPUs configured
	Category
	Count
	Enabled
	Directory
	User
	Logon Script
	Users
	SQL Server
	Appel File Protocol
	Opens
	Locks

	ItemName
	Path
	Share
	Max Uses
	Current Uses
	Drive K: Volume Name
	S3ViRGE
	Drive D: bytes per sector
	Drive D: File System Flags
	Drive D: File System Name
	Drive D: Maximum Component Length
	Drive D: Mb free
	Drive D: Mb used
	Drive D: sectors per clusters
	Drive D: Serial Number
	Drive D: Size in Mb
	Drive D: total clusters
	Drive M: bytes per sector
	Drive M: File System Flags
	Drive M: File System Name
	Drive M: Maximum Component Length
	Drive M: Mb free
	Drive M: Mb used
	Drive M: sectors per clusters
	Drive M: Serial Number
	Drive M: Size in Mb
	Drive M: total clusters
	Drive M: Volume Name
	COM2 I/O Address
	COM2 I/O Interrupt
	COM2 I/O Range
	Drive E: Service
	Drive G: Service
	Drive H: Service
	Drive L: Service
	Drive N: Service
	Drive P: Service
	Drive R: Service
	Drive S: Service

	ItemName
	Drive T: Service
	Drive U: Service
	Drive V: Service
	Drive X: Service
	Drive Z: Service
	Font Size
	AppleTalk Protocol
	File Server for Macintosh
	Print Server for Macintosh
	SNMP Service
	CA-OpenIngres Intelligent Database
	CA-Unicenter Software Delivery
	CA-Vdba Remote Command
	License Logging Service
	NetCon Workstation Client
	OLE
	Dependency 1
	Gateway
	Name Server
	Computer Area
	Computer Name
	Area Name
	Area Information
	CA-Unicenter
	CA-Unicenter WorldView Agent
	TNG DB Server
	Client Version
	Data Separator
	Code Page Dos
	Code Page Win
	Date
	User Area
	Keyboard
	Mouse
	Device Status
	Driver
	Driver Provider
	Model
	Button Swapped

	ItemName
	Left Handede
	Wheel
	DHCP
	Domain Name
	Host Name
	SMBios Version
	Licensee
	Organisation
	System Path
	CD-ROM Drives
	Floppy Drives
	Hard Drives
	Tape Drives
	DVD Drive
	Buffer Size
	Bytes Per Sector
	Controller
	Cylinder
	Disk Type
	Role
	Sectors Per Track
	Tracks Per Cylinder
	Floppy Controllers
	IDE Controllers
	Network Adapters
	Sound Adapters
	USB Controllers
	Video Adapters
	Bios String
	Processor Count
	Total Memory
	UUID
	Wake-up Type
	External Connector Type
	External Designator
	External Port Type
	Internal Connector Type
	Internal Designator
	CPU Sockets

	ItemName
	Free CPU Sockets
	Free Memory Banks
	Memory Banks
	Used CPU Sockets
	Used Memory Banks
	Frequency
	Memory Bank
	Memory Form
	Use
	BIOS Date
	BIOS Vendor
	Display Frequency
	Volume Free
	Default Printer
	Monitors
	Printers
	Max Resolution
	Production Week
	Production Year
	Status Text
	Comment
	Port
	Device
	Mount Point
	Used
	Used %
	Drive Device
	Drive Model
	Volume Device
	Volume Size
	Volume Used
	Volume Used %
	Remote Path
	Bootable
	Partition Number
	Partition Type
	Recognized Partition
	Start Offset (Byte)
	Pointing Device

	ItemName
	Buttons
	Host
	Network Adapter
	Primary WINS Server
	Secondary WINS Server
	WINS
	Local Language
	Adapter Name
	Horizontal Resolution
	Vertical Resolution
	Wallpaper
	Wallpaper Style
	Install Date
	Support Hibernation
	UPS Present
	Fixed Drives
	Total Disk Space
	Firmware Revision
	Interface
	Target ID
	Adapter Type
	Device Name
	Boot Time
	Hardware Scan
	Up Time
	System ID
	PCI Slots
	Bus Width
	Characteristics
	Current Usage
	AGP 2X Slots
	IDE Slots
	Primary Server
	Quaternary Server
	Secondary Server
	Tertiary Server
	Screen Saver
	SCSI Controllers
	Asset Tag

	ItemName
	COM Ports
	Printer Ports
	SM Bios Version

・ ハードウェアインベントリ フィールド番号一覧

	フィールド番号	対応するフィールド
【CA Unicenter Asset Management r11の場合】	1	object_uuid
	2	item_parent_id
	3	item_name_id
	4	item_root_id
	5	item_root_name_id
	6	item_parent_name_id
	7	item_index
	8	item_type
	9	item_format
	10	item_value_text
	11	item_previous_value_text
	12	item_value_long
	13	item_previous_value_long
	14	item_value_double
	15	item_previous_value_double
	16	item_date
	17	item_lock
	18	domain_uuid
	19	auto_rep_version
	20	object_type
【CA Unicenter Asset Management r4の場合】	1	DOMAINID
	2	UNITID
	3	ITPRID
	4	ITNAMEID
	5	ITROOTID
	6	ITRTNMID
	7	ITPRNMID
	8	ITIDX
	9	ITTYPE
	10	ITVAL
	11	ITPVAL
	12	ITDATE
	13	ITLOOL

備考. INFOTXT、INFOLNG、INFODBLテーブルで共通の値です。

・ ソフトウェアインベントリ テーブル番号一覧

	テーブル番号	対応する項目
【CA Unicenter Asset Management r11の場合】	1	ca_discovered_software
	2	ca_software_def
【CA Unicenter Asset Management r4の場合】	1	APPLINK
	2	APPDEF

・ ソフトウェアインベントリ フィールド番号一覧

		フィールド番号	対応するフィールド
【CA Unicenter Asset Management r11の場合】	1. ca_discovered_softwareテーブル	1	sw_def_uuid
		2	dis_sw_uuid
		3	label
		4	serial_number
		5	creation_user
		6	creation_date
		7	last_update_user
		8	product_guid
		9	version_number
		10	last_update_date
		11	install_path
		12	last_accessed
		13	asset_source_uuid
		14	license_uuid
		15	auto_rep_version
		16	exclue_registration
		17	delete_time
		18	is_ignored_by_vuln_impact
	2. ca_software_defテーブル	1	sw_def_uuid
		2	name
		3	sw_version_label
		4	language
		5	creation_user
		6	creation_date
		7	last_update_user
		8	last_update_date
		9	version_number
		10	sw_version_number
		11	replication_flag
		12	software_type_id

		フィールド番号	対応するフィールド
		13	source_type_id
		14	description
		15	auto_rep_version
		16	manufacturer_uuid
		17	bit_support_id
		18	chip_set_id
		19	domain_uuid
		20	impact
		21	severity
		22	is_active
		23	no_longer_available
		24	family_sw_def_uuid
		25	lang_code
		26	class_id
		27	linear_sequence_number
		28	filter_from_view
【CA Unicenter Asset Management r4の場合】	1. APPLINKテーブル	1	UDOMID
		2	UNITID
		3	APID
		4	APCOUNT
		5	PATH
		6	FILENAME
	2. APPDEFテーブル	1	DOMAINID
		2	APID
		3	APTITLE
		4	APFNAME
		5	APFMNAME
		6	PUBID
		7	PLID
		8	FLAG
		9	OPTION1
		10	OPTION2
		11	OPTION3
		12	APBIN
		13	Y2000

パラメタ

ファイル形式を参照してください。

注意事項

- 編集後の設定は、次のインベントリ収集から有効になります。
- CA Unicenter Asset Management r4とCA Unicenter Asset Management r11 で設定値が異なるものがあります。CA Unicenter Asset Management r4の連携においてCA Unicenter Asset Management r11の定義を使用した場合、逆にCA Unicenter Asset Management r11の連携においてCA Unicenter Asset Management r4の定義を使用した場合は、インベントリ情報の取得に失敗する場合があります。
- パラメタに不正な値を設定した場合は、インベントリ情報取得に失敗する場合があります。

使用例

```
; Systemwalkerのハードウェアインベントリ情報CSVファイルに関連付ける
; ための情報を[Key=取得方法,長さ,” の有無,複数定義の可否,変換処理の有
; 無]の形式で設定します。Key名はハードウェアインベントリ情報CSVファ
; イルの各フィールド番号に対応しており、ハードウェアインベントリ情報
; CSVファイルに含まれるすべてのフィールドに対して設定を行います。
[HardwareSetting]
1=1,7,0,0,0
2=1,3,0,0,0
3=2,19,0,0,0
4=1,128,0,0,0
5=1,4,0,0,0
6=1,30,1,0,0
7=3,0,1,0,0
8=0,0,1,0,0
9=3,0,1,0,0
10=3,0,1,0,0
11=3,0,0,0,1
       :
       :
197=3,0,1,1,0
198=3,0,1,1,0
199=0,0,1,0,0

; [HardwareSetting]セクションの複数定義の可否にて1を指定したKeyに対
; して設定を行います。設定する値は、複数定義する場合の各値の区切りと
; なる文字のASCIIコードです。[HardwareSetting]セクションの複数定義の
; 可否にて0を指定したKeyに関しては省略可能です。
[HardwareSeparator]
197=0x20


; [HardwareSetting]セクションの変換処理の有無にて1を指定したKeyに対
; して設定を行います。設定する値は、変換処理を行うマクロの名前です。
; [HardwareSetting]セクションの変換処理の有無にて0を指定したKeyに関
; しては省略可能です。
[HardwareConvert]
11=BTOKB


; Systemwalkerのハードウェアインベントリ情報CSVファイルに設定する値
; を指定します。Key名はハードウェアインベントリ情報CSVファイルのフィ
; ールド番号に対応しており、ハードウェアインベントリ情報CSVファイル
; に含まれるすべてのフィールドに対して設定を行います。
[HardwareInventory]
1=SJIS
2=ivh
3=TIMEGET
4=
5=SERV
6=
7=1:” $Network$” :” Host Name” :10
```

```
8=
9=1:" $System Bios$" :" Version" :10
10=1:" $Processors$" :" VendorID" :10
11=1:" $System$" :" Total Memory" :14
       :
       :
197=1:" $Fixed Drives$" :" Size" :14
198=1:" $Fixed Drives$" :" Interface" :10
199=


; Systemwalkerのソフトウェアインベントリ情報CSVファイルに関連付ける
; ための情報を[Key=取得方法,長さ," の有無,複数定義の可否,変換処理の有
; 無]の形式で設定します。Key名はソフトウェアインベントリ情報CSVファ
; イルの各フィールド番号に対応しており、ソフトウェアインベントリ情報
; CSVファイルに含まれるすべてのフィールドに対して設定を行います。
[SoftwareSetting]
count=13
1=1,7,0,0,0
2=1,3,0,0,0
3=2,19,0,0,0
4=1,128,0,0,0
5=1,4,0,0,0
6=1,30,1,0,0
7=3,0,1,0,0
8=0,0,1,0,0
9=3,0,1,0,0
10=3,0,1,0,0
11=0,0,1,0,0
12=0,0,0,0,0
13=0,0,1,0,0


; [SoftwareSetting]セクションの複数定義の可否にて1を指定したKeyに対
; して設定を行います。設定する値は、複数定義する場合の各値の区切りと
; なる文字のASCIIコードです。[SoftwareSetting]セクションの複数定義の
; 可否にて0を指定したKeyに関しては省略可能です。
[SoftwareSeparator]


; [SoftwareSetting]セクションの変換処理の有無にて1を指定したKeyに対
; して設定を行います。設定する値は、変換処理を行うマクロの名前です。
; [SoftwareSetting]セクションの変換処理の有無にて0を指定したKeyに関
; しては省略可能です。
[SoftwareConvert]


; Systemwalkerのソフトウェアインベントリ情報CSVファイルに設定する値
; を指定します。Key名はソフトウェアインベントリ情報CSVファイルのフィ
; ールド番号に対応しており、ソフトウェアインベントリ情報CSVファイル
; に含まれるすべてのフィールドに対して設定を行います。
[SoftwareInventory]
1=SJIS
2=ivs
3=TIMEGET
4=
5=SERV
6=
7=1:11
8=
9=2:2
10=2:3
11=
```

```
12=
13=


; Systemwalkerのテキストインベントリ情報CSVファイルに関連付ける
; ための情報を[Key=取得方法,長さ,”の有無,複数定義の可否,変換処理の有
; 無]の形式で設定します。Key名はテキストインベントリ情報CSVファ
; イルの各フィールド番号に対応しており、テキストインベントリ情報
; CSVファイルに含まれるすべてのフィールドに対して設定を行います。
[TextSetting]
flag=0
count=9
1=1,7,0,0,0
2=1,3,0,0,0
3=2,19,0,0,0
4=1,128,0,0,0
5=1,4,0,0,0
6=1,30,1,0,0
7=2,0,1,0,0
8=2,0,0,0,0
9=2,0,1,0,0

; [TextSetting]セクションの複数定義の可否にて1を指定したKeyに対
; して設定を行います。設定する値は、複数定義する場合の各値の区切りと
; なる文字のASCIIコードです。[TextSetting]セクションの複数定義の
; 可否にて0を指定したKeyに関しては省略可能です。
[TextSeparator]


; [TextSetting]セクションの変換処理の有無にて1を指定したKeyに対
; して設定を行います。設定する値は、変換処理を行うマクロの名前です。
; [TextSetting]セクションの変換処理の有無にて0を指定したKeyに関
; しては省略可能です。
[TextConvert]


; Systemwalkerのテキストインベントリ情報CSVファイルに設定する値
; を指定します。Key名はテキストインベントリ情報CSVファイルのフィ
; ールド番号に対応しており、テキストインベントリ情報CSVファイル
; に含まれるすべてのフィールドに対して設定を行います。
[TextInventory]
1=SJIS
2=ivt
3=TIMEGET
4=
5=SERV
6=
7=FNAME
8=LINE
9=TEXT
```

11.7 IBM Tivoli Monitoring連携 イベント定義ファイル

ファイル名

AdpEvt.ini

使用用途

IBM Tivoli MonitoringのイベントとSystemwalker Centric Managerのイベントを連携するため、IBM Tivoli Monitoringのイベントと Systemwalker Centric Managerの状態との対応付けや各種定義を行うために使用します。

格納場所

Windows	ITMフォルダ移動先¥ITM¥etc
Solaris	FJSVmomsディレクトリ移動先/FJSVmoms/ITM/etc

ファイル形式

```
[SectionName]
キー名 = 文字列
```

イベント定義の関連付けを行うために、以下の形式のiniファイルを使用します。

SectionName	キー名	文字列	デフォルト値
Severity	Halt	0～3、または5	1
	Critical	0～3、または5	0
	Error	0～3、または5	0
	Warning	0～3、または5	2
	Information	0～3、または5	3
	Informational	0～3、または5	3

各“Key”はIBM Tivoli Monitoringのシチュエーション定義のアクションに設定するシステム・コマンドmpadevtalertの-sオプションに指定するSeverityを表しています。

“Key”には、mpadevtalertの-sオプションとSystemwalker Centric Managerの状態との関連付けを設定しています。設定できる値は以下のとおりです。

- 0:重要
- 1:最重要
- 2:警告
- 3:情報
- 5:通知(注)

注)“5”は、Systemwalker Centric ManagerがV13.3.0以降の場合のみ指定可能です。

パラメタ

ファイル形式を参照してください。

注意事項

- Key名を追加することはできません。
- 編集した後に発生したイベントより設定が有効になります。
- パラメタに不正な値を設定した場合は、イベント送信に失敗する場合があります。
- 本ファイルが存在しない場合、デフォルト値が使用されます。デフォルトは0(エラー)です。

使用例

Systemwalker Centric Managerの導入時、AdpEvt.ini ファイルは以下のように定義されています。

```
[Severity]
Halt=1
Critical=0
Error=0
Warning=2
```

```
Information=3
Informational=3
```

11.8 JP1連携 イベント定義ファイル

ファイル名

AdpEvt.ini

使用用途

JP1/Integrated Management (以下JP1と略します)のイベントとSystemwalker Centric Managerのイベントを連携すため、JP1のSeverity情報とSystemwalker Centric managerの状態との対応付けや各種定義を行うために使用します。

格納場所

Windows	JP1フォルダ移動先¥JP1¥etc

ファイル形式

```
[SectionName]
キー名 = 文字列
```

イベント定義の関連付けを行うために、以下の形式のiniファイルを使用します。

SectionName	キー名	文字列	デフォルト値
Severity	Emergency	0～3、または5	1
	Critical	0～3、または5	1
	Error	0～3、または5	0
	Alert	0～3、または5	2
	Warning	0～3、または5	2
	Notice	0～3、または5	3
	Information	0～3、または5	3
	Debug	0～3、または5	3

各“Key”はJP1のSeverity情報を表しています。“Key”には、JP1のSeverity情報とSystemwalker Centric Managerの状態との関連付けを設定しています。設定できる値は以下のとおりです。

- 0:重要
- 1:最重要
- 2:警告
- 3:情報
- 5:通知(注)

注)“5”は、Systemwalker Centric ManagerがV13.3.0以降の場合のみ指定可能です。

パラメタ

ファイル形式を参照してください。

注意事項

- Key名を追加することはできません。

- 編集した後に発生したイベントより設定が有効になります。
- パラメタに不正な値を設定した場合は、イベント送信に失敗する場合があります。
- 本ファイルが存在しない場合、デフォルト値が使用されます。デフォルトは0(エラー)です。

使用例

Systemwalker Centric Managerの導入時、AdpEvt.ini ファイルは以下のように定義されています。

```
[Severity]
Emergency=1
Critical=1
Error=0
Alert=2
Warning=2
Notice=3
Information=3
Debug=3
```

第12章　メッセージ

他社運用管理ソフトウェア連携利用時に出力されるメッセージについて、メッセージの意味、システムの処理、および対処方法を説明します。

12.1 MpAdmomsで始まるメッセージ

注意

記号:[*]について

記号:[*]は、Solaris/Linux版、Windows版の共通メッセージとして説明しています。メッセージの形式は若干違いがありますが、Windows版の形式で説明しています。Solaris/Linuxの場合、MpAdmoms: 情報: …の“情報”の部分を、以下のように読み替えてください。

Windows版での表記	Solaris/Linux版での表記
エラー	ERROR
警告	WARNING
情報	INFO

[Solaris/Linux]MpAdmoms: INFO: 1101: Service started. Service name=%1
[*]MpAdmoms: 情報: 1101:サービスを開始しました。サービス名=%1

【メッセージの意味】

サービス(デーモン)、またはプロセスが正常に起動しました。

【パラメタの意味】

%1: 起動したサービス(デーモン)、またはプロセス名

【対処方法】

対処は必要ありません。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: INFO: 1102: Service stopped. Service name=%1
[*]MpAdmoms: 情報: 1102: サービスを停止しました。サービス名=%1

【メッセージの意味】

サービス(デーモン)、またはプロセスが正常に終了しました。

【パラメタの意味】

%1: 終了したサービス(デーモン)、またはプロセス名

【対処方法】

対処は必要ありません。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: WARNING: 2201: Failed to analyse an event. Process continues with default value. Detail=%1
[*]MpAdmoms: 警告: 2201: イベントの解析処理に失敗しました。デフォルトで処理を続行します。詳細=%1

【メッセージの意味】

以下のような原因により、他社製運用管理製品より取得したイベントの解析において、一部の情報が解析に失敗しました。

- 他社製運用管理製品より取得したイベントのデータフォーマットが他社連携アダプタで解析できるデータフォーマットでない場合

・ 他社製運用管理製品より取得したイベントのデータ長が4096バイトを超える場合

【パラメタの意味】

%1: 解析に失敗したイベント

【システムの処理】

解析できなかったイベントに関しては、デフォルト値を使用して処理を続行します。使用されるデフォルト値は以下のとおりです。

・ エラー種別: エラー

【対処方法】

本メッセージが頻繁に出力される場合は、保守資料を採取して技術員に連絡してください。保守資料の採取方法については、使用している連携アダプタの説明が記載されている章内の“トレース情報の採取”を参照してください。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: WARNING: 2203: Error found in inventory definition file. Inventory of the abnormal part will not be collected. Type=%1 Detail=%2
[*]MpAdmoms: 警告: 2203: インベントリ定義ファイルに誤りを検出しました。異常個所のインベントリ収集は行いません。種別=%1 異常個所=%2

【メッセージの意味】

インベントリ定義ファイルに定義誤りを検出しました。

【パラメタの意味】

%1: エラーの種別

%2: マイナーコード

【システムの処理】

検出箇所のインベントリ情報の収集は行いません。

【対処方法】

以下の条件に従い対処を実施してください。

なお、インベントリ定義ファイルの詳細については、“ファイルの形式”を参照してください。

・ 種別=Hard の場合

  インベントリ定義ファイルのハードウェアインベントリ情報に関する定義(Hardwareを含むセクション内)に誤りがないか確認してください。

・ 種別=Soft の場合

  インベントリ定義ファイルのソフトウェアインベントリ情報に関する定義(Softwareを含むセクション内)に誤りがないか確認してください。

・ 種別=Repo の場合

  インベントリ定義ファイルのノード構成情報に関する定義(Repository、SingleRep、またはMultiRepを含むセクション内)に誤りがないか確認してください。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: WARNING: 2204: Some events occurred during the adapter's stop may have not been processed by Adapter.
[*]MpAdmoms: 警告: 2204: アダプタが停止している間に発生したいくつかのイベントを取得できなかった可能性があります。

【メッセージの意味】

他社連携アダプタが停止している間に発生したいくつかのイベントが取得できなかった可能性があります。

【対処方法】

Systemwalkerコンソールに通知されたメッセージと、他社製運用管理製品が検出しているイベントのメッセージを比較し、Systemwalker Centric Managerに通知されていないメッセージが存在するか確認してください。

通知されていないメッセージのうち、重要なメッセージに関しては、メッセージにあわせた対処を実施してください。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: WARNING: 2205: Failed to analyse an event. Data=%1
[*]MpAdmoms: 警告: 2205: イベントの解析処理に失敗しました。データ=%1

【メッセージの意味】

以下のような原因により、他社製運用管理製品より取得したイベントの解析に失敗しました。

- 他社製運用管理製品より取得したイベントのデータフォーマットが他社連携アダプタで解析できるデータフォーマットでない場合
- 他社製運用管理製品より取得したイベントのデータ長が4096バイトを超える場合

【パラメタの意味】

%1: 解析に失敗したイベント

【システムの処理】

解析に失敗したイベントに関しては、Systemwalker Centric Managerへ通知しません。

【対処方法】

解析に失敗したイベントに関しては、Systemwalker Centric Managerに通知されません。通知されなかったイベントを確認し、必要であればイベントにあわせた対処を実施してください。

なお、本メッセージが頻繁に出力される場合は、保守資料を採取して技術員に連絡してください。保守資料の採取方法については、使用している連携アダプタの説明が記載されている章内の“トレース情報の採取”を参照してください。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: ERROR: 3101: Failed to read a temporary file.
[*]MpAdmoms: エラー: 3101: 一時ファイルの読み込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

以下の原因により、一時ファイルの読み込みに失敗しました。

- データベース接続に使用するデータソース、アカウント、パスワード情報の取得に失敗した

【システムの処理】

他社製運用管理製品からのインベントリ情報の収集が行われません。

【対処方法】

- データベースに接続するためのデータソース(ODBC)を正しく作成されているか確認してください。
- 他社製運用管理製品が使用しているデータベースが正しく動作しているか確認してください。
- 他社連携アダプタをインストールするときに設定した、データベースに接続するためのデータソース名、アカウント名、およびパスワードの設定が正しいか確認してください。再設定する場合は、mpaddbinf(データベース接続情報設定コマンド)を使用してください。コマンドの詳細については、“mpaddbinf(データベース接続情報設定コマンド)”を参照してください。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: ERROR: 3102: Failed to write to a temporary file.
[*]MpAdmoms: エラー: 3102: 一時ファイルの書き込みに失敗しました。

【メッセージの意味】

他社製運用管理製品から取得した情報を一時的に保存するためのファイルの作成に失敗しました。

【システムの処理】

他社製運用管理製品からのインベントリ情報の収集が行われません。

【対処方法】

以下のいずれかの対処を実施してください。

- 以下のディレクトリが存在するか確認してください。存在しない場合は、何らかの原因により削除されたと考えられます。書き込み権のあるディレクトリを作成してください。

  【Windowsの場合】

  他社連携アダプタインストールディレクトリ¥var
  他社連携アダプタインストールディレクトリ¥tmp¥hard

他社連携アダプタインストールディレクトリ¥tmp¥soft
他社連携アダプタインストールディレクトリ¥tmp¥repo
他社連携アダプタインストールディレクトリ¥tmp¥text

【Solaris/Linuxの場合】

/opt/FJSVmoms/NNM/var
/opt/FJSVmoms/NNM/tmp/hard
/opt/FJSVmoms/NNM/tmp/soft
/opt/FJSVmoms/NNM/tmp/repo
/opt/FJSVmoms/NNM/tmp/text

- 上記のディレクトリが存在する場合は、上記のディレクトリが存在するドライブ、およびパーティションの空き容量が不足している可能性があります。不要なファイルを削除し、十分な領域を確保してください。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: ERROR: 3201: Error found in inventory definition file. Process terminates. Type=%1 Detail=%2
[*]MpAdmoms: エラー: 3201: インベントリ定義ファイルに誤りを検出しました。処理を終了します。種別=%1 異常個所=%2

【メッセージの意味】

インベントリ定義ファイルに定義誤りを検出しました。

【パラメタの意味】

%1: エラーの種別

%2: マイナーコード

【システムの処理】

他社製運用管理製品からのインベントリ情報の収集が行われません。

【対処方法】

以下の対処を実施してください。

なお、インベントリ定義ファイルの詳細については、“ファイルの形式”を参照してください。

- 種別=Query(Hard) の場合

  ハードウェアインベントリを取得するためクエリ定義の取得ができません。何らかの原因でクエリ定義が編集されたか削除された可能性が考えられます。

  連携アダプタを再インストールし環境を復旧してください。再インストールしても本メッセージが出力される場合は、保守資料を採取して技術員に連絡してください。保守資料の採取方法については、使用している連携アダプタの説明が記載されている章内の“トレース情報の採取”を参照してください。

- 種別=Query(Soft) の場合

  ソフトウェアインベントリを取得するためクエリ定義の取得ができません。何らかの原因でクエリ定義が編集されたか削除された可能性が考えられます。

  連携アダプタを再インストールし環境を復旧してください。再インストールしても本メッセージが出力される場合は、保守資料を採取して技術員に連絡してください。保守資料の採取方法については、使用している連携アダプタの説明が記載されている章内の“トレース情報の採取”を参照してください。

- 種別=Hard または、種別=Mpad_IniFileSet(HW) の場合

  インベントリ定義ファイルのハードウェアインベントリ情報に関する定義(Hardwareを含むセクション内)に誤りがないか確認してください。

- 種別=Soft または、種別=Mpad_IniFileSet(SW) の場合

  インベントリ定義ファイルのソフトウェアインベントリ情報に関する定義(Softwareを含むセクション内)に誤りがないか確認してください。

・ 種別=Repo の場合

インベントリ定義ファイルのノード構成情報に関する定義(Repository、SingleRep、またはMultiRepを含むセクション内)に誤りがないか確認してください。

・ 種別=Machine の場合

インベントリ定義ファイルのマシン情報に関する定義(MachineName、またはMachineIDを含むセクション内)に誤りがないか確認してください。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: ERROR: 3202: Failed to create a list file.
[*]MpAdmoms: エラー: 3202: リストファイルの作成に失敗しました。

【メッセージの意味】

監視ノードを内部的に管理するためのノードリストファイルの作成に失敗しました。

【システムの処理】

他社製運用管理製品からのインベントリ情報の収集が行われません。

【対処方法】

メモリ不足、ディスク不足などリソース不足が発生しているか確認してください。

本メッセージが頻繁に出力される場合は、保守資料を採取して技術員に連絡してください。保守資料の採取方法については、使用している連携アダプタの説明が記載されている章内の“トレース情報の採取”を参照してください。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: ERROR: 3203: Failed to read a list file.
[*]MpAdmoms: エラー: 3203: リストファイルの読込に失敗しました。

【メッセージの意味】

監視ノードを内部管理するためのノードリストファイルの読み込みに失敗しました。

【システムの処理】

他社製運用管理製品からのインベントリ情報の収集が行われません。

【対処方法】

メモリ不足、ディスク不足などリソース不足が発生しているか確認してください。

本メッセージが頻繁に出力される場合は、保守資料を採取して技術員に連絡してください。保守資料の採取方法については、使用している連携アダプタの説明が記載されている章内の“トレース情報の採取”を参照してください。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: ERROR: 3204: Error occurred during inventory integration process. Function=%1
[*]MpAdmoms: エラー: 3204: インベントリ連携処理でエラーが発生しました。機能名=%1

【メッセージの意味】

インベントリ連携処理でエラーが発生しました。

【パラメタの意味】

%1: 内部機能名

【システムの処理】

他社製運用管理製品からのインベントリ情報の収集が行われません。

【対処方法】

以下の対処を実施してください。

・ 機能名=Mpad_CreateRetFile の場合

インベントリ情報をSystemwalker Centric Managerへ通知するために一時作成するファイルの作成に失敗したことが考えられます。以下のディレクトリの有無を確認し、また、該当ディレクトリのドライブおよびパーティションに十分な領域が確保されているか確認してください。

【Windowsの場合】

他社連携アダプタインストールディレクトリ¥ret

【Solaris/Linuxの場合】

/opt/FJSVmoms/NNM/ret

- 機能名=Mpad_AmGetCompInfo、機能名=Mpad_AmGetFieldInfo(Group)、機能名=Mpad_AmGetFieldInfo(Item) 、または機能名=Mpad_AmGetFieldInfo(Parent) の場合

  データ解析するための内部定義ファイルAdpQuery.iniの定義が読み込めません。何らかの原因で編集されたか削除された可能性が考えられます。

  連携アダプタを再インストールし環境を復旧してください。再インストールしても本メッセージが出力される場合は、保守資料を採取して技術員に連絡してください。保守資料の採取方法については、使用している連携アダプタの説明が記載されている章内の“トレース情報の採取”を参照してください。

- 機能名=Mpad_ftranput の場合

  構成情報を全体監視サーバまたは運用管理サーバに通知する処理で問題が発生したと考えられます。“構成情報の管理を行うために必要な設定”の項を確認してください。

- 機能名=Mpad_InvOvQueryCmd の場合

  他社製運用管理製品がインストールされていないか正しくインストールされていない可能性があります。他社製運用管理製品の環境に問題ないか確認してください。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: ERROR: 3205: Failed to execute query.
[*]MpAdmoms: エラー: 3205: クエリ実行に失敗しました

【メッセージの意味】

他社製運用管理製品が収集したインベントリ情報が格納されているデータベースの参照に失敗しました。

【システムの処理】

他社製運用管理製品からのインベントリ情報の収集が行われません。

【対処方法】

以下を確認してください。

- メモリ不足、ディスク不足などリソース不足が発生しているか
- 他社製運用管理製品のサービス(デーモン、プロセス)が動作しているか
- 他社製運用管理製品が使用しているデータベースが正しく動作しているか

本メッセージが頻繁に出力される場合は、保守資料を採取して技術員に連絡してください。保守資料の採取方法については、使用している連携アダプタの説明が記載されている章内の“トレース情報の採取”を参照してください。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: ERROR: 3206: Failed to connect to database.
[*]MpAdmoms: エラー: 3206: データベース接続に失敗しました。

【メッセージの意味】

他社製運用管理製品が収集したインベントリ情報が格納されているデータベースの接続に失敗しました。

【システムの処理】

他社製運用管理製品からのインベントリ情報の収集が行われません。

【対処方法】

- データベースに接続するためのデータソース(ODBC)が正しく作成されているか確認してください。
- 他社製運用管理製品が使用しているデータベースが正しく動作しているか確認してください。
- 他社連携アダプタをインストールするときに設定した、データベースに接続するためのデータソース名、アカウント名およびパスワードの設定が正しいか確認してください。再設定する場合は、mpaddbinf(データベース接続情報設定コマンド)を使用してください。コマンドの詳細については、“mpaddbinf(データベース接続情報設定コマンド)”を参照してください。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: ERROR: 3207: Failed to create pipe. Event integration process terminates.
[*]MpAdmoms: エラー: 3207: パイプ作成処理に失敗したため処理を停止します。

【メッセージの意味】

パイプの作成に失敗しました。

【システムの処理】

他社連携アダプタのサービス(デーモン)を停止します。

【対処方法】

a. メモリ不足、ディスク不足なリソース不足が発生していないことを確認してください。

b. 他社連携アダプタのサービス(デーモン)を起動します。

【Windowsの場合】

[管理ツール]の[サービス]より[Systemwalker Moms NNM]のサービスを開始します。

【Solaris/Linuxの場合】

以下のデーモンを起動します。

/opt/FJSVmoms/NNM/etc/rc/init.moms_NNM start

c. 上記a、bの対処を実施しても再現する場合は、HP OpenView Network Node Managerのサービス(デーモン)を再起動した後に、他社連携アダプタのサービス(デーモン)を起動してください。

上記対処後も再現する場合は、保守資料を採取して技術員に連絡してください。保守資料の採取方法については、使用している連携アダプタの説明が記載されている章内の“トレース情報の採取”を参照してください。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: ERROR: 3208: Failed to run a process. Event integration process terminates.
[*]MpAdmoms: エラー: 3208: プロセスの起動に失敗したため処理を停止します。

【メッセージの意味】

新しいプロセスの起動に失敗しました。

【システムの処理】

他社連携アダプタのサービス(デーモン)を停止します。

【対処方法】

以下を確認してください。

- メモリ不足などリソース不足が発生していないか
- 他社製運用管理製品がインストールされていること

また、HP OpenView Network Node Manager連携アダプタで発生した場合は、以下の対処を実施してください。

a. 他社連携アダプタのサービス(デーモン)を起動します。

【Windowsの場合】

[管理ツール]の[サービス]より[Systemwalker Moms NNM]のサービスを開始します。

【Solaris/Linuxの場合】

以下のデーモンを起動します。

/opt/FJSVmoms/NNM/etc/rc/init.moms_NNM start

b. aの対処を実施しても再現する場合は、HP OpenView Network Node Managerのサービス(デーモン)を再起動した後に、他社連携アダプタのサービス(デーモン)を起動してください。

上記対処後も再現する場合は、保守資料を採取して技術員に連絡してください。保守資料の採取方法については、使用している連携アダプタの説明が記載されている章内の“トレース情報の採取”を参照してください。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: ERROR: 3209: Error occurred during event integration process. Event integration process terminates.
[*]MpAdmoms: エラー: 3209: イベント連携処理でエラーが発生したため処理を停止します。

【メッセージの意味】

他社製運用管理製品からイベントを取得する処理でエラーが発生しました。

【システムの処理】

他社連携アダプタのサービス(デーモン)を停止します。

【対処方法】

a. 他社連携アダプタのサービス(デーモン)を起動します。

【Windowsの場合】

[管理ツール]の[サービス]より[Systemwalker Moms NNM]のサービスを開始します。

【Solaris/Linuxの場合】

以下のデーモンを起動します。

/opt/FJSVmoms/NNM/etc/rc/init.moms_NNM start

b. aの対処を実施しても再現する場合は、HP OpenView Network Node Managerのサービス(デーモン)を再起動した後に、他社連携アダプタのサービス(デーモン)を起動してください。

上記対処後も再現する場合は、保守資料を採取して技術員に連絡してください。保守資料の採取方法については、使用している連携アダプタの説明が記載されている章内の“トレース情報の採取”を参照してください。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: ERROR: 3210: Failed to get the installation directory path of EM. Event integration process terminates.
[*]MpAdmoms: エラー: 3210: EMのインストールディレクトリの取得に失敗したため処理を停止します。

【メッセージの意味】

EMのインストールディレクトリの取得処理で失敗しました。

【システムの処理】

他社製運用管理製品からのインベントリ情報の収集が行われません。

【対処方法】

連携アダプタをインストールした後に、他社製運用管理製品が削除された可能性があります。他社製運用管理製品がインストールされているか確認してください。

なお、連携アダプタをインストールした後に他社製運用管理製品を再インストールする場合は、連携アダプタも再インストールする必要があります。

本メッセージが頻繁に出力される場合は、保守資料を採取して技術員に連絡してください。保守資料の採取方法については、使用している連携アダプタの説明が記載されている章内の“トレース情報の採取”を参照してください。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: ERROR: 3211: Failed to get an event.
[*]MpAdmoms: エラー: 3211: イベントの取得処理に失敗しました。

【メッセージの意味】

他社製運用管理製品からイベントを取得する処理でエラーが発生しました。

【対処方法】

a. 他社連携アダプタのサービス(デーモン)を起動します。

【Windowsの場合】

[管理ツール]の[サービス]より[Systemwalker Moms NNM]のサービスを開始します。

【Solaris/Linuxの場合】

以下のデーモンを起動します。

/opt/FJSVmoms/NNM/etc/rc/init.moms_NNM start

b. aの対処を実施しても再現する場合は、HP OpenView Network Node Managerのサービス(デーモン)を再起動した後に、他社連携アダプタのサービス(デーモン)を起動してください。

上記対処後も再現する場合は、保守資料を採取して技術員に連絡してください。保守資料の採取方法については、使用している連携アダプタの説明が記載されている章内の“トレース情報の採取”を参照してください。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: ERROR: 3212: Failed to analyse an event. Process terminates. Detail=%1
[*]MpAdmoms: エラー: 3212: イベントの解析処理に失敗しました。処理を停止します。詳細=%1

【メッセージの意味】

他社製運用管理製品より取得したイベントの解析に失敗しました。

【パラメタの意味】

%1: 内部コード

【対処方法】

- for CA Unicenter Network and Systems Management連携アダプタで発生した場合

  保守資料を採取して技術員に連絡してください。保守資料の採取方法については、使用している連携アダプタの説明が記載されている章内の“トレース情報の採取”を参照してください。

- for CA Unicenter Network and Systems Management連携アダプタ以外の連携アダプタで発生した場合

  ー 詳細=ENVIRONMENT ERROR 、詳細=LIBRARY ERROR 、または詳細=ADDRESS ERROR の場合

  一時的なリソース不足が考えられますが、頻発する場合は、連携アダプタの実行環境に異常があることが考えられます。連携アダプタを再インストールしてください。

  ー 詳細=(Wrong Parameter No:%2 String:%3)の場合

  コマンドリファレンスを確認し、mpadevtalert.exeコマンドのパラメタ指定について問題がないか確認してください。
  なお、%2はパラメタ番号、%3は指定された文字列を意味します。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: ERROR: 3213: Failed to send an event.
[*]MpAdmoms: エラー: 3213: イベントの通知処理に失敗しました。

【メッセージの意味】

Systemwalker Centric Managerへイベントを通知する処理でエラーが発生しました。

【対処方法】

- Systemwalker Centric Managerが停止している場合

  Systemwalker Centric Manager を起動してください。起動後、通知に失敗したイベントが通知されます。

- Systemwalker Centric Managerが起動している場合

  Systemwalker Centric Managerを再起動してください。再起動後も本メッセージが頻繁に出力される場合は、保守資料を採取して技術員に連絡してください。保守資料の採取方法については、使用している連携アダプタの説明が記載されている章内の“トレース情報の採取”を参照してください。

[Solaris/Linux]MpAdmoms: ERROR: 3214: Failed to get the installation directory path for the adapter. Process terminates.
[*]MpAdmoms: エラー: 3214: アダプタのインストールディレクトリの取得処理に失敗したため処理を停止します。

【メッセージの意味】

連携アダプタのインストールディレクトリの取得に失敗しました。

【対処方法】

保守資料を採取して技術員に連絡してください。保守資料の採取方法については、使用している連携アダプタの説明が記載されている章内の“トレース情報の採取”を参照してください。